CBETA電子佛典集成

CBETA Chinese Electronic Tripitaka Collection

eBook

GA026n0024

杭州上天竺講寺志

明 釋廣賓撰

財團法人 佛教電子佛典基金會

目次

- 編輯說明
- 章節目次
  - 版本說明
  - 卷首
    - 提要
    - 丁丙序
    - 孫時偉序
    - 凡例
    - 山圖
  - 普門示現品一
    - 序
    - 自在功德章
    - 靈奇識
    - 靈感錄
      - 唐
      - 五代十國
      - 宋
      - 元
      - 皇明
    - 悲仰贊
      - 天竺廣大靈感大士贊
      - 靈感觀音大士贊
      - 上竺寺記贊
      - 笑隱禪師大士贊
      - 空谷禪師大士贊
    - 感應頌
      - 國朝浙江提學副使吳江趙寬〈觀音感應頌〉有序
      - 金庭子〈感應頌〉并序
      - 尚寶卿六橋徐江山〈禱雨靈應頌〉有敘
    - 喜雨詠
    - 禱雨篇
  - 普門示現品二
    - 請牒奏
    - 祈謝文

        - 禱天竺大士祈晴文
        - 謝晴文
    - 感應記
        - 皮光業：上天竺觀音看經院感應碑
        - 陳軒（鮑欽正代撰）：靈感觀音碑
        - 魏驥：禱雨感應記
    - 真身考
    - 上竺論
    - 女身說
- 尊宿住持品一
    - 序
    - 住持題名
        - 上天竺講寺住持題名碑記
        - 上天竺寺歷代住持題名碑序
        - 題名
    - 列傳
        - 五季
            - 道翊法師
        - 宋
            - 南屏梵臻法師
            - 宋辨才法師
            - 法照用文法師
            - 慈辯從諫法師
            - 圓悟思尚法師
            - 宣梵嗣珍法師
            - 慧覺齊玉法師
            - 普明如靖法師
            - 佛照智堅法師
            - 圓通應如法師
- 尊宿住持品二
    - 列傳
        - 宋
            - 證悟圓智法師
            - 慧光若訥法師
            - 復庵妙珪法師
            - 柏庭善月法師
            - 虛菴有宏法師
            - 鑑堂思義法師

        - 梅峰梵奎法師
        - 古鏡文杲法師
        - 同菴允憲法師
        - 佛光法照法師
        - 鼎山時舉法師
        - 佛海澄法師
        - 如菴真法師
        - 我菴無法師
      - 皇明
        - 東溟日法師
        - 日彰俑法師
        - 性源修法師
        - 存翁法師
        - 止堂大山法師
        - 古春法師
        - 一庵如法師
        - 宗源梵法師
        - 敬修德完法師
        - 鏡中潭法師
        - 無相住法師
        - 大猷闡法師
        - 雨庵霑法師
        - 竹山蕙法師
        - 性菴法師
        - 南溪柯住持
        - 伴雲香住持
        - 靜庵讓法師
        - 觀如法師
        - 心臺靈住持
        - 春山富住持
  - 尊宿住持品三
    - 別傳
      - 五代
        - 心印水月禪師
      - 宋
        - 普慈禪師
        - 宋智月禪師
        - 宋文捷法師

- 宋興咸法師
- 宋明義法師
- 宋師覺法師
- 宋海月法師
- 宋神煥法師
- 宋北峯法師
- 宋擇卿法師
- 宋慧照法師
- 宋若芬法師
- 宋仁濟法師
- 宋曇瑩法師
- 宋晦菴慧明法師

- 元
  - 偉首座
  - 原璞法師
  - 瞽菴法師
  - 天岸法師
- 國朝
  - 西源湧法師
  - 一如法師
  - 明懺首
  - 靜中講主
  - 士瓘法師
  - 住無相
  - 鐵峯法師
  - 青厓道人
  - 寧佩韋
  - 杲兩峯
  - 了空禪師
  - 怡中法師
  - 紹谿師
  - 潔空禪師

- 教觀
  - 教門
    - 釋迦如來說法四十九年，適時而進，天台判釋凡為五時
    - 五時所說不出八教
    - 判五時麁妙
    - 化儀四教

        - 化法四教
        - 四教化人旁正
        - 四教詮理化物廣狹
        - 藏教四諦
        - 通教四諦
        - 別教四諦
        - 圓教四諦
        - 八種四教
        - 五時四教筌罤魚兎
        - 釋經首題五重玄義
        - 法華五章
        - 法華二妙
        - 法華本迹因果開合
        - 圓教六即判位
    - 觀門
        - 三諦
        - 三觀
        - 纓絡三觀
        - 天台三止
        - 一心中三止觀
        - 南嶽三種止觀
        - 天台三種止觀
        - 修止觀前二十五方便
        - 十乘觀法
        - 十境、三障、四魔
- 尊宿住持品四
    - 清規
        - 概述
        - 祝聖
        - 修懺
        - 浴佛
        - 授戒
        - 羯磨
        - 念佛
        - 展鉢
        - 供齋
        - 受食
        - 釋迦如來涅槃疏

        - 智者大師示寂疏
    - 示眾
        - 佛光照法師示小師正吾
        - 圓法師示學徒
        - 一初法師上堂示眾
        - 蔬筍社儀節
            - 第一、繫心安養
            - 第二、講習大乘
            - 第三、游藝翰墨
            - 會約七條
            - 社員
- 道場規製品一
    - 序
    - 名考
    - 因革
    - 建置
        - 廣大靈感觀世音菩薩殿
            - 趙寬：重修上天竺靈感觀音寺記
            - 夏時正：上天竺修造記
        - 大悲靈感觀世音後殿
            - 概述
            - 江瀾：重建觀音後殿記
        - 四大天王殿
        - 護法韋陀天殿
            - 概述
            - 虞淳熙：護法韋陀天殿碑
        - 護法伽藍神殿
        - 歷代祖師殿
        - 大毘盧遮那佛殿
        - 阿彌陀佛殿
        - 香山大士殿
            - 概述
            - 劉汝康：香山大士殿記
        - 敕賜藏經殿
        - 白雲堂
        - 兩峯堂
            - 概述
            - 諸大綬：柏山雷侯遺愛碑

        - 李陳玉：上天竺寺藏經閣記
    - 護國金光明懺堂
    - 十六觀堂
        - 概述
        - 樓鑰：上天竺講寺十六觀堂記
    - 法堂
    - 講堂
    - 水陸堂
    - 靜處堂
    - 中印堂
    - 香積堂
    - 延賓堂
    - 頤耄堂
    - 延行堂
    - 東堂　西堂　廚堂　庫堂
    - 禪堂
    - 雲漢閣
    - 千佛閣
    - 應真閣
    - 準提閣
    - 秋香閣
    - 秋芳閣
    - 延桂閣
    - 伴雲閣
- 道場規製品二
    - 建置
        - 鳴陽樓
            - 概述
            - 商輅：上天竺重建鐘樓記
        - 振遠樓
        - 藏經樓
        - 水月樓
        - 大仙樓
        - 清暉樓
        - 方丈
        - 皇華館
        - 夜講臺
        - 勤舊寮　侍者寮　書記寮　且過寮　茶湯寮　藥石寮

- 三官佑聖祠
- 福祐靈濟公祠
- 文昌祠
- 張仙祠
- 土地神祠
- 靈衛祠
- 雷公遺愛祠
- 梁公祠
- 雙檜軒
- 清華軒
- 竹嶼軒
- 圓通門
- 普門
- 山門
- 大界相
- 肅儀亭
- 雪坡亭
- 植杖亭
- 謝屐亭
- 夢泉亭
- 曲水亭
- 見心亭
- 石幢

- 子院
  - 大明房
  - 觀堂房
  - 白雲東院
  - 白雲上房
  - 長生房
  - 心安房
  - 雲隱房
  - 幻應房
  - 天巖房
  - 見心房
  - 彌陀興福教院
    - 概述
    - 劉康祉：重建彌陀興福教院記
  - 上天竺寺廨院

- 方圓庵
  - 概述
  - 釋守一：方圓庵記
- 彌陀菴
- 復庵
  - 概述
  - 陸務觀：復庵記
- 梅峯庵
- 同庵
- 古鏡庵
- 北峯庵
- 坐禪庵
- 妙香庵
  - 概述
  - 蘇子瞻：訥齋記
- 靜處齋
- 大明山居
- 華嚴山居
- 古顯親多福院

- 塔墓
  - 宋
    - 道翊祖師塔
    - 辯才淨法師塔
      - 概述
      - 蘇轍：辯才淨法師塔銘
    - 慧光訥法師
    - 師覺法師
    - 妙珪法師
    - 思義法師
    - 善月法師
    - 佛慧法師文杲
    - 允憲法師
    - 默堂法師正觀
    - 慧寂玉禪師塔
    - 佛光照法師塔
      - 概述
      - 文及翁：佛光照法師塔銘
  - 元

        - 如菴真法師塔
    - 國朝
        - 東溟日法師塔
            - 概述
            - 宋濂：東溟日法師塔銘
        - 存翁道法師雲隱塔
            - 概述
            - 姚廣孝：存翁道法師塔銘
        - 止堂山法師塔
            - 楊復：止堂山法師塔銘
        - 性菴顧法師生塔
            - 概述
            - 魏驥：性菴顧法師塔銘
        - 一菴如法師塔
        - 蘭古春禪師塔
- 道場規製品三
    - 像設
    - 供具
    - 碑記
        - 洪邁：上天竺講寺碑
        - 黃溍：重建大殿記
        - 李綱：建上天竺天台教寺十六觀堂碑
        - 楊傑：辯才法師退居龍井記
        - 魏驥：湖山佳處記
- 器界莊嚴品
    - 序
    - 形勝
        - 雙檜峯
        - 白雲峯
        - 中印峯
        - 乳竇峯
        - 獅子峯
        - 香爐峯
        - 天香巖
        - 雙檜巖
        - 烏石嶺
        - 郎當嶺
        - 水出嶺

- 猢猻嶺
- 梯子嶺
- 楓樹嶺
- 石人嶺
- 愚岡
- 琴岡
- 楊梅塢
- 華嚴塢
- 雲隱塢
- 歡喜臺
- 四顧坪
- 羅阜
- 如意石
- 韋馱石
- 獅子石
- 紗帽石
- 烏石
- 仙人石
- 石筍
- 石人
- 老人洞
- 羅漢洞
- 流虹澗
- 南澗
- 雲液池
- 如意池
- 水月池
- 福聚池　清蔭池
- 華光池
- 清興池
- 徹骨池
- 大悲泉
- 夢泉
- 華光泉
- 白雲泉
- 乳竇泉
- 水月泉
- 凝翠泉

- 冽泉
- 孫公泉
- 觀音出現井
- 幻應井
- 坐禪井
- 楓樹巷
- 雲心深處巷
- 多福巷
- 楊梅巷
- 天竺路
- 大士橋
- 瑞雲橋
- 金佛橋
- 琮老橋
- 天巖橋
- 雲隱橋
- 德馨橋
- 幽淙橋
- 捫蘚橋
- 山門橋
- 兩山尖市
- 紫雲坑

- 游記
  - 蘇子瞻：三竺紀勝
  - 秦少游：月夕同參寥子訪上竺辨才法師記
  - 楊守陳：游天竺記
  - 王洪：游西山記
  - 夏時：錢塘湖山勝概
- 志辯
  - 釋契嵩：武林山志
  - 邵重生：武林山辯
- 物產
  - 白雲茶
  - 桂花
  - 楊梅
  - 靈芝
  - 竹簟
  - 香灰

        - 土檀香
    - 蔭木
    - 版籍
    - 施田
        - 概述
        - 賈似道：施田記
    - 清理
        - 概述
        - 辯復莊田議
    - 免帖
        - 概述
        - 又帖
        - 又帖
        - 又帖
- 帝王檀越品
    - 序
    - 敕命
        - 太祖高皇帝
            - 敕浙江杭州府僧綱司都綱弘道奉
            - 又敕左善世弘道
        - 英宗睿皇帝
            - 欽賜杭州上天竺寺大藏經敕命
    - 聖旨
        - 太祖高皇帝聖旨
            - 洪武二十一年戊辰
            - 洪武二十二年
            - 洪武二十四年
            - 洪武二十七年
        - 成祖文皇帝聖旨
            - 永樂十七年
            - 永樂十八年
    - 御製
        - 宋孝宗
        - 宋真宗
        - 宋理宗
        - 明太祖
        - 明神宗
    - 召問

        - 宋孝宗
        - 宋理宗
        - 明太祖
    - 賜賚
        - 宋
            - 真宗
            - 仁宗
            - 高宗
            - 孝宗
            - 寧宗
            - 理宗
            - 度宗
            - 皇明
    - 宸翰
        - 吳越國錢忠懿王
        - 宋高宗
        - 孝宗
        - 理宗
    - 臨幸
    - 諭祭
- 宰官外護品
    - 序
    - 師友
        - 宋‧ 趙抃
        - 宋‧ 蘇軾
        - 宋‧ 秦觀
        - 宋‧ 李偃
        - 宋‧ 尹焞
    - 咨請
        - 蘇子瞻問辯才法師
        - 義天問慈辨諫法師
        - 貴客謁柏庭月法師
        - 王孟公請益咸法師
        - 鄭公問咸法師
        - 郡太守問咸法師
        - 趙彥肅問印法師
        - 秦檜問圓智法師
        - 陳行婆見慈辯諫法師

- 信施
  - 五季· 錢忠懿王
  - 宋· 張去華
  - 宋· 蔡襄
  - 宋· 陳軒
  - 宋· 丁謂
  - 宋· 相國吳履齋
  - 宋· 待制韓大倫
  - 宋· 秦檜
  - 元· 別兒怯不花
- 著作
  - 五季· 皮光業
  - 宋· 李照
  - 宋· 蘇轍
  - 宋· 楊傑
  - 宋· 宋之瑞
  - 宋· 趙時逢
  - 宋· 李綱
  - 宋· 洪邁
  - 宋· 陸游
  - 宋· 樓鑰
  - 宋· 文禮
  - 宋· 程公許
  - 宋· 林希逸
  - 宋· 尤焴
  - 宋· 文及翁
  - 元· 黃溍
  - 元· 盛熙明
  - 國朝· 宋濂
  - 姚廣孝
  - 楊復
  - 商輅
  - 趙寬
  - 夏時正
  - 江瀾
  - 魏驥
  - 徐江山
  - 諸大綬

- 旌舉
  - 宋‧ 呂溱
  - 宋‧ 孫沔
  - 宋‧ 沈遘
  - 宋‧ 張詵
  - 宋‧ 翁彥國
  - 宋‧ 康允之
  - 宋‧ 孫覿
  - 宋‧ 梁汝嘉
  - 宋‧ 鄭清之
  - 宋‧ 吳潛
  - 宋‧ 趙與[竺-二+((己@((巨-匚)/匚))/心)]
  - 宋‧ 史彌遠
  - 元‧ 高納麟
- 斷禁
  - 趙清獻公
  - 咸淳四年詔
  - 高納麟
  - 雷鳴陽
  - 孫孟
  - 胡公嚴
  - 孫沖
  - 陳善
  - 蓮池法師答杭嚴何公
  - 龔邑侯斷案
  - 劉公禁約
- 妝點
- 祭悼
  - 宋
    - 蘇軾：祭辨才法師文
    - 佛光照：祭禮禪師文
    - 竺庵冏 ：祭上天竺覺幻師長和尚文
  - 明
    - 于謙：弔祭古春蘭法師詩有序
    - 鍾我靈：祭春山師文

◦ 風範隆汙品

- 序
- 神異

- 一
- 二
- 三
- 四
- 五
- 六
- 七
- 八
- 盛事
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
- 自勉
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
- 衰鄙
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
- 廢弛
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
- 遺臭

        - 一
        - 二
        - 三
        - 四
        - 五
    - 詩文紀述品
        - 序
        - 題詠
            - 唐
                - 李太白：送崔十二遊天竺山
                - 又：與從姪杭州刺史良遊天竺山
                - 白居易：遊天竺山
            - 宋
                - 蘇東坡：贈辯才法師
                - 又：聞辯才復歸上天竺，以詩問信
                - 又：訪辯才不值，留題
                - 又：雨中遊天竺靈感觀音院
                - 又：立秋日禱雨上天竺，宿靈隱，同周徐二令
                - 釋道潛：謁上竺觀音大士
                - 又：陪司馬才仲節推諸君游天竺（得青字）
                - 又：懷辯才法師
                - 又：辯才生日
                - 又：聽天竺慧照師琴
                - 朱熹：春日過上竺
                - 呂祖謙：遊上天竺
                - 真德秀：遊上天竺
                - 魏了翁：遊上天竺
                - 郭祥正：遊天竺
                - 楊誠齋：雨中遊上天竺
                - 又
                - 李綱：由上竺赴洞霄宮
                - 岳飛：歸赴行在，過上竺寺偶題
                - 張栻：過上竺
                - 戴復古：遊上天竺
                - 仇山村：游天竺
                - 又
                - 白廷玉：宿上天竺
                - 吳大有：遊上天竺

    - 張仲舉：宿上竺寺
    - 又
- 元
    - 趙子昂：遊上竺寺
    - 楊廉夫：遊上天竺
    - 又：獅子峯觀潮二首
    - 又
    - 張光弼：訪舊，次泐法師雜興二首
    - 又
    - 倪瓚：宿上竺寺
- 明
    - 劉基：遊上竺寺
    - 宋濂：訪天竺竺隱法師
    - 王偉：遊上竺寺
    - 釋弘道：天竺雜詠四首
    - 釋宗泐：訪道竺隱
    - 釋守仁：上竺與古春話舊
    - 釋來復：同黃晉卿、楊同僉遊上天竺
    - 方豪：題觀堂
    - 又：贈智明上人
    - 又：贈暉、明二上人
    - 又：題天巖房
    - 王守仁：題白雲堂
    - 又：泛湖上天竺
    - 又：夜宿白雲堂
    - 夏言：九里松道中次邃翁元老韻
    - 又：遊上天竺次韻
    - 胡瀅：贈本源顧都綱
    - 王蒙：遊上天竺
    - 楊一清：九里松道中
    - 又：宿上天竺寺
    - 蕭一中：題上天竺
    - 釋如蘭：次徐退翁夜宿觀堂韻
    - 李茂之：詣洞霄宮，道出天竺山
    - 釋德祥：同張方伯遊上竺
    - 又
    - 釋景隆：題白雲堂
    - 又：清華軒

- 又：兩峯堂
- 又：雲液池
- 又：秋香閣
- 又：雲漢閣
- 又：夢泉亭
- 又：靜處齋
- 又：水月池
- 又：雙檜軒
- 又：三竺鐘聲
- 江玭：寄性菴法師
- 黃隆：稿寄性菴法師
- 又
- 魏驥：贈性菴上人
- 鄭雍言：贈性菴上人
- 凌煜：送性菴歸上竺方丈
- 劉泰：送性菴上人歸上竺方丈
- 張震：贈性菴上人
- 鄧林：游上天竺，回道與陳士寧、夏誠、畢昌、鄭厚、朱勤、祝彥廣、馬叔良聯句
- 王世貞：過九里松
- 張文明：遊上天竺
- 沈周：登上天竺
- 張寰：遊上竺寺
- 施峻：暮秋到上竺寺
- 董澐：遊上竺，和白樂天韻
- 釋法聚：宿上竺，次樂天韻
- 金璐：入天竺山
- 又
- 又
- 楊撫：遊天竺
- 沈如松：禮上竺寺大士
- 釋良縉：佛誕日
- 釋懷璁：登天竺，次樂天韻
- 又：中秋白雲房聽雨
- 徐公遴：過上天竺天巖房
- 徐和：題上竺竹山
- 陳公綸：題白雲堂
- 馬三才：題上竺寺

- 許承周：雨中遊西湖入天竺
- 又
- 范禹臣：入天竺
- 蔡守毅：遊上竺寺
- 施經：憩天竺方丈
- 孫一元：遊上天竺
- 張可儒：過九里松
- 陳洪濛：夏日過白雲堂舊話
- 李一經：宿白雲堂
- 董傅策：白雲堂夜酌
- 呂音：題嘯雲樓
- 葉向高：秋宿天竺，贈雲堂上人
- 徐江山：題上竺長生堂
- 朱國祚：秋宿上竺寺
- 申時行：謁大士
- 王穉登：禱大士
- 釋洪恩：贈文巖師
- 董其昌：送企菴上人歸天竺
- 章台鼎：送企菴上人歸天竺
- 周延儒：宿上竺寺
- 吳伯與：上竺禮佛
- 秦舜友：贈潮音師
- 方文烈：贈潮音上人
- 蔣德璟：宿平遠樓贈印中上人
- 宋奎光：贈印中上人住持上竺
- 王卿：訪竺如上人不遇
- 吳載鼇：自鶴巢之上竺，贈道微師

- 唱酬
  - 宋
    - 辯才：新亭初成，詩呈蘇翰林
    - 蘇軾：次韻參寥子，寄秦少游三絕
    - 辯才：四照閣夜坐，懷少游
  - 元
    - 趙子昂：訪恭行己上人不遇，留詩
  - 明
    - 國朝釋宗泐：雜興詩
    - 與杭先輩登天竺白雲堂賦詩
    - 夏一叟：謝性菴惠茗詩

        - 釋良縉：秋日同釋道顓、良玉、本旃集大明山房
        - 王淮：過上竺湖山佳處韻
        - 徹其源：次上竺韻
        - 邵重生：同上竺覺海、遂清、潮音師坐月達旦
        - 又：蔬筍社集竹雲樓，暑甚，分韻
        - 又：社集竹雲樓，分得山字
        - 徐如翰：由西湖至上竺靈隱午齋，次和蘇長公韻
    - 詩文紀述品
        - 書
            - 蘇軾：與辯才法師書
            - 釋永頤：慰問佛光法師書
            - 蜀王椿：奉僧錄司存翁致仕還天竺書
            - 潭王梓：致存翁禪師書
            - 釋弘道：與雲峯禪師書
            - 虞淳熙：與堅、遜、泉等續成殿事書
            - 喻思恂：與住持初道微書
        - 箚
            - 釋若訥：請試經度僧箚子
        - 疏
            - 丁晉公：上竺飯僧疏
            - 釋道濟：化天竺大路疏
            - 釋妙聲：日彰儞法師住持上竺江湖疏
            - 釋妙聲：雲谷臻法師住持上竺江湖疏
            - 釋宗泐：日彰儞法師住持上竺諸山山門疏
            - 釋行鎡：刻存翁文集募疏
            - 上天竺募修補藏經疏
        - 贊
            - 宋· 蘇子瞻：辯才大師贊有序
            - 明· 曹國公景隆：贊存翁大師像
            - 明· 少師道衍：小像自贊
        - 銘
            - 釋元淨：心師銘
            - 釋大訢：那伽室銘
            - 釋大訢：天巖銘
            - 釋妙聲：敬修字銘
        - 序
            - 釋齊玉：四十八願後序
            - 釋若訥：教誡新學比丘行護律儀後序

        - 釋本無：佛祖通載後序
        - 釋弘道：送如一菴序
        - 釋弘道：送吉祥海序
        - 釋弘道：送徹自明序
        - 釋妙聲：送斯道成遊學上天竺序
        - 楊守陳：西湖歸隱序
        - 陶望齡：普門品序略
        - 黃汝亨：普門品序略
        - 邵重生：蔬筍社題辭
        - 蔬筍社刪勸敘
    - 引
        - 曹勳：題上天竺重修前後殿引
    - 題跋
        - 蘇東坡：題壁
        - 蘇東坡：跋辯才和詩
        - 蘇東坡：書若逵所書經後
        - 趙清獻公詩序
        - 蘇潁濱倡和詩序
        - 秦少游跋
    - 紀談
        - 月桂子
        - 牛僧孺
        - 倩桃
        - 兩家都沒事
        - 風折松聯句
        - 蘇軾二三事
        - 天竺觀音
        - 輕慢
        - 宋儀王仲湜
        - 葉夢得避暑錄話
        - 殺杜少陵
        - 李金庭
        - 西山水發
        - 黑觀音堂
- 卷目次
    - 1
    - 2
    - 3

    - 4
    - 5
    - 6
    - 7
    - 8
    - 9
    - 10
    - 11
    - 12
    - 13
    - 14
    - 15
- 贊助資訊

編輯說明

- 本電子書以「CBETA 電子佛典集成 Version 2025.R3」為資料來源。
- 漢字呈現以 Unicode 3.0 為基礎，不在此範圍的字則採用組字式表達。
- 梵文悉曇字及蘭札字均採用羅馬轉寫字，如無轉寫字則提供字型圖檔。
- CBETA 對底本所做的修訂用字以紅色字元表示（黑白色系版本則無顏色差別）。
- 若有發現任何問題，歡迎來函 service@cbeta.org 回報。
- 版權所有，歡迎自由流通，但禁止營利使用。

上天竺講寺位於浙江杭州西湖天竺山，天竺分上、中、下三山，上天竺山位於武林羣山中，為佛教勝地。上天竺講寺肇建於後晉天福四年（九三九），時僧道翊得奇木，刻大士像，僧勳持古佛舍利納之頂間。吳越錢忠懿王即地建「天竺看經院」；宋嘉祐中，改「靈感觀音院」。靖康初，屬金難，僧道元秘聖佛於井，兵退歸像院中；理宗書「廣大靈感觀音教寺」；元至元五年（一二六八）改「天竺教寺」；明成化間重修；清康熙五年（一六六六）因燬重建，三十八年（一六九九）聖祖南巡，書「法雨慈雲」匾額，賜撰「天竺寺碑文」；乾隆十六年（一七五一）御題「法喜寺」匾額，故俗稱為法喜寺。咸豐十一年（一八六一）寺燬於兵；同治三年（一八六四）寺復舊觀。寺志舊有李金庭志，以附會舛訛，甚至僞撰明太祖〈竺隱說〉一篇以炫俗。崇禎年間寺僧照本乃囑釋廣賓為撰新志。廣賓曾撰「西天目祖山志」、「潛陽梵剎考」等書。此志凡五易寒暑始脫稿，彙成十五卷，分門為八：普門示現品，尊宿住持品、道場規製品、器界莊嚴品、帝王檀樾品、宰官外護品、風範隆污品、詩文紀述品。〈普門示現品〉收功德、靈異、悲仰贊、感應頌、喜雨詠、請牒、祈謝、感應等文。〈尊宿住持品〉收題名、高僧列傳、教觀、清規、示眾等。〈道場規製品〉錄建置、塔墓、碑記。〈器界莊嚴品〉則載形勝、遊記、物產、施田等。〈帝王檀越品〉錄勅命、御製等。〈宰官外護品〉載師友、信施、著作、旌舉等。〈風範隆污品〉則備書寺僧品行。〈詩文紀述品〉則摘錄歷代文士有關本寺之詩文。是志曾得古菴居士校訂，流通不廣，光緒二十三年（一八九七）錢塘嘉惠堂丁丙覓得舊本，乃為之重刊。茲據丁氏重刊本景印。

四庫全書總目

上天竺山志十五卷

明釋廣賓撰

天竺東南巨剎，舊有李金庭志，廣賓以其附會舛譌，甚至撰明太祖〈竺隱說〉一篇以炫俗，乃刪補而成此書，曰普門示現品，曰尊宿住持品，曰器界莊嚴品，曰帝王檀越品，曰宰官外護品，曰風範隆污品，曰詩文紀述品，凡七門。其風範隆污一品，於寺僧污行備書不隱，較他志獨存直筆。據總目，尚有卷首一卷，此本已佚不存。

上天竺寺肇於晉天福四年，僧道翊得奇木，刻大士像，會僧勳持古佛舍利納之頂間，妙相具足。錢忠懿王感白衣異夢，地建「天竺看經院」。宋嘉祐中，郡守沈文通改「靈感觀音院」。靖康初，屬金難，僧道元祕聖佛於井，兵退歸像院中。理宗書「廣大靈感觀音教寺」，元至元五年仍改「天竺教寺」，明則重修於成化丙辰。入國朝，康熙五年因燬重建。三十八年，聖祖南巡，書「法雨慈雲」匾額，賜撰〈天竺寺〉碑文。六十一年春，殿再燬。雍正九年，世宗賜帑金鼎建，製重修寺碑。乾隆十六年，御題「法喜寺」匾額。嗣後疊邀宸翰，恩錫優渥。祈禱雨暘，為一郡司命，遠方趨謁不下普陀。咸豐辛酉，罹粵匪之刼。同治甲子，兩浙鏡，佛日重輝，寺復舊觀。光緒初，元住持釋悟化校、海甯管廷芬原輯《天竺山志》十二卷，詳近畧遠，未見廣賓所纂，斯志殊屬缺典。今得舊本，冠以欽定四庫總目，不惟直筆昭彰，且所佚之首卷亦都在焉，洵普門之寶衛，自在之莊嚴也。謹壽諸版，回向靈山不二門中，同圓種智。

光緒二十三年丁酉六月十九日，優婆塞丁丙合十序

重修上天竺山志序

天竺在月氏東南數千里，杭之山曷為沿茲名？浮圖法故來自天竺，典午時以茲顏其寺，名所繇昉也。道翊結茅，光徵奇木，大士像成。而洛僧又以舍利置頂間。寤求夢見，赫有靈蹟。旛蓋香燈之供，口持膜拜之虔，殷山谷，魁然此阜，遂與身毒並稱矣。曷為成茲志？志者，識也。識大識小，道斯未墜。普門之示現，勝地之靈奇，衣鉢之流傳，錫屐之游息，非紀載莫詳。舊志輯於東瀛李氏茂才手，寺僧照本懼歲遠益譌，屬賓公任編摩之役，凡五易星霜，彙成十五卷。靜探輪藏之文，博摭籤軸之祕。孝廉、文學、住山、皈法者，各以見聞佐之，而强半取裒於古菴居士。居士存日久隱山阿，攷訂精覈，山之董狐也。或疑浮圖樹下一宿，無住無著。經曰「法無名字，言語斷故」，蒙豫所謂「聚沫多緣假，標空非色香」者也。然則大士何戀於是山？山何贅以是志？余惟大士從聞思修入三摩地，動靜二相了然不生，能所圓融，有無交暢。三十二應，入諸國土，無剎不現；海上普陀，湖邊竺嶺，出現因緣，較他剎更顯。至於旱澇祈請，歲著靈奇；歷代表彰，尤極喧茂。則夫藉山以宣大士之教，即藉志以著茲山之奇，因是而可大可久；俾眾生獲十四種無畏功德、四不可思議無作功德。記事者參載世事，仍歸無事；記言者旁採世言，總歸無言。南北宋之崇褒遞加於大士，固國土所同稱，而廣大獨崇屬竺嶺，大士何必不託異於天竺？天竺又何

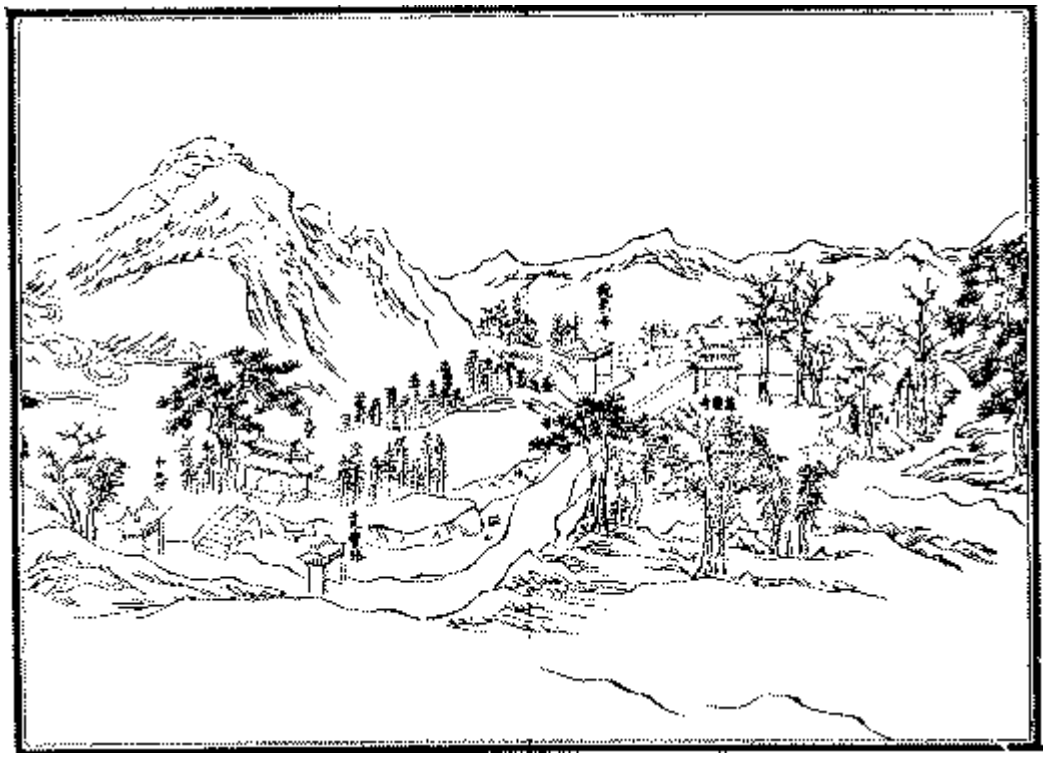
必不傳信於此志？所謂「觀匪留色，音匪受聽」，道未墜地者，當不在大月氏，而近取諸上天竺矣。古來志輿圖多為經世之用，惟王子紀五山，東方朔撰十洲，陶景譜金壇林屋，杜光庭考洞天福地，則皆出世之觀，又祇為尋玄采作津梁耳。《西域記》、《洛陽伽藍記》以後，闡宗風者，其欣攬於茲編。

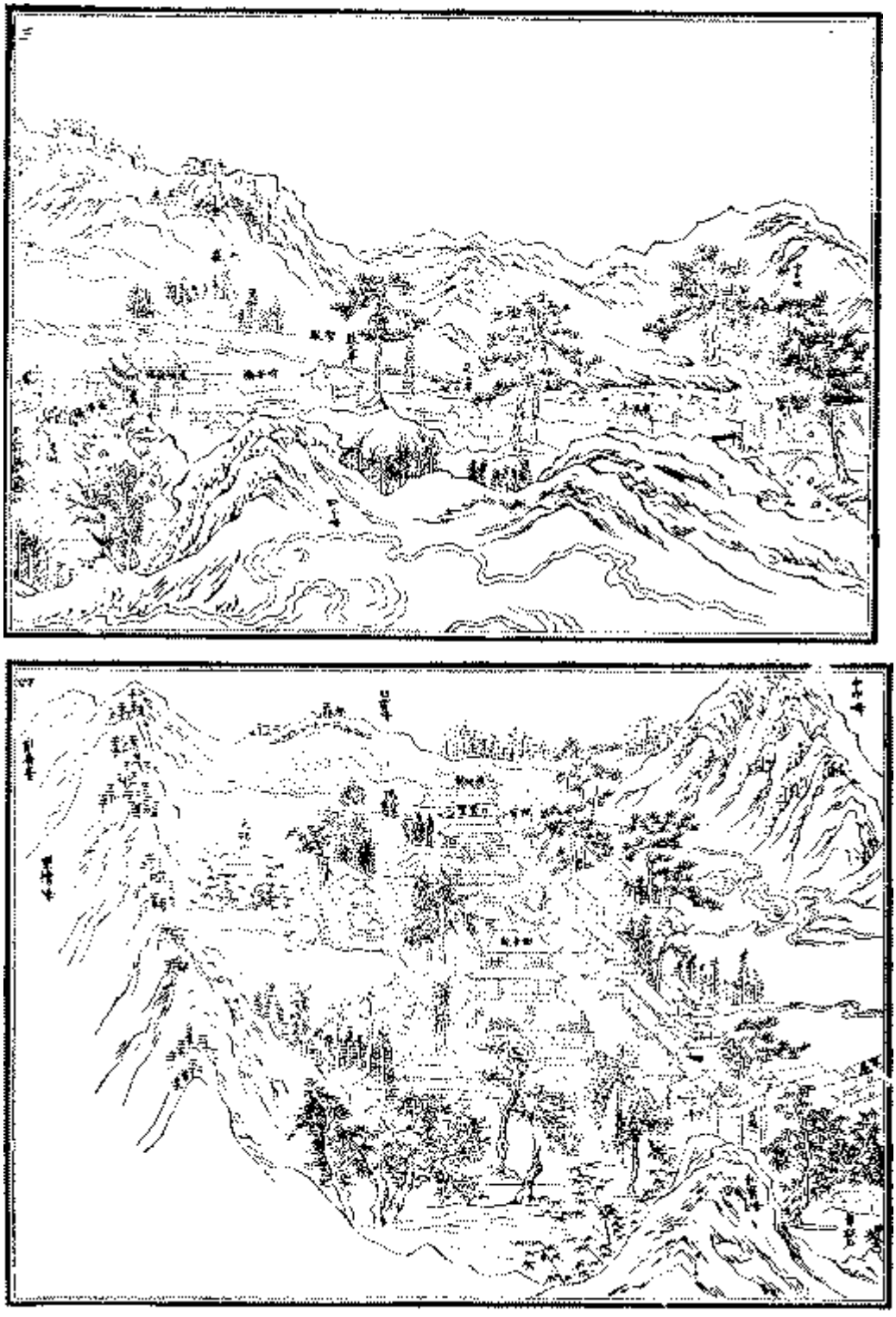
時順治三年丙戌秋七月幾望，古潤妙香居士孫時偉（乳仙甫）薰沐敬書於湖上之紫薇右署

杭州上天竺講寺志凡例

- 慈悲淨聖，靈異顯赫，奔走海宇，曷可無志？寺僧照本，興荊棘銅駝之感，傾衣鉢屬余。余雖不文，適修《天目祖山志》、《西湖僧寶》、《聚諸祖禪藻拾遺》、《潛陽梵剎考》諸書成，鼓舞餘勇，遂力任其事。
- 東瀛輯上竺舊志，蕪杜撰，如題中所云，冒元人於宋首，其他猶可。至高皇帝〈竺隱說〉，亦造一篇。本以開面靈山，翻滋罪案，粃糠沙石，槩在汰刪。
- 古者列國各有史，史不實錄，則觀者胡稽？是以董狐良史，趙盾必書。志即史之餘，將以是非得失，垂為勸誡；敢俛曲阿徇，濫施華衮？風範隆汙，寸心千古；知我罪我，所弗敢辭。
- 靈奇悲仰，贊頌詩文，充棟汗牛，筆不勝書，梓不勝壽。茲獨力艱，輿情未愜；何妨好事，續刻補遺？是集所收，精微潔淨，有目幸鑒。
- 聞之吹竽而過邯鄲之市，則師曠凜色；盛容而出臨淄之塗，則陽文沮顏。何者？邯鄲耳肆，臨淄目林，雖姝色和聲，無當眾視羣聽也。今輯志於名山，人爭聽覽焉，其敢忽諸？蒐摭散軼，稽訂魯魚；枯心嘔血，聚腋綴裘。託始於鷲山，再輯於鄭菴，再輯於寶石山房，則孝廉邵以窺氏煑字宏多，更請政於嚴氏文學孝廉諸君子修討，凡五易寒暑，而是書始燦然可觀。
- 語云：「趾欲固，視故步。」往蹟未詳，文獻奚考？聞有藏書，饑渴往借；篝燈簡讀，有關某某，隨筆錄鈔。太史公自序曰：「余所謂述故事，整齊其世傳，非敢云作也。」


天竺山圖





杭州上天竺講寺志卷之一

天目山三學學人廣賓纂

普門示現品

側聞應化無方，選此方之教體；隨緣弗類，攝同類之機宜。予竊惟之，有深意爾。夫南海，蓋善才所參小白華也。凡天下之願躬謁者，視鯨波鼉浪為忠信可憑，則千萬人中無幾矣！惟西湖迺天竺所飛小靈鷲也。凡郡內之指首屈者，推岑蓮月桂；為仁智攸耽，則南北峯間其最矣！於是我大士閔五季刀兵之刼，妙三吳山水之區，巧示普門，即坐不垂堂者麕至；適衝都會，兼游偏挾伎者颺來。信未信在人，縱遊戲於佳麗繁華之地；仁不仁由我，盍範圍於慈悲喜捨之天？是以赫赫厥靈而羣趨並望，班班斯著而曲記特書。此直垂慈眼視眾生，何異痛心呼父母哉！故經云：「欲識佛性義，當觀時節因緣。」其斯之謂也。志示現。

自在功德章

元盛熙明纂曰：

釋典所載菩薩名號，如恆河沙數，不可勝計。惟觀自在洋洋赫赫功德，獨顯乎世間。凡遇厄難，竭誠稱念、稽首請命，亦往往如影響。誠由行願弘深，大悲無礙之力也。廣如藏教，今略陳之。梵云「阿哩耶婆盧吉帝」，此云「聖觀世音」。又梵云「阿縛盧枳帝濕伐羅」，此云「觀自在」。諸經所稱，或單云「觀世音」，或云「觀自在」，或兼云「觀音自在」。《觀音三昧經》及《大悲經》、《悲華》諸經說：「此菩薩久已成佛，號『正法明如來』。」又云：「後成正覺，號『徧出一切光明功德如來』。」

《楞嚴經》云：「觀世音菩薩言：『我昔於無數恆河沙劫，有佛出現，名觀音，教我從聞、思、修入三摩地。初於聞中，入流亡所；所入既寂，動靜二相了然不生。如是漸增，聞所聞盡；盡聞不住，覺所覺空；空覺極圓，空所空滅；生滅既滅，寂滅現前。忽然超越世出世間，十方圓明。上合十方諸佛本覺妙心，同一慈力；下合十方一切六道眾生，同一悲仰。由我供養觀音如來，蒙授如幻，聞薰聞修，金剛三昧，成身三十二應，入諸國土。所謂佛身、獨覺、聲聞、梵王、帝釋、自在天、大自在天、天大將軍、四天王及天王太子、人王、長者、居士、宰官、婆羅門、比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、女主、童男、童女、天、龍、藥叉、乾闥婆、阿修羅、緊那羅、摩呼羅伽、人、非人等，我於彼前皆現其身而為說法，令其成就，令諸眾生獲十四種無畏功德。彼佛歎我善得圓通法門，授記我為觀世音號。由我觀想十方圓明，故觀音名徧十方界。』」

《法華經》云：「若有眾生受諸苦惱，一心稱觀世音菩薩名號，即得解脫。若水火雷電、龍蛇惡獸、夜叉羅剎、王難枷鎖、軍

陣怨賊，諸難之中，能施無畏；於苦惱死厄能作依怙，現三十二身，隨類說法。地獄、鬼、畜生、生老病死苦，以漸悉令滅。」

《大悲心總持經》云：「若有誦持大悲咒者，即滅百千億刼生死重罪，不墮惡趣。臨命終時，十方諸佛皆來授手，隨願往生諸淨土中；能獲無量等持辯才，解脫八難，滅除三毒，一切所求無不成就。」《大悲總持》，具載別本。

藏教密乘經中所載：觀自在菩薩為蓮華部主，現諸神變。忿怒則稱馬首明王；救度則聖多羅尊；滿諸願則大準提尊及如意輪王、不空罥索，乃至師子吼并毘俱胝、一髻、項、白衣、葉衣、千首、千臂，皆有儀軌真言，略舉其名。若西天未譯番本，師傳本續真言要門，未易悉究。

靈奇識

按《武林山內七識》曰：

上天竺觀音菩薩之示現也，蓋僧道翊，石晉天福間，結廬西峯，見瑞光發於前澗，劚得奇木，高數尺，一奇也。命工孔仁謙，不他像擬，因其形似，即造大士像，因緣正湊，出現呈祥，二奇也。聖像既成，妙貌端嚴，白光煥發，夜亡列燭之光，晝掩太陽之影，人民崇信，三奇也。後漢乾祐中，僧從勳自洛陽來，持古佛舍利一顆，曰：「吾寶之久矣，今願置菩薩頂相中。」神靈一合，四奇也。北宋人民有「靈感」二字，南宋加號「大慈悲救苦難」，後法照摭《大悲經》加「廣大」二字。天下觀音同，而此號天竺獨，五奇也。

靈感錄

唐僖宗光啟三年丁未，時中原鼎沸，黃巢、李克用等屠戮生民，戰爭不息。杭州臨安人錢鏐，膂力絕人，有保障兩浙之意。起自草野，奮梃一呼，驍勇雲集，殺弘、誅昌，吳越安堵。至是以屢建大功，立為杭州刺史，從民望也。既拜官，痛加砥礪，眾益欽戴。誓奠安東南，不使有一夫之警。猶豫未決，夜夢一娘人語之曰：「汝有心慈悲，不忍殺人，將藩翰一方，百戰不衂。中原天子雖易五姓，汝之疆土固自若也。福祿遐永，子姓緜遠；珪組蟬聯，封王拜相，莫可涯涘。二十餘年，當寘我於天竺山中。」鏐覺而異之。自是所向無前，屢有神助。種種響應，若合左券。故書之於策，昭示子孫，世世崇祀。四世五王，與五代相終始。後錢俶納土於宋，聯姻帝室，通籍金門，振振蟄蟄，冠絕區宇。而大江東西鹿

苑寶坊，翬飛雲湧以千計，皆錢氏所刱，職此之故也。而上竺看經庵，則其所發軔者云。

黃巢作亂，所過殺戮其城，血流半天下。一日，忽至杭，民無所竄匿，哭聲震原野；所恃以為扞禦者，惟錢鏐一人而已。老稚幾百萬人，泣拜大士，願乞垂慈冒怙。巢將入境，鏐振兵拒之甚力。巢亦素聞鏐勇武，方欲格戰，聞空中有念佛聲；仰視雲端，旌幢、寶蓋，擁護大士。其火首金剛、天龍、修羅等眾，扈從無算。鏐兵見之，氣壯百倍。巢歎曰：「此佛士也！」戒戢羣下，遂逾日而去。由是鏐益篤信大士，以為神武而不殺者焉。

唐昭宗乾寧元年春正月，越州董昌作亂，焚府庫、殺官吏；浙人震駭竄匿，橫罹鋒者甚眾。杭刺史鏐躬禱大士，以祈默佑，乃仗鉞出兵。方對敵之際，空中忽聞萬騎馳驟之聲；昌一見褫魄，不俟接戰，即斬首俘馘。而越中底定矣，遂進爵為海節度使。

唐天祐四年，朱温改名曰晃，受禪於唐，國號後梁，改元開平。鎮海節度使錢鏐欲舉兵討温，復詣大士，禱而決之。夢大士以火而詔之曰：「汝有大功德於民，能救拔百萬億蒼生於刀山劒樹之中，當獲莫大果報。第保守境內，不可輕動，賊斷不敢犯。不旬日，即進爵為王也。」未幾而吳越國王之命下矣。吁，可異哉！

後唐長興三年壬辰三月，吳越武肅王錢鏐卒，中子元瓘立，素畏朱全忠之酷烈凶殘，不遑寧處。乃出居別館，齋戒浹旬，徒步拜叩大士，冀得夢兆，以破其惑。忽夢邑之山林皆被錦綺，光彩晃耀天日，瓘喜躍：「此吾先王時事也！吾當奠枕鼾睡耳，彼胡其奈我何哉？」

錢忠懿王嘗夢白衣人求葺其居，曰：「能昌爾國。」厥明訪知，惟天竺大士衣白，因建看經院崇奉焉。此上天竺祈夢之始。

宋

太祖建隆元年，吳越國王錢俶以太祖即位，進止未決，乃禱於大士，以求指迷。齋宿殿中，夜夢紫衣神人命金甲將校數十百人，持綵繩，由楊子江北岸以繩隔界，直抵豫章、閩越而止；急呼俶，詔之曰：「此汝故物也。」復俾以袍笏冠冕無算。覺而喜曰：「吾無恐矣。」即擇日上表，獻圭璧、儀物稱賀。帝大喜賜宴，詔使者：「歸報爾主，朕將倚彼為藩翰，以翊贊至治，當不負前勳也。」已而毫髮不爽，王頂戴益虔，聿新殿宇像設，以答靈貺。

開寶五年夏五月，大雨，河決。帝禱於天地鬼神，益雨。羣臣有言上竺大士之靈異，速遣中使馳驛、齎香虔禱之。數日天即開

朗，河流亦復止塞。逮中使歸，詢之，即至杭既禱之明日也。嗣是凡水旱疾疫，必禱焉。

太宗雍熙三年五月，帝以曹彬有白溝之敗，見辱於契丹。遣中使詣上竺致禱於大士，以求神助，張齊賢遂有代州之捷。諸將遙見火光中有金甲大將，長數丈許，立於雲端，持赤幟揮霍；虜望之膽落魂消，辟易奔潰。

真宗咸平元年，給事中張去華守杭，正月至五月不雨。徧禱望，旱彌甚。迎大士於梵天寺，率官寮拜禱之，雨隨澍，四境沛足。

咸平三年夏大旱，浙東天台講宗四明尊者知禮，同遵式修〈護國金光明三昧懺〉，三日九雨，明州太守蘇某為碑頌其德。

大中祥符九年九月，蝗飛蔽天。帝以連歲旱蝗，多方捕瘞不能止，遣中使禱於大士。是月晦日午時，赤日杲杲；忽黑雲起自西北，迅雷掣電，雨雹疾於矢石，聲如銃礮；蝗螭堆積川陸，高數尺許。帝甚神之，而天書之說益信矣。

仁宗慶歷八年，曾公亮丁內艱，扶柩歸泉南，道由錢唐。有鄉僧元達，附舟來禮大士於天竺；忽於松行間見女士靚妝雅服，問達曰：「上座從曾舍人來耶？舍人五十七入中書，上座亦受大師號。」語訖不見。後服除還朝。嘉祐元年，亮位參知政事，達亦賜號「寶梵大師」，果如其言。

英宗治平二年秋八月三日，都城大雨，水泛漲。下詔求直言。宰相曾公亮嘗因虜陳知杭州。沈文通奏：「天竺看經院觀音大士，始自石晉至今，福天下、澤生民，前後靈跡甚著。」上命禱之，其雨即止。賜曰「天竺靈感觀音院」。端明殿學士、禮部侍蔡襄書額。及襄繼守是邦，一新院宇。

高宗紹興四年冬十月，帝憤數敗於金人，無以自釋。乃斗 日齋戒，遣中使齎疏懇禱於大士，以求救拔天下元元之命於塗炭鋒鏑之中。即日手敕韓世忠，力圖報効，以雪國家不共戴天之恥。世忠拜命感泣，誓不與虜俱生。候金步卒親提大騎兵駐大儀。會朝廷命魏良臣使金，給良臣有詔移屯守。良臣出境，即上馬令軍中曰：「抵吾鞭所向移軍大儀。」勒伍陳設伏二十餘所，約聞鼓起擊。金兵聞移屯之說，喜其兵退，擁鐵騎掩擊。世忠麾旗鳴鼓，伏兵四起，各持長斧揕入斫馬。遙見大兵數百萬計，雲擁而至，蹂躪溺死者以萬計，遂至大捷。史稱為中興武功第一，殆亦有神助之力云。

紹興五年，夏大旱，遣杭州府守迎天竺觀音於海惠寺，禱亦不應。時六月中，有苦行頭陀潘法惠，默禱，願焚右目。以鐵丸燒紅置目中，然香其上。香焰起，行雲滿空，大雨霑足。法惠眼即枯。後三日，夢白衣女借一珠，拒不許。有二僧在旁曰：「與不妨，自

今六六送還。」至七月廿一日，又夢二僧來請赴六通齋，白衣女在前引導。山川蔚然，百果皆熟，紛紛而墮。惠就地拾食，心地清涼。忽白衣女擲一彈，正中枯目，失聲而覺。枯眶內已有物若珠，瞻視漸復舊。數其再明，卻三十六日，始悟六六送還之兆。

紹興二年，兩浙進士類試於臨安，湖州談誼者，與鄉友六人謁上竺祈夢。是夕，誼夢以茄為餽，惟徐楊者夢食巨蟹。次日詳之，謂茄者，俗稱落蘇；蟹者，黃甲也。陽果登科。後二年，誼復與周元者，赴漕司舉。又祈夢於寺。是夜元夢鄉人徐廣之持省榜至，凡列三等，已為中等第一。已而賀客四集，有道士在焉。明年省試罷，還吳興待榜，路逢徐廣之，已而省至，元果中等，於吳興為一。既歸，賀客中一道士素昧平生，元詢之，對曰：「去年君過我卜，豈忘之耶？」凡事一與夢符。

齊劉豫，同金虜入寇，高宗下詔親征。九月親詣大士殿，焚香供禱，仰祈默祐，顯現天兵蚤平北虜。既而淮東宣撫使韓世忠敗金人、齊人於潤州。方對敵之頃，虜見我師行陣之上雲端，金甲神將數十餘，身長二丈許，目光炳耀，威勇異常。虜知為天應神祐，不戰自卻。故人馬自相蹂踐，河蔽野，其敗衄特甚。世忠獻俘行在，具言其故，是以知之。世忠因陳戰沒之人，乞加贈恤。上蹙然曰：「死於鋒鏑，誠為可憫。」即敕直學士胡松年具詞，建水陸大齋七晝夜以薦度。是夕見鬼神來者甚眾，有夢戰死者，咸欣然相慶，以為自此得生善道。

理宗嘉熙四年正月辛未，彗星出於營室，復以流星見於營室。史占曰：「彗見，災莫大焉。」帝甚憂之，亟下議己之詔，播告中外。乃遣中使齎香疏，懇大士以消弭天變。是夕也，有光出自大士頂間，直貫營室，結為卿雲，凝聚不散者久之，而彗滅矣。

元

至正四年八月，住持東溟日法師，時以承平日久，海內兵革騷動，特建安國福民道場三晝夜，以祈消弭兵革於乍萌之始。眾僧方宣疏禮拜，忽覩五彩毫光發自大士頂間，照耀殿庭；已而直沖紫霄，凝聚搖曳。萬人屬目，贊歎希有。

至正五年，張士誠據蘇州，縱兵焚掠。將入佛國山，抵行春橋，忽有泉自流虹泉湧出，自高一丈許，崩崖堙谷，勢轟雷電。賊相顧以為有神力所致，驚歎而返。由是亦不敢妄殺，杭州藉以稍全性命。或者以為慈雲祖師猶能顯水觀之靈，禦此暴耳。

至正二十年，杭城薦罹兵燹，西山寺宇盡毀，聖像不知所在，眾共追慕。丞相太尉開府康里公出金旁求，乃於草莽中得之。遂卜

日齋戒、徒跣，率僚佐士庶，自北關門恭迎聖像，安奉今丞相公所建清平山之西天寺中。時聖像上大放光明，照耀雲漢，分為三道：其一遠屬東方，若向普陀山者；其一屬上天竺寺；其一徑屬今西天寺。一時咸覩，益加敬仰焉。

吳元年夏，三月不雨，禾盡槁死。郡守王與福竭誠致禱上天竺大士，甘澍隨車而沛，禾復有秋。

皇明

武七年，六月大旱。參政徐本、李賢、王德宣，同誠徒步入天竺寺叩祈大士，雨隨沾足。

景泰六年夏，兩浙天久不雨，禾稼將槁，四民徬徨無措。時鎮守都知監阮公，會諸都閫藩臬重臣，遂與同鎮守兵部尚書德興孫公齋沐。六月既望，徒跣躬詣上天竺寺，奉迎靈相至仙林，建壇禱雨。即日陰雲四起，至日晡，甘雨大澍；明日如之，又明日亦如之，致兩浙之地禾黍芃芃，枯槁即蘇，民咸懽忭鼓舞。由是公大感靈貺，念無以酬，即捐己資重建行龕，洎製冠服及諸供具而莊嚴之，仍奉送以歸。

成化丁酉年夏，兩月不雨。鎮守太監李公義齋心潔行三日而走大士之前，為民請命。意勤辭懇，冥漠潛通。旋軫之際，陰雲布興，甘雨如注。槁者聿蘇，仆者旋起。遠邇交忭，三農謳於野，商賈謠於市，官府文於詞，士林聲於頌。公乃大出帑金，鼎新大士殿、天王殿、鐘樓、普門、圓通門，以昭答大士之貺。

弘治癸亥，歲旱不雨。鎮守太監麥公憂勞萬民，爰以七月二十四戊子，奉迎金身，自天竺而來至於海會寺。道經鎮府，赤日停午，忽有片雲如蓋，隨仗而至，驟雨傾注，若翻盆然。明日己丑，陰雲竟日。庚寅、辛卯，皆微雨。壬辰，奉以歸，則又雨。豈非大士之靈乎！

嘉靖己亥歲，水旱薦災。郡守陳仕賢憂切民隱，精誠率僚屬走上天竺，密禱大士，若痌瘝在身。雩禁輒效，民咸歌誦之。

嘉靖壬寅閏五月，旱既甚。郡伯希齋陳公閔民無辜，齋沐率僚屬吏民，微服徒跣，躬迎大士，奉安海會寺，晨夕展敬。越四日庚午夜，僧綱良縉夢大士語云：「甲戌日有雨。」至期，雨如注；明日再雨，原野霑足。

天竺道場凡遇二月十九日為大士誕辰，遠近人等先期齋戒入山，不翅億萬眾。殿宇不能容，皆露坐達旦，名曰宿山。嘉靖甲寅年誕期，星月昭朗，忽見白鸚鵡自殿中飛出，翔旋遶於太虛之上。萬人矚目贊歎，念佛之聲振撼林木，山谷響應。如是者迭現數四。

杭城有王姓者，患瘡瘍，告許燈油苕帚。病愈，拜還。其人乃衣冠之士，方詣大士焚香稽首，所施物為惡少盜匿。已而廉得其人，將理於官。盜畏罪，倍償而釋之。王有女孩，驀自言曰：「今日父親還愿，許人酒食財物。菩薩慈悲，奈護法伽藍拏我，要去之急。」更備前物至寺，求懺謝伽藍。而女孩蘇醒，問之，云如夢中，莫之知也。

上海有潘姓拉里閈三數輩進香，舟次崇德河下，見鄰船少婦，謔視之，精誠已蕩。既歸，弭棹黃浦，其人忽墮水，眾力挽乃出，幾於不救。遂驚悸成疾彌月。問諸巫，巫曰：「汝往天竺，中途淫媟良家婦，神瞋汝不敬，遣鬼擠之，得土穀神哀求獲免。可往祭告，庶獲有瘳。」如其言，始半復。

嘉靖二十四年，自春徂夏，亢陽彌時，田疇龜坼，潴澤塵飛；米價騰涌，僵死蔽野。方伯九畹謝公乃命郡駕、仁和錢唐令，素服徒步入天竺迎大士，設壇於海會寺祈禱。越明日，淨瓶水微湧出，果得微雨。又明日，水大湧出，遂果大雨。金庭子作頌。

《夷堅續志》云：上天竺觀音像，身披瓔珞，皆宋朝御賜七寶為之，五色璀璨，實為希世之寶。杭州歸附後，為七寶瓔珞夜有神光，為異物，取之以供朝廷。至京，則晦而不明。乃祝曰：「如七寶欲回天竺，期以某時色再光明。」至期，果神光燭天，遂遣回天竺。

萬歷八年五月淫雨，大水當道。迎大士入城致禱，三日後隨應。

萬歷十六年春大雨，夏六月旱，加以瘟疫盛行，途路死者相藉。上司府縣躬請大士入城，虔禱屢獲響應。

三十六年，夏五月大水，秋疫。撫臺甘士价率郡邑，同請大士入城，致禱輒應。鼓樂、冠袍、旛蓋送歸。

天啟六年，夏六月至七月大旱，府縣請大士入城，懇祝切效。

崇禎元年，秋七月廿三日，海潮湧沒沿江居民，久淹不退。方伯董承詔率郡僚迎大士，奉安海會寺，為民請命，仍獲有秋。董方伯捐俸，偕郡守萬國相、邑侯王揚基建藏經閣，以酬神貺。

悲仰贊

宋孝宗天竺廣大靈感大士贊曰：

觀音大士，以所謂普門示現神通力故，應跡於杭之天竺山，其來尚矣。朕每有禱祈，隨念感應。曰雨曰暘，不愆晷刻。是有助於沖人者也。因為贊曰：

猗歟大士　本自圓通
示有言說　為世之宗
明照無二　等觀以慈
隨感而應　妙不可思

宋理宗皇帝製靈感觀音大士贊曰：

神通至妙兮　隱顯莫測
功德無邊兮　應感奚速
時和歲豐兮　佑我生民
兵寢刑措兮　康此王國

宋郡守陳軒上竺寺記贊曰：

白衣仙人無住著　補陀洛伽渺雲海
為大導師安樂國　歙然徧應河沙剎
世界熱惱或有聞　曾不旋踵垂覆護
眾生心念非一種　皇皇不足常有求
如飢須食渴須水　顧亦何從滿其願
我觀聖心等太虛　其視萬物猶一物
細視一物如一身　是身四大猶不有
萬物何能作留礙　殊功妙用濟十方
欲求功用不可得　羣生夢幻可兩忘
爾固無餘我無欠　嘗觀瑞像見寶光
如淨明珠時白赤　琉璃琥珀雜蒼玉
熒煌璀燦照眉宇　山頂或見初日升
匹素曳空煙縹緲　凡人倒作思惟
須臾變滅無復初　非空非色非有無　菩薩應身亦如是
堂堂祕殿表東南　山君海王盡回向
觀音智功不思議　佛子當作何等觀

元笑隱禪師大忻贊大士曰：

門門證圓通　法法無差別
文殊擇法眼　云何示優劣
如城之四門　中道乃逕捷
又如百川流　大海悉融攝
是故觀世音　日用常三昧

眼塵識和合　世間相無礙
盡空諸所有　亦不壞三界
隨其所應度　說法示慈愛
心地諸種子　大小各不同
時至雨露滋　發生均化工
幻師一毫端　幻相三十二
而彼諸應心　即我自心是
觀心而覩相　心相而寂滅
稽首常現前　證我如是說

又贊曰：

耳於六根　功獨超勝
况不耳聞　反聞自性
前塵起滅　自性不動
故諸塵用　譬如大將
遇變出奇　金鼓旌鎧　錯置逆施
稽首大士　證我三昧
為我後人　委曲垂誨
三十二應　十四無畏
隨感而通　分身異類
如天元氣　四時運行
萬物芸芸　莫知其生
我觀畫師　毫端遊戲
即是神通　現相不二
我眼見像　如聽法說
心精遺聞　均一解脫
心佛眾生　同證無礙
不立一法　名觀自在

國朝空谷景隆禪師贊大士曰：

聞思修入三摩地　以智觀照世言音
不從耳根墜塵識　是故尊號觀世音
聞塵聞性無所住　智體本來無起滅
是故寂滅常現前　超證圓通無異等
導師亦號觀世音　因果符合無差別
慈育眾生如赤子　亦如赤子同悲仰

分身應現十方界　如幻如化無去來
反觀聞性常寂滅　頓使眾生離諸苦
施諸無畏不思議　無功用行而成就
聞極疑聞無所有　法法圓融無罣礙
譬如明月當秋空　光明應現一切水
水月曾無應現心　無作妙力之所感
六根互用等無別　前後中際不可得
盡聞聞性充法界　是故有求無不應

感應頌

國朝浙江提學副使吳江趙寬〈觀音感應頌〉有序

弘治癸亥，歲旱不雨。鎮守太監麥公憂勞萬民，用《周禮》索鬼神之義，徧禜於上下及釋氏。念觀音大士以慈悲為道，爰以七月廿四日戊子，奉迎金身，自天竺寺而來於海會寺。道經鎮府，赤日停午，炎光赫曦；忽有片雲如蓋，隨仗而至，驟雨傾注，若翻盆然。明日己丑，陰雲竟日。庚寅、辛卯，皆微雨。壬辰，奉以歸，則又雨。雖不能溥且足，亦可謂奇矣。豈非大士之靈乎？非公精誠之感乎？然不能溥且足，何也？大士果有靈乎，則蒼生不勝大願。願溥也，願足也。遂作頌曰：

惟聖惻惻　濟利為德
惟神不測　變幻空色
感則斯應　應則未溥
殆是變幻　貿眩下土
胡不大之　徧灌十方
俾出火坑　咸就清涼
忍視眾生　受諸苦厄
大慈大悲　無量願力

金庭子〈感應頌〉并序

嘉靖二十有四載，自春徂夏，亢陽彌時，田疇龜坼，瀦澤塵飛；米價騰踊，僵死蔽野，兆人有不測之變。方伯九畹謝公躬率百司，禱諸山川社稷之神；復用諸方士符咒之術，而燔灼益甚。乃命

郡別駕閻齋羅公、仁和令後岡程公、錢唐令蘆溪龔公，素服徒步入天竺佛國山，具儀仗迎觀音大士於海會禪寺。諭都綱良縉、上竺住持惠琳道顯，董諸比丘昕晡齋沐諷經，務期昭假。先是，祈禱皆以淨瓶滴水為驗。越明日，瓶水微湧，點滴如珠，果得微雨。又明日，水大湧出，遂果得大雨。金庭子見而異之，敢作斯頌，以彰大士之神應云。頌曰：

乙巳之夏　火入南斗
槁苗斯焚　百姓疾首
三月不雨　旱魃降殃
巨津為塗　若墮火坑
巫覡舞雩　靡神不舉
天不悔過　赤地千里
方伯曰嘻　爰禱大士
濟濟庶僚　從如歸市
輿衛擁護　壇於吳山
惟眾比丘　厥誠孔殫
淨瓶一滴　化為甘露
利濟大千　驩聲載路
大士神靈　其應如響
發大慈悲　萬刼瞻仰

尚寶卿六橋徐江山〈禱雨靈應頌〉有敘

觀音大士，以慈悲廣大之力，靈庇茲土有日矣。故旱潦輒禱，禱則輒有殊應。嘉靖壬寅閏五月，旱既甚。我郡伯希齋陳公閔民無辜，乃齋沐率僚屬吏民，雩城隍，不雨；雩山川庶神，不雨；觸土龍、舞巫覡，愈不雨。公曰：「《周禮》荒政索鬼神，〈雲漢〉之靡神不舉，皆憂旱者之當務也。吾聞天竺大士靈驗屢著，盍往請之？」卜 日丙寅，公微服、徒跣，盛旗幡、鼓吹奉迎大士，恭安於吳山之海會寺。肅香楮，晨夕展敬焉。越四日庚午夜，僧綱良縉夢大士語云：「甲戌日有雨。」至期，僧庶駢集以俟雨。日亭午，淨瓶水上沿楊柳滴下，津津如貫珠然，未刻雨如注。明日乙亥，瓶水滴；薄暮再爾，雨如注，原野沾足矣。是非大士之顯靈哉？公之精誠昭假有足徵也。嗚呼，休哉！謹再拜而作頌曰：

於赫大士　濯濯厥靈

旱乾水溢　靡禱弗徵
歲閱壬寅　閏月維五
旱既太甚　千里焦土
郡守陳公　憂心殷殷
肅爾寅恭　雩茲庶人
瞻彼昊天　杲杲日出
我心靡寧　憂心如炙
公謂黎民　舍爾土龍
予索爾神　曷其弗宗
其神伊何　觀音大士
厥像孔嚴　於天竺寺
乃肅香帛　乃率羣僚
郊焉迎焉　翩其旗旐
惠然來思　登歡喜地
載拜載祈　陳詞獻醴
吉日庚午　彼僧都綱
爰夢大士　如在洋洋
其夢伊何　於時語語
五日為期　甲戌斯雨
僧庶咸集　如林如丘
有淨者瓶　津津溢流
瓶之罄矣　其雨淫淫
既優既渥　自未至戌
明發再興　瓶水猶滴
此日而晡　雨彼原隰
民曰休哉　膏我黍苗
何以致之　陳公之勞
自天降康　我公之賜
公曰匪予　讓於大士
巍巍大士　大慈大悲
澤我蒸民　孔惠孔時
振振陳公　式廉式愛
通於神明　厥澤孔潰
維神之靈　維公之誠
維誠維假　俾民亟寧
維神斯依　公歸弗有
我作頌言　用詔而後

喜雨詠

成化年中，省城迎大士禱雨輒應，性菴法師永顧率眾而詠曰：

去歲祈晴格上蒼　今歲祈雨應非常
纔迎大士離三竺　遂喜甘霖沛八荒
甕內不須留蜴蜥　道傍先見舞商羊
應知上相誠心切　頓使南方旱魃藏
六合濃雲連海嶠　一竿新水滿池塘
芃芃禾稼沾殊渥　靄靄桑麻異眾芳
野老騰懽歌歲稔　山僧作偈誦時康
人心自與天心合　法運還同國運昌
兩浙江山增氣象　萬家謠誦樂虞唐
偉哉功業垂千古　好刻貞珉示不忘

禱雨篇

萬歷乙巳夏六月，迎大士入城，即時滂沛，錢塘邵重生喜而歌曰：

蒼天烏乎虐下土　驕陽亢魃不肯俯
大士出山下民主　感格未通心未普
油然沛然欲成雨　敲松擊瓦點可數
孰能漏天不復補　孰能立海若神禹
感天旋日不旋武　使我為農亦為圃
襲衣百拜不敢侮　小社大心在區宇
楊枝涓滴我願吐　伽瓶洋溢吾所怙
匹夫之誠未狂瞽　小兒青龍白龍亦同舞(其時都城集千小兒，齊唱謠曰：「青龍頭，白龍尾，小兒求雨天懽喜，點點落在苗田裏。」故末句云然。)

上天竺講寺志卷一終

杭州上天竺講寺志卷之二

天目山三學學人廣賓纂

請牒奏

宋郡守陳軒上〈靈感觀音院奏〉曰：

臣所領州西偏，湖山之勝，甲於天下，而天竺山在焉。自五代時，僧翊得奇木，不能名，刻為觀音大士像。僧勳又以佛舍利內置頂間，其後像見光，惟與人作福祥，遠者載金石，近者口相傳不絕，不復概舉。臣自去秋視事，民方薦饑。今年春夏，雨彌月不止。吳興苦卑，連歲水災，父老日夜憂懼。臣即率屬躬禱像下，衝雨入山，衣帽沾溼；渠決壞道，從者皆涉。比臣之還，天宇開霽，纖雲不興，白日正中，清風穆然，邦人合爪歎息。既又輿致城中作佛事，與民祈禳。已而雨暘有時，民不告病；稼穡旆旆，遂為豐年。實茲像之庇茲土也，所不可忘。臣竊考圖志，惟天竺山，粵自晉末嘗為道場；逮聖朝天聖，始分上下。而觀音像所在，歷載崇奉。在治平中，賜號「靈感」，因以名寺。在熙寧中，許寺歲度一人為僧；朝廷每遣中使謁者走香幣其所，封識用御府寶璽，蓋嚴恭如此。惟是殿宇之建，垂六七十年，日就弊，不足以揭虔妥靈，宜有加飾。臣不勝大願，願給祠部空名度僧牒數十道，貨緡錢市材僦工，撤而新之。不惟俾東南之人永有瞻式，儻遇水旱禍災，吏不能力者，庶幾有所控告。臣惶恐以聞。

祈謝文

宋郡守蘇學士軾〈禱天竺大士祈晴文〉曰：

三吳之災，連歲不稔，尚賴朝廷，大分倉廩之陳，乃眷疲羸，僅免流殍。今者淫雨彌月，秋成半空。永惟嗣歲之憂，將有流離之懼。我大菩薩，行平等慈，覩此眾生，皆同赤子；反雨暘於指顧，化豐歉於斯須。雖某等不德而召災，念斯民無辜而受憫，願興慈惻，一拯含生。

又〈謝晴文〉曰：

民無常心，固何知於帝力？天作霪雨，當有感於佛慈。慧光照臨，陰沴消復。拯農工於溝壑，寬吏責於簡書。某等共銜不報之恩，願頌難名之德。恭馳梵宇，少薦微誠。

感應記

唐皮光業譔〈上天竺觀音看經院感應碑〉曰：

錢唐佛國山中，舊有天竺觀音寺，相傳創自典午時，毀於六朝兵燹。石晉天福四年，僧道翊從終南山來，即其故址縛茅居之。見山麓有神木發光之異，刻觀音大士像，虔奉菴中。後洛僧佌施舍利納頂間。凡諸祈禱，應答如響。唐季有異人錢鏐，挺生臨安，狀貌魁碩，具萬夫無敵之勇。適當五胡雲擾，九域塵飛，奮梃一呼，兩浙披靡。志圖捍衛東南，中懷疑貳。忽一旦，夢感大士有封王拜相之言，乃攘臂先鋒，所向克捷；頤指氣使，罔不樂從。初為董昌偏將，繼為杭州刺史，擢鎮海節度使，後進荊揚節度使。欲出兵討朱全忠，復夢大士曰：「不可輕動，汝能救百萬蒼生。不旬日，進爵為王矣。」已而果封吳越國王。鏐感大士默佑之神，屬予摭述其事，鐫諸貞珉，以表靈感之德於無窮。予謂老翁止汲水以溺兒，井著婆留之靈迹；胡僧言託生於斯處，池無神物之潛形。宿命洞燭於未來，玄機迭徵於無朕。岱岳生申補袞，藉元良而翊運；尾箕誕說築巖，起右相以和羹。況茲扛鼎之英豪，無始刼來，必親赴龍華而授記；是以然燈之正覺，閻浮界內，乃數呈夢象以開迷。將欲拯溺而救焚，特此因人而假手。非廣大靈感之慈，迴出於乾坤覆載之外；何天人相與之際，若捷於形聲影響之間？否則，何以致三代五王之盛，山林被綿繡以騰輝；一門百辟之榮，子姓襲金貂而繼美者乎！凡諸祥瑞，具載簡編。邇復僭次緒言，代申銘心鏤骨之悃愫；殆亦假茲願力，普為導迷破暗之筌蹄云爾。

宋鮑欽正代郡守陳軒撰〈靈感觀音碑〉曰：

紹聖二年，軒自合肥移守錢唐，明年奏疏於朝曰：「臣所領州之西偏，湖山之勝，甲於天下，而天竺山為靈感觀音菩薩像在焉。臣自去秋視事，民方薦饑。今年春夏，雨彌月不止，父老日夜憂懼。臣即率官屬躬禱像下，衝雨入山，衣帽霑溼；渠決壞道，從者皆涉。比臣之還，天宇開霽，纖雲不興；白日正中，清風穆然。既又輿致城中，作佛事與民祈禳。已而雨暘有時，農不告病。實茲像之庇此土也，所不可忘。惟是殿宇之建，日就弊，不足以揭虔妥靈，宜有加飾。臣不勝大願，願給祠部空名度僧牒數十道，貨緡錢市材僦工，撤而新之。」奏禮部尚書，敕令從事。許裒一路祠廟施利，以充其費。於是毗陵胡公宗哲、番陽張公綬偕為轉運副使，特主其事。乃得錢五百萬緡，樂施者又千萬。是役也，凡在見聞，智者獻謀，巧者出技，富者薦貨，貧者効力。良材密石，盡山澤之選。經始於某年某月，而某年某月告成。為殿屋若干楹，高明奧深，嚴翼宏大。復闢其前楹為懺堂，金碧丹堊之飾，炳煥奪目。華供之具，無物不備；慈容妙相，巍然益尊。過而禮者，恍若梵天帝釋之居，又疑身在圖畫，或以謂三昧力所變幻也。蓋如是而後足以

侈上之賜，而顯揚菩薩之威靈，以慰夫邦人父老之心。余為撰次其本末，將勒石以詔於後。

國朝吏部尚書蕭山魏驥撰〈禱雨感應記〉曰：

景泰六年夏，兩浙天久不雨，禾稼將槁，四民徬徨無措。時欽差鎮守浙江都知監左監丞阮公，會諸都閫藩臬重臣於議政之堂而颺言曰：「方今聖上屢降敕書，憫念元元，務在以安其生。今兩浙無雨，田疇龜坼，禾稼枯槁。況嘉湖二府之民已罹水害，賑恤且未蘇，今又旱若此。儻失西成，則民何以堪！非惟其嗷嗷不能以生，則國賦從何而輸？在古暵旱，有靡神不舉之典；今予詢諸耆老，謂上天竺寺所奉之觀音大士，每遇暵旱，凡守土之臣，能秉誠祈之有應。予欲狥民之情，與諸公當一往之可乎？」僉曰宜。公遂與鎮守兵部尚書德興孫公，齋沐於六月既望，率諸藩臬之臣，徒跣躬詣其上天竺寺，奉迎靈相至仙林建壇祈禱。即日陰雲四起，至日晡，甘雨大澍。明日如之，又明日亦如之，致兩浙之地禾黍芃芃，枯槁悉蘇。民咸懽忭鼓舞，舉手加額曰：「此非鎮守大臣秉此一誠，躬率僚寀以祈求之，其何能得雨有如是耶！」公由是大感靈貺，念無以酬，即捐己資重建行龕，洎製冠服與諸供具以莊嚴之。既而仍奉送以歸。於時其住持僧永顧目覩其盛，且於山門有光，乃具前所云者於予，請記之。予曰：「觀音大士得雨以濟斯民。若邇以歲歉，杭之鰥寡惸獨，及別郡流移而來乞食於市者殊夥，公則規畫百至，或給之以米，或濟之以粥，賴其全活者不可勝數。又若正統己巳，括蒼寇作，流毒其境，公躬擐甲冑，提兵深入，擣其巢穴，擒厥渠魁。於脅從者，則待以不死，既招徠無辜陷於寇者，老稚以千萬計。至杭之街衢、河梁之類，久被堙塞，則竭盡心力以繕理之，使復其舊，以便於民。致民仰公者，不啻猶神明；感公者，不啻猶父母，願并紀之。殆有不特表區區感公之心，而且表浙民之感公之心也，敢請。」惟予自天官蒙聖恩歸老林下，知吳越之民被公之惠者非一人，頌公之德者非一口。蓋以公能體聖上惓惓愛民之心為心，於民之飢寒則賑恤之，於民之寇盜則翦除之，於民之暵旱則祈雨以濟之，於民街衢河梁則整飾之，於民之冤枉則伸雪之；是故强暴不興，良善安業，以樂太平之樂，實由公秉此一誠，外盡其力，內盡其心，而能然也。昔鄭火，大夫子產救災補敗，得宜當理，史實書之；衛有狄人之難，文公治其城市室，合於時制，詩人歌之。今公於浙，不言其他，姑以昔除括蒼之寇盜、今祈雨而濟民而論，與子產救鄭之火災、文公靖衛之寇難無異，其紀之也，良不為過。故予因永顧之請，特為之記。

真身考

國朝邵重生曰：

上天竺觀音法身奇木，乃本寺之寶。南宋史：「建炎三年冬十二月，金虜完顏宗弼（即兀朮也）入臨安府，聞其奇，奉觀音輿中，并《大藏經》徙而北。時有比丘智完者，率其徒以從，至燕，舍都城西南五里，曰玉河鄉，建寺以奉。」田公《西湖遊覽志》，陳水南《兩三墨談》，仁寶《七修稿》，今《成化杭州志》、《萬歷杭州志》，皆從《傳燈錄》之說。或言佛身憑虜奉去，安在靈異？不知佛視中國夷狄，初何爾我？按《續傳燈錄》云：「建炎二年十一月，金兀朮入杭城，追高宗至紹興、四明。次年二月，兀朮復回杭城，乃奉觀音北去。不知此時偶陰雨，請真身在城海會寺侍香火。道元知虜求索，急藏井中；將他像置行殿，虜隨取去。及兵退城，寺亦燹爍，眾僧迷不知處。道元被驅至許村，逃歸，知其處，卓地有聲，井起像如故。則虜奉去者，非真身也。」《傳燈錄》之言如此。今余住山，得見真身法身沉香者，不知菩薩化現，自在一方；此土生靈感召，其曰玉河鄉，未聞靈應。然則大士之靈，係於土而不係於像，假乎像而不依於像。狡虜奉去，與黠僧求存，皆斷見也。惜燕京非元上都朔漠之地（乃今北京城）；縱元上都，我成祖北征已至其地，而玉河鄉更邇，亦必有人至，更無能詳訪此像下落耶？其無可知矣。

上竺論

古菴山人曰：

或問：「上天竺於天下，無峨嵋、五臺、普陀、天台之形勝；於神，無泰安、濟瀆之著見；於仙，無茅山、武當之來歷。區區託迹靈木之光，至若狂三吳、饑渴四海，而香火不熄、年新月盛者，此何以故哉？請居客而竟其說！」

「大抵山川之靈係於境，神靈之著因乎人，習以成風者由於久，翕然攸好者秉乎彝，從心所欲者乘其便，音響流通者感其慈，願出其途者取其適。不境則靈何所緣？不人則靈何所顯？不久則靈何由同？不性則靈何所攝？不便則靈何由普？不慈則靈何由圓？不適則靈何所歆？七者得其一而從違半，況得其全而天下歸也，夫何疑哉？」

「請以人境言之！」

「堪輿大勢，地形全資水法，地傑所以人靈。水法東南注為順，順則水走，山因以飛，無情而地不結。水法西北注為逆，逆則水返，山因以迴，有情而地結。粵自上古，武林山南北二支，生至錢江而止，其中南北武林二澗，水瀉於今西湖。西湖東南由進龍

浦，順注於江。杭城之地，不結靈竺之山，雖有晦昧，自秦漢晉以來，武林二水瀉於今西湖。其時進浦，路漲為陸，江不通而成湖，方有金牛、明聖之號。西北逆注於海，故杭城之地，結靈竺之山，於焉而始顯。然則有西湖方有杭城，有杭城方顯靈竺，審矣。有靈竺所以有杭城，有杭城不可無靈竺，又審矣。惠理、道翊之見，易地皆同。秦漢晉時，未有杭城，有錢塘縣之草設，故靈竺亦不須深。惠理開天竺，至今下竺而止。石晉之時，杭城盛而稱郡，故天竺當遂。道翊開天竺，至今上天竺而止。杭城小，故天竺近；杭城大，故天竺深。然則杭城盛，天竺寧不盛？杭城衰，天竺與之衰。天竺、杭城，風氣命脈實相關係，不居然可見哉？又不觀之，近有人以大士盛極，而開香火於五雲、焦山二處。五雲風景則大江流其前，焦山則天目聳其左，卒之風氣無關，命脈不係。蓋人雖有厭常喜新之情，而無可大可久之勢故也。寧若上竺之不求，而自然欲廢而不可者乎？不特此也，大士之風，孰不欲依以為重？雖以慈雲之德，設旃檀觀音而不傳，江干有五丈觀音而不著，本境有黑觀音堂而不彰，新市有長觀音而不久，近村有四面觀音而不立；以至剎剎有閣、處處有堂，豈非關係所存，自潛孚默契而不可奪，因緣所感，有若或使令而不容已者乎！惟天下之塗，浙直江犬牙，而福廣川蜀所必由之路。諺云有之：『上說天堂，下說蘇杭。』惟天下之福，金帛財貨萃於杭城；而杭城之福，富貴康寧懸於上竺。山川為杭土之母，若提綱而挈其領；大士之慈悲為杭父，若法化出而佛口生。海內香火雖多，而出現因緣，此山所獨。靈感之言，士民不捨於北宋『廣大』二字，南宋表揚而迄今。夫信之專者，則土石皆帝；攝其魄者，則草木皆兵。加之久道則不言而化，緣熟則不約而同。蓋好德之良根於民性本善，由是天下之人即以仰杭城者而仰大士，其歸已不可禦矣。所謂久而性也如此，至謂便且適者。奈何生氓之情，所以求福者不過欲逸欲樂也。東南財賦有餘之地，人情更甚。杭為六省通衢，九達孔道，花錦為城，貨泉為藪，萬寶之所輻輳，百工之所攢集。開天竺之門，有西湖六橋；掉天竺之手足，有靈鷲飛來峯；秀天竺之眉目，有諸裝點，而天竺兼之焉。因求福而暢逸豫之情，因逸樂而益堅求福之念。故不特富貴、賢智歸之，而貧賤、愚不肖莫不興起，以此也。然其圓也奈何？蓋天下靈聰司土胅蠁者，安富貴而躋貧賤已耳。大士不惟能與世間樂，尤用情於苦難，則雖至貴至富所不能無，而極愚極劣更切哀仰糾察之靈者，不過彰善癉惡已耳。而大士尤不捨夫不善之人，過往之靈，不過電暗室察順風已耳。大士尤遺聞反聞，無作妙力，循聲感應，不特三際懷保、十方恫瘝已耳。而其緣更孚於執著難化之婦女，上合諸佛之慈，故曰大慈；下殉羣生之欲，故曰大悲。世有善不善，百世既

歸，家有閫以內，尤懷向慕。夫孰不有父子？孰不有妻孥？孰不有順逆？如是者安往哉？抑又獷悍之性可化而馴良，顓蒙之愚可乞而智慧。隨地說法，靡剎不形。蓋不特三十二應，而有千億恆沙之身；不特千手千眼，而有千億恆沙之手眼。此吳越之崇天竺，高於五臺、峨眉；四海之渴天竺，深於靈山祇樹矣。又何必泰安神道之設、濟瀆浮物之幻、武當昭代之崇、天台羅漢之果、茅山聲聞之迹而已哉！然其外又有三說，為天下神佛之致歸向者，莫不水有風波之危，陸有傳舍之苦。舟車屢易，人獸俱疲。孰有水平通於千里，陸凹無過一程？善信如遵郊陸，婦女若履閾門，更出於天下之神靈之右。又四方別省，所以足民用而充官儲者，或棗栗、梨橘、竹木、漆枲，皆成於人者七，而伺於天者三。惟吳越蠶桑、農穀，成於人者三，而伺於天者七。雨暘既司乎大士，豐儉必藉乎威靈。祈蠶、祈穀、祈麥，古聖王所不廢，何能後於今之氓乎？且也泰山、武當、茅山諸處，聞儲香資進奉，孰有如天竺曠蕩之恩，士庶得自盡其誠而無取？故握粟可卜 ，裹飯可禱，至有心香投體而已者。又有醉飽於僧而賒有秋之償者，或即貨所業而以其羨充費者。而又有創見觀光，驚心聳目，一年不至，若一事未完；一夫不行，若舉家獲罪。此春時之民盡若狂者，以此也。然則杭城、靈竺，豈但相為表裏，而又相為盛衰；豈但相為盛衰，而實相為存亡者耶！」客聞之唯唯。

或又言：「上竺與普陀大士，是同是異？」

曰：「豈得異？蓋天竺即普陀，普陀即天竺也。普陀所以鎮三際之水，乃天下之大士，而三吳在其中；上竺乃三吳之大士，而天下在其中，大小無分而理亦無異。然至上天竺者，可以不至普陀而圓，謂小可以該大；至普陀者，必至天竺而偏，謂遠而不可忽近。圓偏互舉，而事無不同也。」

女身說

山人又曰：

觀音古佛，其身不必論男女，其身自是天下萬世男女法身。況《法華》、《楞嚴》觀音普門二品三十二應中，或現優婆夷、童女身而為說法，或現女主夫人、命婦大家而為說法。蓋或現者，即於其人中出生善人，即大士之身，非謂大士往變現諸女相也。大士不往變現，隨其人中出生，則隨其身男女矣。斯大士應身之妙，觀「應」之一字，則老少男女、大身童身，皆隨其人而應也。至如《法華‧龍女品》之說，此以女化男；如《維摩經》，天女化舍利弗為女身，曰「一切諸法無有定相」，此以男化為女也。此屬皆不

可思議事。觀「圓通」二字，則男無所圓、女無所缺，男無不通、女無可礙，故女身之說，亦不廢焉。然則執公主之說，謂之不知佛；則執男子之說，得非局於佛耶？或者又曰：「今時以三寸小履、二寸繡緣加大士可乎？」曰：「無害，隨緣。」其人艴然，曰：「薦以腥羶，塗以脂粉，拒乎？」答曰：「若如是，則又非圓通矣。且大士，天下之大士也，男女之大士也。今女人即以杭城女子之飾事之，男子即以杭產[綜-示+一]縞金銀之物事之。故龍女則獻珠，匿王夫人則獻香纓，難陀牧女則以乳糜，此其人即以法而說大士也。所以佛入葷俗而不拒於肉菜。當晉唐之時，而男子亦口脂面藥者矣，此緣之謂也。」其人乃服。又曰：「燒香何以謂之作福？」余曰：「釋典且不舉，姑以〈洪範· 五福〉曰『攸好德』。佛之德盛而福備矣！好之而恭敬供養、親近愛樂，非有身之福乎？至冀其餘庇之光，而懺其宿造之罪，皆第二義也。世有《觀音香山卷》，言『觀音乃妙莊王三公主』之說。執有者，以宣律師曾詢之韋天，韋天言信，而宣律師安有妄語？且趙文敏公管夫人曾書此記，文敏豈易惑之人？今有陶石簣公言：『此大碑今現在汝南府，其文乃蔣之奇撰，蔡京所書。』然則流通於宋元矣。執無者，以大士為淨土導師，淨土安得有女身？女有五障，不得作佛。如王元美言，乃淫僧妖尼誑惑所撰，蓋以其詞中言不足信。如香山在嵩山東二百里，乃中國地，何傳信無徵？又如蓮池言：『妙莊王不見標何方國土、何處國王。』愚謂秦時君始稱朕，周時王女始稱公主，今其卷有二稱。《法華經》妙莊王有二子一女，而此記妙莊王三女，所以興疑。要之，菩薩化身，通乎過現，不可思議論，則刼前或已有諸名稱，與今符合，不可知也。故有無、斷常二見皆非佛法。經曰：『靜極光通達，寂照涵虛空；卻來觀世間，猶如隱中事。』此言得之，蓋佛止言因果而不執理，儒家信理而不信因果。儒家言古，及盤古止矣，如外紀之事，便略不經心；佛家言古，動謂前乎千萬刼，此所以不可同年而語也。」或問：「今世人還拜願，自三步至十步；然初未見顯應，而人行之不廢，何也？」答：「此有二說。就菩薩而論，則舍法分無為，自是不可思議事；就眾生而論，則如疾痛呼天、呼父母，觀音乃此方之天、之父母也。」

上天竺講寺志卷二終

杭州上天竺講寺志卷之三

天目山三學學人廣賓纂

尊宿住持品

側聞維僧為寶，參佛法而鼎稱；與世作津，度人天以筏喻。文身千界，慧命一絲。睠茲天竺開山，金輪紹位。直指人心，始也契禪那於柏子；反聞自性，繼而談般若於空華。乃如鑿厓架屋，以廬學者，盛莫盛於辯才；鑄印標堂，以柄諸山，尊莫尊於若訥；璽書宸翰，歷更廿四，久莫久於晦巖。此三老之聲光道德，蓋樹法幢於有宋者也。至如白眉天問於斑前者，為東溟；五竹軒符於夢表者，為竺隱；妙蓮科注於國初者，為一菴。此三老之英靈福慧，蓋振教譯於皇明者也。靡不悟豐祖髓，名簡帝心。羽儀十剎，而領袖五山；洞析一家，而瀾翻三觀。百葉蟬聯，香逆曇華之國；五峯峻極，乳流獅子之王。故記曰：「人能弘道，非道弘人。」此之謂也。志住持。

宋佛光法師法照〈上天竺講寺住持題名碑記〉曰：

《千佛名經》，其來遠矣。上天竺住持無題名，闕事也。自道翊師天福四年開山結菴，得夜明木為觀音像，錢忠懿王易菴為寺。國初咸平至元祐，益增廣之。由南屏辯才而下，大振法席。高宗皇帝駐驆，有禱必應。紹興乙卯，翠華臨幸，羨有錫賚，命應如圓智，一新殿宇。孝宗乾淳間，若訥登對，論道稱旨，於是賜白雲堂印，署都僧錄銜。凡稱禪教律，公定皆從此出，所俾不輕矣。今上聖治之暇，心悅佛乘，於僧錄之任，尤加推擇。淳祐、寶祐，御製御書，昭其驗也。上下三百餘載，傳聞異辭，竊迹宗教共二十二代，爰題諸石。其道之隆替，庶乎後之學者，亦有考云。

開慶元年九月壬寅，晦巖照記

元竹屋淨法師〈上天竺寺歷代住持題名碑序〉曰：

題名者何？使來者目之，必曰孰道德，孰起廢，孰躐等，孰公於眾，孰私於身。於乎，可不懼乎！

皇慶二年夏，住持竹屋元淨書

題名

開山第一代，道翊法師，石晉天福四年。

第二代，南屏梵臻法師，皇祐三年。

第三代，辨才元淨法師，嘉祐七年。

第四代，法照用文法師，元豐四年。
第五代，慈辨從諫法師，元祐五年。
第六代，圓悟思尚法師，政和元年。
第七代，宣梵嗣珍法師，政和五年。
第八代，慧覺齊玉法師，宣和六年。
第九代，普明如靖法師，建炎六年。
第十代，佛照智堅法師，紹興元年。
十一代，圓通應如法師，紹興三年。
十二代，普覺惟日法師，紹興十五年。
十三代，證悟圓智法師，紹興二十三年。
十四代，慧光若訥法師，紹興二十八年。
十五代，師覺法師，淳熙十一年。
十六代，復菴妙珪法師，紹熙三年。
十七代，柏庭善月法師，嘉定六年。
十八代，虛菴有宏法師，嘉定十二年。
十九代，鑑堂思義法師，紹定五年。
二十代，柏庭善月法師，紹定十六年(再住)。
二十一代，梅峯梵奎法師，端平三年。
二十二代，古鏡文杲法師，嘉熙二年。
二十三代，同菴允憲法師，嘉熙四年。
二十四代，佛光法照法師，淳祐三年。
二十五代，石室智觀法師，景定三年。
二十六代，東林祖印法師，景定三年。
二十七代，佛鑑妙銛法師，景定四年。
二十八代，默堂正觀法師，咸淳元年。
二十九代，佛光法照法師，咸淳六年(再住)。
三十代，鼎山時舉法師，咸淳九年。
三十一代，南麓時法師，至元十三年。
三十二代，愚山古法師，至元二十年。
三十三代，梓山恭法師，至元二十二年。
三十四代，鼎山舉法師，至元三十一年(再住)。
三十五代，若洲筌法師，大德四年。
三十六代，柳塘權法師，至大二年。
三十七代，竹屋元淨法師，皇慶二年。
三十八代，佛海澄法師，泰定二年。
三十九代，如菴真法師，至順二年。
四十代，虎巖頤法師，至元二年。
四十一代，賢叟思法師，至元五年。

四十二代，我菴無法師，至正二年。
四十三代，東溟日法師，至正四年。
四十四代，絕輝鑑法師，吳元年。
四十五代，雲谷臻法師，洪武元年。
四十六代，日彰俑法師，洪武二年。
四十七代，惟源修法師，洪武六年。
四十八代，竺隱道法師，洪武十五年。
四十九代，箕山隱法師，洪武十七年。
五十代，止堂大山法師，洪武十九年。
五十一代，古春蘭法師，洪武三十二年。
五十二代，宗源梵法師，洪武三十五年。
五十三代，敬修德完法師，永樂二年。
五十四代，一菴如法師，永樂三年。時姚少師奉命取《金光明懺法》來寺住。
五十五代，宗鉉鼐法師，永樂五年。
五十六代，顯宗彌法師，永樂十二年。
五十七代，即中實法師，洪熙元年。
五十八代，鏡中潭法師，宣德元年。
五十九代，浩初頤法師，宣德五年。
六十代，訓中謨法師，正統三年。
六十一代，無相住法師，正統四年。
六十二代，有中頓法師，正統六年。
六十三代，瑞巖祥法師，正統九年。
六十四代，大猷闡法師，正統十二年。
六十五代，本源顧法師，景泰二年。
六十六代，芝山廣法師，天順二年。
六十七代，宗濟法師，天順五年。
六十八代，洪沛法師，天順七年。
六十九代，曇芳法師，天順八年。
七十代，無外廣法師，成化二年。
七十一代，秉忠桓法師，成化七年。
七十二代，雨菴霑法師，成化十年。
七十三代，天澤霑法師，成化十七年。
七十四代，敏中智法師，弘治四年。
七十五代，草堂芳法師，弘治九年。
七十六代，默菴潛法師，弘治十三年。
七十七代，鐵峯定法師，正德八年。
七十八代，天日南法師，正德十四年。

七十九代，大林茂法師，嘉靖九年。
八十代，大鼎脊法師，嘉靖十四年。
八十一代，松隱琳法師，嘉靖十九年。
八十二代，東山顯法師，嘉靖二十二年。
八十三代，雲巖貴法師，嘉靖二十四年。
八十四代，春谷俊法師，嘉靖二十九年。
八十五代，心泉璟法師，嘉靖三十一年。
八十六代，竹山蕙法師，嘉靖三十四年。
八十七代，月洲源法師，嘉靖三十六年。
八十八代，五峯霑法師，嘉靖四十年。
八十九代，雲峯才法師，嘉靖四十年。
九十代，近泉松法師，隆慶二年。
九十一代，一山福法師，隆慶四年。
九十二代，小泉禮法師，隆慶六年。
九十三代，月樓憲法師，萬歷二年。

舊志次九十三代而止，下三十五人，今續入。凡天下叢林至宗風不振，乃循甲乙相承。故上竺自皇祐間，吕郡守奏去甲乙，而外請名耆，良有以也。頃稽方丈，自月樓憲公，不惟甲乙，且增正副矣。迨雲池逸公，不惟正副，又參鼎足矣。嗣是以往二十人後，又無不徼外護之靈，踰前茅之列，職此所由。蓋香火之利養喪天，使山門之風規掃地耳，悲哉！且夫住持以代例稱，所以序道統者也。皮既不存，毛將安附？故今續入者，上不嗣代，下不系年。

住持萃峯、道樑師
住持小山、道立師
住持繼泉、德孚師
住持仰峯、承明師
住持雲堂、德洪師
住持南溪、道柯師
住持竹亭、圓逕師
住持明菴、圓日師
住持雲池、圓逸師
住持無塵、明遠師
住持紹峯、祖玉師
住持敬坡、真宰師
住持愛雲、意奎師
住持雲泉、真諒師
住持伴雲、諸香師

住持厚泉、明信師
住持心宇、明機師
住持潮音、海瑞師
住持心臺、萬靈師
住持玉岑、世高師
住持萃吾、興美師
住持旨玄、寂嘉師
住持易菴、如貿師
住持文宇、寂纓師
住持奇峯、照珍師
住持春山、萬富師
住持印中、照本師
住持寄竺、寂瑜師
住持本空、續蘊師
住持道微、本初師
住持心凝、通藏師
住持心融、續元師
住持印峯、心授師
住持了因、源汶師
住持信如、寂徵師
住持兆初、本一師

列傳

五季

道翊法師

當陽侯杜公之子，出家於終南山翠微寺。晉天福四年，入天竺佛國山，止息西峯之隈，誅茅結庵，精修淨慮。夜則高擊齋魚，經行五峯之顛，衝冒零霧霜霰，不避豺虎。絕無徒侶，多歷年所，遂致然超悟，乃屏息止觀，休糧入定者久之。一夕，忽見山麓火光燭霄，師禱於天，即擲錫空中。詰旦，果得異木浮水面，錫卓其上，異香襲人。攜委雕鑾匠氏孔仁謙剖之，得大士像，宛然天成，不假刻削。歸菴中，多獲靈感。師夢白衣人曰：「明日，僧從勳自洛陽來，隨身有古佛舍利，當求之。」已而僧果至，求得之，納於像之頂門，靈感異著。師與兄道宣、弟道定偕入杭。後宣為南山六通寺律師，定為法相始祖，時號僧中三鳳云。

宋

南屏梵臻法師

錢塘人，傳四明法智之道。初住金山龍游。侍講吳公倅都聞師名，革興教禪，居請主之，學者朋來。師每講次，會文集義，貫穿始終，浙西台學大振自南屏始。嘗述二偈贊《妙宗鈔》曰：

佛許六即辨　蛤蜣何不通
知一不知二　失西又失東

三千若果成　一切皆常樂
蛤蜣不究竟　諸佛斷性惡

後與淨覺岳公辨教門，陳詞有司，乞築高臺、竪赤旛，倣酉竺聖師與外道角勝；以幡標顯處，義墮者斷首截舌懸之。府尹杜而不從，聞者凜然。初吳公多於休沐請講，盛服止閤外；師未登座，不輒入。東坡云：「與師語羣集，有所遺忘；師則應口誦之，亹亹不休。」東坡答辨才文，云「講有辨臻」，即為師。崇寧中，謚實相。

宋辨才法師

名元淨，字無象，俗徐氏，郡之於潛人。客有過其舍者曰：「嘉氣上騰，當生奇男。」既生，左肩一肉起，如袈裟條，八十一日乃沒。伯祖異之曰：「宿世沙門，必使事佛。」八十一者，殆其算歟。及師之終，果符其數。十歲出家，每見講座輒曰：「吾願登此說法度人。」十八就學於慈雲，不數年而齒高弟。後聞明智講止觀方便五緣，曰：「《淨名》所謂以一食施一切，供養諸佛及賢聖，然後可食。此一方便也。」師悟曰：「今乃知色香味觸本具第一義諦。」因泣下如雨。自是遇物無非法界。代講十五年，杭守呂臻請住大悲閣。嚴設戒律，其徒畏愛。臻為請錫紫衣、「辨才」之號。七年，翰林沈遘撫杭，為上竺本觀音道場，以音聲為佛事者，非禪那居，乃請師居之。鑿山增石，廣聚學徒，教苑之盛，魁於二浙。熙寧三年，杭守祖無擇坐獄於檇李，師以鑄鐘例被追辨，幸而得釋。寓止真如蘭若，擬金錍，設問答，述圓事理說，發明祖意之妙。元豐元年，有利山施資之厚者，倚權以奪之，眾亦隨散。逾

年，其人以敗聞，朝廷復[田/廾]師，眾復大集。清獻趙公抃與師為世外友，為之贊曰：

師去天竺　山空鬼哭
天竺師歸　道場重輝

東坡寄詩云：

道人出山去　山色如死灰
白雲不解笑　青松有餘哀
忽聞道人歸　鳥語山容開

三年，復謝去，居南山之龍井，士庶爭為築室，遂成蘭若。六年，太守鄧伯温請居南屏。越明年，復歸龍井。時天竺靈山虛席，師以慈雲師祖道場，俯就眾請。及月餘，於禪定中見金甲神跪前曰：「法師於此舊無緣，不宜久住。」既奉冥告，還龍井。元祐四年，蘇公軾治杭，子迨生四歲不能行，請師落髮摩頂，數日即善步。有詩云：「師來為摩頂，起走趁奔鹿。」師將示寂，乃入方圓菴晏坐，謝賓客，止言語、飲食。招參寥子，告之曰：「吾淨業將成，若七日無障，吾願遂矣。」至七日，出偈告眾，右脇吉祥而卧，奄然順寂，時元祐六年九月晦日也。塔成，弟子懷楚詣汝陰，請志於東坡。坡命子由為之銘，復作文託參寥子以祭之。師焚指供佛，左三右二。有欲效之者，師止之曰：「如我乃可。」修西方淨業，未嘗須臾廢。或禱大士求放光，光即隨現。沙門熙仲對食，視師眉間有光，遽起攬之，得舍利數粒，後人嘗於卧處得之。嘉興令陶豫有子得魅疾，祝之即愈。諸暨陳氏久患心疾，漫不知人；警以微言，醒然而悟。布衣李生久習禪觀，辨而無行，欲從師出家；東坡為之請，未言其名，力拒不許，若先知然。秀州狂僧號回頭，以左道惑眾，宣言欲建大塔為吳人植福，施者雲委。以師不可欺，憚於入杭。先遣使以錢十萬供僧，師答曰：「承以建塔淨財，欲飯僧，教有明文，不許互用。」狂人大慙而止。

法照用文法師

慈辯從諫法師

處士松陽毛氏子，幼見佛經輒能自誦，父曰：「再來人也。」年十九歲試《法華經》得度，即謁上竺辨才，夙夜聽習。復往依南

屏，於金山問辯如流。南屏歎曰：「吾道由子而行也。」熙寧中，講於明慶，徒眾日蕃，乃遷淨住。元豐初，處人建壽聖，迎居之。越三年，辨才主南屏，自以年老，屈師首眾。嗣歲，舉以自代。元祐五年，上竺虛席，辨才囑郡守蒲宗孟曰：「靈感勝迹，非從諫不能當。」郡用其說，復為奏賜「慈辨」之號。義天僧統自高麗來求法，郡以師應命。乃求鑪拂傳衣，即詣智者塔，誓之曰：「已傳慈辯法師教觀，還國流通，乞賜冥護。」既歸，乃建剎立像，尊為始祖。大觀二年辭歸，壽聖之門學車溪、普明等十人，詣師省候。師曰：「諸子遠至，後會無期；老僧不如乘興便行。」遂沐浴更衣，升座說法，書偈，安坐而逝。葬全身於受業。

圓悟思尚法師

早從淨慧，妙盡其道。政和元年，詔居上竺，賜號「圓悟」，講說簡明，學者咸仰。嘗曰：「吾宗義學也，不旁通儒典。而事講業者，吾恐未盡其義。苟義有未盡，其意何所在？得意忘言，自是成學之人。若初心向學，須先尋文義可也。」

宣梵嗣珍法師

政和五年，居觀堂。時徽猷閣侍制李偃知杭州，入山訪之。適師下山而遇諸途，即植杖立談，忘日之既夕也。因建「植杖亭」，以志其處。師喜著屐，嘗搆精舍於西峯，石磴紆盤，出入每三休焉。謂人曰：「昔謝安石隱東山，嘗攜二妓游薔薇洞。吾以松竹為薔薇，歲寒青青，卒無開落；以白雲、明月為二妓，空色兩忘，吾何忝安石哉！」爰搆亭逕之半，曰「謝屐」，以志所好。

慧覺齊玉法師

霅川人，尚書莫公支子也。早親釋學，日記數千言。始參祥符神智，後依慧辨。一日，赴僧次，辭遜之。或問其故，答曰：「誠不欲以五千之利，而喪一日之功。」慈辨得通相三觀之旨，祕不肯說；師屢叩不已，乃於密室跪鑪以授。初出居苕溪寶藏，每於歲終，大興淨業之社。遷橫山，立丈六像，率道俗修行。中夜告眾曰：「我輩未念佛時，心隨塵境，作諸不善。犯一吉羅，尚受九百千歲地獄之苦，況犯篇聚重罪乎！今若念佛，則可一念能滅八十億劫生死之罪。況又父母生我，令我出家，理當度脫，以報重恩。今若破戒墜陷，則父母聞之豈不失望？」大眾聞之，無不傾誠懺悔，

舉身自撲，至損額失聲者。宣和六年，遷居上竺。先是，慈辨之去，繼之者或不振，學徒謀曰：「得五公乃興。」郡守翁彥國聞之，乃具禮以迎。講道敷化，不異慈辨。嘗中夜頂像行道，一僧失規，責之曰：「汝無知，乃畜生耳！」已而悔曰：「彼雖不肖，罵為畜生，有玷三寶。」自是三年對佛悔過。建炎元年秋，謂首座修慧曰：「吾牀前夕寶塔現。」慧曰：「流通《法華》之瑞證也。」師曰：「所願見阿彌陀佛耳。」即集眾念佛。頃之，舉首加敬曰：「佛已來接也。」端坐合掌而化。葬於山西草堂之側，諡妙辨，塔曰慧寂。門弟傳教者，密印修慧等二十人。所著《普賢行法經疏》及自釋《祖源記》、《無量經疏》、《雜諸記》、《安般守尊法門》、《尊勝懺法》。

普明如靖法師

早入慈辨室。杭人有以私憾害其兄者，後深知悔，以問一律師，答之曰：「殺人償命，何足為問？」其人即投西湖而死，欲償兄命，免為後怨。既不見鬼，反悔投水。因眾人入雷峯受戒，鬼隨以入。聞戒師說，人造罪許懺悔。其鬼乃怒律師，早知可懺，必不投水。日夜隨律師索命。語以修薦，百方皆辭。久而言曰：「為我請靖佛子施大乘戒，則可脫。」及為授戒法，乃見形，致謝而去。後主覺悟，學徒雲擁。惟一室空閉，云有惡鬼居之。師中夜入室坐禪，忽聞哮吼，見一人頭飛走地上，俄化為人。師謂之曰：「汝何得擾人？」鬼曰：「凡出見人，本欲求度；人見自畏，非擾之也。」師乃為設法授戒，語之曰：「汝可入吾袖。」鬼即如教。覺重甚，攜至中林放之，化成天人，殷勤謝師，飛空而沒。建炎二年，遷上竺。初是有為鳴童卦者，或以上竺住持為問，童云：「待問土地。」良久曰：「今早天符已下請靖法師矣。」閱月而師至。三年十一月，金虜破杭。師預感夢，知此山戹運不可免，語其徒令避去。及虜至，或謂可以禮迓，即聲鐘集眾。虜疑其將抗己，放兵大掠，火其廬而去。

佛照智堅法師

圓通應如法師

婺之浦江人，姓胡。幼默記多聞，尤善持論。來學上竺，慈辨深器之。嘗往靈山訪同志，出六能義，反覆辨詰，彼義墮負。師即揭竿繫帛，謂之西竺破敵則豎勝幡。道場降魔，亦表勝相；今法戰

既勝，當揭一竿。人畏其烈，目之虎子。初，慈辨得南屏通相三觀之旨，祕不授人。玉慧覺祈請尤力，許子夜為密說。師即知之，陟梯揭瓦，伏身竊聽；飛雪翻空，背若被鎧。旦白慈辨曰：「我於通相三觀若有冥授。」即錄其言以示一眾。慈辨怒曰：「應如盜法！」紹聖初，主越之圓通，嘗因講散，謂侍者曰：「今日東風吹，教法過浙西去，使眼中有耳者，得以有聞。」師三十歲便亡卷，每臨座，侍者供講衾以俟。紹興三年，遷上竺。兀朮焚蕩之餘，唯存藏室。有勸他人營建者，師曰：「我但流通大法耳，他日自有修造者至。」及師亡，普覺、惟日果以繼席興土木事。五年九月，車駕臨幸大士殿，師奏對若流，上喜，賜萬歲香山以供大士。師不尚著述，嘗以偈示人曰：

吾傳智者　一性之宗
三千實相　妙空假中
一念法界　生佛體同
凡聖一如　善惡理融
毗盧身上　湛若虛空
達斯旨者　法法圓通
左之右之　受用無窮

山家稱如虎者三人：神照本如、四明道如及師也。一夕，別大眾，歸寢而終。塔於寺西北隅。嗣法崇先、懷志、白蓮、慧仙，皆足世其業。師有教義，名《指難集》。
上天竺講寺志卷三終

杭州上天竺講寺志卷之四

天目山三學學人廣賓纂

列傳

證悟圓智法師

黃巖林氏子。母夢老儒寄宿而生。幼聰敏，書史經目悉能開說，醫方卜 筮無不精究。後依真覺學通觀，鬱為師匠。

慧光若訥法師

字希言，嘉興孫氏子。依竹庵於德藏，刻志苦學。久而嬰病，心叩大士，口誦祕咒，夢大士灌以靈液，寤而失其疾。乃往赤城謁證悟，遷上竺，命師首眾。既沒，詔師嗣居之。乾道三年春二月，駕幸上竺，展敬大士，問光明懺法之旨。釋四王下臨土宇，護國護人，故佛為說金光明三昧之道；祖師立為懺法，以資諸天之威德，故帝王士庶皆可修持。上悅，授右街僧錄。既而詔於山中建十六觀堂，仍倣其制，作堂於大內。四年夏，召師內宿觀堂論道。四月八日，召師領徒五十人入內觀堂修金光護國法。上問曰：「佛法固妙，安得如許經卷？」師曰：「有本者如是。」上然之，進左街僧錄慧光法師。九年，召對，問大士歷代靈迹及《法華經》旨，上曰：「最初得師發明此事，遂以圓覺悟得法門。譬如著棊，勝負既分，不但并去棋子，棋盤亦須一時并去。」師曰：「并著亦不可得。」上曰：「宗教俱通，其師之謂。」有詔令講《圓覺》，至「此虛妄心若無，六塵則不能有」，師曰：「心本無形，因塵有相。塵滅心滅，真心湛然。」上手書其語以賜。又嘗問《金剛》之旨，師曰：「此乃六百卷般若中一分，興問斷疑，特喻金剛。故無著論云：『此金剛波羅密，以如是名顯示勢力。』維是般若皆有是力，此既諸般若之釋疑，是故『金剛』二字，文雖出此，義實通諸般若作譬，故持說者福重功深。」上曰：「朕日誦此經，今更命眾合誦三萬卷。」乃降箚云：「平昔所食禽魚之類，今仗般若為除此過。」時沂王尚幼，上召師入禁中，為王說法摩頂。嘗以疾丐閒，上曰：「且賜地築室，更數年，彼此作閒人，水邊石上共說無生。」十一年，退處興福，特受兩街都僧錄。時光宗在東宮，書「歸隱」之扁以賜之，仍製讚以褒稱其德。孝宗退養重華宮，召注《金剛經》。肩輿登，止宿殿廬。注成以進，上披覽，益有省發。

紹熙二年十月旦，謂侍人曰：「吾宗通《法華》，宜以此終。」乃遂集眾修《法華懺》，取道具進兩宮。端坐而化，壽八十二，塔於正寢。紹熙二年，謚宗教廣慈法師普照之塔。

復庵妙珪法師

柏庭善月法師

字光遠，四明定海方氏。父偉，為邑中名儒。母夢月輪墮懷，已而有孕。生之夕，白光滿室。初學語，常合掌道法界字。甫成童，父編六經授之以誦習，如温故業。十二，通春秋大義。母攜往正覺寺設供，循殿楹數匝。寺主道并謂其母曰：「吾夜夢白龍繞此柱，其徵此兒乎？」於是父母始令出家，名善月，符先夢也。十五具戒。越三月而師亡，乃往南湖依草菴。常以科目繁冗為勞，菴誨之曰：「白日看家書，有何難解？」師為一省。菴曰：「異時鼓吹吾宗者，其在子乎！」梓菴講道，月波往謁焉。聞世相常住之旨，益有省發。乃復歸南湖見堂，問如來不斷性惡之說，身心豁然，如卻關鑰見府庫。以所悟白堂，更為演其義，師拜領而退。堂示寂，師為專使，往當湖請竹菴。越明年，命師分講，風儀清温，談辯雅正。竹菴讚之曰：「吾與首座可謂得人，但恨無繼之者。」所居古柏獨秀，因自號焉。淳熙庚子初，主東湖辯利，遷慈谿寶嚴。居無何，太師史真隱請居月波，學士來奔，廩食不足。真隱聞之喜，使使白師曰：「師為道延眾，欲食來取，予不嗇也。」紹興二年，郡守何公澹以南湖虛席，親裁疏勸請。講道有方，御眾有法，十三年不易節，緇素以是信之。嘉泰四年，退隱衍慶精舍，一息十載，夢老叟耳語曰：「六十五，七十一。」嘉定六年，郡將陳卿以南湖有去思，為更屈致，辭弗克。雨華更新，舊徒再擁。未逾月，上竺以敕書召。師謂亟往有似於徇名，堅不為動。眾謂上命不可不恭，始幡然而往。是年正六十五之驗也。八年夏旱，詔迎大士於明慶，車駕親幸，致師恭禱。朝注暮洽，上大悅，特補左街僧錄。十二年秋，拂衣東歸，偃息於城南祖關。是年七十一，又知所以驗前夢也。明年秋，郡以西山資眾[(白-日+田)/廾]師佚老。紹定五年春有旨，再領上竺，人皆以坡仙「師去忽復來，鳥語山容開」之句為之賀。端平三年，得目眚，請老東菴。一旦示寂，坐牀上，若相酬酢者。法孫秀林問何為？曰：「吾與荊溪尊者對談祖道耳。」將入寂，顧左右曰：「人患無實德為後世稱。若但崇虛譽，我則不暇。千載之下，謂吾為柏廷叟，則吾枯骨為無媿。幸勿為請謚，以汙我素業。」言已，累足而化，實淳祐元年正月十九日也。留龕七日，

面色鮮白，心頂俱煖。奉全塔於寺東，為壽九十三，法臘七十八。先是，首座智覺論請於朝，言師「道光前哲，四眾依仰，年登九秩，將逼歸真，請建塔山中，以擬歸藏。」上旨允之，故今用此成命。所遺衣髮及四經解，合藏於南湖祖塔之側。師所著述《楞嚴一覽》、《金剛會解》、《圓覺略說》、《楞伽通義》、《因革論》、《簡境十策》、《三部格言》、《金錍義解》、《宗教淺述》、《仁王疏記》、《附鈔箋要》，皆行於世。自餘雜製名《緒餘》、《講餘》。嗣其道者，香林清賜為上首。

虛菴有宏法師

鑑堂思義法師

字和甫，武康凌氏，試《法華》第一得度。依明智學，隨聞隨悟。歷修四三，忽頸上生一肉癭，夜夢功德天食之以桃，其疾即消。熙寧四年，賜紫服，號淨慧。丞相蘇頌帥杭，請住天竺，大振法道。三十二年，如明智立記。元祐三年，別眾，怡然坐寂。

梅峰梵奎法師

古鏡文杲法師

同菴允憲法師

佛光法照法師

台州黃巖姓童氏。其唐有為長史者，祖也。父好善，生九子，師居其次。母陳氏，夢日霣，褰裳得之，妊十二月乃娩。氣貌奇偉，耳垂肩，眼如電。入小學，根氣不凡。讀儒書，多穎悟。十三禮聖水蒙庵宣公出家。一夕，歸自外，寺僧望兩炬晶烱，近接乃師目光也。月溪輝公欲於受經城西多福首座堪公，曰：「此子異，能返照佛祖。」堪公薙髮。自後肄業，精進教乘，三閱大藏。出游諸方，豁堂（當代尊宿）貽書褒勉。諸山以職延致，悉不就。攜香禮北峯印法師，次住蔣山參琰浙翁，問答之際，深器之。北峯住下竺，招師歸；浙翁以教門為囑，講論授受，泠然有得。北峯順寂，振錫東還，錢丞相作高僧堂，招延共談。年二十三，改住天台大慈，遷聖水。史衛王舉住雲間延慶，一見喜曰：「師異日必大振佛法。」繼遷鳳山褒親，丞相史永公舉住四明。延慶、海順二法師自

日本來聽講，所作《讀教記》，繪師像歸國。高麗崔丞相亦致書問佛法大旨，乞〈九祖圖〉，且遺師漂氎缽盂及金觀音香藥。育王虛席，郡請兼住，舉癡絕冲自代。閹帥奪寺園為酒庫，杖履而遁，道出東掖，兩山學徒歡迎於境上。宏齋包公屈致智者真覺，重祖廷也。理宗聞師名，敕住下天竺；尋遷上天竺，補左街鑒義。御筆特賜「佛光法師」，進錄左街，賜金襴袈裟；召見倚桂閣，對御稱旨。集慶寺成，旨命開山，力辭，舉白蓮觀此誠公自代。明年誠圓寂，有旨特轉左右街都綱錄，令住，不許辭免。上書「晦巖」二大字賜之。開無礙講，凡禪教律三宗，學徒雲集，聞名開悟。召見延和殿講《華嚴經》，又大書「靈山堂」以賜。遣姪武經童炎，奉宸翰歸其里。東宮召見，復古殿講《般若經》，再賜紫金襴袈裟，齋於明華殿。聖眷隆渥，昔未曾有。面奏力乞還山。度宗登寶位，敕再住上天竺，前後閱二十四年。平章賈魏公為造塔於寺之東岡，奏請名「天巖塔院」，賜田三頃以助香燈。是年秋示疾，移居塔院，卻藥屏醫，作文自祭。中秋之夕書偈曰：

佛壽八十　我多九年
虛空掇轉　大用現前

擲筆端坐而逝。享年八十有九，僧臘七十四。生於淳熙乙巳七月二十八日，終於咸淳癸酉八月十五日。諸大弟子妙應（繼席）、時等四十餘人，手度一百餘人。奉全身，窆以衣髮金地天巖墓，遵初志也。次年賜謚「普通法師」，塔曰慈應。撰《讀教記》二十卷，為學者日月。其餘法語遺文、諸高弟所耳聞面命，多所記錄，不可罄述。

鼎山時舉法師

佛海澄法師

名性澄，號湛堂，會稽孫氏子。生有異資，四歲戲，拈筆為佛像。授以經文，即能成誦。至元丙子，出投佛果寺石門諸律師。初探律藏，繼而依佛鑑銛、鼎山舉為天台之學。後謁靈澤於南天竺，深加器重，職以清班。至大戊申，遷住演福，屢被旨顧問，進號佛海大師。泰定甲子，以選住上天竺觀音教寺。至順壬申，效辨才故事，拂衣歸南天竺之雲外齋。學者坌集，則誨迪獎勵，未嘗少倦。其晚年篤志淨業，晨夕繫念，雖病不廢。嘗屏絕左右，修一心不亂觀門者七晝夜，屢有瑞應。一日，眾以月旦問訊，師遽迎揖之曰：

「老僧向退閒十二年，幾在半途，今日則有，明日則無，光陰其可把玩乎？煩大眾點視行李，用表無常。」眾為念佛，師曰：「止、止，佛須自念。」明旦，書偈而逝，至正壬午八月二日也，春秋七十八。所著書有《金剛經集註》、《心經科注》、《消災經註》、《彌陀句解》、《仁王經》、《如意輪咒經科》，並行於世。

如菴真法師

名淨真，俗姓沈氏。母朱，夢月升海，墮於懷而娠。識者謂海月都師之再來也。九歲，依化城明靜志法師出家，授以《法華》，歷耳成誦。十六，為僧受具，首謁雲夢澤公。服勞既久，復造無極度公咨叩，盡其學。大德間，出主海鹽德藏，賴以起廢。仍割己儲，營法華期懺。泰定己丑，行省丞相脫驩公舉住下天竺，諸大方麟鳳爭願出席下。居七年，寺之門舊臨澗南，逼於巖，巖下之逕紆且小；師命闢之，高其門，大書「佛國山」以揭之。至順辛未，上竺湛堂澄公舉師自代。先是師疾，夢白衣大士持金瓶水灌之曰：「汝勿憂，非久當愈。」復曰：「卻後二年，汝避喧於大樹之下。」及至上竺，寢堂西偏有大樹，堂扁曰「靜處」，始悟前夢也。臨眾簡嚴，不妄言笑。每夙興，默課《法華》不輟。翰帖酬應運管，若不經意。癸酉冬，預知時至，歸受業而逝，壽七十二。荼毘，唯舌與頂骨不壞。

我菴無法師

名本無，黃巖人。從淨慈方山剃落，依寂照於中竺，獲侍箋翰。有舅氏，教庠老成，挽之更宗，乃見湛堂於演福，研精教部。寂照惜其去，寄以偈云：

從教入禪今古有　從禪入教古今無
一心三觀門雖別　水滿千江月自孤

後出世，既為湛堂嗣，仍爇一香以報寂照，不以迹異二其心也。寂照示寂時，遺書祝其力弘大蘇、少林兩宗趣，餘無他辭。師祭之，拈香云：

妙喜五傳最光燄　寂照一代甘露門
等閒觸著肝腦裂　冰雪忽作陽春温
我思打失鼻孔日　是何氣息今猶存

天風北來歲云暮　掣電討甚空中痕

晚年無疾，坐蛻白雲堂。

皇明

東溟日法師

名慧日，天台赤城人，宋丞相賈魏公諸孫也。志慕空門，往依平山等公落髮為沙門。時子庭訓公講台學於赤城，師走輪下。一旦假寐，似見竹橫地下，竹上所凝者，白粥粲然，師目臥而餐之。及覺，言於祖庭，庭曰：「竹粥與竺同音，子得就地以食，其言殆在上下兩天竺之間乎！子宜亟行。」師即復浙河，拜竹屋淨公於上竺。為遷剛燥之地，遇之如賓友。命典客，尋掌僧籍。竹屋既示寂，越溪澄公自演福來繼其後，甚器師，延居版首。未幾出世吳山聖水，俄招還，處以上座，以表儀四眾。吳楚閩蜀之士趼足而至者，動以百計，師隨其性竇淺深而疏導之。至元四年，師獲主薦福，歷三寒暑。而下竺靈山教寺災，至正元年，宣政使高公納麟謂非師無以膺起廢之任，移師蒞之。師至，修普賢大士殿、大雄寶殿。四年，高公又遷住上天竺。子庭所謂兩天竺之間，至是益驗矣。師知緣契在斯，走募多金，凡大殿、三門、鐘樓、講堂、諸寮宇，寺制所宜有者，無不具焉。帝賜以金襴袈裟及「慈光妙應普濟大師」之號。十六年，撾鼓而退隱於會稽山水間。浙江行省丞相達識帖木爾，遣使者以物色訪之，力請還山，前後所住凡二十五年。國朝洪武改元，始獲謝事於塔院。師軀幹修偉，眉長三寸餘，其白勝雪，目睛閃閃射人。道德餘光所被，不問耄穉，見師經行，咸曰：「我白眉和尚來也。」爭持香花為供。師歸天竺，日修西方之學，冥心合道，不雜一念。十年秋七月朔日，夢青蓮華生方池中。越四日，趺坐書偈而寂，世壽八十有九，僧臘七十有三，全身葬於西峯之妙應塔院。所度弟子甚眾，下天竺則圓具等十人，上竺則妙修等近二百人。

日彰俔法師

號用拙，常熟張氏子。十七祝髮，東游四明。時我菴無公住延慶，石室瑛公居育王，皆待以忘年。既首眾報恩，又為上天竺第一座。出世郡城之永定。洪武初，善世院令住上天竺。以高僧選留京師。

性源修法師

存翁法師

名弘道，字竺隱，吳江澄源里人，姓沈。有梵僧過其居，視水木清華之勝，言此宅當出高僧。師既生，及睟，見佛像則合掌，能稱佛號，父母異之。母，鞠於嫂氏。十年，就外傅，日記數千言。見人誦《法華》等經，歷耳成誦。年十三，父命禮密印寺雲屋慈公為師。十九薙髮，進受滿分戒。自此為學，孜孜靡懈。往見元叟端禪師，復歸密印。是年，庭生竹五竿，因名其軒曰五竹，將藏修焉。聞魯山文公講授有規矩，乃從學台宗疏鈔等書，罔不通貫。會我庵和尚遷主上竺，詣謁之，我菴深言獎勵，且曰：「為我掌記。」未朞月，上方丈請益曰：「日前蒙和尚指教，嘗於靜夜試以平日所聞，返照己心，圓具法界，念念即空、即假、即中，千界如一，事理無礙。若明日以此心對一切境、接一切佛，未免掉散昏沉，不能任運泯合，不知過在何處？」我菴厲聲叱曰：「未在，去！」師汗流浹背，頓覺平日所聞所行，一切疑礙冰消，遂禮拜。我菴託之曰：「子善護持，他日教門灰寒火冷之際，以此對揚明廷，重光末運可也。」國朝洪武初，我菴既寂，去從絕宗繼公。未幾，秀之天巖耀公退寂廣福，請師自代，遂拈香嗣我菴。湖郡守請主慈感，無何，退於澄源溪上，六時禮大悲像，期生淨土，為終焉之計。三年，詔天下高行僧道問鬼神事，師建議唯允。杭之靈山，兵後廢甚，眾與諸山力請乃起。師偕其徒淨珠志嘗畚瓦礫、剃榛莽，募緣重建光明懺堂若干楹。自元季世亂，期懺行法絕聞於時，至是行之，師之力也。初師於五竹軒夢與大明照師同遊靈竺，賦詩有「出紅塵外，德業至今存」。照公嘗住此山，始悟所夢，實今之讖也。十年，皇上有旨，箋註《楞伽》等經。師與全室具菴同註三經，頒行天下，上御製〈竺隱說〉賜之。十五年，遷住上天竺，有詔開說僧道衙門，師領杭郡都綱。明年，起師為僧錄師左善世。二十四年，以老告閒，上許之。其年七十七也，退處長干，修一行三昧。明年秋八月，夢觀仁公請師為學者講《妙宗》，至「三輩往生」觀文，忽示微疾，顧其徒正謨等曰：「昔我祖法智嘗為：『心境叵得故，染可觀淨；不礙緣生，想成相起；惟色惟心故，當處顯現。』吾所修念佛三昧，以此為準則，今夕世緣當謝。」泊然而逝，二十五年九月三十日也。世壽七十有八，僧臘五十有九。火餘，藏舍利於天竺雙檜峯之麓，曰雲隱塔。少師姚廣孝撰碑銘。師凡四坐道場，所至無不興修；惟靈竺懺堂，其功最鉅。為都綱僧錄，三宗諸山有所依怙焉。

止堂大山法師

字仲齡，俗姓陳，天台臨海縣之梅嶼人。父再習，母方當妊之夕，夢皓月墮懷，遂生師，實元辛未十一月十有二日也。丰姿粹瑩，性警敏。方踰啐，聞母誦佛書，心耳輒有會，能隨母聲，其亦宿根有過人者矣。年十二，益嗜梵典，往依諸父聞莊法師，於上天竺祝髮為沙彌。未幾，聞藏春衍大師晦迹於姑蘇竹塘寺，貫通三教之旨，偕莊師往見，頂禮為弟子，懇求指教。大師知為法器，曲加獎掖。後大師應太祖高皇帝召命，選從成祖文皇帝於燕邸，趣師歸上竺。臨行詔之曰：「俟吾還，當與汝遐遁佛國山中也。」已而輔定靖難，受封榮國公。後大師奉命取《金光明懺法》於杭，棲止大明山居。師徒復一會晤，與止庵古春輩有〈鳳山登高〉倡和之作。閱年載，以欽限不可稽留，乃歎曰：「吾一落塵網，欲脫未能；汝當虔奉香火，即朝夕侍我也。」遂別去。師既佩大師訓，愈自勵習衡台教觀，因言薦道，見法知宗。受具足戒，己亥登班上首。後遷普福，不三禩超補圓照法師，用為住持。導迪暇，身督經營，更建圯穨，莊業之奪於豪右者咸復焉。是歲，詔天下耆學所演宗旨。浙西諸山即杭吳山寶奎寺，延師講《心經》。眾方圍繞，倏聞異香盈坐，恍若睹韋天側立傾聽者，一時咸驚異之。丙寅冬，各錄舉上天竺，仍授杭郡都綱。師蒞任十餘載，歸隱觀堂。新舉廢，置建之功，不可枚數。壬午秋，預建華嚴道場一十五日。閱二日，謂弟子曰：「身有壞滅，性常不遷。吾行矣！」結跏而化。荼毘獲五色堅固子無算，諸徒為塔於白雲峯下。

古春法師

名如蘭，富春人。淹通經論，餘及詩文，所著名《支離叟集》。忠肅于公彌月時，師赴湯餅會，摩其頂曰：「此兒他日救時宰相也。」後果驗。

一庵如法師

蘭古春贈詩云：

山川發靈秀　造化無有窮
間生賢哲人　大闡衡台宗
吾師越之徹　奪迹千巖中
蓬萊對秦望　浩氣開鴻濛

孤舟鑑湖上　一笛樵漁風
神禹奠南鎮　會稽獨稱雄
具翁有真子　如魚水相逢
胸湧冰雪淨　行屹丘山崇
竭來長干寺　靜室方養蒙
靈山古佛國　小朵攢青空
摩霄志不泯　西嶺存遺蹤
猿鶴應起舞　龍象如雲從
鷲頭宣一妙　亦足暢深衷

宗源梵法師

係東溟門人。

敬修德完法師

明天台宗。留心內外學，進修不已，兢業持身。　東皐有銘。

鏡中潭法師

無相住法師

名智住，榮國公法孫也。深通藏海，兼涉儒墳。嘗對宣宗皇帝說法，啟沃聖衷，大稱厥旨。賜度牒二十紙，著馳驛南歸。掩關謝世，蕭然自得。偕其孫瑾無瑕，賡唱禪餘以娛歲月，殆緇流之繡虎也。

大猷闡法師

雨庵霑法師

名大霑。習台宗，位右覺義，為南洲洽法師手度得法弟子。

竹山蕙法師

名覺蕙，鹽官張氏子。性好禪詠，與從兄古梅顓，同依玉虛竹東海雲，交相磨礪，雅尚風標。受知於僉憲黃山焦公，郡倅柏山雷

公優遇之。嘗秉拂白雲堂，以興衰起弊為己任。晚搆覺照樓為讌寢，以送餘年。

性菴法師

名永顧，字本源，四明鄞人。十歲喪母，能執喪禮，哀毀如成人。服闋出家，郡都綱竹菴問師應度為法孫。篤意釋典，暇攻儒術。既而謁南京僧錄唯菴實師，命和本宗，偈有「三十世生一念有，五千經旨片言該」句。菴倍加器重，為書狀侍者，轉懺首。杭梵天闕住持，菴命往主之，凡七載。刺血書《妙法華》、《阿彌陀經》，報父母恩。僧錄心田霆師延為大報恩寺都講，闡揚《法華》奧旨，聽者川湧。若陸參政友諒、中書姜孟圭等，咸執弟子禮。屬有薦師住持上天竺寺，報恩懇留；駙馬都尉沐公，冢宰黃公，宗伯王公、杜公，太常鄭公曰：「天竺大剎也，非師不可辦。」始得行。既至，啟滯覺迷，舉廢興墜，為之一新，凡十年。有都綱之命，復表率九邑，又居官十稔，無少瑕纇，誠可重也。著述有《講貫結偈》、《朝野賡歌》、《山居倡和》、《缶音》等集。

南溪柯住持

名道柯，姓俞，仁和人。年十四歲，家雲隱房。十九薙髮。究心內典，又兼通世諦。温恭遜讓，與物無競。五十，眾推舉為總持，簡靖莊肅與大宗伯范公，有支許之契。及退休，一室禪誦彌陀。壽七十一，無疾而逝。玉稷登撰銘。

伴雲香住持

諱諸香，仁和人，姓沈。性樸實，喜捨不少悋。嘗遊天台、鴈宕。又一日行五臺山中，八十里人煙絕，俄有草庵老僧迎飯。歸途覓庵不可得，葢精感通也。壽七十三，卒瘞桂子峯前。黃汝亨為塔銘。

靜庵讓法師

餘杭人，姓王。十五出家上竺，禮進公為師。幼時性喜合掌，人以天香童子目之。既祝髮，和平撙節。既四十，然以家事付徒如貴，曰：「余世事畢矣。」因受戒雲棲，寄名廣行，持戒真切，毫不肯苟。平日傷末法陵夷，每興善業，必躬必倡。慨寺風不振，直

諒必歸正持，其肫肫樹教之意，可方遠錄公；其懇懇公廉之心，無愧都僧正者。萬歷辛亥七月二十五日示寂。邵重生撰正定塔銘、行述。

觀如法師

師諱方誌，海陵馬氏子。父尚元，母許，有鹿門偕隱風。師少持報母齋，抵洛伽，回參上竺。夙緣有待，即於竺之雨山居，投歷庵師為師祖。萬歷戊戌，薙染。庚子，寺住持竹亭，暨無塵、雨山、伴雲，率合寺請歷菴建禪堂。師勠力勤事，持蘭溪趙檀越銀十六兩詣龍游，更募助得材肆佰餘株，又乞榷關免稅，舁歸[券-刀+田]築，擔負與菴頡頏。聽雲棲似空師《楞嚴》之講，菴促歸。師念大事未明，辭游南都五臺，徧悉禪講。乙巳回竺，聽明宗師《法華》於宋園，而菴將堂事交出僧自，然師亦力輔。次年，臺山澄方大師同內監張然公，送御藏至昭慶，與師晤，契同函蓋。戊申得古心和尚大戒，即請澄師自《華嚴》而下所流通法寶，於竺徧演諸福田事，咸力主之。閱藏齋僧，尤為恆課。送澄師北上，返於楓嶺之陰，造中印庵，供地藏。甲寅冬，碧海昭陽李公請師說《金剛》、《法華》於慧照寺；泰州梁垛諸處四期講香相接，道化盛矣。丁巳，澄師登皇壇，師為阿闍黎，受神宗賜紫，又受光宗賜紫，大小衣服十一件。天啟乙丑，受慈聖賜紫，說皇戒。又受慈聖賜紫及金冠，密旨弘經。崇禎庚辰，回竺注《法華正旨》竟，即受徑山請，主方丈三稔。甲申冬，至泰州，修西山寺。順治戊子，應撫院陳公請講《華嚴》全部，十四月圓滿。己丑冬，付杭城慧林寺說《法華正旨》。庚寅夏，還竺復講《法華正旨》，脾疾作。期終歸中印庵，於七月廿六日亭午索浴褡衣，手捉白拂，命舁禮祖塔，未行即說偈曰：

七十八年幻夢中　奔馳南北走西東
還歸天竺靈山國　統照元來色即空

說畢，泊然坐脫。受業得戒弟子無算。嗣法者，溧陽野松、湖廣松門、杭州恆觀、高郵野營、泰州玄聞、杭州隱生、江西清白、紹興石田、杭州道燈、揚州見明、鎮江朗生。茶毘後，孫明錞等募眾資，建塔於中印庵之山麓。

心臺靈住持

諱萬靈，姓邵氏，仁和人。萬歷甲申，同徒世榮，投華藏房靈源師薙髮。食貧苦守，躬罹鼠牙，備嘗險阻；拮据堂構，以長子孫，皆師之力也。建別業曰靜處齋，有終焉之志。大士殿圮，議鼎新之。師與同志航海採木竣功，錢師相麟武、虞銓部德園、黃學憲貞父三鄉先生，俱護法焉。崇禎壬申八月二十日，手書遺囑。先是，嘗三捐鉢資，為雲棲飯僧；迄此復建道場，七晝夜，命子孫聚而念佛，取曆擇二十九日午時，云：「吾於此長逝矣。」屆期沐浴更衣，吉祥而逝。世壽六十二，法臘四十八。

春山富住持

諱萬富，號春山，姓錢氏，霅人也。禮上竺意正為師，居秋香閣，苦行清修。丙申，閣不戒於火，遂肇基普門之旁，創業不辭勞瘁。時本寺正殿傾圮，師與同志十有四人共謀鼎新，而願力獲遂。厥後，師以齒高多病，謝去諸務。先是，師建準提閣，退息其中，晨昏禮《法華》諸經靡間，誦佛號日以萬計。走天童，受密雲大師戒。越三年，預知逝期，曰：「除夕，吾正七也。」呼孫續元遠詣，命浴。浴罷，爰輪手珠誦佛號而逝，時年七十有二。其孫續元，字心融，姓張氏，霅人。九歲出家，二十薙髮。至性純粹，為住持，善調眾志，人咸敬仰。乙亥之明年，走金粟受戒；歸山，第誦《法華》、《涅槃》兩經。一日示微疾，亦念佛而逝。

上天竺講寺志卷四終

杭州上天竺講寺志卷之五

天目山三學學人廣賓纂

尊宿住持品

別傳

五代

心印水月禪師

名子儀，温州樂清陳氏子也。童時約伴修行，至靈鷲山，曰：「是真棲修勝地矣。」投寺出家，廼升戒品，博究大乘經論。自思佛法玄微，非造次可及，遂杖策負囊，參禮尊宿。初往福州鼓山，神晏和尚一見曰：「異人至矣。」修師禮敬，問答便承言，大悟玄旨。數月後，復歸靈山。錢忠懿王聞其道譽，命開法席。上堂示眾曰：「久立大眾，更待甚麼？卻恐誤於禪德，轉迷歸路。時寒，珍重！」僧問：「如何是從上來事？」師曰：「住。」問：「如何是薦？」曰：「可惜龍頭翻成蛇尾。」有僧禮起將問，師曰：「如何且置。」問：「如何是法界義？」師曰：「九月九日淛江潮。」將下堂，僧問下堂一句，曰：「攜履已歸西竺寺，此山空有老猿啼。」問：「鼓山有掣鼓奪旗之說。」曰：「敗將不忍誅。」曰：「遇良將又如何？」曰：「今汝孤魂，賜汝三奠。」問：「世尊入滅，當歸何所？」曰：「鶴林空變色，真歸無所歸。」問：「未審畢竟何之？」曰：「朱實殞勁風，繁英落素秋。」問：「師將來欲歸何所？」曰：「子今欲識吾歸處，東西南北柳成絲。」問：「如何修行即得與道相應？」曰：「高捲吟邊箔，濃煎睡後茶。」後以雍熙三年示滅，門人闍維，收舍利、起塔。

宋

普慈禪師

名玄本，字幻旻。慶歷八年，住持靈隱。皇祐五年，直學士給事中孫沔守杭，以旻住持上竺。僧問：「臨濟入門便喝，德山入門

便棒，此意如何？」師曰：「天晴不肯去。」一日，師見僧看經，乃示頌曰：

看經不識經　徒勞損眼睛
欲得不損眼　分明識取經

宋智月禪師

補幻旻，住上竺寺。提唱宗綱，兩師約十年。獨月機緣、法嗣及氏里無考。

宋文捷法師

吳郡精進院僧也。戒律精苦，常持如意輪咒，靈變尤多。利上竺之鼎盛，以知制誥呂惠卿勢，部使者奪而主之，遷辨才法師於下天竺，恬不為忤。捷猶未厭，逐辨才歸於潛。逾年捷敗，事聞朝廷，再以上竺[田/廾]辨才。文捷之在上竺也，吳人不悅施，草木皆索然。及辨才之復至，士女不督而集山中，草木為之生色。

宋興咸法師

字虛中，黃巖章氏子，賜號明祖。母夢故白蓮惠師遺黃柑，令食之，及寤，齒頰有香。生七歲，依香積出家。首謁知涌，涌奇之，曰「祖位再來也」。學成，以妙年居第一座。涌沒，證悟為繼。已而悟遷上竺，乃舉師以代。聚徒既多，歲復大歉，吳中施者惟恐自後。王孟公問十六觀義，師曰：「佛在十方億剎外，而提封不越方寸。若克循觀道，則往彼非遙也。」資政鄭公問《楞嚴》「八還」，師曰：「迷心為境，八法瞀亂。達大觀者，一念自反。」二公皆感悟，歲歲為遺供。師倦於酬應。隆興元年五月別，端坐念佛而逝，瘞龕於寺之東岡。乾道三年夏，復從茶毘，五色舍利無算。所著《菩薩戒疏注》三卷、《金剛辨惑》一卷、《復宗》二卷、《法華撮要》一卷。素精於《易》，折衷諸解。以自名咸，因號澤山。

宋明義法師

按《統紀》，嗣法慈辨諫法師。無傳。

宋師覺法師

按《統紀》，出家上天竺，為慧先訥法師嗣也。蓋神照下第七世。無傳。

宋海月法師

名慧辯，字訥翁。學教觀於明智，居第一座以代講。翰林沈遘治杭威厲，見者多惶懼失據，師從容如平生。遘異之，任以都僧正；蘇子瞻時為通守，為序以贈之。師既蒞職，凡屬內寺院虛席者，即涓日，會諸剎及座下英俊，開問義科場，設棘圍，糊名，考校十問。五中者為中選，不及三者為降等，然後隨院等差以次補入。由是諸山仰之，咸以為則。吳越大旱，禱大士，久不應。師於禪定見金身老人告曰：「明午必雨。」果驗，遠近感師誠致。熙寧六年七月，旦起別眾，合掌趺坐而逝。初，師遺言，須東坡至方闔龕。四日坡至，見坐如生，其頂尚温。坡盡敬而返，作為真贊，弔以句；命子由為塔銘。

宋神煥法師

安吉人。早學，慧覺，有悟。曰：「自昔教門諸師立義未盡者，悉辨論之。」得百篇，世號「煥百章」。嘗論諸天位次不正，乃考尋藏典，撰為《天傳》。以君臣、賓主、男女、本跡為綱目，謂大梵尊天，君臨三界，統上貫下，諸天皆其臣屬也。大梵為三界主，三目摩醯為大千主，帝釋主地居三十三天，四王主領八部。雖君臣不同，要各有主義。若大辨在山澤，功德在北天園中，皆客寄耳，實無所主領也。梵釋四王是男天，功德、大辨、地神、樹神皆女，不可使男女失序。況鬼子母有女名功德天，有男名散脂修摩；今子居母上，可謂之以母從子，其可居天主之上乎？梵釋四王本是地住菩薩，金剛滅跡本護成佛，不揣其本而齊其跡可乎？知此四義，然後始可與言天矣。煥於寶慶紹定間住上竺。

宋北峯法師

鹽官陳氏子，名宗印，字元實。首謁當湖竹菴觀公，得教觀之旨。一日，思「寂光有相」之義不得，空有聲云：「寂光本體，如水中月。」通守蘇玭白師座，請居正覺。未久返浙右，貳上竺，講

止觀法，深砭學者支離名相之病。圍坐挾策。主者以得士為忌去，隱雷峯毛氏菴。

宋擇卿法師

台人。天資聰敏，博學强記。受業慈辨之門，嘗曰：「四明之意，吾已得之；唯起教觀，信之未及。然不敢不信也。」生平未嘗屈節豪貴；聚徒三百，施者自來。居常喜茶，臨終之頃謂左右曰：「晨鐘即來報。」時至，啜茶一甌，書偈而化。

宋慧照法師

善琴，為時所慕。參寥和尚贈以詩，見題詠。

宋若芬法師

字仲石，婺州曹氏子。為上竺書記。善畫，求者日益眾，師曰：「錢江八月潮，西湖雪後諸峯，乃是天然偉筆！二三子當面錯過，卻求玩道人數點殘墨耶！」後歸老家山，古澗側、蒼壁間，古勝作菴，扁曰「玉澗」，因以為號。又建閣對芙蓉峯，別號「芙蓉峯主」。嘗自題畫竹曰：「不是老僧親寫，曉來誰報平安？」其意趣可想見也。

宋仁濟法師

芬玉澗之甥也。書學東坡，竹學俞子清，梅學楊補之。自謂「用心四十年，作花圈稍圓耳」。

宋曇瑩法師

善《易》。金主亮入寇，瑩卜 當自斃於江北。已而，果然。時甚神之。

宋晦菴慧明法師

鹽官人。剃染祥符寺。後詣上竺慧光僧錄輪下聽習，二十年間不舍晝夜，頓了一家教觀之旨。初住慧通，後赴循王府待制位，請遷富春蘭若。尋投菁山常照。與叶公守枯槁，為淨土歸歟之計，兼

誦《法華》等經。慶元己未，抱疾垂革，弟子請作頌，乃書「骨頭只煨過」五字付之，累足泊然而逝。天樂沸然，舍利無數。

元

偉首座

既精三觀為正傳，復慕一心為直指。寂照嘗贈之云：「上人間多出慷慨，誓將生死窮根株。平生足迹半天下，豈肯汩沒文字海中，甘作鑽故紙之蠹魚？德山見龍潭，便乃燒卻鈔疏；良遂參麻谷，便乃散卻講徒。男兒曠達有如此，光明烜赫何代無？」

原璞法師

名士璋，海寧王氏子。伏犀貫頂，目光炯炯射人。幼投傳法寺出家，其師與翰林柳公貫游，公嘗親授儒書，講究奥旨。及薙染，依我菴於上竺，及天台大小部，志慮專一。我菴門人曰天心瑩者，素高亢不服人，亦歆羨師之行履，共燈火磨勵詰難，時稱雙璧。至正十三年，宣政院命主棲真寺。洪武初，集慶虚席，請師提唱。未幾入涅槃。

瞽菴法師

名顯示，海寧盧氏子。投會稽悟本院一山元公為脫白。具戒，即踰江濤而西事天岸濟公。久之，見其天資峻利，曰：「子曷從吾師遊乎？」乃謁佛海大師於上天竺教寺，研窮三觀十乘之旨，不至於洞達弗措也。至正間，聘主崇恩演福寺，以洪武四年順寂。師古貌長身，寡言笑；清儉自持，一榻二十年，蕭然如逆旅。雅不事干謁，其出世為人，皆迫於羣情，不得已而起也。

天岸法師

弘濟，字同舟。投寶積滿公剃度；依半山全公讀天台之書，悉通其玄義。嘗修《法華》、《金光明》、《淨土》期懺，聚精會神，存誠不二。於觀定中，恍睹尊者[田/廾]以犀角如意，因是談辨日增，了無留礙。泰定二年，鹽官海岸崩，民朝夕惴惴，恐為魚鼈。浙江行省右丞相脫驩甚憂之，祈禁觀音大士於上天竺，仍請師

冥心禪觀。取海沙祝之，親帥其徒徧擲其處。凡足迹所至，岸為不崩，人咸異之。

國朝

西源湧法師

主天竺。既投老，居蘇城西之蘭若里。趙宗文嘗寓宿菴中，吳之詩人數輩連牀夜話。師出玉杯傳飲，杜用嘉碎之，殊不自安，師歎曰：「我法萬物有無常，此乃常也，曷怪乎！」

一如法師

會稽人。出家上竺，善講《法華經》。永樂間，詔修大藏，命總其事。洪熙元年，為僧錄左闡教。卒，著述有《法華科注》、《大明三藏法數》。

明懺首

自京歸上竺，時明州同竹庵任僧錄，賦詩送之曰：

相見即相親　忘形語轉新
眼青三竺客　頭白四明人
細雨沾衣重　涼風送棹頻
爾師吾故友　一別幾經春

靜中講主

每為下竺懺首，蔚著賢聲。後為上竺首座，益新風範。空谷老人題其小像，其略曰：

靜中上人居此地　祖道繩繩善相繼
小朵峯前司懺摩　天竺平分風月位

士瓘法師

字秉中。為人天資警敏，素履端醖。愛讀儒書，兼長唐律。從上竺掌教性菴究天台教觀，諸山推轂。

住無相

上竺僧。寺大界相石，皆其所立。熟《法華經》如注。

鐵峯法師

名歸定，北京僧。與鎮守公善雲遊，為寺住持，創下白雲堂。一日，鎮守造堂，見其犬甚肥，問：「犬不葷乎？」對曰：「然！」守即以美饌覆地，犬不食，大異之。詳載《郡志》。

青厓道人

上竺駿彥也。嘉靖中，將行腳名山，都綱縉賓山送以詩曰：

青厓原即是洪厓　圓嶠空峒數往來
不顧蒼苔石頭滑　月明與爾試芒鞋

句中風致，可想見其人。

寧佩韋

有錫類之孝。軍門温令舉側微異行，寧曾刲股救師，舉當道，得「獎勵順僧」四字扁。後趙錢塘見扁，命碎之，豈惡其自衒耶？

杲兩峯

名智杲，杭城陳氏子。少持《金剛般若》，日勵清修，專課誦。年六十有四忽示疾，迨彌留，索陳皮湯，飲之不輟，腹有宿穢，盡洩無餘。命筆書偈，而手不聽運，叱其手曰：「汝先吾斃耶？」乃屬侍者如賢代書云：

八卦年來入寂　甜酸苦辣經識
今朝了卻世緣　遮箇皮袋狼籍
一腳跨步出門　撞見寒山拾得
三人拍手呵呵　伴我歸投彌勒

咦　九蓮朵內見當人　金剛般若波羅密

嘉禾沈星吳名其廬曰「兩峯草堂」。

了空禪師

山陰人，姓王氏。少貧，手供藝事，口誦彌陀。後禮蓮大師，法名廣似。甲午。朝天台，就萬年寺落髮。歸上天竺華嚴山居，禮歷菴，咸稱赤腳師，以師勤苦精進，雖踐踏冰雪，不襪不履也。冬惟一葛，夏惟一苧。山居而下有澗，足不踰澗三十餘年。世壽八十。錢太史受益銘所謂「沉心孤詣，抗志物表」者哉。

怡中法師

諱靈建，初字靜照，苕上凌氏子。幼皈華藏院，熟治經史。進具之年，遍參名宿，蓮居唯識宗，既登堂奧，後於台宗有契。興福院月輝光禪師請升《楞嚴》講座，地產靈芝，天降甘露，雙瑞一時，眾稱希有。

海昌松谿大師付法卷曰：「夫佛祖慧命，師資道脈，唯以心印心而不謬。所承者，斯得之。然所承維何？謂有教以為說，有觀以為行，行說備而事理具，造之一念三千、三千一念，修性善惡之不變隨緣、隨緣不變，皆於是可識矣。至若簡小大、明權實、定謗止、辯麤妙，誰為所解離？誰為所解即？孰是偏漸修？孰是圓頓修？纖悉不濫，如指諸掌。殆今家舍其無從，而圓宗心印，因緣生法，即空、即假、即中。又舍今家，亦無從者。昔柳子厚嘗曰：『法道微而異端起，唯天台所傳為得其正。』陳瑩中又曰：『只一具字顯今宗，入此宗者甚希有。』此二賢豈虛美而諂附之耶？在親嘗實見，方悉吾言非誕耳。怡中法子，憶己卯歲始從佛國之山來，入戒壇之室。余固教觀雙弘，近數年中雖薪桂交作、海山不寧，亦必說之玄義，說之止觀，未敢少有懈心。則知汝在輪下，於一家宗途，曰判、曰釋、曰解、曰行，精心苦志，自多深入，蓋不獨撤其籓籬已也。茲彌陀興福，高雅唯謙，情存樂法。重以檀護之命，請演《楞嚴》。是宜授夫衣法，以見眾緣之有合，以見吾道之有屬云。但吾得法於桐谿，弘道於智者；而桐谿實得法於幽谿，幽谿實得法於百松；百松悟入妙宗，又實得法於四明。故嗣興教觀，光昭天下，如日月之不可掩。乃四明與慈雲同出寶雲之門，而慈雲闡教於靈山，其法嗣辯才復傳化於上竺。若慧光訥師，則又得法於竹菴，弘經於白雲之堂，歸隱於彌陀之院。降而若佛光、東溟、一菴

諸師，雖人分先後，道無古今，同智者之家法，同一台嶺之心宗。汝得吾法，繼席演教，誠淵源有自，授受非虛矣。今而后，唯不昧而不違，自可傳而可大。吾道弘，祖道與佛道俱弘。所望汝者，豈淺衷哉？之！慎之！」

紹谿師

名圓昭，姓顧氏，鹽官橫山里人。度雲隱德儒為本師。課誦《金剛》大乘經，靡間寒暑。性節儉，耐勤辛，敝衣惡食，澹如也。生平未嘗失色於人。暮年於德馨橋躬執爨事，施茶湯以濟焦吻。世壽八十四。恆自言：「人主七十古希，予年八十餘，則又希。」一日示微疾，盥浴更衣曰：「吾將行矣。」法胤問以往天台乎？西方乎？曰：「皆不願，仍來為竺僧耳。」惺然而逝。

潔空禪師

名海淨，宜興人，姓莊，家業頗殷。十九娶妻，生子一。妻故，忽猛自省曰：「世間有何不了事？」遂盡捨家園田產，挈子投海潮了義師薙染。隨至上竺，掩關紫竹林淨居。戒律精苦，茹淡，日惟一食。持利刺舌端，血書《法華》及《華嚴》五大部等經，立願送供五大名山。師曾患胸疾，冬月遇老叟贈巨桃一枚，服之立愈。又於窗隙見老嫗問以書經工夫當無間斷，語訖忽不見。深夜坐禪，有虎遶前，若有所請。師笑謂曰：「此間無物。」虎即遁避。種種奇異。一日，索浴將別，文學沈允燁言：「老師定生西方。」師大喝曰：「你來惑亂我！何處非西方？」滿室旃檀香氣，吉祥而逝。傳法徒名寂奇，移住草庵，即其子，清苦有父風。庵即上竺醵金所建。

教觀

教門

釋迦如來說法四十九年，適時而進，天台判釋凡為五時

一、最初成道，於三七日中說《華嚴經》，謂「華嚴時」。
二、於鹿苑十二年中，說《四阿含》小乘經，謂之「阿含時」。
三、於諸處八年中，說諸大乘經，彈偏斥小，歎大褒圓，謂之「方等時」。

四、於舍衛國諸處二十二年中，說諸部般若，謂之「般若時」。
五、於耆闍崛山并娑羅雙樹間八年中，說《法華》、《涅槃經》，謂之「法華涅槃時」。

五時所說不出八教

八教者：頓、漸、秘密、不定，藏、通、別、圓。頓等四教是為化儀，如世藥方；藏等四教是為化法，如辨藥味。

判五時麁妙

華嚴兼粗說妙，阿含但粗無妙，方等對粗說妙，般若帶粗說妙，法華純妙無粗。

化儀四教

頓者：頓大之教，不從漸來，正說於大。即華嚴也。
漸者：從淺至深，次第得益。即初鹿苑、次方等、三般若也。
祕密者：佛或為此人說頓，或為彼人說漸，彼此互不相知，能令得益。橫在四時，別無部帙。
不定者：佛以一音演說法，眾生隨類而得解。於頓說中得漸，於漸說中得頓益。亦橫在四時，別無部帙。

化法四教

藏者：經律論三藏，條然不同，三人修諦緣度，析色入空。
通者：通前藏教，通後別圓，三人同以無言入道，體色入空。
別者：別前藏通，別後圓教，界外獨菩薩法，修行位次互不相攝。
圓者：圓名、圓妙、圓頓、圓足，明不思議因緣，二諦中道，事理具足，但化最上利根之人。

四教化人旁正

藏教：正化二乘，旁化菩薩。
通教：正化菩薩，旁化二乘。
別教：獨菩薩法。
圓教：方入為佛法。

四教詮理化物廣狹

藏通：詮真理，化六凡，改惡遷善，革凡成聖。
別圓：詮中理，化十界，俱成佛道。

藏教四諦

苦則三相遷移，集則四心流動，道則對治易奪，滅則滅有歸無。迷真重故，從事得名。

通教四諦

苦無逼迫相，集無和合相，道不二相，滅無生相。迷真輕故，從理得名。

別教四諦

苦無量相，十界果報不同；集有無量相，五住煩惱不同；滅有無量相，諸波羅密不同；道有無量相，恆沙佛法不同。迷中重故，從事得名。

圓教四諦

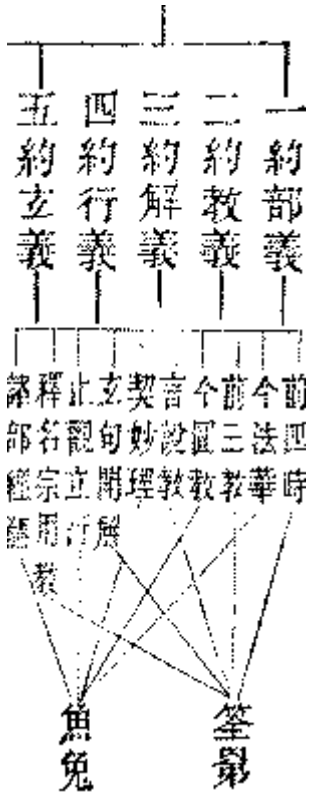
陰入皆如，無苦可得；塵勞本清淨，無集可斷；邊邪皆正中，無道可修；生死即涅槃，無滅可證。迷中輕故，從理得名

八種四教

一、漸中開四	如破他宗，不識教體之妨，謂法華是漸圓，華嚴是頓圓。			
二、方等中四	四教並談曰方，四機普被曰等。			
三、別教竪入四	十信	修	生滅四諦	藏
	十住		無生四諦	通
	十行		無量四諦	別
	十向		無作四諦	圓

四、十行橫學四	別教十行，化他心切，橫出四四一十六門。	
五、涅槃追泯四	生生不可說	藏
	生不生不可說	通
	不生生不可說	別
	不生不生不可說	圓
六、涅槃追說四	有因緣故亦可得說，四句如前，但義同施權，卻更分別前四教也。	
七、法華施出四	從法華實理施四時三教、權理明無量義，從一清淨道施出二三四。	
八、法華開顯四	開四時三教，歸今法華，收多歸一也。	

五時四教筌罣魚兎



釋經首題五重玄義

一、釋名	名為一部之總，不尋能詮之名，焉悟所詮之體？故名居先。
二、辯體	因筌得魚，尋名顯體，得體而後忘名。苟不辯之，知得何體？
三、明宗	即得體已，須修宗行。見道修道，宗要當明。
四、論用	宗既歸體，必起大用。佛說是經，蓋得乎此。此經力用，次當論之。
五、判教相	名為能詮，三為所詮。能所之教，必有其相。頓漸大小，法當剖判。

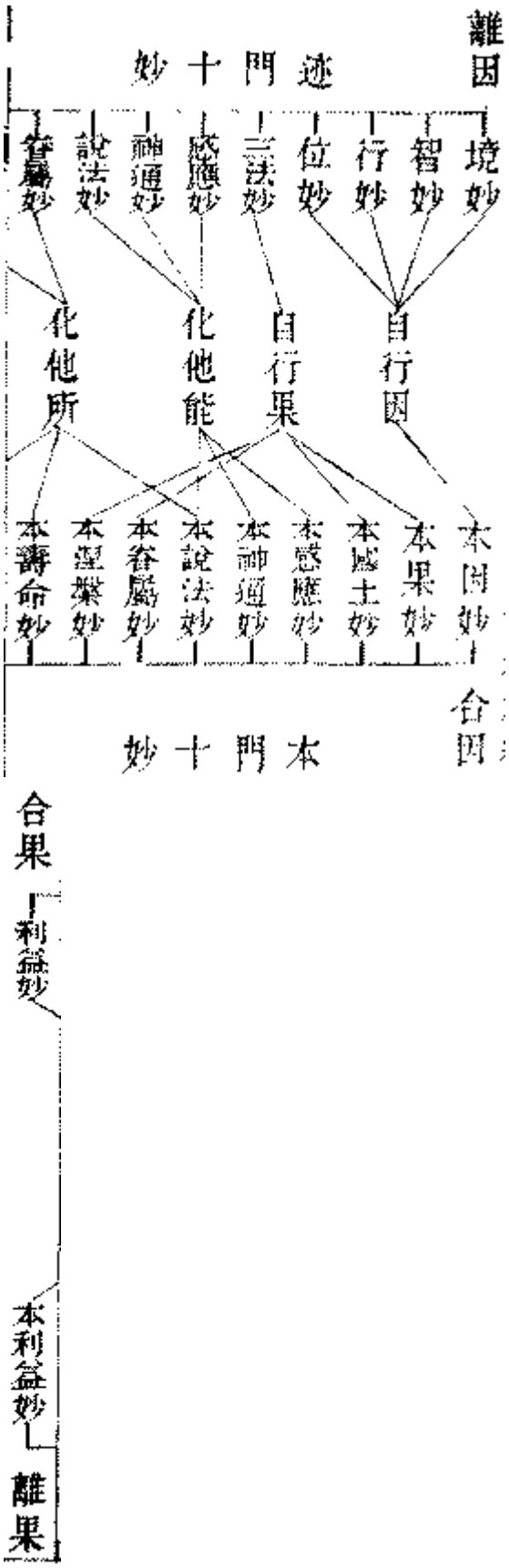
法華五章

法喻	為	名	妙法是法，蓮華是喻。
實相		體	十界十如之法，一一離相絕非。
一乘因果		宗	眾善為因，自行言果，是佛自行因果。
斷疑生信		用	迹門開顯斷權疑，生實信；本門開顯斷近疑，生遠信。
無上醍醐		教相	此經純圓故喻醍醐，迥異偏小餘味故。

法華二妙

一、相待論妙	待前四時三教之粗，獨顯法華一乘之妙。
二、絕待論妙	妙前諸粗皆成今妙，無粗可論故稱為絕。

法華本迹因果開合


離因
境妙
智妙
行妙
位妙
三法妙
感應妙
神通妙
說法妙
眷屬妙
迹門十妙
自行因
自行果
化他能
化他所
本因妙
本果妙
本國土妙
本感應妙
本神通妙
本說法妙
本眷屬妙
本涅槃妙
本壽命妙
本門十妙
合因
合果
利益妙
本利益妙
離果

圓教六即判位(無機子頌)

理即佛	一切眾生皆有佛性	動靜理全是，行藏事盡非，冥冥隨物去，杳杳不知歸。
名字即佛	知識經卷聞名知字	方聽無生曲，始聞不死歌，今知當體是，翻恨自蹉跎。
觀行即佛	依教修行即五品位	念念照常理，心心息幻塵，遍觀諸法性，無假亦無真。
相似即佛	相似解發即十信位	四住雖先脫，六塵未盡空，眼中猶有翳，空裏見花紅。
分真即佛	分破分證初住至等覺	豁爾心開悟，湛然一切通，窮源猶未盡，常見月朦朧。
究竟即佛	智斷圓滿即妙覺位	從來真是妄，今日妄皆真，但復本時性，更無一法新。

觀門

三諦

真諦者：泯一切法。
俗諦者：立一切法。
中諦者：統一切法。

三觀

空觀者：破見思惑，顯真諦理。
假觀者：破塵沙惑，顯俗諦理。
中觀者：破無明惑，顯中諦理。

纓絡三觀

一、從假入空觀，亦名二空觀。
二、從空入假觀，亦名平等觀。
三、因二空方便，入中道第一義觀。

天台三止

一、體真止，止於真諦。
二、方便隨緣止，止於俗諦。
三、息二邊分別止，止於中道第一義諦。

一心中三止觀

一空一切空，無假無中而不空，總空觀。
一假一切假，無空無中而不假，總假觀。
一中一切中，無假無空而不中，總中觀。

南嶽三種止觀

漸次：初淺後深，如梯陞。
不定：前後更互，如金剛寶置於日中。
圓頓：初後不二，如通者騰空。

天台三種止觀

漸次：禪波羅蜜十卷。初淺後深，解頓行漸。隨他空。
不定：六妙門一卷。前後更互，解頓，行或漸、頓。隨自他假。
圓頓：摩訶止觀十卷。初後不二，行解俱頓。隨自中。

修止觀前二十五方便

一、具五緣
　（一）持戒清淨：在家出家，大小不同。
　（二）衣食具足：蔽形即足，隨食資身。
　（三）閒居靜處：不作眾事，名無憒鬧。
　（四）息諸緣務：生活、人事、工巧、伎術。
　（五）近善知識：外護、同行、教授三種。
二、訶五欲
　（一）呵色欲：男女形貌、玄黃朱紫。
　（二）呵聲欲：絲竹、環珮、男女歌詠。
　（三）呵香欲：男女身香、飲食香等。
　（四）呵味欲：飲食餚膳，種種美味。
　（五）呵觸欲：男女身分及諸好觸。
三、棄五蓋
　（一）貪欲蓋：追昔五欲，忘失正念。

（二）嗔恚蓋：想他惱我，忿怒相續。
（三）睡眠蓋：心神昏塞，烏暗沉黑。
（四）掉悔蓋：作無益事，心中憂悔。
（五）疑蓋：非障理疑，乃障定疑。

四、調五事
（一）調心不沉不浮：沉繫鼻端，浮安心下。
（二）調身不緩不急：挺動肢節，正頭直項。
（三）調息不澁不滑：氣息若調，則易入定。
（四）調眠不節不恣：不可苦節，復不可縱。
（五）調食不饑不飽：安身愈疾，處中得宜。

五、行五法
（一）欲：欲離妄想顛倒，欲得禪定智慧。
（二）精進：持戒棄蓋，初中後夜勤行精進。
（三）念：念世欺誑可輕賤，禪定智慧可重貴。
（四）巧慧：籌量世間樂禪定，智慧樂得失輕重。
（五）一心：念慧分明，見世間可患，定慧可貴。

十乘觀法

一、觀不思議境：謂觀一念心具足三千性相，即空即假即中，更不前後，廣大圓滿，橫豎自在。故《法華經》云：其車高廣。
二、真正發菩提心：謂依上妙境，發無作四弘誓願，愍己愍他，上求下化。經云：又於其上，張設幰蓋。
三、善巧安心止觀：謂體妙理，常恆寂然名為定，寂而常照名為慧。經云：安置丹枕。
四、破法遍：謂以三觀破三惑，三觀一心，無惑不破。經云：其疾如風。
五、識通塞：謂苦集、十二因緣、六蔽、塵沙、無明為塞；滅、滅因緣、智、六度、一心三觀為通。若通須護，有塞須破。經云：其疾如風。
六、道品調適：謂無作道品一一調停，隨宜而入。經有大白牛等。
七、對治助開：謂若正道多障，圓理不開，須修事助，謂五停心及六度等。經云：又多僕從。
八、知位次：謂修行之人知六即位次，既不生上慢，亦不生退屈。經云：乘是寶乘，游於四方。

九、能安忍：謂於逆順安然不動，策進五品而入六根。引經同前。

十、無法愛：謂莫著十信相似之道，須入初住真實之理。引經同前。

十境、三障、四魔




業障
煩惱障
病志境
業相境
魔事境
禪定境
諸見境
上慢境
二乘境
菩薩境
天
死
煩惱
魔
觀此十境
三障四魔
一一皆成
圓妙三諦
無有隨頓
更勝於此

上天竺講寺志卷五終

杭州上天竺講寺志卷之六

天目山三學學人廣賓纂

清規

天台大師立制法曰：「夫新衣無孔，不可補之以縷；宿植淳善，不可加之以罰。吾初在浮度中處金陵，前入天台諸來法徒，各習道業，尚不須軟語勸進，況立制肅之？後入天台觀乎晚學，如新猿馬，若不控鎖，日甚月增。為成就故，失二治一，蒲鞭示恥，非欲苦之。今訓諸學者，略示十條，應須增損，眾共裁之。」

第一、夫根性不同，或獨行得道，或依眾解脫。若依眾者，當修三行：一、依堂坐禪，二、別場懺悔，三、知僧事。此三行人，三衣六物，道具具足，隨有一行，則可容受。若衣物有闕，都無一行，則不同止。

第二、依堂之僧，本以四時坐禪、六時禮佛，此為恆務；禪禮十時，一不可闕。其別行僧行法竟，三日外即應依眾十時。若禮佛不及一時，罰三禮對眾懺；若全失一時，罰十禮對眾懺；若全失六時，罰一次維那。四時坐禪亦如是。除疾礙，先白知事則不罰。

第三、六時禮佛，大僧應被入眾衣，衣無鱗隴若縵衣，悉不得。三下早集敷坐，執香爐胡跪。未唱誦不得誦，未隨意不散語話。叩頭彈指，頓曳屣履，起伏紊差，悉罰十禮對眾懺。

第四、別行之意，以在眾為緩故，精進勤修四種三昧。而假託道場，不稱別行之意，檢校得實，罰一次維那。

第五、其知事之僧，本為安立利益，反作損耗，割眾潤己，自任恩情。若非理侵一毫，雖是眾用而不開白，檢校得實，不同止。

第六、其二時食者，若身無病、病不頓臥、病已差，皆須出堂，不得請食。入眾食器，聽用鐵瓦；薰油二器、甌椀匙筯，悉不得以骨角；竹、木、瓢、染、皮、蚌，悉不得上堂。又不得撐觸己鉢，吸啜等聲；含食語話，自為求索；私將醬菜，眾中獨噉。犯者罰三禮對眾懺。

第七、其大僧小戒，近行遠行，寺內寺外，悉不得盜噉魚肉辛酒、非時而食，察得實，不同止。除病危篤，瞻病用醫語出寺外投治，則不罰。

第八、僧名和合，柔忍故和，義讓故合，不得諍計。高聲醜言、動色兩競者，各罰三十拜對眾懺；不應對者不罰。身手互相加者，不問輕重，皆不同止；不動手者不罰。

第九、若犯重者，依律治。若橫相誣，被誣者不罰，作誣者不同止。若學未入眾時，過，眾主不受，學眾未攝故。彼自言比丘故入眾，來犯重誣他者，治罰如前。

第十、依經立方，見病處藥；非於方，吐於藥，有何益乎？若上來九制聽懺者，屢懺無慚愧，不能自新，此是吐藥之人，宜令出眾。若能改革後，亦聽還。若犯諸制，捍不肯懺，此是非方之人，不從眾網，則不同止。

祝聖

每月朔望，住持領眾焚修，維那舉首祝贊云：

大圓滿覺　應迹西乾
心包太虛　量周沙界
仰冀洪慈　俯彰洞鑒

月朔望之辰，謹集臣僧，恭趨寶殿，持諷祕章，稱揚聖號。所萃洪因，端為祝延今上皇帝聖躬萬安，皇后齊年，太子千秋，文武官班同增祿算。伏願堯風蕩蕩，舜日巍巍，八方歌有道之君，四海樂無為之化。

修懺

每歲正月初一日至初二日，合寺僧眾，頂禮《金光明懺》三日，上祝聖帝明王慈臨無際，羣臣眷屬常享尊榮，兆姓四民永安富樂。佛法檀越，父母師生，平等熏修，普皆利益。具載懺文。

浴佛

四月初八日祝云：現天人相，充滿太虛；深遠雷音，遍周法界。巍巍乎高等須彌，晃晃乎明於日月。降生有疏，伏希采聽：大明國浙江杭州府僧綱司，上天竺大講寺末裔住持某、眾比丘某等，四月初八日恭遇本師釋迦如來降生之辰，謹備香齋，專伸恭養，諷演經文，稱揚聖號。所集功德，用酬慈陰。伏以千聖嗣興，莫不由實道而成正覺；一法可讚，所謂以慈心而遊世間。既膺人壽百歲之時，遂補賢劫四佛之處；取萬二千國中央之地，示三十二相劣應之身。固敢為天於先，而自稱人中勝；豈羨繼天之貴，蓋昭惟佛之尊。應迹如存，仰明星而猶悟；化儀雖往，想白虹而尚騰。適奉賜

影之辰，少效惟馨之薦。奉匜香水，爰浴金軀。集茲有作之熏，仰報難思之德。本師釋迦如來大和尚！伏願彌隆至化，闡宗風，復振皇風，未喪斯文。寢邪法，流通正法。罄有相，證諸相非相之實相；統含生，悟無生受生之真生。等未來時，如出興日。

授戒

第一、求師授法。
第二、策道勸信。
第三、請聖證明。
第四、授三皈依。
第五、召請聖師。
第六、白佛乞戒。
第七、懺悔罪愆。
第八、問無遮蓋。
第九、羯磨授戒。
第十、略說戒相。
第十一、發弘誓願。
第十二、結撮回向。

羯磨

每月朔望。先一日，住持領眾上殿，依授戒次第，設席趺坐。各令首過，鋪花鮮委以驗淨穢。具載教院清規。

念佛

每年二月十五日，啟建道場，供養三寶，祝延帝壽，且福利軍民。其建會之法，勸請會首二百一十人，各募四十八人，逐人請念佛懺願曆子一道，每日念佛名一千聲，懺障道重罪；發菩提願，為度眾生，取於淨土。請畫佛於曆子上，至建會日，頂齎曆子，并備淨財四十八文，到寺攢錄上疏，至日表宣。或入社弟子傾逝者，請勸首繼將姓名并其人曆子到寺相報，即當告示在社九百九十人，各念佛一千聲，為彼懺罪，資其願行，令生淨土。又至建會日，令社眾念佛薦其往生，仍請勸首速募人補，所冀常結萬人同修淨業者。

都勸緣住持，傳天台教觀沙門，知禮

展鉢

偈云：

若展鉢時　當願眾生
信心清淨　除諸粗暴

供齋

偈云：

此齋色香味　上供十方佛
中奉諸賢聖　下及六道品
等施無差別　惟願皆飽滿
令今施者得　無量波羅密

受食

偈云：

若受食時　當願眾生
禪悅為食　法喜充滿

釋迦如來二月望日涅槃疏曰：

鷲嶽膺期，顯一乘而極唱；鶴林顧命，指三德以歸真。自高山先照，示以出興；至峻嶺餘輝，云當入寂。知唱生而唱滅，恆常不變，法性本然；見令始而令終，會必有離，世相如是。醫師背喪，賈客他行。花柳無私，俄遊逢於遠日；蘋蘩可薦，罔敢墜於遺風。式表芹誠，仰祈藻鑑。伏願分身俯降，護身使佩於靈符；慧命長存，贖命見頒於重寶。庶令後裔，克紹先宗。

智者大師十一月廿四日示寂疏云：

古塔開扉，半座平分風月；靈山在目，三周俱付筌蹄。摧我慢自高之幢，示吾今親證之地。陳隋應運，蠻貊歸誠。小根小莖，每望洋而歎；大枝大葉，皆拔茅連茹而征。眾丘統司命，遜其高寒；諸子駕安車，鞭其觳觫。斯民以來未有，愈高泰山北斗之具瞻；此舟過後更無，益重浮木盲龜之難。玄珠匿彩，智鑑沈光。象武絕塵於何有，鄭聲將亂於侏離。允賴正音，洗空邪說。謬記刻舟之蹟，輒營諱日之齋。擷芳於沼沚之毛，式資明信；展敬於涓埃之效，用

答洪休。伏願：法空寶覺智者大禪師，有伴即來招手，勿忘於金地；如月初上分身，豈間於橫流？再振玄猷，庶昌厥後。

示眾

佛光照法師示小師正吾曰：

為人難，為人師不易。難者何？曰天資，曰學問，曰識見，曰氣象。無天資，無學問，無識見，無氣象，若是而能為人者，未之有也。有天資而後有學問，有學問而後有識見，有識見而後有氣象，若是能為人，未也。是何也？天資不高，學問不博，識見不明，氣象不雅，猶之不能也。不高則庸，不博則窒，不明則回，不雅則野。高而智，博而達，明而正，雅而文，四者備，能為人矣。而欲為人師者，未之可也。曷為不易？曰宗旨，曰教義，曰法相。不得乎宗旨，不通乎法相，不辨乎教義，猶之不可也。能提宗旨矣，能析教義矣，能解法相矣，不有師承，不明境觀，而能與人為師者，未之有也。師承正，境觀明，而不超悟洞徹佛意者，猶之不能也。亦能超悟洞徹矣，而不忘境觀，絕知見，離法愛，為大導師者，未之有也。三者具矣，而不知進退得失者，猶之不可。故曰：為人難，為人師不易。

圓法師示學徒曰：

於戲！大法下衰，去聖愈遠。披緇雖眾，謀道尤稀。競利名為己能，視流通為兒戲，遂使法門罕闢，教綱將；實賴後昆，克荷斯道。汝曹虛心請法，潔己依師，近期於立身揚名，遠冀於革凡成聖。發揮象法，非子而誰？故雖修身踐言，慎終如始；勤爾學問，謹爾行藏；避惡友如避虎狼，事良朋如事父母；奉師盡禮，為法忘軀；有善毋自矜，有過務速改；守仁義而確乎不拔，處貧賤則樂以忘憂；自然與禍斯違，與福斯會。豈假相形問命，諂求榮達之期？擇日選時，苟免否屯之運，此豈沙門之遠識？實惟俗子之妄情。宜乎見賢思齊，當仁不讓；慕雪山之求法，學善財之尋師。名利不足動於懷，死生不足憂其慮。倘功成而事遂，必自邇而陟遐。不沽名而名自揚，不召眾而眾自至；智足以照惑，慈足以攝人；窮則獨善其身，達則兼善天下。使真風息而再振，慧炬滅而復明，可不謂大丈夫焉，可謂如來使矣。豈得身棲講肆，迹列常徒？在穢惡則無所間然，於行解則不見可畏，以至積習成性，自滅其身。始教慕彼上賢，終見淪於下劣，如斯之輩，誠可悲哉！詩云：「靡不有初，鮮克有終。」斯之謂矣。中人以上，可不誡歟？抑又戒慧分宗，大小異學，悉自佛心而派出，意存法界以同歸。既而未曉大猷，於是各權所據。習經論則以戒學為棄物，宗律部則以經論為憑虛；習大法

者則滅沒小乘，聽小乘者則輕毀大法。但見人即偏讚，遂執之而互相是非；豈知佛意常融，苟達之而不見彼此。應當互相成濟，共熟機緣。其猶萬派朝宗，無非到海；百官蒞事，咸曰勤王。未見護一派而擬塞眾流，守一官而欲廢庶績。原夫法王之垂化也，統攝羣品，各有司存。小律比禮刑之權，大乘類鈞衡之任。營福如司於漕輓，製撰若掌於王言。在國家之百吏咸修，類我教之羣宗競演。果明此旨，豈執異端？當須量己才能，隨力演布。性敏則兼學為善，識淺則顓門是宜。若然者，雖各播風猷，而共成慈濟；同歸和合之海，共坐解脫之牀。夫如是，則真迷途之指南，教門之木鐸也。居乎師位，諒無慚德；趣乎佛果，決定不疑。汝無矜伐小小見知、樹立大大我慢，輕侮先覺，熒惑後生。雖云聽尋，未補過咎。言或有中，汝曹思之。

一初法師上堂示眾曰：

天台一家，所談修行指歸之處，無出《止觀》一書，所謂大乘修行之要門也。所以祖師云：「止觀之道，一乘也。一乘之道，無法不備。」是如來藏大覺世尊歷刼行滿，涉六年而伏見，舉一指以降魔；始鹿苑，中鷲嶺，後鶴林，至於法付迦葉，不出此止觀之道。然此止觀，前代祖師談之者眾，能得止觀之要者，十不能一二。只如宋圓智法師住上天竺時，秦檜問曰：「止、觀，一法耶？二法耶？」智曰：「一法也。譬之一水，湛然而清者止也，可鑑鬚眉者觀也，水則一耳。以眾生心性有巨昏重散之病，用止觀為藥，救而治之，歸一法界之全體。法界寂然名為止，寂而常照名為觀。止觀明靜之體，豈有二耶？」圓智之說，可謂善矣。諸人直道止觀，畢竟是一法耶？二法耶？若云二法，昏散各途；若云一法，明靜一致。正與麼時，如何舉似？不得春風花不開，花開又被風吹落。

蔬筍社儀節

第一、繫心安養

會日以侵早取齊序立，向佛前燃燈進香，眾念香讚，即稱禮：

南無常住十方佛(一拜)
南無常住十方法(一拜)
南無常住十方僧(一拜)
南無過去七佛(一拜)
南無釋迦牟尼佛(一拜)

南無當來彌勒尊佛(一拜)

再進香唱念：

一心頂禮西方極樂世界本師阿彌陀佛(三拜三唱)
一心頂禮西方極樂世界觀世音菩薩(三拜三唱)
一心頂禮西方極樂世界大勢至菩薩(三拜三唱)
一心頂禮西方極樂世界清淨大海眾菩薩(三拜三唱)

各就席坐，念《大悲呪》、《心經》畢，誦《阿彌陀經》一卷，持《往生咒》千遍。讚佛畢，念南無阿彌陀佛千聲，觀音大勢至眾菩薩各十聲。〈小淨土文〉，回回向、齋佛。〈普供養真言〉，宣疏、舉前頂禮佛號(四拜)。化紙。午飯。

第二、講習大乘

就席，舉發願文八句，即念前會所限大乘經卷一遍，即舉經中疑義問難。有得開示，無疑務要有疑，無說必要有說。斟酌商量，如行過路，後遇有省，不使茫然。良久，復再限下會所看經。

第三、游藝翰墨

既晡，各禪坐，或散行，或樂所近見偶得相請益，或即記此日事，或成小詩，或弄筆、琴、棋。餅麵取飽為別。

此會未散於靈山，是過去乃幸逢於此土，是今生共繫念於西方，是未來含三世矣。且兼內外學而並進，合儒釋教以同科，禮不煩而事易舉。世外清修，莫善於是。莫謂浮生短，能修尚未晚；莫謂來日長，修為自己忙。有志君子，幸共勉之。

會約七條

- 此會凡一月一集，不欲數。
- 所限諸經，各要平日於家程誦數十遍，多更佳。
- 所會費不過一人二分，若有外友臨期欲入者，以米一升、銀一分為率。佛前相繼止小燭一對，天寒用榾柮一爐。
- 所會用，維香、維茗、維菜、維腐，不許精美盤飧，是富貴餘途，自傷雅道。
- 凡允會，非有疾兼日道不赴此外，雖遠雖冗，風寒暑雨，願毋自畫；嫁言者有罰。

- 凡會中時雜話，或家事、身事、心事，舉共商量，當可不使得罪名教則可。或有世事，時情必舉，廉頑立懦，安分自求。清慎敬戒之語，以相警策，不許廣引。希求干謁可賤之事，非我友也，況會中乎？
- 為會澹泊，有味有情，不欲如時酒食充溢，不許設滴酒美菜，不遵作第一義罰。蓋君子草衣木食，已自不能無求於世；一酒不戒，一食不粗，則其餘可知，非佳士也。

古菴山子重生述

昔廬山遠法師，開蓮社以度羣品，雷次宗等十八諸賢獨為稱首；其間得生淨土者，不可勝紀。唯淵明陶公一人，把之入社而不可得，無酒即攢眉去。迄今世遠法傾，所謂蓮社者，亦寥寥無聞矣。居士豈淵明後身？慨茲敝風，因立蔬筍社，開建三時，接引後學；合儒釋教以同科，兼世出世而並舉，隨時高下。夫亦以昔時之不可為，今日之可也，慈悲亦甚矣。性慧薙染也晚，何敢望遠公下風？唯居士不吝振作之。始其社者，天竺靜庵、遂清二師與焉。

是歲癸卯之十二月念又五日也，釋慧和南

初集四眾：

邵古庵，名重生。錢塘諸生，隱居呼猿洞。
釋覺海，名性慧。薙染上虞，住天竺。
釋靜庵，名真讓。度上竺天巖房。
釋遂清，名如汀。隸上竺雲隱房，後舉都綱。

第七集益二眾：

釋潮音，名海瑞。度上竺長生房。
釋旨玄，名寂嘉。度上竺心安房。

次年益四眾：

楊又玄，名應秀。郡城武弁，隱居韜光庵。
江澹如，名鏷。仁和弟子員，後舉孝廉。
釋靜葵，名寂芳。度上竺雲隱房。
吳美子，名本泰。海寧弟子員，今成進士。

上天竺講寺志卷六終

杭州上天竺講寺志卷之七

天目山三學學人廣賓纂

道場規製品

側聞臺起中天，冠翠微於太乙；經來東漢，倡白馬於雍西。名襲鴻臚，製追鹿苑。粤惟我東吳之有塔寺也，康僧舍利，兼營金粟於鹽官；慧理伽藍，乍指鷲頭於印度。是以金甎側布，紺瓦驚飛。倣天宮之殿，最吉祥云；摹華藏之門，不思議者。逮夫此上竺之奐輪也，較其時後五百餘年，仍其額，別下中上寺。錢國王闢最初經院，宋天子尊第一教山。乃如千柱浮幢，構白雲為堂奧；三門表剎，跨滄海為階渠。然不免成住壞空而相互，駭胡騎之南侵；特不難士農工賈以作興，鳩檀輪之外施。是致隨墮隨樹，載故載新。闌楯羅網，重重紆界道金繩；樓閣軒窗，隱隱駐垂空寶蓋。得非僧海洛伽之島，而人寰帝釋之宮哉。詩云：「如翬斯飛，君子攸躋。」此之謂也。志規製。

名考

按《內七識》曰：

天竺國有五，號五印度。今下竺古名天竺，乃東晉西僧惠理所開。今上竺開山在石晉時，而列名在錢王時。中竺坐中印峯下，為中天竺，唐時已有此名（見唐詩）。而東南西北未明，或謂宋時以南山演福寺為南天竺，以北山靈峯寺為北天竺，以吳山劉寺為東天竺，以西方為尊而三竺同謂之西天竺。《華嚴論》云：「觀音菩薩表位西方，以西乃秋殺之地，於殺處行慈救苦，故名觀世音也。」又云：「晉以前，山中皆道教，慧理名飛來峯，人心翕然從之。道翊奉奇木為觀音，人心翕然歸之。」飛來若欠此名，天竺若少此佛，必有此名此佛而後山川定，皆自然莫知所以然而然。所謂大因緣也，天也。二僧雖名僧，不逢因緣，安得流通崇信？惟佛法之大，他法不能加。大法正當入此土，杭地正有緣，感人心正當皈依佛法。二僧又名僧，逢此大願，所以萬世尊崇，夫豈偶然哉？

因革

按宋潛說友《咸淳臨安府志》曰：上天竺靈感觀音寺，後晉天福四年，僧道翊結廬山中，夜有神光，就視得奇木，命孔仁謙刻觀

音像。會僧從勳自洛陽來，持古佛舍利至，因納之頂間，妙相具足。錢忠懿王夢白衣人求治其居，因感寤，乃即其地創佛廬，號天竺看經院。咸平初，郡守張去華以旱迎大士至梵天寺致禱，即日雨。自是遇水旱必謁焉。天聖中，僧詵夢像浮空而行出小山曰：「吾欲憩此。」明日僧寂至，語夢，協乃謀徙今處。乳竇峯矗其前，白雲、獅子、中印諸峯左右環遶。嘉祐末，守沈禮部文通謂天竺起於司馬晉時，踰七百載而觀音發跡西峯，甫及百年遂分為二，所謂上天竺也。大士以聲音為佛事，非禪那所居，即謝去住持智月，以辨才法師元淨為其主；仍請於朝，以教易禪，此名靈感觀音院。時曾公亮為相，時實獎其事。既而蔡端明襄出守，曾公以錢十萬為扁，委蔡公為書之。蓋曾公慶歷間道杭，同行僧元達至天竺瞻禮，中途見衣素婦人謂達曰：「上人同曾舍人來耶？舍人五十七入中書。」語訖，無所見。已而如其言。事載於石刻。元淨乃益鑿山闢地，增廣殿宇。曾公又以經五千二百三十卷遺元淨，即西廡為藏。熙寧中，詔歲度僧一；朝廷每遣中使謁者致香幣，歲給大農錢作佛事。而公卿貴人致帛祈禱者，旁午於道。紹聖二年，郡守陳軒請於朝，詔以一路祠廟施利，繕修精舍。靖康初，郡迎大士禱雨於法惠寺，屬有狄難，道元祕大士像於井。賊退，瓦礫中忽鏗然有聲，始知井所在，得聖像，歸之院。紹興五年，高宗皇帝嘗臨幸。孝宗初即位，以久雨，降香致禱，即日霽。上喜甚，賜內府寶玉三品；明年，御製〈大士贊〉。乾道三年，翠華一再臨幸，殿及門扁咸御書，改院為寺。又賜金幣，為十六觀堂、法輪寶藏，仍命皇太子大書二扁。理宗皇帝賜大士應夢畫像，書《心經》其上，仍賜御製贊及殿記。又嘗書唐太宗所製〈聖教序〉及白玉爐以賜。如「應真閣」、「超諸有海」、「廣大靈感觀音教寺」、「廣大靈感觀音寶殿」諸扁，已上並貯於雲漢之閣。景定二年，平章魏公施田二千畝作佛供，自為記。

又夏時正《成化杭州府志》曰：元季燬，重建。

皇明成化丙申，鎮守太監重建鐘樓，修山門，殿廡一新。

又陳善《萬歷府志》曰：治平中，元淨益鑿前山，闢地二十有五尋，殿加重簷。乾道三年，門扁皆御書。慶元三年，改天台教寺。自宋咸平至今，仁和錢唐每有旱熯、淫潦，所司恆即山中，或迎致大士像入城，祈禱無不響應。

建置

廣大靈感觀世音菩薩殿

宋元舊制，不復詳考。按《寺誌》，洪武十五年，僧錄左善世弘道上疏云：「臣前住上天竺寺，殿宇自經兵燹無存，乞賜重建。」上出御幣三千金，遣中使陶磚瓦於姑蘇，命杭州前右二衛軍士撤操二月，搬運磚瓦、木植入山鼎建。鴛鴦殿廣五楹、袤十二楹，誠異數也。歲久敝，嘉靖三十六年，雲間僧海澄暨住持清蕙，協力繕葺。澄卒，平淨繼之以竣。淨復以殿之磚砌墾闕，易以巨甓甃之，丹堊煥然。萬歷二十五年，住持道福如淵重新前半殿。至三十九年，住持明機復新後半殿，逾七載，緒猶未就。機，繼以寺眾：海堅、諸香、萬靈、海瑞、如汀、世高、性恩、萬富、興美、祖玉、圓逸、真宰、如澄、如湘輩，各醵衣資，協同首事。航海采木者，為海堅、萬靈、照本。迨四十六年落成之，高七丈八尺，深七十步，橫闊三十四步，柱礎六十有二。地磚自二十七年準十香火分，均輸泉役，以竣厥事。崇禎年間，住持照本捐資，易以王磚八十有一。殿額，初，吳越忠懿王書曰「天竺看經院」；宋治平中，郡守蔡襄書曰「靈感觀音之殿」，燬；紹興中，高宗御書之如舊稱；慶元中，孝宗賜改院為寺，曰「上竺天台教寺」；迨理宗，又御書其額。

浙江學政吳江趙寬譔〈重修上天竺靈感觀音寺記〉曰：

佛生於天竺西域之國，以虛無為宗，以慈悲不殺為教，妙明玄寂，弘濟萬品。而觀世音如來，從三慧門入道，以聲音為佛事，始於聞而能無所聞，始於無所聞而能無所不聞，所謂大圓覺義、大解脫力，天下千萬世流俗所共信向者也。杭州西湖西北諸山曰天竺者，蓋襲西域之名。世傳五代石晉時，觀音大士示現，有瑞木放光之異，寺因以建。嶺岫岩嵓，林谷迴合，琳宮梵宇，參差起伏於其間，隱若鷲峯、鹿苑，誠東南絕勝處也。中間起而復毀、剝而隨復者屢矣。大明弘治中，內府司監麥公奉命鎮於茲，興四民之利、奠百神之居，嚴兵衛、繕城隍、通津梁，綱維賁飾，以輔太平之治，燦然明備。又以其餘暇，從事於名山勝境，將以宣神聖之靈，聳瞻望於遐邇，宏象教而尊法寶，祝帝釐而資民福也。謂上天竺實惟五山之首，翊於前者，既極宏遠之規，嗣其後者，宜加維持之力。捐資搆材，百役並興；抉疏葺裁，增其式廓。會有中使奉詔來者，宣賜白金二十鎰，充繕修之費。於是宮殿樓閣，外內上下，廣大雄偉之勢，妙麗莊嚴之相，豁然而天日開，絢然而雲霞舒，巘然而山嶽峙。農工士庶，遊矚瞻禮，目奪神惕，眴轉愕眩。住僧祖芳道潛沐聖明之殊渥，承大乘之嘉惠，謂不可無以垂永久，述其梗概來請記。寬惟天下之物，廢興新故之相尋，蓋理勢之常。凡囿於形者，莫得而逃焉。不有以整頓而植立之，則廢者終於廢而不可為，興者亦將日趨於廢而莫之救。有志於世道者，不如是也。是故古之明

哲，先事而為之備，患未至而預防之。茲山之新，雖非時政所以緩急，然上而聖天子致治保邦之鴻圖，下而鎮臣憂深思遠之至意，因是可以推見其一二矣。林泉之勝，古蹟之潤色，亦加之意，況民用乎？方外之術亦所不棄，況吾道乎？雖然，時有所待，數有所會，或契闊而不逢，或輻輳而並集，蓋有非人力之所能為者。然裁成之功，運用之妙，非人則亦莫之能為也。茲山遭遇聖世，時數相符，天人交通；寥寥於昔者，一旦赫然於今，豈偶然之故哉？意者大士在天之靈，有默而相之者乎？審如是，大士之能庇吾民也昭矣！

南京大理寺卿仁和夏時正〈上天竺修造記〉曰：

欽差鎮守浙江司設監太監李公義，忠勤篤厚，允為聖天子心膂親信之臣。惟聖天子心在黎元，視遠伊邇，故用輟公侍從朝夕，而寄之以監督藩維之重。公忠勤奉國，篤厚臨民，一飯不敢忘君，一念一慮恆在民。乃成化丁酉夏兩月不雨，至於杪秋，魃愈肆虐，良農告災，歲事惟愆。公援文檄，遍走羣舉，而神罔時鑒，旱勢益蒸然不可遏也。公乃進藩臬問之，進諸郡邑問之，進諸耆艾問之，進諸國人問之，皆曰：「郡城西有觀音大士，大慈大悲，至靈至感。像居佛國山中，寺曰上天竺。郡有旱乾、水溢，疾疚、患難，咸走集祈焉。惟恪誠則其應如響，前代已然，匪今日者。」公曰：「盍從事焉？」即屏諸煩穢，齋心潔行，三日而走大士前，為民請命。意勤辭懇，冥漠潛通。旋軫之際，陰雲布興，甘雨加霪。槁者聿蘇，仆者旋起；遠邇交忭，三農謳於野，商賈謠於市，官府文於詞，士林聲於頌。公則退然不有，而曰：「大士力也。」乃用禮致住持釋霑師，而告以：「臆前吾有事大士，顧大士殿、天王殿，棟甍榱桷傾欹，不特金碧青紅漫漶，不飾寶藏；有亭圮就盡，鐘樓巋然於其左，而於右則鼓樓斯闕，此皆不可不為之意也。吾將以是昭答大士之貺，法財自我而捐，法喜由汝發願，否則我亦何從以奉國臨民？何緣以自效於大士乎？」乃用掄材鳩工，擇日肇事。材良工僝，期月落成。又：「顧所謂普門、圓通門者，所謂莊嚴供養者，則用委重汝，霑其悉此心。」師承順惟謹，罄其衣鉢贏資，兼以十方檀施，以趨赴之。無幾何時，兩門前闢諸佛、菩薩、祖師法身，端臨儼若。香燈旛蓋，掩映繚繞；萬眾瞻仰，益生敬信。壬寅，夏雨不時，山石殞，墮其舊觀。師復以天王殿西琢石甃甓，高若干尋，袤若干丈。念此莫大功德，莫大勝緣，不有書之文詞，則無以傳示不朽。乃來請言，辭不獲已。按石晉天福四年，有釋翊者，結庵乳竇、白雲間。一夕有光燦燦，旦起視，得奇木，因命斲為大士像。適釋勳者奉佛舍利自洛陽來，納諸像之頂中。誓言當靈感，已而果然。他日大士示夢吳越國王，為擴其居，侈麗遂冠一方，因易庵為寺。自是顯靈，日以動人，人心皈依，日以無替，而寺之名勝

位置亦從以崇。宋乃標為講教，五山第一，歷元入我國朝仍之。然寺雖乘運，廢興不常，而大士憫念世間，譬之連城夜光函諸寶櫝，而祥光外燭，曷有秘藏掩抑時哉？嘗聞九州之外，更有九州，渺然莫之彷彿。其中物類，幽冥奇詭。然自今契勘，可驗不誣。矧大士救世苦惱，無量無邊，本之大慈大悲，為吾郡耳聞目覩者哉？惟世之人，淺薄隘陋，所見曾幾，不見恆多；而欲以區隅所及以蓋世外無窮，井蛙測東海也。亦有信於耳目者矣，而又眩於福田利益，斂而歸之己，掊以益其家，不暇溥厥施焉。惟公之有祈於大士，一念信向，推而極之，奉天永命於億萬斯年，臨民而保和勞來以樂生興事。公以是感，大士以是而應，妙矣哉影響之隨形聲！然公既不忘大士之貺，有以自效；而師復承順公意，以克有終。因果願力顯然暴白有可書者，是宜書以垂示後人。是為記。

大悲靈感觀世音後殿

廣五楹，歲久傾圮。成化二十三年，太皇太后遣中使齎白金重建。木材磚瓦之類，皆出於官。取土千丈坑，峻拓其基，爽塏壯麗，以為正殿之屏翳也。萬歷十二年，當湖顧其忠施金祈嗣，屬僧平澗重修；仍範銅八百觔，為角端形，置殿外以代香爐，門額曰「圓通」。

翰林院編修，仁和江瀾撰〈重建觀音後殿記〉曰：

西山上天竺大講寺，實普門大士觀音如來示現圓通之古道場也。寺建於五代晉漢之際，至吳越錢忠懿王始拓大之，遂聲聞於天下。凡邦有病疫、雨暘，禱之輒應，民無不仰。寺既據有名勝，諸峯環拱，雙澗合流。傳天台之真印，為五峯之首剎。由宋暨元，高僧輩出，微法妙梵，振盪鏗訇；而金界紺園，寶華綵樹，種種奇絕，儼乎化成之幻，出於人間世也。逮入我皇明，益增壯麗，渙頒藏典，金鑰玉函，照耀璇霄，曠古所無，一時畢萃。乃成化壬午，皇上爰遣使臣，出內帑白金以為茲寺營修之助。適後殿傾圮，金碧剝落。今欽差鎮守太監張公，議將重建以圖維新，首捐祿資，仰副上意。仍辨其寺之地田湮占於齊民者，凡千四百有奇，悉收其租，以贍公役。於是斲石於山，斬木於林，陶茨墁堊，山積河匯，雲滃雨至，未期歲而告成。雕檐碧瓦，寶珠纓絡，曇花晝垂，海潮夜湧。觀之者敬而生信，願施毫末，希布福田，以廣利益。又建伽藍、祖師二殿，翼其左右。較之舊制，不啻什伯。住山僧洪智，承命領事，喜夤善緣，礱石刻辭，欲告將來，求予為記。夫大士有弘誓之願，神通之力，甘露法雨，霈乎羣有。其所以顯應諸方者，唯杭之上竺為最。歷年滋久，靈貺愈多。庇國康民，攘菑簡福。自朝

廷以至黎庶，崇事罔愆。是以天子發內帑，貴臣施祿資，興墜舉廢，不日而成，何其盛哉！雖然，天人一理，無二致也。大士陰翊乎皇圖，皇上加惠乎大士；而親貴守臣又能克體上命，茂厥駿功，無非將以惠鮮乎斯民，欲以措諸方仁壽之域而已。揆其乃心，何可殊塗論耶？文以記之。

弘治三年，歲次庚戌，春三月既望，住山洪智立石

四大天王殿

廣三楹，高五丈九尺，闊九丈，深六丈六尺。正德間，住持祖芳重建。嘉靖中，住持歸定再葺。萬歷庚子，住持玉遠鳩勤舊等倡施甃地磚階石。住持圓徑募彩繪之梁。標額曰「上天竺大講寺」，前代書，無欵識。北面額曰「如來真境」，大方伯，錫山龔勉書。「真見如來」，王問書。

護法韋陁天殿

廣三楹，古基地三分。內有樓屋二間，久廢。萬歷己未，僧心印暨合山贖地重建於靈感正殿左。南向山陰，翰林周鳳翔題額。

吏部稽勳司員外，錢唐虞淳熙撰碑曰：

上天竺沙門一如法師撰《法數》，敘韋天將軍曰：「神姓韋，諱琨，為四王三十二將之首。修童真，不受天欲。凡建伽藍，皆設像崇敬，彰護法之功。」度如師時，嘗有彰功之殿、擎杵之像；而畏頭破七分者，任十分破壞久矣。夫受人欲似天欲也。予與心印冥資護法之力，護護法者，創殿殿左，同日升梁矣。或撓之，神忽馮人從階下逆翻階上，如墮石之升。眾駭，梁升焉。後有以他事誣印，印呼神，僅滅耳，而免碎首，固華報哉！夫神以其童真望人之童真，凡魔男、魔女惑亂比丘，悽惶奔赴，應機除翦。如勝國楊璉真伽發豔姬墓，擬汙陳人；德藏真諦抽神杵，起擊其黨，百人頭破，鷹撇虎騰，炬滅鋤段，楊抱首潰走。而近有猥梵嫂之徒，予令誓淨慈韋天前曰：「如所否者，七日舌爛。」乃竟如誓。彼恣淫樂者，何知神之悽惶？一旦奔赴，則其機甚捷，必翦必除，真可畏也。今竺僧幸聽余言，不奪泉寶，能推此類，且無屋藏嬌，然毋倚神之忘瑕，神實有不忍忘者。知悽惶難動其心，除翦必碎其首，謂無天於上乎？諸天戴殿而行，毀殿奚益？惟是披戒鎧敵寶杵，若一如法師輩，神立變悽惶為歡喜；奉以銖衣瑤漿、仙厨女寶，諸師不受也。心印輩不受天欲，不令天憂，常喜界、極樂界，於斯證焉。

不然者，予及韋天涕泣而隨之，庶幾感悟離此岸登彼岸，猶從階下翻階上也，殿其津梁哉！

護法伽藍神殿

廣三楹，闊六丈六尺，深五丈二尺，在靈感正殿左，西向。萬歷二十年，住持道霑重建。至庚子年，寺僧海堅再修。

歷代祖師殿

廣三楹，在正殿右，東向。崇禎丙寅，住持照珍重建。

大毘盧遮那佛殿

廣輪二丈五尺，純甓砌成，不需材木；高三丈餘，在白雲堂北。萬歷乙卯年，住持圓徑募織造司禮監劉成，倡施重建。

阿彌陀佛殿

廣三楹，在普門外路南，面北。萬歷二十年，住持道霑募建。崇禎中燬。

香山大士殿

廣三楹，在圓通門外衢北，南。萬歷甲寅，寺僧道福創建，郡人楊應時題額。

明左方伯劉汝康撰記曰：

武林天竺香山殿者，觀音大士示現之別境也。不佞家故東魯，凡殊方神怪之事故不敢語，於其為書亦不之厭。間嘗蒐及《山海》、《河圖· 龍伯》諸帙，及天地四方之陲，各有金剛敢死之士，身重每兼吾土五千萬人；又有人復倍乎千，腹圍千五百里，其名曰聖，曰先，曰仁，曰信，曰無，不達其說，固自駭乎庸聽矣。後閱《楞嚴》，所談普門觀音大士，能以三十二應入諸國土，其中或見一首、二首，乃至八萬四千爍迦羅首，其臂目之現亦然，然未知所以為現者。歲癸丑，不佞官浙藩，身泝天竺，觀大士異光之像，并讀先守杭東坡居士《禪喜》所載〈大悲閣記〉，乃知觀音大慈，端不間乎當人之仁；聞其所謂手之與眼，又何外乎提拔昭明之用哉？蓋吾心吾身本來廣大，而人自障之；果能脫情塵，則如來法

界身雲，當處圓徧。凡諸世間神鬼之為技，非吾身毛孔之所宅、肢節之屈信已乎？茲香山之殿，郡抑陳太僕嘗囑寺僧道福，捐己業以建置，比昔道翊所創，莊嚴倍勝，非普門示化無遮之旨得爾爾耶？余同榜虞司勳嘗印道福之成功，而訶護既久，是歲又屬不佞為記以垂永，因係之銘曰：

天竺之號　肇自西乾
香山為殿　大士兼焉
化跡之妙　超乎言先
如聲之谷　如月之川
大悲為記　東坡宛然
斯文之作　空花相鮮
賴有檀越　劫石是傳

敕賜藏經殿

自皇祐七年，宋仁宗賜祕典五千三百三十卷為教藏，特殿藏之。乾道八年二月，孝宗賜錢重建藏殿，東宮書額曰「法輪寶藏」。淳熙元年，賜福州印造藏經五百函。宋季殿燬。元洎國初亦無考。至正統十年二月，英宗睿皇帝賜本山北藏五千四十八卷全，欽賜敕諭一道，用硃龕二，奉置於靈感正殿之左右。天啟甲子，住持興美整飾繕補。於崇禎庚午，以四廚遷貯於兩峯堂閣上。

白雲堂

在大悲後殿之後，坐白雲峯故名。莫考厥初，至辨才法師更建。高宗臨幸，進素饌白雲堂。孝宗賜僧錄若訥「白雲堂印」，以轄禪教律三宗。寶祐元年，徑山住持心月乞分宗，各保舉師。本山住持法照奏曰：「宗宗黨黨，非古也。恐違孝皇賜印之意，未敢承命，乞回避。」理宗即有旨云：「古法難易預與釐正矣，禪教律從僧錄公，舉朝省劄白雲堂仍舊。」八月，詔闢白雲堂基址。景定二年，賜住持妙銛御書「白雲」二大字。咸淳元年，度宗以法堂繪事方新，詔揭先帝御書白雲堂扁額。自爾歷元逮國朝，鼎革相尋。嘉靖間，住持圓俊重建，副使李景萃重書堂額。萬歷十一年燬。乙卯年，住持圓徑募織造司禮監劉成倡施復興，廣五楹，規模如舊。堂背甃磚，為毘盧殿。

兩峯堂

在白雲堂後，前與雙檜、乳竇峯相參故名。紹興二年，圓通如法師建。紹熙五年，丞相京鏜書兩峯堂扁。國朝成化間燬。嘉靖四十一年，寺眾為郡倅雷公柏山建遺愛堂，即兩峯故址也，翰林諸大綬有記。萬歷間燬。至崇禎己巳秋，住持寂纓、照珍、照本、續元，同前住持興美募建五楹，易堂為閣，今稱為藏經閣；深四十尺，高三十二尺，閣上奉安欽賜經律論藏四龕，下設禪單，以為閱藏者宴息，進士李陳玉有記。

翰林院修撰，山陰諸大綬撰〈柏山雷侯遺愛碑〉曰：

柏山雷侯之倅青州也，奉朝命以青州兵來保浙，分屯於杭西湖之諸寺。兵有紀，三千唯一心，皆如賓旅，無暴客犯吾民者；雖僧居，亦秋毫無犯也。民德之，乃諸寺僧倍德之，晨夕焚香作禮佛前，祝侯願，報侯德。比旋師，請留像，侯不可；請留衣履，又不可。則別為堂設位，將永崇奉。疏詳惠跡，礱石於山，待史氏紀之。壬戌中秋，余將北上視舟武林，乘暇遊湖山，過靈隱，經集慶，至三竺上剎，僧顯懷迎告余曰：「歲在己未，梵宇為行營，微雷侯等幾毀矣，我僧眾何託而居乎？侯不鄙夷方外，保僧眾如保民。今日山門不改，方丈之地猶能爇爐烹茗、以迎太史公之車轍者，侯之賜也。」因稽首乞余言。時侯同守杭郡，余笑而自思，僧耳何喁喁焉頌德於使君？歸數月，聞侯微疾，纔就寢，遽起沐浴更衣，端坐而逝。余悼惜且驚異。及抵杭，再至湖，僧方向侯位泣奠；見余，請甚懇，余愾然歎曰：「有是哉！德愛之遺乎，不可泯矣！」侯性敏慧，恭而温温。倅吳越，分職平政，政乃平，越人稱「雷侯平」。嘗視篆上虞，上虞士大夫紀其行事，有善政錄。前秋官龍川徐君，秉高節，素慎許可，錄中所敘述者最詳。是時島夷寇兩浙郡縣，侯受知梅林胡公，奉檄往來省府，練士卒，守城池，出籌畫，以佐主帥。乙卯，杭圍之解，侯有力焉。其提師自齊南征，道經淮揚。淮揚寇熾甚，巡撫李公克齊留侯之兵協勦。侯親臨陳，戰姚家蕩，戰廟灣，皆大捷；斬首數千級，焚溺死者無算，廟議行有超格之擢。寇退，始至杭郡，在杭兵戢而民安，所濟者多於戰功。逮為同守連署屬縣，政善而平，一如倅吳越時也。嗟乎！古所謂「文以附眾，武以威敵」者，非其人與？恨未究厥施耳。佛氏之教，了無受想，漠然人世。僧乃用情於侯，其愛其慕，猶夫民者。保性而止其所，應無所住而生其心，懷思崇奉，固其宜矣。名將之略，循吏之風，起於慈悲一念。侯像在堂，與寺並存，遺之無斁，碑宜有文。侯名鳴陽，字時豫，貴州永寧衛人。

吉州李陳玉撰〈上天竺寺藏經閣記〉曰：

如來以三藏妙性，乘大悲智，為無所藏；復以無所藏智，說無所說，流而為藏。無所藏故無密不顯，有所藏故無顯不密。其為目，曰經，曰律，曰論；而其為指也，不過聖凡同體，曰空、曰不空、曰空不空三者而已。是故人有寶藏，物無盡理；四十九年五千餘部，真巨海之一滴，而太虛之微毛。匪凡夫不能窮如來，實如來不能窮凡夫者也。然而高曾規矩，人天鉗錘。先天地生，尚有青牛之訪；處周秦後，方來白馬之迎。《華嚴》分龍宮之一部，《首楞》血波刺之全軀，聞法如此其難，護法抑何其易！則大藏所有法寶攸繫，故非殊智絕力鮮能辦焉。武林天竺，蓋南國之佛域也。開山於石晉，時僧道翊者，獲奇木，肖大士像，遠近響應，宗風代振。至宋辨才主之，始以教易禪，寺故有藏。中更興廢，遂未有閣，蓋教之敝也久矣。有僧寂纓、照珍、照本、興美、續元，慨然念復，嗟貝葉之委地，念寶氣之燭天。而毘陵董公，以大乘器應宰官身，來長澍藩；顧盼生歎，捐退食之俸餘，作如來之一粒，因以庀材鳩工之責付諸僧等。於是上為重閣以安諸部，下為奧室以安禪誦。上焉肅肅，下焉雍雍。上為兜率、為娑竭宮，下為鷲嶺、為眾香國。誦者便於披閱，禪者便於靜觀。誦者入波斯國，片片夜光，是見佛佛各具一藏也；禪者入一真地，大地黃金，是又人人各具一藏也。即茲為教，即茲為禪，不必易也。噫！吾以是而知公之用意深、功德遠矣。予以春官之役，道出武林，閱湖山者兩月。遊屐所至，荒址茆堂，無非公之芟除、莊嚴，殆西湖之穀玉而南國之金湯也乎？愧不敏，不足以讚歎萬一。僧等將公之意，樂公之功，故為述夫藏之所由來，并志夫閣之所由始，使知佛法難興，功德希有，當勤守先律，丕振宗風，各自護其室藏，以無負公之意耳。將見乳竇盡呈醍醐，獅子遍為哮吼；東澗西澗之水萬派歸宗，南山北山之雲四天共布矣，是則公之意乎！公名承詔，字聖臣，丁未進士。

護國金光明懺堂

皇祐年間始建。紹興三年六月，高宗詔正殿前為懺堂，又前為香華筵。尋燬，又復。今併遺址無基，或云基在正殿西偏。

十六觀堂

乾道三年二月，孝宗賜金帛倡建。上命皇太子書額曰「觀空淨域」。既燬。開禧二年七月二十二日，寧宗賜錢重建，仍摹光宗舊書扁額，尚書內翰樓鑰撰記。嘉定元年，天目山人文禮述觀堂舊記

并書。寶祐元年三月，理宗賜牒及米，重葺。觀堂在白雲峯麓，由正殿西北隅拾級而升，今為子院。

宋翰林樓鑰撰〈上天竺講寺十六觀堂記〉曰：

嘉定改元，歲在戊辰四月乙巳，被命禱雨於上天竺山。住持、左右街僧錄妙珪有請曰：「公頃年直學士院時，許以修造記。既而去國，遂求於內相洪公。而公今既再入朝，而寺之十六觀堂崇成，願求記文，以踐前言。」予何辭？予四明人也，城中延慶教院為東南最勝處，嘗讀諫議忠肅陳公所為〈淨土院記〉云：「元豐中，比丘介然修西方淨土之法，不卧三年。謂其同行曰：『我等各據一室，成此勝緣。來者加眾，而室不增多。寺之西隅尚有隙地，得檀施錢二千餘萬，為室六十餘間。中間室閣立丈六彌陀之身，夾以觀音、勢至，環為十有六室。室各兩間，外列三聖之像，內為禪觀之所。殿臨池水，水生蓮花，不離塵染之中，豁開世境之外。』自是更七寒暑，無一不如其志。初介然燃手二指，誓必成此。元符三年三月落成之日，復燃三指以增淨誓。於是見聞歡喜，靜習之士無有虛位。期滿者去，發志者來，依勝境而獲善利者不知其幾何人也！」了翁洞明教觀，其序大略如此。抑聞介然願心深切，當時一木一石，微至磚甓，皆以〈大悲咒〉歷歷咒之，而手授匠者。建炎虜燬，城郭焚蕩，獨所為淨土院者，至今堅緻如故。間一至其處，幾於未施敬於民而民敬者。上天竺山觀音大士功德殊勝，四民所欽。孝宗皇帝留心內典，乾道三年二月，駕幸此山，修供大士，賜緡錢二萬，俾建此室，遂寫延慶規模以為之嚴淨精妙，過者必肅。又嘗命建於禁中，退朝餘暇多燕坐其上。或引禪律高僧，設齋講道，非人間所可及也。光宗皇帝時，在潛邸奉旨書額，自此四方修梵行者接迹其中。然物必興廢，不離乎數；開禧二年七月二十六日，燈灺為災，悉已煨燼。珪公竭力營建，成於期年，又過於舊；金碧輝映，稱其所謂淨土之說。得旨再摹光宗御書揭之。山去都城最遠，幽邃秀潤，固已素離塵染，況又為此淨處，坐進此道者，可不勉乎！予去已告老，不謂復為此來。珪公住山十有七年，建立勝事，乃作復庵於山之南，為歸老計。道俗歸向，日領三數百眾，修進不倦；累朝眷遇，至今不衰。予非久於此者，將復尋延慶之遊，又不能如了翁推明九品十倫之旨；特以珪公請之殷，為書其實以遺之。

法堂

隆興二年九月，高宗詔知臨安府事曹澄，督建法堂。咸淳元年九月，理宗幸寺，時法堂繪事方新，詔揭光宗御書「白雲堂」扁

額，知省揚端朝承準。今廢。

講堂

舊有之。淳祐十年九月丁亥，理宗詔闢講堂。今廢。

水陸堂

在殿左。紹定二年，理宗詔建，郡寺淨勝句當。尋燬。寶祐元年九月，仍命建堂以為修齋之所。擬斫後山大楓樹為梁，僉曰：「神物所依，枝葉莫敢攀，況斫乎！」是日有風自南仆於北隴，若神助然。今廢。

靜處堂

淳祐九年三月，住持法照建。今廢。

中印堂

載《武林舊事》。《寺志》遺，今增入，莫考其地。

香積堂

即齋堂。

延賓堂

即客堂。

頤耄堂

即老堂。

延行堂

即病堂。

東堂　西堂　廚堂　庫堂

並廢。

禪堂

即古天仙樓秋香閣基也。萬歷庚子歲，寺僧明遠合眾請觀如法師接待雲水。至萬歷九年，住持興美、寂嘉、如貿屢興屢葺，拓充譙寢兩所，兩廂堪居千指。觀師普心苦行，乘戒俱急，弘經開律，眾每盈千。注有《法華正旨》行世。

雲漢閣

隆興元年八月，住持應如建閣奉安，歷賜御書宸翰。孝宗親灑奎文，曰「轉大法輪」，又曰「雲漢之閣」，二扁以賜之。景定二年，住持祖印重建。宋季燬。今廢。

千佛閣

紹熙五年二月甲寅，住持妙珪建。提刑趙時逢撰記。今廢。

應真閣

即羅漢閣，在伽藍殿後。紹熙二年，住持應如建。隆興二年九月，孝宗詔臨安府尹曹澄，又督建五百羅漢閣。淳祐五年九月，住持法照重新之。理宗御書「超諸有海」四大字以賜為額。今廢。

準提閣

在普門外。寺僧續元建自崇禎年中。

秋香閣

與延桂、秋芳為叢。淳祐九年三月，住持法照重建，洎元並燬。至正十二年，住持古愚重建，迨萬歷中廢。今為禪堂。

秋芳閣

在祖師殿後。紹興二十三年，住持圓智建。今廢。

延桂閣

與秋芳對。古有叢桂，可數圍。紹熙年中，住持妙珪建，後廢。崇禎元年，寺僧寂芳重建延桂閣，為精修淨業之所。

伴雲閣

在白雲左偏。淳祐三年，住持法照建，為寢息之所。

上天竺講寺志卷七終

杭州上天竺講寺志卷之八

天目山三學學人廣賓纂

道場規製品

建置

鳴陽樓

即鐘樓，在正殿左，西向。紹興二年五月，高宗詔住持惟日建。至七年二月，上鑄萬石大銅鐘以賜，住持應如管領。樓燬。咸淳六年三月，度宗賜錢，住持法照復建。入國朝成化間，住持智霑重建。舊所賜鐘，南宋故物也，鯨音圓亮，聲聞數十里。成化間，鎮海樓巨鐘毀於火，時鎮守太監麥公秀輦借入城，以代急用，隨鑄償本寺矣。嘉靖三十四年七月，島夷猖獗，軍門命取廢寺敗鐘鑄佛機。麾下乘勢脅嚇攘取，僧眾控訴雲間方伯潘公恩白而止之。萬歷二十三年十一月，寺僧如淵等重鑄，約六千餘斤。時住持圓逸、圓日、圓逕。

大學士，淳安商輅撰〈上天竺重建鐘樓記〉曰：

東南佛寺，錢塘為勝；錢塘佛寺，天竺為勝。天竺有三，上天竺又其最勝也。乳竇峯聳其南，白雲峯拱其北，天香巖峙其東，雙檜巖直其西。重岡疊巘，螺髻堆青；泉水松風，笙簧入韻，誠一方勝概也。寺創於五代之間，時天下繹騷，惟兩浙宴然，蓋錢氏立國之功。文穆之世，高僧道翊結庵是山，一夕，見前澗光明上燭；旦往視之，得奇木，遂刻為觀音像奉之。後感夢忠懿，易庵為寺，聿新殿宇。至宋咸平、元祐，寖加增廣，於時趙閱道、蘇子瞻、秦少游諸公皆有記。南渡以來，六朝車駕不時臨幸，樓臺殿歲增月益，因賜「廣大靈感觀音寺」額，并「白雲堂」印，列為五山之首，禪教宗之。我朝改教為講，五山之名仍因其舊。郡之人水旱疾疫，有求必禱；輿馬闐駢，往來如市。是雖佛之感動於人，要爾山川之靈有以相之。於寺故有鐘樓，圮已久。近時司禮太監李公義奉命出鎮，間嘗詣寺，因見巨鐘在地，惻然興念。爰施己資，募工度材，重建層樓，發鐘懸之。於是鯨音四達，晨昏有警。寺之景象，遠過於前。住持僧智霑，具廢興始末徵余為記，將壽諸石，以表太監之功，以侈寺之美觀，可謂知所重已。且地不自美，因人而美；物不自成，因人而成。夫以天竺為寺，擅勝東南，著稱叢林，非有傑構為之壯觀，文字為之顯白，何以昭當時、名後世哉？跡其興建之功

偉矣，愧予文不足以繼趙蘇諸賢後。因其請，姑為之說。或來者有考，嗣者弗失，庶幾名山勝境與天地相為悠久云。

振遠樓

即鼓樓，在正殿右，東向。嘉靖間，樓既坍，寺僧清正赤腳募緣，聿新起廢。萬歷己酉，寺僧如淶重修。

藏經樓

紹興二年五月，高宗詔住持惟日建。咸淳六年三月，度宗賜錢，命住持佛光重建。

水月樓

在水月池上，虛敞宏麗，僧錄若訥建。自淳熙、嘉定、端平間，屢朝臨幸，駕憩於此。扈從游觀，搢紳名詠，留題甚夥。後燬於兵燹，今廢。

大仙樓

在兩峯堂後，即禪觀堂。舉佛事則齋天於此。廢，今為禪堂。

清暉樓

在白雲堂左隅，傾歲久。嘉靖中，僧綱道顯再建。

方丈

五楹，在白雲堂左，古有之。淳祐十年五月，理宗臨幸，詔住持佛光作方丈石山。至國朝正德中廢。

皇華館

寶祐元年八月，住持佛光建，奉延中使降香者駐節焉。廢。

夜講臺

治平中，辯才淨法師演說無倦，嘗謂「鬼神少威德，則不敢隨眾晝聽」，乃為夜分講經，故設之。

勤舊寮　侍者寮　書記寮　且過寮　茶湯寮　藥石寮

並廢。

三官佑聖祠

在正殿西隅，廣三楹。萬歷二年，寺僧道禎建。

福祐靈濟公祠

即伽藍神也。按《寺誌》：寶祐六年，理宗封上竺伽藍神號。《內七誌》曰：此不在十八位之列。姓曾，以四月初四日生辰。

文昌祠

在鐘樓左偏，北向。崇禎八年，寺僧心印建。僉事林徽初題額。

張仙祠

在圓通門外，琴岡盡際。萬歷丙子，住持德洪建。左方伯朱卿題額曰「廣嗣張仙祠」。

土地神祠

神蓋陳渾也。漢靈帝熹平二年，為餘杭令。今山中祀為土神，不知所以尸祝之由。《內七誌》曰：王莽廢錢塘為泉亭縣，光武惡之，廢泉亭，而錢塘故縣未曾復。至光和二年，封朱雋為錢塘侯，則錢塘又廢為侯封，而無縣矣。熹平至光和，凡六年，武林其時想分屬餘杭，而渾正治斯土，有遺澤，故祀之。渾，字應明。餘杭為陳明府君廟，後唐長興二年，封渾太平靈衛王，故俗稱陳明大王。今以正月十五日為君生辰。

靈衛祠

祀朱躍也。躍，安吉人。建炎三年，為錢塘令。十二月，金虜由西溪並天竺而進，金勝、祝威二將於葛嶺編竹覆泥以陷之。躍率義勇二千款其前鋒，中流矢二，敗猶叱以戰。退守天竺山，傷重而死。咸淳四年，詔封為列侯。

雷公遺愛祠

公名鳴陽，嘉靖間為本府二守。斷靈竺，賜山萬畝，令佃納餉當差。寺僧即兩峯故址立遺愛堂祀之，諸狀元為記。

梁公祠

公名瑤。正德中，鎮守本藩，有惠於寺，共建生祠。

雙檜軒

淳熙二年，賜唐相園中雙檜，植此。見正統石刻。

清華軒

在秋香閣後。淳祐九年三月，住持佛光重新。宋季燬。大德四年，住持筌若洲重建。今廢。

竹嶼軒

趙孟頫書扁，在觀堂。

圓通門

在天王殿左隅，琴岡未盡處，向東。寺初建處，紹興二年五月，高宗詔住持惟日重建。舊制亡稽，今以四柱重枅、飛甍翼角，翼然而壯也。額曰「圓通」，王穉登書。又嶺南李時行書額曰「蒼煙白石」。

普門

在雲心衖口，金佛橋下。製似圓通。洪武己巳，住持大山建。正德丁丑，住持歸定重建。萬歷甲戌，住持道福又建，高二丈四

尺，闊二丈二尺，嗣曹國公景隆書額曰「普門」，尚寶卿徐江山書額曰「示現神通」。

山門

舊在飛來峯外，蓋三竺、靈隱共由一門，白太傅所謂「一山門作兩山門」也。入國朝，諸寺始畫地分疆。其門遷在中竺寺橋之右、永清石橋之東。製如圓普，而谿巒關鍵過之。嘉靖甲子，住持道霑重建。萬歷壬子，住持圓逸重修。崇禎乙亥，眾准香火助資，住持本初、心授又新之。洪武甲子，曹國公書額曰「上天竺」，撫臺喻思恂書額曰「法雲慧日」。按《武林舊事》載，天竺外山門額，乃蔡京書，他誌惡其人，不錄。高二丈八尺，闊二丈二尺。

大界相

三鉅書鑱之石壁。按《虎庵住界誌》云：「不知某師禁足處，東在普門下，西在觀堂後，南在雲心巷，北在白雲房後。學人曰：此是重修懺期結界之限，非禁足也。」按《四分律》云：「佛半月說戒，眾集疲勞，許僧伽藍各結大界。」故又為說戒所置也。

肅儀亭

在孫公泉上，翰林蔣暉書扁。《西湖志》：嘉祐中，辯才法師建。《寺志》載郡守蔡襄，有名不存。洪武二十八年，一如法師重建。正統五年，住持無相復建。萬歷元年，僧道禮又建。正德間，方豪鑱石厓四大書曰「漸入佳境」。

雪坡亭

《寺誌》謂東坡訪辯才法師，適雪霽，搆亭厓下，以紀其勝。

植杖亭

政和五年，郡守李學士偃，訪宣梵珍法師。適珍下山，遇諸塗，遂植杖立談。因置亭表之。

謝屐亭

誌謂宣梵法師靜處觀堂，陟西峯之麓，石磴紆盤，每出入必三休焉。喜著屐，嘗曰：「安石隱東山，乃攜二妓遊薔薇洞。吾以松竹為薔薇，卒無開落；以白雲明月為妓，空色兩忘。何忝安石哉！」選逕之半為亭，以述厥志。今廢。

夢泉亭

誌謂齊玉法師，崇[窋/一]元年既鑿夢泉於西坡，仍建亭以誌其異。廢。

曲水亭

熙泰間，妙珪法師再住持，築退居曰「復庵」，在寺門橋南。林樾蓊鬱，引泉為曲水，倣蘭亭故事，作亭其上。瀕水列嘉石為座，參錯宛轉。賓客至，則命轆轤注水，泛杯茗而俯拾焉。廢。

見心亭

在琮老橋外，山陲沙轉處。嘉靖十三年，都指揮僉事李節建。

石幢

在見心亭路北，高二丈，鐫諸佛於上。當琮老望之，矗然特立於谿山交際，莫知所自。初二，萬歷間毀一。

子院

大明房

在白雲峯南麓之坳，由級而升。國初始分白雲西房，又分西白雲東房為二矣。隆慶間，東又分鯨音房，今一華四葉也。有額曰「少師舊隱」、曰「藏春樓」、曰「雲深堂」、曰「嘯月樓」、曰「香巖閣」，中丞喻思恂書。

觀堂房

正統年，無相法師退院，法屬鼎為三房，曰觀東，曰觀西，曰觀中。在白雲峯麓，與大明山同逕，歷級而歧。有額曰「環中

堂」，施鳳來書。曰「雙樹堂」、「無垢堂」、曰「攬翠樓」、曰「白雲樓」、曰「華光樓」、曰「覺照樓」。

白雲東院

在白雲堂東偏。正德年，鐵峯法師退院，法脈別為二房：曰方丈中，曰方丈西。萬歷年，方丈中又別為二房：曰仰峯，曰鏡山。北又別為二房：曰少泉，曰伴雲。西又別為二房：曰碧泉、普門。有額曰「白雲東院」、曰「見峯堂」，夏桂洲書。曰「岩嶌閣」，王穉登隸。曰「慧演堂」，湯煥書。曰「印月堂」，黃汝亨書。曰「振音堂」，董承詔書。曰「寄幻堂」，曰「慈雲樓」，閔宗德書。曰「雲住樓」，曰「嘯雲樓」，王恬書。

白雲上房

在白雲峯南，跨支岡之麓，拾磴而上，單傳也。有額曰「自觀堂」，錢士升書。

長生房

迺國初古春法師退院，至顯宗之嗣歧為二：曰長生西，曰長生下。有額曰「蓮花藏」，龔勉書。曰「長生堂」，曰「淨聖齋」。

心安房

在雙檜峯麓，祖嗣辯才法師，為元東溟法師退院。其胤至嘉隆間析為三：曰心大，心南，心外。有額曰「祚胤閣」，曰「寶月堂」，曰「慈恩樓」，曰「玄對」，曰「清約」。

雲隱房

在雙檜峯麓右，國初竺隱法師丈室。法裔至永宣間鼎為三：曰雲西，曰雲東，曰雲中。隆慶年，雲中又支一下房。萬歷年，雲西又支一下房。有額曰「來印閣」，沈演書。曰「雲隱堂」，王穉登書。曰「平遠樓」，董承詔書。曰「延桂閣」，陳繼儒書。曰「松華室」，程南雲篆。曰「虛白堂」，陳洪濛書。曰「七重樓」，張繼孟書。

幻應房

在普門外，與天巖相向古塔院也。成化年，性庵法師之嗣駢為二：曰幻西，曰幻中。有額曰「五峯草堂」，孫鑛書。曰「萬翠樓」，沈夢斗書。曰「怡雲樓」。

天巖房

在中印峯南麓，蓋佛光法師退院。法嗣至國朝嘉靖間分為三：曰天西，曰天北，曰天南。有額曰「萬杉深處」，開化方豪書。曰「天巖佛窟」，天台王宗沐書。

見心房

在寺外妙香庵。萬歷十年，越僧真海承嗣都綱霑五峯，始序同心。

彌陀興福教院

在楊梅隖。按《咸淳誌》，淳熙初，慧光法師若訥奉旨撥賜上竺空閒山地，用衣鉢創建。紹熙三年，光宗御書院額賜之。宋末燬。天啟甲子年，僧德光復建，中立三世如來殿七楹；蕭山張士驌醵金倡施，後為彌陀三聖殿五楹；東甌劉康祉創緣為彌勒閣七楹。優婆塞張圓奎率眾落成，約兩廂禪燕、經行、庖湢之寮，三十餘間。像設經龕，制所應有者，悉具焉。

永嘉布政使劉康祉撰〈重建彌陀興福教院記〉曰：

杭之上天竺有乳竇、獅子，兩峯間即梅塢也。宋孝宗敕兩峯强半山坡，為慧光訥法師別業，以使退休。光宗御書「彌陀興福教院」為額，而院名始著。元時院廢。我朝隆萬間，寺宇鼎新，基址蓁蕪，且轉轉互授，分屬私門也。萬歷廿六年，靈隱祇園庵月輝禪師德光，愛此寬閑深邃，購得陳氏續置產一片，結廬禪誦。其背係上竺住持玉長老分產，及紹峯與師久契，因劃其山麓若干畝捨之。師即遊蕭山族姓，募百餘金，購材築精藍。日與弟子正課，閒暇開墾平削。幾更寒暑，西圍基面始坦然無坑坎不平之觀也。乞食越城，適呂 相府染疫，延師以陀羅尼祛之；遂於餽餉外，更置桌牀幔多副送歸。及遊台宕東甌，宰官聽所項公、伯無王公與余欣然傾蓋；與合郡玉成檀度，遂下南山之木，取道東海，募營中兵士舁歸。無何，又募郡人馮有恩倡刻彌陀丈六之像，觀音、勢至相繼而

成眷屬，樂助四十餘金，即成後殿，蓋天啟五年也。嗣後弟圓慧、孫明徹共捐銀帛，更造兩廂，周遭掩映，煥然有章，兵部尚書衡岳朱公榜曰「重建彌陀興福教院」。師進此山將四十年，其為院之寸土片瓦，焦心勞思，間關拮据，辛苦殆非一旦。是以未及六旬，雪鬢霜渡，眉貌稜稜而骨立矣。其所以樂此不為疲者，誠不以自己為急，可謂不負紹峯者矣。

上天竺寺廨院

淳祐十年，住持佛光照法師適左藏，薛師魯占廨院為廳，照不許，即渡江東歸。是日理宗幸寺祈雪，隨禱即應。上喜甚，遣中使鄧惟聰進香。聰有奏聞，上命內轄快行，遂禁渡。炤回，霅僧永頤贈以詩曰：

瀟洒白雲卿　冷然非世情
住山金玉重　去路羽毛輕
禁渡停江棹　高名滿上京
野人心獨喜　得失懦夫驚

頤，錢塘耆舊也。

方圓庵

在龍泓。元豐二年，辯才法師自本山歸老於此。

釋守一記曰：

天竺辯才法師，以智者教，傳四十年，學者如歸，四方風靡。於是晦者明，窒者通，大小之機無不遂者。不居其功，不宿於名，廼辭其交游，去其弟子，而求於寂寞之濱，得龍井之居以隱焉。南山守一往見之，過龍泓，登風篁嶺，引目周覽，以索其居。岌然羣峯密圍，溶然而不蔽翳，四顧若失，莫知其鄉。逡巡下危磴，穿深林，得之煙雲髣髴之間，遂造而揖之。法師引余并席而坐，相視而笑，徐曰：「子胡來？」曰：「願有觀焉。」法師曰：「子固觀矣，而又將奚觀？」予笑曰：「然。」法師命予由照閣經寂室，指其庵而言曰：「此吾之所以休息乎此也。」窺其制，則圓蓋而方趾。余詰之曰：「夫釋子之寢，或為方丈，或為圓廬；而是庵也，胡為而然哉？」法師曰：「子既得之矣。雖然，試為子言之。夫形而上者，渾淪周徧，非方非圓，而能方圓者也。形而下者，或得於方，或得於圓，或兼斯二者，而不能無悖者也。大至於天地，而近

止乎一身，無不然。故天得之則運而無積也，地得之則靜而無變，是以天圓而地方。人位乎天地之間，則首足具二者之形矣。蓋宇宙雖大，不離其內；秋毫雖小，待之成體。故凡有貌像聲色者，無巨細，無古今，皆不能出於方圓之內也，所以古先哲王因之也。雖然，此游方之內者也。至於吾佛亦如之，使我黨祝髮以圓其頂，壞色以方其袍，乃欲其煩惱盡而理體圓，靈慧修而德相顯也。蓋溺於理而不達於事，迷於事而不明於理者，皆不可謂之沙門。以制禮樂為衣裳，至於舟車器械宮室之為，皆則而象之，故儒者冠圓冠以知天時，履句履以知地形。蓋蔽於天而不知人，蔽於人而不知天者，皆不可謂之真儒矣。惟能通天地人，真儒矣。唯能理事一如，向無異觀者，其真沙門歟。噫！人之處乎覆載之內，陶乎教化之中，具其形，服其服，用其器，而於其居也，特不然哉？我所以為是庵也。然則，吾直以是為蘧廬爾。若夫以法性之圓，事相之方，而規矩一切，則諸法同體而無自位，萬物各得而不相知，皆藏乎不深之度，而游乎無端之紀。則是庵也，為無相之庵，而我亦將以無所住而住焉。當是時也，子奚往而觀乎？」嗚呼！理圓也，語方也，吾當忘言與之以無所觀而觀之。於是嗒然隱几。予出，以法師之說授其門弟子使記焉。

元豐癸亥四月九日慧日峯守一記

不二作此成，過予，愛之因書。

鹿門居士米芾元章

彌陀菴

淳熙十一年，詔本山住持師覺補右街監義。十二年，轉左街僧錄。卒，塔瘞此庵，在凝翠泉右。廢。

復庵

紹熙三年，妙珪住持本山，建庵為退居，在普門南。

陸務觀〈復庵記〉曰：

嘉泰二年，上天竺廣慧法師築退居於寺門橋南，名之曰復庵。後直白雲峯，前直獅子、乳竇二峯，帶以清溪，環以美箭嘉木。凡為屋七十餘間，寢有室，講有堂；中則為殿，以奉西方像。殿前闢大池。兩序列館，以處四方學者。炊爨湢浴，皆為其所。牀敷巾鉢，雲布鱗次。又以為傳授講習梵唄之勤，宜有游息之地，以休其暇日，則又作園亭流泉，以與學者共之。既成，命其弟子了懷走山陰鏡湖上，從予求文，以記歲月。予告之曰：「進而忘退，行而忘

居，趨前而昧於顧後者，士大夫之通患也。故朝廷於士之告歸，每優禮之，而又命有司察其尤不知止者，以勵名節而厚風俗。士猶有不能決然退者，又況物外道人？初不踐是非毀譽之途，名山大眾以說法為職業，愈老而愈尊，愈久而人愈歸之，雖一坐數十夏，何不可者？如法師道遇三朝，名蓋萬衲。自紹熙至嘉泰十餘年間，詔書褒錄，如日麗天，學者歸仰，如泉赴壑，非有議其後者。而法師慨然為退居之舉，傾竭囊裝，無所顧惜。雖然，以予觀之，師獨視天竺之眾，不啻敝屣；加以歲月功行，遂為西方之歸，復庵又一敝屣也。死生去來無常，予老甚矣，安知不先在寶池中俟師之來，語今日作記事，相與一笑乎？」

梅峯庵

端平中，梵奎法師退院，并塔於此。在見心亭北麓。萬歷年廢。

同庵

淳祐中，允憲法師退院，塔亦在焉。

古鏡庵

嘉熙中，文杲法師歸塔處。

北峯庵

景定中，智觀法師退居。

坐禪庵

在中印峯南麓，今廢。

妙香庵

在見心亭。

訥齋，為辯才法師燕居。蘇子瞻記曰：

錢塘有法師曰辯才，初住天竺寺，以天台法化吳越。人歸之如佛出世，事之如養父母。金帛之施，不求而至。居天竺十四年，有

利其富者迫而逐之，師欣然捨去，不以為意。吳越之人從之若騖，天竺之眾分散去。事聞於朝，明年俾復其舊，師俛俛而還，如不得已。吳越之人爭出其力，以成就廢缺，眾復大集。無幾，師告其眾曰：「吾雖未嘗爭也，不幸而立於爭地。久居而不去，人以己是非彼法門也。天竺之南，山深而禾茂，泉甘而石峻。汝舍我，將老於是。」言已，杖策以往，以茅竹自覆。聲動吳越，人復致其所，巉嶺煙屺，築室而奉之。不期年，而荒榛巖石之間，臺觀飛湧，丹堊炳煥，如天帝釋官。師自是謝事不復出入。高郵秦觀少游名其所居曰「訥齋」，道潛師寂寥屬予為記。余聞之，師始以教法人，扣之即鳴，如千石鐘；來不失時，如滄海潮，故人以辨名之。及其居此山，閉門燕坐，寂默終日。落葉根榮，如冬枯木；風止波定，如古澗水，故人以訥名之。雖然，此非師之大全也；彼其全者，不大不小，不長不短，不垢不淨，不辭不訥，而又何以名之？雖然，樂其出而高其退，喜其辨而貴其訥，此眾人之意也，則其以齋名也亦宜。乃作頌曰：

以辨見我　既非見我
以訥見我　亦幾於妄
有扣而應　時止而止
非辨非訥　如如不動
諸佛既然　我亦如是

靜處齋

萬歷癸丑，住持萬靈重建。在中印峯麓。

大明山居

國初，姚恭靖公廣孝，初為沙門，名道衍。上竺住持大山，蓋其法嗣。公既貴南還，居此久之，故扁曰「少師舊隱」，蕭山孫學思書。或問「大明」取義，金庭子謂：少師在元時已兆開國之徵。或謂山中古有大明寺，載《咸淳志》及《武林舊事》。邵虎庵有辯，見《內七志》，尚竢博雅正之。

華嚴山居

在雙桂峯下梯子塢。萬歷初年，寺僧雨山建。楚僧正叢嘗居之。吳興施進士浚明官南部，以太史紙印《南藏》經律論為方，付寺僧如淞安置山居便閱焉。

古顯親多福院

天福五年五月，吳越王建。舊名光福，治平改額。今廢。

塔墓

道翊祖師塔

在乳竇峯之麓。墓道自普門外數十武南入，至塔計七十六弓。闊，北二弓，南一弓。崇禎丁卯年夏五月，住持炤本鳩合寺重立石牌坊一座，題曰「晉開山聖僧道翊祖師之塔」，縣侯王楊基書；額陰彙刻住持名，表於路口。癸酉冬，住持照本重加塔門、柱檻、拜臺等，屬琢石新之。

辯才淨法師塔

在南山老龍井。按邵氏《七識》，在衍福寺。
黃門侍蘇轍撰塔銘曰：

如來昔在世　心禪語為教
譬如四大海　惟是一溼性
性於溼性中　變化千萬億
風來為濤瀾　風去為湛然
魚龍所遊戲　鬼神所出沒
船筏借其力　網罟取其利
其上為洲渚　諸國所生育
其下為淵谷　百怪所藏伏
東南出日月　上下屬河漢
觀者不能了　[目*罟]盱何暇說
如來知迷悶　隨變為解釋
因變所說者　是則名為教
彼善聞教人　當知是幻耳
既已知是幻　則當識真實
我觀世教師　皆謂教是實

由謂教實故　則為禪所呵
禪雖呵乎教　終以教致禪
禪若不取教　是杜所入門
教而不知禪　是不識家也
辯才真法師　於教得禪那
口舌如翻瀾　而不失道根
性湛如止水　得風輒粲然
以是於東南　普服禪教師
士女常奔走　金帛常圍遶
師性不取故　物來不能拒
道成數有盡　西方一瞬息
西方亦非實　要有真實處

慧光訥法師

卒謚「宗教廣慈大師」，塔曰普照，在興福彌陀菴。光祿大夫宋之瑞作銘。

師覺法師

淳熙十一年卒，塔於彌陀菴。

妙珪法師

嘉定元年八月卒，塔於復菴。

思義法師

嘉定十六年卒，塔於鑑堂。

善月法師

端平三年三月卒，塔於柏庭。

佛慧法師文杲

嘉熙四年卒，塔於古鏡菴。

允憲法師

淳祐七年卒，塔於同菴。中大夫直寶文閣學士，林希逸為塔銘。

默堂法師正觀

咸淳元年卒，塔於彌陀菴。

慧寂玉禪師塔

在上竺山西。

佛光照法師塔

賜曰慈應。咸淳六年九月，度宗詔太傅魏國公鈞，齎俸資，為造天巖壽塔。二十六日乙丑經始，十一月乙未落成。於咸淳癸酉八月十五日，窆全身衣髮於天巖，在中印峯半之南。

禮部尚書文及翁撰塔銘曰：

台山蒼蒼　佛國相鄉
萬八十丈　鐘秀發祥
挺生晦巖　巍巍堂堂
禪宗教旨　律檢精詳
總歸一乘　純挈眾芳
游戲三昧　舌吐廣長
法嗣北峯　此一瓣香
洋洋覺海　我為津梁
及其示寂　破缽空囊
是幻是滅　非幻不忘
慈應之塔　玉立東岡
山君川后　擁護塔旁
經百千劫　古佛放光

元

如菴真法師塔

天如則禪師撰銘曰：

天台鉅宗　天竺盛集
匪伊人兮　孰造其極
異哉如菴　應化靡測
海月辯才　誰今誰昔
虢虢法雷　杲杲慧日
何燭非幽　何啟非蟄
歸藏故丘　是訓是式
子孫繼之　有永無斁

國朝

東溟日法師塔

賜曰妙應。在過山楊梅塢。
學士宋濂撰塔銘曰：

人天之際　所貴惟誠
能貫鐵石　可達潛冥
世之修學　思證無生
舍此不務　其將孰營
倬彼大師　為時俊英
春蒸草木　水翻建瓴
天延法胤　神夢符禎
出演鴻寶　丕昭性靈
飛樓矗矗　湧殿亭亭
琅函飾鳳　華虞鏗鯨
一實所感　百物交并
惟心所證　諸緣莫攖
出言石墜　轉盼露凝
釋門耆蔡　剎海章程
豈期蓮夢　遽生淨泓
世相莫廢　人文是徵
後千百載　尚信斯銘

存翁道法師雲隱塔

在雙桂峯之麓。
太子少師姚廣孝撰銘曰：

一念三千解行全　大蘇妙悟百世傳
部味教觀何幽玄　我菴得旨疏且箋
法師聯芳并教專　青鎮五竹兆已先　天竺下上宜榮遷
文藻黼黻成勝緣　四眾仰德加敬虔
左街政聲彌八埏　廣薦說法天子前
法才浩浩音清圓　龍顏喜動驚外筵
神燈下照光燦然　福及鬼域資人天
胡為一夕傾法船　苦海莫濟漣漣
靈龕深密窣堵堅　勒銘山阿垂萬年

宣德辛亥，上竺住持徒弟正順立石

止堂山法師塔

大理寺少卿楊復撰銘曰：

赤城分秀　滄溟減波
素蟾流暉　帝委厥和
合生異人　神邁惟一
匪俗克沉　慨歸於佛
海藏有文　含乳即通
百千萬卷　羲日以融
遭逢哲匠　道茂志長
駕摩訶衍　遊於沆茫
出世名剎　提綱顯司
宏加化度　大雲垂慈
龍司寢處　神相左右
我心孔雄　何有結漏
所作已辦　爰旋淨鄉
寂滅三昧　逍遙真常
白雲在塔　嗣法多孝
奉此塵剎　深心用報
支那天台　標屹自然

覩比舍利　性鑑同圓

性菴顧法師生塔

在乳竇峯下。
吏部尚書魏驥撰銘曰：

系出名族　教依大慈
釋典既崇　儒術亦窺
屢主道場　整矩頓規
坐猊揮麈　大眾悉歸
載啟載沃　釋彼羣疑
不懈亦勤　扶植教基
甲子未週　歸計遽為
生死瞭然　知者其誰
峩峩窣堵　卜 協蓍龜
百靈呵護　以俟期頤
靈鷲盤旋　祇樹蔽虧
過者宜式　視我銘詩

一菴如法師塔

在中印峯麓。學士楊士奇為誌。

蘭古春禪師塔

在上竺坐禪菴後。
上天竺講寺卷八終

杭州上天竺講寺志卷之九

天目山三學學人廣賓纂

規製品

像設

廣大靈感觀世音菩薩尊像，按李東瀛誌準神異記載，天福年間，道翊既得奇木，異香襲人，膚理神色，與凡木迥殊。翊就竹竿巷雕塑匠孔仁謙，造觀音大士。孔剖之，有大士像宛然天成，不假刻削。冠服具美，慈顏婉好。孔欲易以他木所為者，翊輒夢大士云：「吾像孔已匿之幮庋中背面者，是毋為致欺。」翊往迎，果更別像，乃以夢語諭之，孔不能隱也。

按《武林外史· 靈奇識》云，仁謙因其形似，即造大士像。既成，妙貌莊嚴，寶光煥發。夜亡列燭之明，晝掩曦輪之影。其為神異，不可格思。邵生云：「大士之靈，假乎像，不依乎像也。」然法身本無限量，今高二尺四寸，坐相。左右侍善財、龍女，並異香具足相好。

殿北擁壁，今易木龕，奉大士滲金銅像，坐相，高六尺，左右並大士銅像。嘉靖甲子，寺僧平澗募造。

殿左右中架，奉十六王子聖像，坐高約四尺五寸。

左右後架，奉十地菩薩聖像，立高約七尺。

左右前架，奉護法諸天像二十位，立約二尺四寸。

殿奧，奉彌勒應身銅坐像，約四尺。

左右後古藏經廚內，奉銅大士，洎善才、龍女，約高四尺。嘉靖年，鹽官陳普惠為寺淨人，專事殿之啟閉洒掃、香鐙鐘鼓之役，暇則喃喃經佛而已。銖積日施三十餘金，裝嚴十地諸天等像。新飾廚龕，易木座為石臺。舊誌紀之。

後殿，奉丈六銅大士像。嘉靖四十五年，華亭大學士徐階鑄捨。又奉千手眼大士像，約量八尺，減塑。又銅大士坐像，約五尺。左右擁壁，奉天台五百聖僧像，增塑。北面擁壁，塑星宿海，奉熾盛光佛、藥叉大將，下奉三大士鐵像，坐約五尺。

白雲堂北磚殿，奉毘盧遮那佛，坐約一丈六尺，銅冶金裝。并蓮花四十八瓣，亦銅也。萬歷末年，淮僧真寶募造。

前殿，奉四天王天神，增塑。又彌勒應身坐像，高五尺。萬歷乙未，平湖陸冢宰光祖造施。

護法殿，奉韋馱尊天坐像，高四尺五寸，減塑。

鼓樓下，奉阿彌陀佛，洎觀音、勢至銅立像，高六尺，三面塑擁壁。

鐘樓下，奉地藏菩薩坐像，高一丈；洎左右十王立像，高六尺，並銅鑄。

伽藍殿，中奉敕封福祐靈濟公像，左奉大權、修利、華光、周宣、關聖諸神，右奉五顯神等坐像。

祖師殿，奉菩提達摩、天台智者、開山道翊尊者三坐像。

藏經閣，上奉阿彌陀佛坐像，東向奉千手眼大悲立像，並約五尺餘高。

香山殿，奉文殊、普賢、觀自在三大士；三面擁壁，塑香山勝境。

文昌祠，上奉帝君坐像，閣下奉定光古佛應身像。三官祠，奉三官大帝坐像，高六尺。

國初，僧錄存翁和尚頂相一軸，國公李景隆書贊。崇禎己卯五月廿八，雲中房火，廢。

姚少師道衍遺像，存如淵房，木商吳宗伯竊去。〈自贊〉見贊類。

董方伯承詔建兩峯堂，請像留白雲東院。

供具

靈感大士內殿一座，高二丈四尺，深一丈二尺，闊如之。雕鐫彩繪，精好光嚴，古名「最吉祥寶華龕」也。龕以內設百寶牀一座，木類栴檀，飾諸珍異。長四尺，闊二尺，高尺許。廼成祖文皇帝所供，奉安大士真身於上。背張屏扆上懸大圓智鏡幔，以錦綺加瓔綏等飾。龕以前橫安雕几，几用磚面，示有警也。盛列彝鼎，羅香華鐙燭之供。龕以下琢石為臺，高五尺，闊二丈四尺，深二丈。左右納陛，拾級而陞。石臺不徧處，以木綴之。臺端三面繞以闌干。萬歷中，雲間徐分司知白公，蠲資整飾。因禁一切人毋登龕殿，溷涅真身，使扃鐍之，卒不能久也。龕以外雜以罘罳伏蹕。金絲幢旛，掩映交羅，氤繚繞，其為殊勝，不可名狀。天順年，製為聯曰：「福聚海無量，是故應頂禮。」又髹漆經笥二。又黑鈿香盒一。又古銅牌二，闊六寸，長一尺，琢經偈者。又黑漆神位，高尺許，螺鈿嵌其字曰「靈感觀世音菩薩」，是可稱山門神器也。自天啟丁卯年，舊住持興美、寂嘉不交付下手所存。凡大士祈禱出山，古遺座前白銅軍持一具，左右金螭為耳，注淨水於中；如誠感雨應，則先夕先旦，必水從鉼溢，或泡沫汎躍，斷斷無爽。又座前，香爐一，花瓶二，皆古銅者，寺舊物也。殿中，大方爐一，花瓶

二，古銅者，太皇太后張賜施。大方銅燭臺一對，高五尺，狀元諸大綬施，廢。銅報鐘一口、大鐵磬一口，古所遺者。巨鐘一口，約三千斤。雲板一面，約三百斤，岐陽武靖王捨，洪武十七年十一月二十七日，住持惠隱鑄。又銅籤筒一對，每約二百斤，太監劉捨。洪武十五年，住持妙修承領，今廢其一。又銅塔一座，約高五尺，成化廿三年，周太后鑄捨，今奉安後殿。殿前，鐵爐一具，約三千斤；其製鑄以鼎蓋，承以石臺，泥不陷，雨不濡也；萬歷庚子，織造太監孫隆鑄捨。四月初八日浴佛古銅盆一，崇禎年間，住持通藏，廢。

後殿前，銅角端一具，約七百斤，即香爐也；萬歷十二年，平湖顧其忠鑄施。崇禎三年暮夜，被偷兒竊去，其首其身鎔鑄供器五，事見存藏經閣。

天王殿左隅，磚紙爐一座，方廣約一丈六尺。爐亭石為柱，約丈四尺。天啟元年重建。前此嘉靖中，郡城孫立甃。萬歷中，錢塘李思明修爐基，古公界地也。近議香山殿牆外南，地長三丈三尺，闊九尺，係福一山房已業。眾以堆貯爐灰，取便每春二月初三，聽其房收化紙錢一日，以為地稅。古剎竿石柱一合，每柱匾方高一丈，在紙爐南。大士行殿一座，金彩莊嚴，方廣四尺，高八尺，行則十六人舁之。

碑記

宋洪內翰邁撰〈上天竺講寺碑〉曰：

華藏世界毘盧覺海，萬億河沙諸佛菩薩，均以大慈能仁、闡豁悲願為出世導師；而隨念融攝，從聞思修，使末劫有生持戴瞻仰如在其上者，惟觀音大士為然。自給孤靈山、勝身贍部、兜率毘盧之宮，補怛洛伽之谷，無量無垠魔區鬼窟，未有不靈赫示化、暢宣正機，而放大光明；覺有緣眾，接物利人，因病施藥，直若家至到者，惟錢塘天竺為然。故其肇始於道翊師，示夢於錢忠懿，顯祠於咸平，浮像於天聖，易十方於妙臻，還舊貫於元淨；塵塵剎剎，久而愈昭，於是有「靈感」美名之錫。當時寶光示現，濬發兆祥，絢爛隮升，上澈霄漢，湛然虛明，普照四天。知制誥呂夏卿、龍圖閣學士沈文通、寶文閣待制陳軒，紀載於前，可覆視也。遭靖康孽火，鞠為灰燼。蒿目淺智，意其復初為難。人天護承，否極必泰；大駕南巡，狩臨是邦；紹開中興，寧濟方夏；雖英謨雄烈，士業得以憑藉。然窈冥沕穆，非菩薩焉依？凡請雨謁晴，不嫌於屢。故六七十載，昭事愈飭；傳序三聖，年增歲加。錫鑾和鈴，薦往法駕；捐內帑金幣，俾建經、鐘二樓。會法安僧之堂，羅漢之閣，水陸之

宇，視所應為，次第崇立。孝宗創於西北隅，啟十六觀，賜之玉缶觚彝、珠宮金相、寶冠纓絡，價數十萬緡；親製贊文，特書兩扁，終之以法輪寶藏。聖安太上亦揭賁雲章，今皇帝又申「永作天台教寺」之旨。凡禪、律、賢首、慈恩異宗，毋得窺覦更易，然後學者知所蒙賴。是教也，本於智者建化，以妙為宗，以如為體，以法華三昧為極致，以安養國土為依歸，以止觀為修證之要。蕩一切塵，以空為觀；立一切法，以假而觀；究一切法性，以中而觀；以五時八教判釋如來一代訓典，訖於無生真諦，超最上乘。教海淵深，義天高遠；業空緣廢，理勝惑亡；等於太虛，無惡不斷。厥今水精之域圓滿清淨，其門庭燁如，其堂殿穹如，其觀閣迥如，其廂廡邃如。羣居以智導迷，人知選佛之場矣。先後住持者，曰惟日，曰若訥，曰師覺，曰妙珪，皆擢錄教門，實稱僧中龍象。珪遺信求記不置，既書之，而又系偈言，其詞曰：

北山鎮錢塘　三竺分鼎峙
西峯居上頭　氣與下中異
南無觀世音　的以何年至
至今無作相　在此猶在彼
雖自西徂東　而實未嘗動
法門元不二　一一成菩提
應生無住心　了不滯空有
以我清淨眼　普鑒阿耨塵
白日當空虛　豈復留纖翳
皇居尺有咫　天近聖澤彌
多羅蓮花臺　不與昔時似
高皇屈萬乘　孝祖親製文
玉觚寶瓶彝　冠珞綵珠琲
價百千萬　莊嚴不遺力
誰言佛土遙　小叩則小應
炎天六七月　要雨雨隨注
乃至請晴霽　應念便護感
左右十六觀　攝彼散亂心
天台妙教宗　永永傳真諦
蕩蕩水精域　化樂侔天宮
太上及今皇　瞻敬更無極
咨汝白足士　思報君佛恩
善修成法身　一證一切證
譬如航巨海　龍驤駕高檣

無風送吹噓　難擬徹彼岸
珍寶祕幽谷　虎豹嚴衛守
無人為我先　可到不可致
菩薩具方便　總持觀十方
為巍大道場　誓願徧應物
紫金光結聚　若非煙非雲
闡宏慈悲心　為汝眾生父
念今聖天子　與佛俱有緣
拈花世尊前　咸透第一義
求闡無盡藏　護國并福民
剎那彈指間　聞見悉成佛
惟日暨訥覺　於今妙珪師
稽首大士前　洗我綺語業

元黃溍〈重建大殿記〉曰：

至元之三年，寺毀於災，惟聖像巍然獨存，諸珍異服器亦無損毫末，人以為是有神物陰護之。亡何而主僧仲頤告寂，延慶子思以五年夏五月來涖寺事，謂復故莫先治殿，以揭虔妥靈。各探己橐，出錢有差。俄有大商獻巨楠六十有三，尋收亡僧所遺錢緡、田畝各若干，而達官大姓相繼輸施。於是隨木之植以選其材，斂田之入以給其食，量緡錢之多寡以經其費。凡其制為間二十有四，悉準其舊。其崇八尋，倍其崇而益尋有二尺以為修，半其修而去尋有二尺以為廣。功未竟者三之一，子思以至正二年還四明之延慶。本無由延慶出領茲山，悉力殫慮，圖終其役。三年，本無逝。四年，慧日自下天竺陞補其處，節縮浮費，併裒眾施之羨餘，完以圬墁，飾以髹彤，而前堂後室煥乎一新。安奉如式，纖悉畢備；緇白之侶有所瞻依，薦紳之流咸欣慶焉。蓋天竺據羣山之奧，乳竇峙其前，白雲、獅子、雙檜諸峯拱揖其左右。其外則襟江帶湖，清淑所鍾；神棲聖止，光靈彰灼，有以大庇乎斯人。而杭在異時為行都，旄頭屬車之幸臨，宸章奎奏之褒飾，寶冠龍符、玉缶觚彝之賜予，燁其餘輝，下賁林壑；矧今昭代，帝德所覆，承護有嚴，名香花旛，中使狎至；王公貴人至於閭里好事之家，稽首募趨恐弗及，宜不難於以壞為成。然猶六更藏鑰，三換主席，乃克就緒。某是用備記其廢興之顛末，來者尚鑒於斯而扶植之，俾勿墜哉。夫大士以種種之形示現諸國土，以巍巍之力饒益諸眾生，非世諦文字可得而記之者，不敢贊一辭也。

宋丞相李綱譔〈建上天竺天台教寺十六觀堂碑〉曰：

上天竺寺，始自石晉天福四年，僧道翊法師開山。後忠懿王錢因感大士靈異，闢舊基聿新之，名曰「看經院」。逮高宗南遷，迭見祥瑞，萬眾欽仰，聖駕不時臨幸。乾道元年二月，住持若訥宣對稱旨，特補右街僧錄。四月，復進左街。上竺錄僧事者始此。特賜御幣金帛，鼎建十六觀堂，以為止觀之所，極其弘麗；東宮親書扁額以賜，曰「超諸有海」。先是，辯才淨法師於嘉祐、熙寧間兩住本山，兼統禪講二教律三宗，賜詩褒美。東宮復書「歸隱」之額，聽其退居興福。訥以觀堂之設，厥功甚偉；聖王之意，惻憫佛法日就湮晦，正欲闡明教觀，虔修《金光明懺法》於智者乍興之時，以續佛慧命。訥自謂日逼桑榆，不具紀述鐫勒貞珉，則無以昭示聖明之令典。時予提舉洞霄宮，倩予摭其寺之顛末，以詔來者知所紹述。不惟表章前聖之殊恩，抑亦振揚如來之墜緒。愚以西方聖人之教，專以了明心性、出離死生為事，至漢明帝時方入中夏。歷唐而宋，授受殊軌；惟曹溪頓悟上乘，獨傳心印。其次根器懸絕，各立鑪冶，遂有南能北秀之別。枝蔓興而宗旨微矣，必也逆遡釋迦之正脈；勿以止觀宣演為殊科，止以精修默悟為實地。其他如戒慧、空假中、半滿、權實、偏圓、大小之論，至於止觀之法，亦有十六之差殊。不知千柯萬葉，本於一根；千流萬派，本於一源；千經萬卷，本於一理；千態萬狀，本於一心。心外無性，性外無心；心即是性，性即是心。如千江月，處處圓明，不以水之闊隘、淺深而現影獨殊；如無塵鏡，人人普照，不以貌之黑白、妍媸而鑑形少異。此心性之本無不同，均稟同賦，皆可以成佛作祖也。如登萬仞之山，非一躩之能至，必由梯磴而可升。其行步之疾徐，皆由於足力之強弱。雖到有遲速，其同至於則一也。如涉萬里之津，非一息所能濟，必假舟楫而可渡。其登岸之後先，各隨其帆檣之備否。雖行分遠近，其同濟於險則一也。此猶根器之稟有不同，而頓漸之教所由立也。如大醫王對病用藥，在在差殊。故佛世尊隨機說法，種種方便。故頓者一聞千悟，如真金落火，重鎔迭鍊，不損毫釐。直是天生彌勒，不勞心力，到手圓成。漸者如盲人走路，覓響尋聲，全仗指迷；磨杵作鍼，全憑鍛鍊者也。學道之人，若能不求言於言，而求言於心；不求言於心，而求言於性；不求言於性，而求言於空。則空空不已，是之謂真空；言言皆泯，是之謂無言。三藏靈文，悟後全無半字；大千法界，個中普現真如。是之謂大解脫，是之謂最上乘，是之謂真般若，是之謂善知識，是之謂正法眼，是之謂無上覺。斯能仰報朝廷列聖之錫予，重輝祖燈萬刼之光明也。否則，蘭若翬飛，徒作心猿之檻穽窠巢，喪魄以昏迷；筌蹄山積，空勞書蠹之鑽研，糟粕入唇而吐去。其不為鐵圍湯火之俘囚，偏受冥途磔碾之果報者幾希！請各猛加淬礪，免教永墮輪迴。是為記。

宋次公楊傑撰〈辯才法師退居龍井記〉曰：

天台宗師辯才淨老，坐道場者四十年，指空假中以接人；其心契於聖智，具戒定慧以行己。其德動於幽潛，真有道士也。初住錢塘法慧院之寶閣，次住上下二天竺，又住南屏之興教；往來學徒踰萬人，分傳教觀，多能演其所聞，開悟學者。師平生未嘗輒有求於人，然所至必有四眾依嚮，莫不興感，善其有所致也。余在都下，時見趙清獻公與師唱酬偈頌，已知師之所存矣。及觀蘇子瞻與師詩，言其兒初弱不能行，因禱師加護，即壯而能行，然後知師功行至矣。師一日謂諸徒曰：「我筋力衰疲，倦於應接，安得幽僻處一菴地以養餘年？」檀越聞之曰：「師有退居之意，我輩蒙其德不謂不久，盍合擇可居之地？」乃於龍井山得敝屋數楹；主者不堪其居，願人為代以捨去。於是請師居之，又為師鼎新棟宇，不日而成。元豐八年秋，被命陪高麗國公子祐世僧統，訪道吳越，謁師於山中。乃度風篁嶺，窺龍井，過歸隱橋，鑒滌心沼，觀獅子峯，望薩埵石，升潮音，憩訥齋，酌沖泉，入寂室，登照閣，臨閒堂，會方圓菴，從容議論，夕而後還。異日遣其徒丐文以記其本末，余為之記。

明蕭山魏驥譔〈湖山佳處記〉曰：

杭為兩浙名郡，山水之勝，無逾於上天竺；咸謂：山之奇秀，寺據之矣。孰知寺東更有最勝之處，以草木蒙翳，人跡不通，其勝久祕。今郡都綱性菴者，嘗住茲寺；課講之暇，散策林下，注目盤桓，乃得其所勝。水天一碧，畫舫去而漁歌來，歌聲欸乃而繞於東者，西子湖也。岡巒起伏，獻秀騁奇，若拱若揖而峙於南者，乳竇峯也。削翠巉巖，參天錐立，不異砥柱而屹於其西者，雙檜峯也。蔡桂林立，虬松夾徑，清芬撲人而擁於其北者，天香巖也。性菴竊自歎曰：「天地祕茲靈境，其有待於我乎，吾其可舍乎哉？」遂於謝事之日，芟荊薙棘，作生塔於其中。前搆室數楹，以為晏息之所。於以究竟其實際，於以吟咏其性情。適其所適，樂其所樂，與鷲嶺祇園者無以異也。一日，其甥閩憲副錢公過之，以其勝也，乃以前中書舍人王尹實篆古「湖山佳勝」四字額之。迨浙憲使曾公聞之，復如王中書所題隸古，揭之楣間。由是性菴之居曰「湖山佳處」者，得名天竺山中也。徵余記之，余曰：「佛氏之教，苦空為要。一切有相，皆無足以動其中。雖巖居穴處，茹木飲澗，在在而得，何暇計其居之佳與不佳哉？諺曰『天下名山僧占多』，非也。殊不知，貴戚鉅家慕尚其教，聞其有道者，乃延之名山以居之耳，彼何嘗有心耶？若性菴以內宗外學之著聞，眾延之於杭之梵天、京之報恩、今之上天竺也，所居復何庸心乎哉？以杭之名緇擬之，若聖達觀之神異、辯才淨之廣博、孤山圓之清峻，性菴殆兼之矣，彼

區區世相，何足以混之乎？今求余記者，特以重人之標榜，似不能忘情耳。若謂有所執著，非知性菴者也。」庵曰：「執事之言，誠得我心，願記之。」
上天竺講寺志卷九終

杭州上天竺講寺志卷之十

天目山三學學人廣賓纂

器界莊嚴品

側聞根身曰正，宿業緣生，器界為依，吾心影現。以故大地本微塵無明所聚，名山多間氣，有道斯開。稽夫我虎林之所自也，遐祖崑陵，十萬里締南龍而盡局；邇宗黃海，五百年儲西目以開都。上衡天市之垣，外控海門之案。山勢北來，有朝宗之象；水形東去，無陵奪之虞。堂堂乎蓋九重天子之畿，非士民所敢當也；浩浩乎實五印聖人之域，豈鬼神所敢據焉？於是我大士瑞擁五雲，靈盤三竺。屏匝五峯，上聳摩天之碧；幢浮一剎，中函布地之金。遂令航海梯山，櫛風沐雨；玉帛走三吳之會，香華招百粵之衡。六橋深處，同參水月分身；九里清陰，更聽松風代梵。山固不殊佛國，地偏迴絕皇輿。詩云：「泰山巖巖，魯邦所瞻。」

按經曰：三千大千世界，約「一四天下」一日月所照臨，中有山王，高三百三十六萬里，名須彌盧。次第有山，高廣遼闊，俱以海間之。至八重外，出為中國河源。當西海之戌地，北海之亥地，有山縱廣萬里，高萬一千里，其下青白赤黑之河環其墟，是名崑崙。自崑崙東南觚角分條，由康姑九萬八千七百五十里出西羌天竺西番南界，曰六國。山之北一萬二千里，達巴蜀之嚴鵬山，分枝三派。南股歷雍思，入東蜀之南，過東北起平華頂，分二股。左股逾四川之東北，至雷磨山，起二支。一支入廣西與辰州之北界，合行過東梅峯北角，入建者踰潛陽山，起祖歷鉛山。其左股一條，踰玉山蓼華峯，起頂分三條。一條通祁門至黃山，下昌化竹嶺，洎於潛之白沙關四十五里，抵豪千關，乃崛起為西天目之金仙頂，是為武林天竺諸山之宗也。去府治一百七十里，高三千九百丈，周廣五百五十里，東南發脈三十里，至臨安之泥塢六十里，交新城之青牛嶺六十里，次富陽塌石嶺二十里，屆餘杭由拳嶺三十里乃錢塘。分金嶺蜿蟺東來，循五朝度龍門，伏而奮起，莫不陵深拔峭，布麓舒岡，若舞若翔，嶄焉鬱勃，為天門山。《錢塘誌》曰：「兩峯對峙如門也。」天門西南曰栗山，蓋天竺南北兩山所宗，有吳大帝石杵在焉。栗山北擁，為天竺諸峯，曰乳竇，曰雙檜，曰白雲，曰中印，曰獅子，是為上竺。曰稽留，為中竺。曰蓮花，曰月桂，為下竺。從上竺而南而東，為龍井，為大慈，為玉岑，為積慶，為南屏，為龍，為鳳，為吳山，皆謂之南山。

從上竺而北而東，為靈隱，為仙姑，為履泰，為寶雲，為巨石，皆謂之北山。合南北飛來，古謂之武林山。聯絡周匝，鉤綿秀絕；鬱蔥扶輿之氣，盤結鞏厚，濬發光華，體魄閎矣。潮擊海門而上者，晝夜再至。夫以山奔水導，而逆以海潮，則氣脈不解。故東南雄藩，形勢浩偉，生聚繁茂未有若錢塘者。加以南北山間匯為西湖，洩惡渟深，皎潔圓瑩，若練若鏡。若雙龍交度，而頷下明珠懸抱不釋；若蓮萼會敷拊瓣，莊嚴而馥郁，花心含蓄甘露。是以天然妙境，無事雕飾。覿之者心曠神怡，游之者畢景留戀。信靈山之佛國，宇內所稀覯者也。

形勝

雙檜峯

在白雲峯之右隅。上有雙檜婆娑，取雙樹之意。昔翊大師嘗趺坐其下。峯有巖，名雙檜巖，一名百丈巖。

白雲峯

在愚岡之右，雙檜之左。昔寺創始時，居人遠矚，嘗有白雲，儼如幢蓋覆其上，故名。實寺之主山也。

中印峯

大殿左山也。昔翊大師結茅西峯時，嘗入定，見大士語之曰：「汝前刼游西乾中印度國，吾受記汝，指其對峙之山曰中印，庶汝不忘宿因。」故名。是峯實居羣峯之中。

乳竇峯

寺之正案，奇峻插天，恰對大殿。下有石竇，出泉色白香冽，其味如乳。

獅子峯

在乳竇峯之右。昔翊大師經行時，忽聞獅聲震吼，故名。至今山腰有奇石，狀如獅。寺之把門峯也。

香爐峯

在大路側。狀如香爐，故名。按《武林內七誌》。

天香巖

在天巖房之後。舊有叢桂，故名。頂巖有奇石，狀如紗帽，名紗帽石。宋佛光祖師塔於此。

雙檜巖

一名百丈巖，見前。

烏石嶺

在白雲峯後。石色斑剝，奇石巖下有洞，名烏石洞。獵人曾於此獲虎，俗名虎巖。

當嶺

又名捫蘚嶺，在幽淙嶺之上，下為活沙塢。左迫削嶂，右臨深溪。緣木攀蘿，方可舉趾。非芒屩莫登。雖矯捷亦懾，故稱當。上為天門，東通龍井，南通五雲。

水出嶺

一名幽淙嶺，在當嶺下。有泉出自山巔，泠泠如琴瑟，大旱不竭。

猢猻嶺

在幽淙之下。舊有猢猻，故名。

梯子嶺

一名蘇子嶺，在華嚴塢嶺。由東坡與辨才得名。

楓樹嶺

在中印峯、愚岡之交。上多楓木，故名。

石人嶺

在烏石峯西，上有石如人。一名栗山，又名粟山。高六十二丈，路屈曲如羊腸。又名馮公嶺，通西溪。

愚岡

在白雲、中印交接之處。宋時培土號愚岡 ，蓋取愚公移山意。

琴岡

在大殿前。平圓豐正，橫亘可撫也。頂從白雲峯南抽小支，峻削如翠屏，如火雲，如陣旗；直下於麓，伏而為案，蓋天設也。青鳥氏云，此琴形法應菻竹，則琅玕清越，寺出韻人。

楊梅塢

在獅子峯麓。宋時楊梅甚盛，而金婆家所產，尤稱佳品，故以為名也。慧光訥法師退居此塢，宸翰賜額曰「彌陀興福院」。今僧德光興復。

華嚴塢

俗呼心安塢，以谷中為心安房也。今深處有華嚴山居，本名蘇子塢，相傳東坡、辨才嘗夷猶於此。

雲隱塢

在雲隱堂後。路通猢猻、幽淙、捫蘚三嶺。

歡喜臺

在雙檜峯之上。其臺平如掌，可眺覽，可觴詠。俗謂負樵者至此乃喜，故名。

四顧坪

去百丈崖不數武，堪趺坐、曠覽。

羅阜

上供五聖護法神，以鎮水口。

如意石

一名轉元石。面鏤如意文，曲折回遶。大悲泉經此出焉。

韋馱石

在乳竇峯東側。山尖巨石立如神，恰對大士殿，故號韋馱。

獅子石

見前。

紗帽石

見前。

烏石

見前。

仙人石

在猢猻嶺下。兩石相對老人洞。

石筍

在烏石下半。高數，圓峭特立，一名卓筆峯。董明德詩：

異種休誇玉版禪　嶄然頭角立層巔
遠尖自抱雲根壯　疊蘚誰疑雨籜纏
夢裏三生空過眼　胸中千畝謾流涎
應知不入寧公譜　出土摩霄是幾年

石人

在石人嶺頂上。高丈許，如人。近看如將軍戴笠然。又一處望，如幼女雙髻，又號女兒山。

老人洞

在猢猻嶺北隴。絕頂有石洞如室，可避風雨。

羅漢洞

在獅子峯。

流虹澗

匯五峯之水於普門外，又折而左，與淙老橋諸流合而為一，總名流虹。當梅霖初霽，積雨浹旬；奔湍激石，駛瀨穿雲；噴雪轟雷，跳珠飛沫。望之若素練縈紆、長虹亘地，故名。

南澗

發源於幽淙西，合華嚴塢水，會德馨橋出大澗。漢時名，即今之流虹澗。

雲液池

在白雲峯下。泉自山足湧出，瀦之石池如玉。
又名白雲泉。榮國公道衍〈次芝雲法師韻〉曰：

白雲飛出化為水　欻然湧起蒼崖底
初疑銀漢自空墮　忽驚瓊沫因風起
流來澗曲隨方圓　有時不動為雲眠
氣通崑阜石中玉　光挹泰華峯頂蓮
斗星倒影澄可數　小池分出開榛楚
渴麋下飲跪兩足　靈禽並浴敷雙羽
雨餘更覺清且深　雪霽欲汲應難尋

溶溶散野豈有意　滔滔出岫曾無心
嗟我重遊不知處　應喜樵人引來路
霞裾霑潤帶天香　從茲領得山中趣
遂傾一勺調枯桐　千刼熱惱須臾空
期與雲泉作世友　日日來此聽松風

池上有辨才手植山茶花，今無。

如意池

池以青石為之，方有丈許，面鏤如意文，曲折回遶，如流觴焉。

水月池

在中印峯前。宋寶祐五年十二月，理宗敕住持佛光照法師鑿之。

福聚池　清蔭池

俱在雲隱房。

華光池

在白雲西院。

清興池

在伴雲房。

徹骨池

在大士殿前，琴案之南麓。離位，以鎮火災。大可畝餘，今廢。載《武林梵誌》。

大悲泉

在正殿之乾。

夢泉

在雙檜峯下。宋崇寧元年大旱，廚水不給；主僧至法師，夢有泉發於西坡，鑿之果得，因名。

華光泉

在白雲西院之右，泉出崖石間。

白雲泉

在白雲峯下。

乳竇泉

在乳竇峯下。泉色白如乳，味香美甘冽。

水月泉

在中印峯前。

凝翠泉

在幻西房後。

冽泉

在普門房後，即流虹所瀦。出《邵誌》。

孫公泉

即無竭泉，在孫公亭石壁間。下有方池，可尺許。雖大旱不竭。

觀音出現井

在殿後，即神木發光之所。

幻應井

在正殿之巽，按生氣方也。今廢為鯨音之出路。

坐禪井

一名古春井，在中印峯下。昔古春法師坐禪處，故名。

楓樹巷

路通楓樹嶺。

雲心深處巷

路通幽淙諸嶺，古名蘇子巷。

多福巷

在乳竇峯前。道翊祖師靈塔出路。

楊梅巷

古興福院出路，內名楊梅塢。宋時楊梅甚盛，故名。

天竺路

闊四弓，有大樹為界，路旁沙灘地在外。由普門至上竺山門，有一千五百六十步。由山門外至小橋流水，計二十步。

大士橋

俗呼旱橋，在圓通門外。

瑞雲橋

在長中房。

金佛橋

在雲心巷口，普門內。宋淳熙間，慧光訥法師建。橋掘土得金佛一尊，故名。

琮老橋

在鼓元亭之上，僧琮建。規製堅固坦夷，行人忻忭。名曰琮老，誌其惠也。

天巖橋

在天巖山房溪上。

雲隱橋

俗呼仙橋，雲隱塔出路。

德馨橋

僧德馨建。路通雲棲五雲。

幽淙橋

在幽淙嶺下，德馨建。

捫蘚橋

在當嶺下。

山門橋

在上竺山門外，中竺天王殿前橋右。宋時辨才大師重建。

兩山尖市

在雙檜峯後。宋時做市於此，做市日揚旗。蓋此地通江干及留下人也。

紫雲坑

在活沙塢。

游記

宋，蘇子瞻〈三竺紀勝〉曰：

昔余守杭州時，與客出遊西湖之上，探奇攬勝，寄興舒情，極登臨之樂，蓋十年於茲矣。追憶往事，宛然如昨；而客慕想西湖之勝者，每從余問詢，不能悉為酬應，乃錄其心目之最稔者，凡十有八首，漫綴數語，并附詩歌。間有問者，輒舉以示之，使觀者了然，亦可以當臥遊也。

三竺之勝，周迴數十里，而巖壑尤美，空洞玲瓏，瑩拔清朗，如伏虬飛鳳、層華疊萼，妍態怪狀，種種絕勝。

宋，秦觀少游〈月夕同參寥子訪上竺辨才法師記〉曰：

元豐三年秋後一日，余自吳興道杭，東還會稽。天竺有辨才大師，以書邀余入山。比出郭，日已夕。航湖至普寧，遇道人參寥，問龍井所遣藍輿，則曰：「以不時至，去矣。」是夕，天宇開霽，林間月明，可數毫髮，遂棄舟從參寥策杖並湖而行。出雷峯，度南屏，濯足於惠因澗，入靈石塢。得支逕，上風篁嶺，憩於龍井亭，酌泉據石而飲之。自普寧，凡經佛寺十五，皆寂不聞人聲。道旁廬舍，或燈火隱顯，草木深鬱，流水激激悲鳴，殆非人間之境。行二鼓，始謁辨才朝音堂，明日而還。

皇明，楊守陳〈游天竺記〉曰：

杭多名剎，天竺為稱首，久欲游弗果。成化戊子秋，過杭，杭僧綱顧本源，遣徒廣無外請游。時予友御史魏孔淵暨予弟、予子六人同游，皆乘肩輿行。湖光山輝，交映無際；金剎畫鷁，隱見於松筠芰蓮之表。鐘梵與笙歌之音間作，令人耳目無少暇。西入山路，頗廣且夷，然益入益深，奧寥閒寂，第見古松離立拂雲，外聞澗水與松風交相鏘鳴而已。越集慶，至靈隱寺，寺靜潔幽勝；然昔稱五亭，無一存者。睹其高峯，勢若飛舞，巖壑奇峭，乃昔西僧謂自靈鷲飛來者，即天竺山也。其下有澗梁，以片石飲其流，冰齒，是謂冷泉。旁有呼猿洞，深且寬。傳昔有猿可呼，就手取果，亡久矣。轉而東一門，榜曰「佛國」。與山僧同至下天竺，見泉無跳珠者。訪流杯、翻經諸亭臺，但蕪址耳。中天竺荒寂類之。於是盡所謂九里松者，始到上天竺。詣觀音殿，寶光奕奕射人。僧為口數手指小朵軒，而壁石峻峭，松蘿垂陰。天香室對乳竇、白雲諸峯，若屏障前拱，空翠欲滴，寺之勝止此。然諸剎依城者，雜於綺麗喧囂；雖湖濱者，亦不能無。惟此則幽邃靜潔之極，宜其為稱首也。室中布

觴豆，談笑久之。僧能詩，請留詠。且詠且觴，樂殊甚。囘憶前數十年，欲游不得遂，豈山靈固遲之，以與傑友高僧同樂也耶？

王洪〈游西山記〉曰：

吾鄉多佳山水，最勝者西山；西山多名剎，最勝者天竺。永樂己丑，予告歸，偕友人相與策蹇，由北郭循湖堤折旋而西。湖水鏡靜，雲光倒垂，萬象在下；而漁人釣艇往往若鳧鷖，出沒煙波間，遠而益微，僅見其影。東望澄江如匹練新濯，遙接海色，茫然無際。又西逾集慶，至飛來峯，西山第一佳處也。其高不逾五六十丈，巖石嵬怪特異，若犢駭，若隼立，若鳥啄，若豹躍，若蛇逝，若棋置劍植，益玩益奇。上多果木，直榦碧色，不假土壤，根出石外，種種殊異，不可名狀。其下巖洞若曲室，玲瓏相通。泉自石出，滴石上作鏗然鳴。有亭曰冷泉，澗經其下，坦然澄瑩，毛骨爽徹。又西不里許，至下天竺，住持伯珪上人具禮邀款，遂同至上竺。石路夷潔，蒼松兩行，若翠羽蓋列。行綠陰中，清風徐來，暑日不爍。遂遇古春名宿，茶話久之。薄暮還宿伯珪所，觴小朵軒。脫帽坐石壁下，林壑陰翳，萬籟岑寂；山風飄颻，徐動林木；響應溪谷，間以幽鳥。聽之蕭然，有忘世之志。噫！予游四海久矣，嶽之秀者，泰岱、衡華；水之巨者，洞庭、彭蠡；而名剎、高士、勝僧，未有若吾鄉俱美者，吾徒樂而忘歸也。先遊之一日，大雨如注，予作詩有「不妨三日雨，一為洗山川」之句。及是，天雨朗霽，山水增秀，殆不非偶然，不可以不記。

夏時〈錢塘湖山勝概〉略曰：

凡稱山川之形勝，莫不以浙為首，浙以杭為首，杭以錢塘為首。分野在斗，疆域則揚州，形勢則自天目。龍飛鳳舞，歇落江湖，鍾靈於錢塘，餘不備論。即西過行春橋，由普福過集慶，月桂峯下有閻妃墓在焉。又西入佛國山，自下竺越中竺，至上竺。下竺則古跡為勝，上竺則觀音為靈。三竺之間，雲氣煙光，泉聲松籟；香凝鐘靜，耳目心神之會為之一空，恍如登極樂、出三界外也。

志辯

宋釋契嵩〈武林山志〉略曰：

其山彌杭西北，其道南北，旁湖而入。南出西關，轉赤山，逾麥嶺、燕脂。北出錢塘門，躋秦王纜船石，過秦望、蜻蜓二山，至駝峴嶺趾。左趨入袁公松門，抵行春橋。橋西通南之支路。過行春橋垂二里，南北道會，稍有居民逆旅，行人可休。益西趨二里，入二寺門，偪合澗橋。過合澗、龍迹二橋，自丹崖紫薇亭，緣石門澗，趨冷泉亭，至於靈隱寺。流水清泚，崖石環怪如刻削，乍覩爽

然也。自合澗南趨，更曲水亭並新移澗，距天竺寺門，西顧山障重沓相映，有若無窮。靈隱，晉始寺之禪叢也；天竺，隋寺之講叢也。其山起歙出睦，湊於杭西南，跨富春西北，控餘杭；蜿蜒蔓衍，聯數百里到武林，遂播豁然如引左右臂，南垂於臙脂嶺，北垂於駝峴嶺。其山峯之北起者曰高峯，冠飛塔而擁靈隱，岑然也。高峯之東者曰屏風嶺，又東者曰西峯，又東者曰駝峴嶺。其高峯之西者曰烏峯，又西者曰石筍，又西者曰楊梅石門，又西者曰西源。支出於西源之右者曰石人。其峯南起，望之而靄然者曰白猿。左出於白猿之前曰香爐，益前而垂澗者曰興正。又出於白猿之前而雲木森然者曰月桂。白猿之東曰臙脂嶺，白猿之西者曰獅子；又西者曰五峯，又西曰白雲，又西曰中印、南印。西向前走，迤邐於武林之中者曰無礙，又前者曰善住。並善住而特起者稽留，其稽留之西者曰蓮花，有巖號玉女。其蓮華之東者曰飛來峯，乃西域異僧慧理所謂「此吾國靈鷲下嶺之飛來者也，昔多靈仙隱焉」，乃呼白猿驗之。南屏、天竺北障，靈隱北瞰。後者東出，謂其潛徹異境絕。與城闉相去十有二里，周亦如之。秦漢始號虎林，以其棲白虎也。晉曰靈隱，用飛來故事也。唐曰武林，避諱也。或曰青林巖、仙居洞，亦武林之別號耳。然其巉鬱巧秀，氣象清淑，而他山不及。若其雄拔高極，殆與衡廬、羅浮遠矣。其山八九月，每夜霽月皎，則天雨桂實，其壯如梧桐子。其水南流者，謂之南澗；北流者，謂之北澗。自合澗橋至於白雲峯之趾，凡八逾橋，其七石也，其一木也。北澗龍迹橋至於西源峯之趾，凡七逾橋，其四石也，其三土木也。南澗源白雲峯之麓，東注，會它支澗，出閘口曲流西。復東注會奚家澗，入新移澗，出閘口曲流北之合澗橋。北澗源西源山之腹，東注，過騰雲塢口。稍逼楓樹塢口，湍於第五橋下，浸飛來峯趾，匯於西塢；漾渟於洗耳潭，瀦於渦渚東嶼，瀲灩於冷泉亭下。經呼猿石門澗，瀆激於伏龍泓。過龍迹橋下，東注與合澗，又東注。越二里過行春橋下，出靈隱浦，入錢塘湖。古所謂錢源泉出武林山，此其是也。此蓋有支塢者六，曰靈隱，曰巢枸，曰白沙，曰大同，曰騰雲，曰西源。是六塢者，皆有佛氏精舍，曰靈隱，曰碧泉，曰法安，曰資嚴，曰辨利，曰無著，曰無量壽，曰定慧，曰永安，曰彌陀，曰吉祥，曰西安。其精舍凡十有三，其十者在支塢，其三者廢。其三者宅正塢南，亦有正塢，皆有精舍，曰天竺，曰興聖，曰崇壽，講叢也。曰慶寧，曰永清，曰金佛，曰德澄，曰福光，曰天竺，禪叢也。古觀音氏垂象，與人乞靈，曰永宣。其精舍凡十，其五在支塢，其五廢。其五宅正塢。諸塢皆有居民錯雜其殷處，幾成村墅。然無阪墾，不牧牛犢羊豕，水陸不甚汙。其人不事釣弋漁獵，以樵莽自業。然同其在古潔靜清勝之風，未嘗混也。其山無怪

禽醜獸，惟巢枸之樹最為古木。松筠果蓏與它山類，唯美菽與靈山所生之枇杷、桂花發奇香異耳。

國朝邵重生〈武林山辯〉曰：

武林，杭之名山，因以名郡；而古今皆朦朧，未有直指的名為某山者。舊志以武林門右土阜（俗稱祖山者）當之。為其山先名武林，以避唐諱，改稱虎林。《成化志》引楊正質〈虎林山記〉，謂錢王時，祖山在郭外，有異虎；其山自名虎，非避諱也。又引宋樓鑰攻媿詩：「武林山出武林水，靈隱後山無乃是」。且宋《淳祐志》言《漢書》明載武林山為武林水所出，安有又避唐諱之說？決非城內無水小山，明矣。是夏斷以靈隱後山北高峯為武林山矣，與薛公通志同，惜偏而未全。《一統志》列武林山，當矣；下曰：「一名靈隱，一名靈苑，一名仙居」，以靈隱山、飛來峯二山為武林山，是矣，特認而未的。至沙門契嵩《武林山志》與泗水潛夫《武林舊事》，直以飛來峯為武林山，似矣又局而不廣。近田公《西湖遊覽志》、陳公《萬歷志》，皆不列武林山，而以靈隱山注「一名武林山」，豈惟齟齬不明，而名言更不正。今山予為辨者三，以伺質之夫君子焉。凡郡邑之著稱，必以郡中佳山水祖山，蟻垤不足以當，固矣。特靈隱之名，發於東晉，其先秦兩漢，厥名伊何？愚意凡謂之山者，以其全體而言也。其高聳者曰山峯，其如脊者曰山嶺。至岡陵丘阜，皆有分別，而一「山」字足以概之。故武林山之名，乃杭南北靈隱、天竺諸峯，慧理未來之先、之祖名、之總名也。自慧理既來之後，有飛來之名焉，有靈鷲之名焉，有靈隱之名焉，有天竺而後有五竺之名焉，五印度而後有中竺之名焉。至於蓮華、佛國、白雲、白猿、獅子、香爐，皆繼慧理發之，而為武林之支名。至於南高、北高、五雲、雙檜、乳竇、月桂諸名，又後人之濫觴也。其曰形勝，烏石、靈苑、仙居、龍門、楊梅、西源、善住、興正、瑞雲、慶化、集慶、秦亭，又土人之私謚也。自有諸名，而武林反以無專主而晦。如呼子之名，而不詳其祖父之諱。又如子孫寡而皆晦，則祖父之名自傳；子孫眾多而又著，則祖父之名遠而晦，久而亡，此常道也。故吳山、秦望，以宿名，非武林也。定浮、龍鳳，以沿江別派，非武林也。九曜、南屏、玉皇、大慈，以過峽，非武林也。黃鶴、皐亭、臨平、超山，遠而照對，非武林也。孤山、獨山，寡不成林、非武林也。黃山、安樂山、七十二賢山、焦山，水其所根源，非武林也。此外，諸南西北三面之山，戟攢旗矗如武庫森列者，有一非武林山，不可也。如羅浮有七十二峯，皆謂之羅浮山；黃山有七十二峯，皆謂之黃山；武夷有三十六峯，皆謂之武夷山。是可辯者一也。然此意未經高人明言，而意實見，往往如羅處約〈靈隱碑〉曰：「浙水之右有山，曰武林。」盧

襄〈西征記〉：「杭地北環天隱。」國朝楊太守〈開西湖疏〉曰：「杭州南跨吳山，北兜武林。」觀曰右，曰環，曰兜三字，則非一二山之指。羅公自是才子，楊公極善堪輿，盧公大於遊覽，故其所見之卓如此，其可辯者二也。且求武林山者，必當求武林水。杭南北二山之水，孰有大於三竺、靈隱之溪乎？南則從閂壁嶺，水出嶺，合雙檜、永清、月桂諸塢。北從石人、西源，合白沙、韜光諸塢，正與舊志合。曰武林山有二水，南出者曰南澗，北來者曰北澗。若惟以靈隱寺山為武林山，則惟有北澗而無南澗；若以飛來峯為武林山，則飛來峯無水，不出澗；若以靈隱、飛來二峯為武林山，則南澗從天竺諸峯來，發源不全；況舊志言西湖匯武林山水，秦時名武林水，至漢方有金牛、明聖之號。南北二山，凡有水流入湖者，皆武林山，其可辨者三也。始焉求之人心之同昧，既焉質之高人之偉見，終焉稽之形勝之現存，吾於武林也奚疑？

物產

白雲茶

郡志曰：白雲峯出者，名白雲茶，與香林、寶雲並稱佳品。子瞻詩有「白雲山下雨旗新」。又游天竺，嘗飲釀茶七椀，戲書云：「示病維摩元不病，在家靈運已忘家；何須魏帝一丸藥，且盡盧仝七椀茶。」今久不種。

桂花

志曰：天桂秋來特盛，非必種出月中，蓋亦地氣使然。子瞻〈八月十七日送天竺桂花與楊元素詩〉，見末卷。

楊梅

志載：三竺楊梅之富，在宋已然。惟楊梅塢金婆家為最。今上竺多不栽。

靈芝

有紫紅黃三種，皆木本。《七識》云：柄如漆者，是暑雨時採，蒸熟數年不變。

竹簞

生竹根上，色白而甘，無毒。

香灰

《七識》云：上竺紙爐灰，用布袋水淘，淀煆過白，而火不滅。

土檀香

乃樺樹根，亦名樺香，極清遠。

凡毛族、羽族、蟲豸、果蓏，與諸山所產無異，概不載。山中之土以砂，瘠且隘。日用蔬筍之屬，皆供之山外。

蔭木

引路古松，自上天竺山門內，至見心亭西，大小共一十七株。其間數圍者六株，餘則合抱。

淙老橋上首路南，張姓屋角，合抱樞口樹一株。

天王殿前，古柏三株，大數圍。

案山古楓木七株，大小杉木三株，温杉一株，婆羅樹一株，苦刁樹六株。

正殿前柏樹，左十二株，右十二株。

坐山牆以內，古楓木九株，大者數抱。大小杉木十一，栗木八，苦刁木十二，柏木二，榆木三，沙樸四，梧桐二，杜樹三，松木八，箬樹二，香檜二，香樟一。

牆外嶺上，大古楓二，苦刁一。

版籍

前代乘除，夐不可究。即國初圖，迄有變更。今准嘉靖三十五年六月初一日〈優免差徭帖〉文：上天竺寺，先朝始建。欽賜佛殿、寮房，基址洎九里松路，合計壹頃貳拾畝。

按鱗圖，前後正殿、鐘鼓樓、丹墀、紙爐基地一十一畝四釐六毫。又白雲、兩峯堂基地二畝八分八釐八毫。坐山三畝四分二釐三毫。

案山五畝五釐，並率字號；上竺山門內，行路兩邊沙灘地五畝。

見心亭上首沙地六分一釐二毫，下首沙灘地六分八釐八毫。

肅儀亭邊地四分七釐九毫，淺澗邊地一畝三分八釐二毫。

凡五峯以內，疆界縱橫不恆，其主總屬率字號，下具如鱗圖中。

佛殿基地十一畝一分四釐六毫。

開山祖師墳山五分，出路地四分七釐五毫。

前朝欽賜，百不存一。惟定山北管等圖地方，白石光山，所存一十一頃五十九畝。

錢塘蔣公圩，發字號田八十餘畝，見存。

古蕩，鳴字號莊基地二畝八分一釐一毫。

古巖，王字號田地計二百畝零，今存者半。

方井教場圩，伏字號莊基地一畝九分五釐八毫。崇禎四年歸并靈隱，有契田一百畝零。存有其半。

仁和十八都三圖，形字正字號田五百二十三畝。自隆慶四年至萬歷八年，詰告清理歸當差。

錢塘天竺港天竺橋，寺田二百畝，餘並廢。

方山女南鄉，推字號田一百八十畝。萬歷三十二年，寺僧圓逕、真諒、真定、祖玉賣。

紹興三年七月，高宗賜上竺寺，平江府許墅莊田二十頃。

隆興二年七月，孝宗賜上竺寺，臨安府錢塘、仁和、秀州、嘉興、崇德、平江府等處，田禾買該科敷色役等事，盡行蠲免，給下箚付石殿後。

淳熙十一年，孝宗賜秀州田十頃，詔住持師覺承領。

慶元二年三月，三省同奉光宗聖旨，其所賜田地、山蕩等項，勘照累朝指揮，重行蠲免。

嘉定六年，光宗賜崇德田一十五頃，詔住持善月承領。

端平三年，理宗賜錢塘、仁和、富陽、海寧等處田地、山蕩、沙地四十五頃，詔住持梵奎承領。

嘉熙二年，理宗賜錢塘、仁和、富陽、臨安，山，每縣一十五頃，詔住持文杲承領。

淳祐三年，理宗賜松江府華亭、上海，田一十頃，詔住持法照承領。

寶祐元年三月，理宗賜全免各處莊田糧稅。

景定三年，理宗賜湖州府德清、烏程、歸安、長興，田五十頃，詔住持智觀承領。

四年十二月，詔上竺住持妙銛檢會木籌納苗事，給省箚石。

施田

宋宰臣韓莊敏公，施上竺寺以平江府許墅莊田二十頃。至景定五年，其孫侍制韓大倫，述大父施田緣起，作記勒石。

景定二年，丞相賈似道以上竺寺莊田水荒，捐吳中田二千畝，親屬記，遺常住，勒石兩峯堂東。至咸淳三年六月，申省理平江府許墅莊田納苗放糙事，丞相箚下者，三歲省米二百五十石。

平章賈魏公〈施田記〉曰：

釋氏法施為無量，施捨特粗迹耳。嗇於己者率以是藉口。似道不謂然，直謂捐甚愛而空所有則可，以是求福田利益則不可。捐空之，在我不失為廉；如求所利，則於理第見為貪。貪廉係行己界限，所貴乎明辨於利與善之間也。似道自以身殉國，第見夫仁可成，生可舍，平日所自有者，一不得視為己物。而莫甚於己未之冬，訖於庚申之春，命之短長，直在屈伸肘間。當時母子骨肉離散，它抑可知已。人能於此發深省，則身且非我有，而何有於外物？外物不攝於心，則好貨財、私妻子之念自可頓悟。貪風絕，廉道興矣。然是心也，人固或存於艱急之時，而不能不忘於安逸之日。以艱急而存，以安逸而忘，曾是以為悟乎？斯心斯語，似道嘗於侍側。及至吾母，重有感焉。一日命似道曰：「汝能作施捨功德否？苟能是，汝固為真廉，又將以善承吾志而孝。」似道奉命惟謹。會辛酉春，所建石橋寺、曇華亭成。實宦未達時，嘗於斯地有心，逮今酬之。所撤舊材，積於亭側。一日晝晦，風雨大作；及小弛，則若有物徙而空之者，寸尺不復存矣。及五百聖僧茶，茶甌中一一現異花，猶夫常也。中現四字，其文曰「大士應供」，聚觀者神之，豈將有所動悟於似道耶？夏五月，常雨為災，上命近臣詣天竺禱大士。導迎至於明慶寺，似道嘗精禱，許飯千僧。亡何獲嘉應。以六月二十八日往謝且酬。既遂事，佛光法師請於似道曰：「寺田已捐，僧飯將絕。僧非穀粟不生活，飢將奈何？內溝若己，公志也。」似道為之動，於是蹶然思外物之何有，體吾母之所命，遡大士之有緣，急輟吳中伏臘之田，為畝二千，永作常住供養。亦曰空諸所有，非以是求福田也。吾儒家法，福惟自求。布施求福，何以異於市賈之利合而動？不惟非所以自待，所以待大士也，宜不如此！吾儕小人，朝不謀夕，相時射利，遑卹厥德？似道惟於坡老之言，知所涵泳，惟大士證明。若曰為善必獲福，厥應的不爽；願以此功德回向於君親，亦惟大士證明。

清理

按《七識》云，上竺莊田，南宋六朝所賜，約二萬畝，至今盡皆迷失；惟仁和十八都田五百三十畝，為珠輩佔。隆慶四年，寺僧道梁等具告軍門谷中虛，累經按院二司，凡更縣父母三。直至萬歷三年，方結判還本寺。今臨平有莊。

〈辯復莊田議〉曰：

南宋六朝，欽賜莊田，無慮數百頃，盡皆迷失；惟仁和十八都一等畾田五百三十畝零，備知去處。邇年鄉宦諸名公，憐寺僧倍賠消耗，白諸撫按、藩臬，郡邑為之辨，復行拘勘究是實，准令給主。奈所司更代不常，數年方始歸結。然逋欠數多，難於追給、判還本寺，具有成案可查。不惟所費不貲，亦心力俱弊矣。雖一時喜動顏色，自識者觀之，有隱憂焉，何也？彼乃土著之鄉民，視為故物；此係置郵之過客，不少寧居。易姓更名，藏形匿影。據租契，則另是一番人；求實迹，則不脫原舊根苗。以瘠薄代膏腴，以低窪抵高阜，或鑿池養魚，或種桑造屋；指東說西，以多減少。故老莫窺其宿弊，清官難究其隱衷。若使連年荒旱，不能辦納糧差；況經手老僧，難保長生不死。將來後進，不能早見預防，用力參差，為謀舛錯；約伴同行，豈得齊心并力？爭先退後，必致眾怒羣猜。若不另立良圖，斷然仍蹈覆轍，悔之何及也？道梁、平淨等決須會集同事僧淨芝、平澗、德孚、圓逕、圓週、淨楠、德霖、道柯、德雷，糾請該圖里書、當鄉知識、本山耆舊，親往田所，將瘦搭肥，以高就下，計畝均分，作為十處。務要各成片段，不得補湊牽連。拈鬮畫地，各立莊房。聽其與人租種，或躬臨耕作。間遇年荒，稍獲微利，此為可久之計耳。不知作倡以為何如？

今將撫按、司道、府縣批詞，詳允緣由，開具於後：

隆慶四年四月十六日，寺僧道梁、平淨等具告，欽差都察院谷，准批仁和縣查斷速繳，蒙縣主陳，每畝判餘租米二斗，具申。本院詳批珠等所佃既係寺田，每畝每年止出二斗，大不得其平矣，無怪乎寺僧屢屢告鳴也。且原議應追價銀，今已延捱數年，遂置之不問，可乎？仰縣仍秉公查處，勿偏護也。此速繳。

本縣奉批覆查珠等，田地蕩有上中下三等，上等三斗，中等二斗五升，下等二斗，具申，本院詳允。仍出帖給示，珠等升合不吐。

隆慶五年二月二十七日具告，布政司姚，准批，仰縣究報，蒙縣主張，具招申詳，蒙批照原招結繳。又三月初七日具告，管糧道劉，准批，仁和縣掌印官嚴加究報，蒙縣主張，具招申詳，蒙批依擬。珠等納贖，葉初收贖。完日與道梁等各發寧家焚修，取庫收認。退狀繳餘照行，陸巖免提。

十一月十八日告，按察司謝，准批，仰本司孫經歷，究報具招申。

免帖

杭州府錢塘縣，為乞遺照例優免差徭事。據上竺寺僧道霑告稱，本寺先朝始建，欽賜佛殿廊房基址，九里松路一頃二十畝，并坐落定山北管等圖地方，白石光山一十一頃五十九畝，及賠糧田地一頃六十一畝。歷年無收花利，稅糧年賠，煩苦不勝。即告，業蒙憐恤，均徭、丁田、雜派悉照無息。光山之例，每百畝准作一丁編役訖。若不告乞給帖，誠恐後役概派，臨難控擾，乞賜給帖准免，萬感恩德等情到縣。據經行拘該圖里老裘通奎等，結稱，上天竺寺所告前項山路基址，果係先朝始建，欽賜基產，并定北地方白石光山無收花利，賠糧是的等情，具結前來。覆查得基址松路白石光山，花息無收，悉照光山之例，已經審派，每百畝准作一丁編役訖。擬合通行移送丁田遞送兵等房科知會外，為此帖仰告僧道霑等收執。候審差役注明白聲說，賫帖赴審以憑准丁扣算照免，毋得代人受寄影射，查出重究不恕。須至帖者。

右帖仰上天竺寺僧道霑等收執，准此。

嘉靖三十五年六月初一日，帖押。

又帖

嘉靖三十五年五月　日，為前事給帖，仰僧道霑收執。詞同不錄。

又帖

萬歷二十四年十二月廿四日，為查究奸弊以清國稅事云云。右帖仰上竺寺僧道柯收執。

又帖

萬歷三十四年三月初十日，為懇天纂額遵輸事云云。右帖仰上竺寺僧遠暉等收執。准此。

上天竺講寺志卷十終

杭州上天竺講寺志卷之十一

天目山三學學人廣賓纂

帝王檀越品

側聞地登歡喜，出為閻浮提王；果襲應真，間作妙嚴世主。統無為之化，推有道之權。亭毒斯氓，棟梁吾教。乃若雄為王，雌為覇，學菩薩發心；內則釋，外則儒，現官家說法。昔吳越國王，副仄微之懸記；及南朝天子，賚殊渥於偏安。丘墟之棘，金碧旋暉；刼燒之灰，堊丹倍麗。矧茲天竺，舊屬皇禋。乞桴鼓於禁雩，弭磁鋮於菑害。陰翊王度，喜綏民巖。遂爾矗堂殿也虹霓，煥山川兮錦繡。中使之馳，而道相望；尚方之賜，而月無虛。六飛駕即，儼警蹕於中林；千指食繁，籍田莊於列郡。永著名山之寵，茂彰大士之靈。故曰信受奉行，斯不負世尊囑累者也。志檀越。

敕命

太祖高皇帝

敕浙江杭州府僧綱司都綱弘道奉

奉天承運，皇帝制曰：「古帝王設官任職，分理庶務，已有成制。稽諸典禮，設以僧官，以掌方外之士，非徒為僧榮也。然其率修善道、陰翊王化，爾非真識寡欲、澹泊自守者，奚足任斯職哉？朕倣古制，受爾以官，給爾以符；爾其體至心，以己之善化人為善。來朝考績，朕將合焉。欽哉。」

洪武十六年七月十六日

又敕左善世弘道

奉天承運，皇帝制曰：「佛本無心，而言心不已；所言不已者，為有心者也。故以無心而導有心，攝聰敏之邪以歸正，啟頑惡以頓良；設如來之威力，以此道而被大千。今爾弘道，履是法門，節度斯道，必人天於爾知，方契無心之本乎。朕昨勅見任僧官，於百萬千中求同佛心者。爾今為眾所推，而至出萬百千人之上，是為希有。特命為僧之第一僧錄司左善世，宜慎善世以消頑，毋增頑以

長惡。廓然無依，寥然稱寂，乃證佛之場。必履是道而弗迁，實方今之稱首。欽哉。」

洪武十六年九月二十日

英宗睿皇帝

欽賜杭州上天竺寺大藏經敕命

皇帝聖旨：「朕體天地保民之心，恭承皇曾祖考之志，印大藏真經，頒賜天下，用廣流傳。茲以一藏安置浙江杭州府上天竺講寺，永充供養，聽所在僧官僧徒看誦讚揚。上為國家祝釐，下與生民祈福，務須敬奉守護，不許縱容閑雜之人私借觀玩，輕嫚褻瀆，致有損壞遺失。敢有違者，必究治之。諭。」

正統十年二月十五日

聖旨

太祖高皇帝聖旨

洪武二十一年戊辰

三月十四日，僧錄司左善世弘道等，於中右門欽奉聖旨：「恁僧錄司行文書各處僧司去，但有討度牒的僧，二十已上的，發去烏蠻、曲靖等處，每三十里造一座庵，自耕自食，就化他一境的人。欽此。」

四月二十六日，僧錄司左善弘道等，於奉天門欽奉聖旨：「靈谷、天界、天禧、能仁、鷄鳴等寺，係京剎大寺。今後缺大住持，務要叢林中選舉有德行僧人，考試各通本教，方許著他住持，毋得濫舉。欽此。」

六月十四日，僧錄司左善世弘道等，於奉天門奏：「各處來未有度牒的僧人，見於靈谷寺，長髮住坐。」奉聖旨：「明日帶他來入見。欽此。」

次日，左善世弘道引髮僧於奉天門奏，奉聖旨：「宣諭了，你仍舊剃髮為僧。欽此。」

六月十四日，僧錄司左善世弘道等，於奉天門欽奉聖旨：「今後有不守戒律的僧人，發他天界、能仁寺工役。欽此。」

八月初一日，僧錄司左善世弘道，於奉天門欽奉聖旨：「天界寺只作『善世』為額。欽此。」

洪武二十二年

八月初九日，僧錄司申該本月初一日早，本司左善世弘道等，於奉天門欽奉聖旨：「西河洮州等處，多有不曾開設僧司衙門，恁僧錄司差漢僧、番僧去打點，著本處官司就舉選通佛法的僧人，發來考試，除授他去。欽此。」選到漢僧、番僧人一十名。

本月初八日，本司左善世弘道等，於奉天門奏，奉聖旨：「著禮部出箚，付恁僧錄司，出文書與他，八月二十日起程去。欽此。」當即將僧花名申部。欽遵施行。

八月十七日，僧錄司左善世弘道等，於奉天門丹陛奏：「天禧寺管塔和尚福興，帶鐵牌點燈不便。」奉聖旨：「舒了他。欽此。」

洪武二十四年

六月初一日，欽奉聖旨：佛教之始，自東漢明帝夜有金人入夢，是後法自西來。明帝敕臣民願崇敬者許，於是臣民從者眾，所在建立佛剎。當時好事，在法入之初，有去鬚髮而捨俗出家者，有父母以兒童子出家者。其所修也，本苦空，甘寂寞，去諸想慾，必欲精一己之英靈。當是時，佛教大彰，羣修者雖不能盡為圓覺，實在修行次第之間，豈有與俗混淆、與常人無異者？今天下僧寺，以上古剎列聖相繼而較者。佛之教，本中國之異教也。設使堯舜禹湯之時遇斯闡演，未審興止何如哉？今佛法自漢入中國，歷歷數者一千三百三十年，非一姓為君而有者也，所以不磨滅者為何？以其務生不殺也。其本面家風端在苦空寂寞。今天下之僧多與俗混淆，尤不如俗者甚多。是等其教而敗其行，理當清其事而成其宗。令一出，禪者禪，講者講，瑜伽者瑜伽，各承宗派，集眾為寺。有妻室願還俗者，聽，願棄離者，聽。僧錄司一如朕命，行下諸山，振揚佛法以善世，仍條於後：

- 自經兵之後，僧無統紀。若府若州，合今僧綱司、僧正司驗倚郭縣分，僧會司驗本縣僧人。雜處民間者，見其實數；於見有佛剎處，會眾以成叢林，守清規以安禪。其禪者，務遵本宗公案，觀心目形以證善果；講者，務遵釋迦四十九秋妙音之演，以導愚昧；若瑜伽者，亦以見佛剎處，率眾熟演顯密之教應供，是方足孝子順孫，報祖父母劬勞之恩。以世俗之說，斯教可以訓世；以天下之說，其佛之教，陰翊王度可也。

- 令出之後，敢有不入叢林，仍前私有眷屬，潛住民間，被人告發到官，或官府拿住，必梟首以示眾。容隱窩藏者，流三千里。
- 令出之後，有能忍辱，不居市廛，不混時俗，深入崇山，刀耕火種，侶影儔燈，甘苦空寂寞於林泉之下，意在以英靈出三界者，聽。

洪武二十七年

正月初八日，欽奉聖旨：自佛去世之後，諸祖踵佛之道，所在靜處，不出牖。明佛之旨，官民趨向者，累代如此。效佛宣揚者，智人也。所以佛道永昌，法輪常轉。邇年以來，踵佛道者，未見智人；但見奸邪無籍之徒，避患難以偷生，更名易姓，潛入法門。以其修行之道不足以動人，一概窘於衣食，歲月難度。由是奔走市村，無異乞覓者。致使輕薄小人毀辱罵詈，有玷佛門。特敕禮部條例，所避所趨者，牓示之。

- 合避者，不許奔走市村，以化緣為由，致令無籍凌辱，有傷佛教。若有此等，擒獲到官，治以敗壞祖風之罪。
- 寺院庵舍已有砧基道人，一切煩難答應官府並在此人。其僧不許具僧服入公廳跪拜。設若己身有犯，先去僧服，以受擒掌。敢有連僧服跪公廳者，處以極刑。
- 凡欽賜田地，稅糧全免。常住田地，雖有稅糧，仍免雜派。僧人不許充當差役。
- 凡住持并一切散僧，有交結官府、說俗為朋者，治以重罪。
- 若欲游方問道，在所雲水者，親齎路費，循道而行，往無定止者，聽。民有善德之家，一見如此，禮而齋之者，受。施財者，納之。
- 僧有妻室者，許諸人捶辱之。更索取鈔五十錠，如無鈔者，打死勿論。
- 有妻室僧人，願還俗者，聽。願棄離修行者，亦聽。若不還俗、不棄離，許里甲鄰人擒拿赴官。循私容隱不拿者，發邊遠充軍。
- 僧寺庵院，一切高明之人，本欲與僧攀語，顯揚佛教。奈何僧多不才，其人方與和狎，其僧便起求布施之心，為此，人遠不近。
- 今後秀才并諸色人等，無故入寺院，坐食僧人粥飯者，以罪罪之。

嗚呼！僧若依朕條例，或居山澤，或守常住，或游諸方，不干於民，不妄入村市。官民欲求僧以聽經，豈不難哉？如此，則善者

慕之，詣所在焚香禮請，豈不高明者歟？行之歲久，佛道大昌。榜示之後，官民僧俗人等，敢有妄乖為者，處以極刑。欽此。

成祖文皇帝聖旨

永樂十七年

二月二十八日，宣僧錄司右善世一如等於西紅門，當蒙頒賜一如，佛像二軸，佛骨五塊，鈔一千貫，諸佛菩薩名稱歌曲大小三本。當即入見，欽奉聖旨：「恁一如等，為朕編類禪宗語錄來看。欽此。」當即題奏：「中間合無去取？」奉聖旨：「祖師說的，都是佛法，不要去取。欽此。」

三月初三日，宣一如等八人，於西紅門欽奉聖旨：「將藏經好生較勘明白，重要板經面用湖水素綾。」當口題奏：「合無用花綾？」奉聖旨：「用八吉祥綾。」當又欽奉聖旨：「每一面行數、字數合是多少？」當口題奏：「五行、六行的，皆用十七字。合無只用十七字？」欽奉聖旨：「寫來看。欽此。」

五月二十二日，一如、進庵，於內用作門裏奉聖旨：「你兩個做僧官，較藏經，再尋一人。欽此。」

七月初九日，一如等於御用作門裏，呈看僧人子謨等六十四人所寫字樣。奉聖旨：「好。當題後面有幾僧還欠寫。」奉聖旨：「只就今日好日，揀好寫的。」又題：「唐太宗的藏經，前面有〈御製三藏聖教序〉。今聖朝重，合無亦用序文？」奉聖旨：「不要。欽此。」

九月十二日，一如等題奏：「藏經目錄裏面，前是經律論，後是各宗祖師文字。聖朝所編的《佛名經》與《名稱歌曲》、《神僧傳》，目錄內合無編寫在經律論後、諸宗文字之前？」

奉聖旨：「安在後，只要有朕名時便了。」又奏：「太祖高皇帝御製〈心經序〉，聖朝諸咒前亦各有序，合無於各經前都寫上？」奉聖旨：「太祖於佛法上多用心，都寫上。」又奏：「奉累朝如唐太宗、宋太宗等，經前多有序文，合無寫上？」奉聖旨：「都寫上。」

永樂十八年

正月十六日，大內觀燈宴。十七日早，宣一如、菴進、法主思擴，未至二人。於西紅門見著，看師子畢，敕問：「藏經較得好了？」當奏云：「已七番較過，好了。」奉聖旨：「上緊用心。」

又敕問：「你夜來看燈來？」奏云：「曾看。」有旨云：「著人尋你，如何不見？」奏云：「在後面有。」又奉旨云：「不曾擠了麼？」奏云：「不曾。」又奉旨云：「與燒餅各五十，齎了去。欽此。」

七月十八日早，一如等於奉天門口題奏：「昔日太祖皇帝取到各處高僧，命如玘、宗泐等註解《心經》、《金剛》、《楞伽》三經，頒行天下。內有太祖高皇帝御製序文，合無寫入藏板？」奉聖旨：「寫入。」又題：「聖朝《佛菩薩名稱歌曲》作五十卷，《佛名經》作三十卷，《神佛僧》作九卷，即目見寫？」奉聖旨：「是好。」又奉聖旨：「經板後留在何處？」不敢對。當奉聖旨：「明日安一藏在這里，安一藏南京。」又奉聖旨：「石上也刻一藏，大石洞內藏著，向後，木的壞了有石的在。」又奉聖旨：「這里蓋兩個大寺，如今僧取來的，有聰慧的，選下些，明日起大寺了，著他在這里住。」當奏云：「僧裏面只是老的多了。」又奉聖旨：「有病的，著他回去。又如今寫經的，都念經。」奉聖旨：「也難遇著他念經。」當又欽奉聖旨：「寫經的寫經，也要辦我的事。欽此。」

御製

宋孝宗皇帝誦《金剛般若經》三萬卷，製箚降上竺住持訥法師曰：「平昔以來所食禽魚之類，傷害為多。今仗般若為除此過，庶使羣生俱承解脫。」

宋真宗皇帝製《法音集》一部。大中祥符二年癸丑春三月，又製偈曰：

初祖安心在少林　不傳經教但傳心
後人若悟真如性　密印由來妙理深

又自寶祐六年十一月，製〈上天竺觀音記〉，御書登石，惜今不存。

太祖高皇帝御製〈竺隱說〉賜僧錄司左善世弘道曰：

僧之殊俗者，去姓是也，務立字為名。爾以道竺隱稱，自以為奇，不知色界之道無盡，法界之道無窮，斯道幽乎？顯乎？有相無相，曲如羊腸；一縱一橫，誠如十字。又若弦在雕弓，其世之君子小人，故有馳之異同，今爾道名可謂志矣。且竺者，西域之國名也。我中土智僧，此立為剎，爾云於此而隱，其道承如來之教乎？說者如來成道時，放眉間白毫相光，照大千界，指迷破暗，利濟羣

生，豈不彰之顯之？爾乃以隱自任，何也？且隱者匿也，吾所不取。至者人明其道，幽其德，名彰不朽。果隱其道，則不許。然嘗聞聖人有云：「德不在彰，道不在顯，終日乾乾。」汝若是乎？若此，後必了然哉。

皇明慈寧皇太后賜上天竺觀音瑞蓮聖像，御製贊曰：

惟我聖母　慈仁格天
感斯嘉兆　厥產瑞蓮
加大士像　圖寫流傳
延國福民　霄壤同堅

其年月上用「慈聖宣文明肅皇太后之寶」。

召問

宋孝宗於隆興元年秋七月初，臨幸上天竺寺，陞大士殿，北面未展敬次，問住持若訥曰：「拜是？不拜是？」若訥對曰：「拜則遞相恭敬，不拜則各自稱尊。」上乃拜。

乾道三年春二月，駕幸上竺，問《光明懺法》之旨。若訥曰：「梵釋天帝、四大天王下臨土宇，護國護民，故佛為說金光明三昧之道。後世祖師立為懺法，以資諸天之威德。故帝王、道士皆可修持。」上悅。

一日，上問：「佛法固妙，安得如許經卷？」訥對曰：「有本者如是。」上然之。

九年春正月七日，召左街僧錄若訥入對選德殿。上問天竺緣起及大士靈迹，若訥對曰：「起自石晉天福四年，僧道翊者結庵山中，夜每見前山發火。尋之得異木，取而刻為觀音像。夢神人曰：『明日有洛陽僧來，可求舍利。』果得舍利三顆，置菩薩頂髻中。每有請祈，靈感特異。開寶間，吳越國王錢俶夢白衣天人曰：『吾居處甚陋。』覺而詢得其地，乃廣其殿宇，名『天竺看經院』。英宗治平間，沈文通、蔡襄繼守杭，疏其始末。宰相曾公亮敷陳之，賜額曰『感應觀音院』。今蒙陛下宸翰表章，方成大剎。」

上又問《法華經》旨，訥隨答之，上曰：「宗教俱通，其師之謂。」

一日又召訥法師，令入內講《圓覺經》。至「於此虛妄心，若無六塵，則不能有」，訥曰：「心本無形，因塵有相；塵滅心滅，真心湛然。」上手書其語賜之。

上又嘗問《金剛》之旨，若訥曰：「此乃六百卷般若中一分，興問斷疑，特喻金剛。故無著論云：『此金剛波羅蜜，以如是名顯

示勢力。絓是般若，皆有是力。』此既諸般若之釋疑。是故『金剛』二字，文雖出此，義實通諸般若作譬。故持說者福重功深。」上曰：「朕日讀此經，今更命眾合誦三萬卷矣。」

孝宗又幸天竺，駕經飛來峯，上問淨暉法師曰：「既是飛來，何不飛去？」淨暉對曰：「一動不如一靜。」已而駕至上天竺寺，上問：「觀音亦持數珠，念誰？」對曰：「念觀音。」上曰：「何故自念？」對曰：「求人不如求己。」上悅。

理宗皇帝寶祐三年值天基節，詔上竺佛光照法師入對。上御延和殿，賜講《華嚴經》，皇情大悅曰：「自是不同，自是不同！」厚賚齋幣。上又問無諍三昧之旨，法照對曰：「按《般若經》：『我得無諍三昧人中最為第一。』天親論解曰：『無諍者無欲也，有欲則有諍。』須菩提不但得無諍三昧而已，又於無諍三昧之人之中，最為第一。」上首肯久之。

太祖高皇帝洪武改元，召江南有浮圖待問。上天竺住持慧日法師奉詔入京，上御奉天殿，僧如魚貫而見。時慧日年最高，白眉朱顏，列班之首。(上問以升濟沈冥之道，慧日備述其故。上悅，顧眾言曰：「邇來學佛者，惟飽食優游、沉埋歲月而已。如《金剛》、《楞伽》諸經，皆攝心之要，何不研究其義？苟有不通，質諸白眉法師可也。」)

賜賚

宋

真宗

大中祥符二年癸丑春三月，賜「上天竺看經院」額。

仁宗

皇祐七年八月，賜「靈感觀音院」額。又賜祕典五千二百三十卷為教藏。

高宗

紹興元年，賜祠牒，并捐兩浙祠廟施錢，令轉運吳宗哲、張綬之修造上竺殿宇，極其壯麗。

三年，賜平江府許墅莊田二十頃。

七年二月，賜沈香龍十四，金香爐一，玻璃淨瓶二，大銅鐘一。

孝宗

隆興元年，建藏經閣，賜御書「轉大法輪」之扁。又賜御書「雲漢之閣」。

二年，賜「靈感觀音寺」額。又賜七寶冠一，玉龍符一，玉罇、壺瓶、彝爐各一。

九月，建法堂，并五百羅漢閣，御書「靈感觀音寺」額。

十月，禱雨輒應，上大悅，賜內府三品玉帶。

乾道二年三月，賜若訥法師「白雲堂」印。

三年，賜「觀空淨域」額，皇太子書。

二月，詔每歲佛誕日，例賜帛五十疋。

八年二月，賜錢建藏經閣，東宮書「法輪寶藏」額。

淳熙元年，賜福州印造藏經五百函，賜內帑建閣。

十一年，賜秀州田一十頃，詔住持師覺承領。又賜若訥法師「歸隱」二字，皇太子書。退居楊梅塢興福院。及逝，賜謚「宗教廣慈大法師」，塔曰普照。

寧宗

慶元元年五月，賜妙珪「廣惠法師」號。

二年十一月，壽成慈惠皇太后賜金瓶六十兩。

開禧元年，賜住持妙珪「復庵」二字御書。

二年七月二十二日，賜錢建十九觀堂。

嘉定六年，賜崇德田一十五頃。

四年，賜住持文杲「佛慧法師」號。

淳祐元年，賜大士像及御書〈聖教序〉、御書《心經》，又賜玉手爐。

五年九月，重新五百羅漢閣，賜御書「超諸有海」扁。

八年冬，祈雪應禱，敕法照法師管教開公事，賜座下衣紫者，六度僧錄，修造祠牒十本。

九年，重彩大士，賜七寶冠瓔珞一，玉屐一兩，加賜金錢萬餘。

本年九月，明禋，賜賚如前，御筆特書「法照」，賜號「佛光法師」，進錄左街，賜金襴袈裟。

寶祐元年三月，賜度牒二十本，米四百石，修大殿觀堂，兼全免各處莊田糧稅。

十年，賜法照「晦巖」二字。

三年，詔法照入對延和殿，講《華嚴經》，厚賜齋帛。

十一月，上御復古殿，宣若訥進見。以皇妃請禱，思學首眾，如前厚賜齋帛。

五年九月，特賜法照金香盒，幣帛、湯藥五十緡。

六年，明禋，賜如初。賜封伽藍神「福祐靈濟公」。賜法照御書「靈峯堂」三字，復賜紫金襴。

景定二年，賜妙銛「白雲」二字。

度宗

咸淳三年秋，禱晴輒應，賜祠牒十二，師號十二。

六年三月，賜錢重建鐘、經二樓；復詔太傅平章魏國公鈞賚俸資，為法照建天巖壽塔。

皇明

成祖文皇帝永樂二十年十月初六日，上御奉天門，賜僧道官，宴天下眾僧，亦在丹墀。宴畢，先賜僧錄司一如，刻絲觀音菩薩。有旨問云：「你道是什麼？」不敢對。上云：「我兩年擺布的文水晶數珠一串。」

成化二十三年，太皇太后周，賜沁金銅觀音聖像一尊，銅塔一座。

嘉靖十年，昭聖康惠慈壽皇太后賜旛袍，修齋五晝夜。

嘉靖三十八年，唐世子施旛、修齋。

嘉靖四十年，楚王施旛二首、修齋。宜春王施旛、修齋。

嘉靖四十五年，崇王施錦旛、錦袍，修齋三晝夜，裝塑天王四像，內殿石臺一座，裝千手眼觀音一尊，左右善才、龍女二尊。

萬歷辛亥年，神宗皇帝遣中使李承恩，賜珠冠、衮袍、玉帶、青圭。

萬歷戊子二月，中宮皇太后賜錦旛二首，以小旛叢翼之。

崇禎甲戌四月，潞王施金扁一道：「大慈悲父」四字。

崇禎戊寅七月，中宮皇太后周，專遣戚畹周金吾，賜織錦千佛寶旛二首。

宸翰

吳越國錢忠懿王

賜手書「天竺看經院」。

宋高宗

御書上竺額曰「靈感觀音之殿」。

孝宗

御書「轉大法輪」之扁，以隆興元年八月賜上天竺寺藏閣。又書額曰「雲漢之閣」。

隆興二年秋九月，御書「靈感觀音寺」額，詔住持應如承領。

孝宗又命皇太子書「觀空靜域」之額，以乾道三年二月賜於十六觀堂。太子即光宗。又敕東宮書「法輪寶藏」額，以賜新成藏殿。

淳熙十一年，東宮書「歸隱」二字，賜慧光訥法師蓮居興福院。

理宗

御書《心經》及書〈聖教序〉，同大士像，賜上竺，時淳祐元年。

十一年九月，御筆特書「法照」，賜號「佛光法師」。又敕議上竺大士號，住持法照摭《大悲經》「廣大」二字聞奏，大悅，加「靈感」之上。牌座、殿扁、字額，皆親灑宸翰以易之。

寶祐元年九月庚午，詔佛光復領寺事。十月大書「晦巖」二字，以華其號。

又御書「靈峯堂」三大字，以侈佛光生緣之地。

六年十一月，又御書親製〈觀音記〉，登之石。

景定二年十二月，御書「白雲」二字，賜上竺住持左右街、仲鑒法師妙銛。

臨幸

宋高宗皇帝

紹興二年幸上竺寺。

四年九月又幸。

五年乙卯九月丙辰又幸。

孝宗皇帝

乾道元年幸寺。
二年三月幸寺。
三年二月幸寺。
四年九月庚午，從太上皇幸寺。
淳熙二年春三月幸寺。
十一年又幸。

光宗皇帝

紹熙元年幸寺。

寧宗皇帝

慶元元年五月幸寺。
四年九月幸寺。
嘉定元年幸寺。
六年又幸寺。
十二年幸寺。
十六年又幸寺。

理宗皇帝

紹定二年幸寺。
端平三年幸寺。
嘉熙四年幸寺。
五年幸寺。
淳祐元年幸寺。
七年幸寺。
八年幸寺。
十年夏五月幸寺。
是年冬又幸寺。
寶祐元年幸寺。
三年幸寺。
是年又幸。
四年二月幸寺。
五年九月幸寺。
景定二年九月幸寺。
三年七月幸寺。

度宗皇帝

咸淳元年春二月幸寺。

是年復幸寺。

三年又幸

四年八月又幸。

五年八月幸寺。

六年三月又幸。

諭祭

仁宗昭皇帝欽賜祭葬上天竺寺天巖山一如法師，諭祭文曰：

維洪熙元年，歲次乙巳，三月庚辰朔，初九日己卯，皇帝遣禮部員外丁鎡，諭祭於故僧錄司右闡教一如：維靈深明宗旨，精專戒行；解脫塵緣，眾所敬服；榮膺國命，俾長緇流。方期化導愚冥，丕闡釋教；屬茲圓寂，良用感悼。茲特遣人賜祭，性靈不昧，尚克享之。

上天竺講寺志卷十一終

杭州上天竺講寺志卷之十二

天目山三學學人廣賓纂

宰官外護品

側聞遊諸國土，現宰官居士之身；治此郊圻，擅外王內聖之學。心勞密行，蹟著異聞。乃若朝廷屢寄以麾符，天下並思其風采。刳心檀度，刮目藻揚。斧斤土木而適合時宜，翰墨文章而善弘佛事。是皆莊嚴淨聖之覺場，表帥烝民於神道者也。況茲大士，旱乾水溢，凡禱捷臻；饑饉薗傷，有蘄響答。山川之祀，陰恃以祈天；兵革之鋒，闇彌於向日。五馬望塵遙拜，雙龍載路羣歌。得非民命是憑，政聲斯藉者哉？加之道德所居，慈悲兼獎。蘇趙作家而神交臻辨，賈秦誤國而心服晦圓。別多折攝之方，綽有經權之妙。遂令津梁後進，城塹當時；虛心咨請者忘疲，極口頌稱者匪妄。外侮攸禦，非類自俊，故曰：「孔門有季路，使惡言不入於耳也。」志外護。

師友

宋・趙抃

字閱道。熙寧三年四月，以右諫議大夫給事中· 資政殿大學士知杭州。十年五月再守杭，與天竺辯才法師道契，嘗贊之曰：

阿師去天竺　山空鬼亦哭
天竺師復歸　道場生光輝

及致政，會於龍井，號二閑人。作〈閑堂〉志其事。

宋・蘇軾

號東坡居士。熙寧三年六月，以直史館通判杭州。元祐四年三月，以翰林學士出守杭州。一日訪辯才不值，題白雲堂壁曰：

不辭清曉扣松扉　卻值支公久不歸
山鳥不鳴天欲雪　捲簾惟見白雲飛

嘗以幼子蘇迨效靈運故事，剃度天竺觀音前，權寄緇褐。後遇恩奏，迨授承務，乃以度牒一道另度一人，贖迨回。嘗具奏，詔慈辨法師從諫住上竺，弘天台教觀。當時人立公生祠於靈鷲寺後。

宋・秦觀

字少游。元祐初，累遷國史編修官。與天竺辯才方外契深，有《游記》、《龍井記》、《神異記》、《唱和記》；又寫〈辯才龍井十題詩〉，遺其徒懷楚刻石。

宋・李偃

政和五年，以起復集賢殿修撰，為徽猷待制知杭州。嘗訪上竺宣梵珍法師，值諸塗而立談，因建植杖亭紀其事。

宋・尹焞

字彥明。紹興中召為崇政殿說書，權禮部侍。在朝班時，嘗迎天竺觀音於郊外，有問：「何以迎觀音為？」對曰：「此西方大士也，眾皆迎，敢違眾？」

咨請

郡守蘇子瞻嘗問辯才法師曰：「此山如師道行幾人？」辯才答曰：「沙門多密行，非可盡識。」

高麗國王弟僧統義天者，慕法，留滯朝廷；以其國母思憶，促其歸。時義天問法上竺慈辨諫法師輪下，諫諭之曰：「高僧道紀負經游學，以母不可捨，遂荷與俱。謂經、母皆不可背，以肩橫荷。今僧統賢於紀遠甚，豈為經背母使憂憶乎？」義天於是有歸志。

有貴客謁柏庭月法師，問何以安心，月云：「心本不動。」又問《法華》經藏，答云：「當處全彰。」

王孟公請益上竺咸法師以「十六觀」義，咸曰：「佛在十萬億剎外，而提封不越方寸。若克循觀道，則往彼非遙也。」

資政學士鄭公問咸法師《楞嚴》「八還」之旨，咸曰：「迷心為境，八法瞀亂；達大觀者，一念自反。」

郡太守入山，見池中紅蓮，問咸法師曰：「既是白蓮社，因甚卻開紅花？」咸曰：「山中并喜君侯至，任是無情也改容。」守又

指看經羅漢，曰：「既是無學，如何看經？」咸撫羅漢背云：「何不祇對？」

趙彥肅，嚴陵人，登慶元進士，洛學之翹楚也。嘗謁上竺印法師，問：「如來出世，先說何法？」印曰：「示生同居，先苦諦也。」又問：「諸大乘經，多奇詭駭人；來至《法華》，何其平易？」印曰：「羣機未熟，必先動盪；機熟會入，衒駭何為？」自是深識時教大旨。初，彥肅好詆佛氏，此後嘗謂門人曰：「法恩逾於父母，非小子所知也。」

秦檜嘗問上竺圓智法師：「止觀之義，一法耶？二法也？」智曰：「如水湛然而清者，止也；可鑒鬚眉者，觀也。法界寂然名為止，寂然嘗照名為觀，豈有二耶？」

陳行婆見慈辯諫法師，師問：「修行許久？」婆稱：「修行多年。」師問：「曾見阿誰？」婆稱：「多見善知識。」師問：「如何指示？」婆曰：「直截根源，也不看經，也不念佛。」師云：「錯了也。」因為說法，婆既信服。又示以二頌。

信施

五季・錢忠懿王

弘俶，文穆王子也。以石晉天福四年道翊所創觀音像菴，感夢大士曰：「吾居處甚陋。」覺而廣其殿宇，改額曰「天竺看經院」。王為人崇信大法，前後造寺數百。及歸朝，以愛子為僧。

宋・張去華

襄邑人。咸平元年，以給事中守杭。自正月至五月不雨，躬迎大士，奉安梵天寺，禱之，甘雨隨澍，因作諸福事。

宋・蔡襄

治平二年二月，以端明殿學士、禮部侍，出知杭州府。時宰相曾公亮以錢十萬委襄為扁。襄為書。所賜院額揭之殿楹。

宋・陳軒

字元輿，建陽人。紹興元年八月，以龍圖閣學士知府事。奏上賜以祠牒，并蠲兩浙祠廟錢修造。令轉運胡宗哲、張綬主之，極其

壯麗。四年，軒移金陵，慈辯以書求記，寶文閣待制李琮為立石。

宋・丁謂

封晉公。以蘇人擅移皇堂，貶崖州司。恐禍不可測，道杭祈佛，飯僧於上竺。手為疏，後以此疏寄京師知己。至達睿見，因得不死，亦佛之借力也。

宋・相國吳履齋

淳祐九年九月給省箚，減下沙莊、沙場、沙地八分稅之六。

宋，待制韓大倫

景定五年，述其大父莊敏公，舊施平江府許墅莊田二十頃，自作記以勒石。

宋・秦檜

與上竺圓智法師善。檜嘗問智以「止觀」之義，智為開諭，甚簡而明，檜悅乃拜，隨施錢五萬緡，為修建上竺觀堂。邵山人曰：「按此，檜殺岳飛，惡聞岳字之時，知有佛法矣。在檜不肯露報應悔懼之意，在僧不敢露解寃釋結之情；但借應對以為施予，漸近佛家，以冀冥護。檜立心作意陰暗如此。」

元・別兒怯不花

至順元年，由廣西都元帥，為江浙行省參知政事。次年拜左丞相。行至淮東，聞杭大火，仰天揮曰：「我不德，累杭人也。」馳赴鎮錄以賑卹之。每遇霪雨亢旱，輒恭禱天竺，無不響應。

著作

五季・皮光業

襄陽人，日休子也。貞元初，為鎮海軍節度使推官。後轉兩浙觀察使，為撰〈上天竺觀音看經院靈應記〉，存。

宋・李照

時以大中祥符七年，由集賢學士出為杭州司理，譔〈天竺看經院靈感觀音聖像記〉甚詳。後燬於兵燹，不存。

宋・蘇轍

字子由，累官翰林學士、門下侍。元豐三年謫高安，又自績溪召還。道歙，由錢塘追訪子瞻遺迹。十月八日遊上天竺，念子瞻昔與辯才相好，尚隔南山，作三詩寄之。辯才卒，子由為塔銘。

宋・楊傑

無為人，元祐中為侍。與辯才法師分洽，為譔諸記、十題和詩并序。嘗館伴高麗王弟義天，問法慈辯法師。贊其能滿所望，作禮而去。

宋・宋之瑞

光祿大夫也。淳熙中，譔〈上竺慧光法師若訥（謚「宗教廣慈大師」）普炤塔銘〉。

宋・趙時逢

官提刑。紹興五年二月甲寅，住持妙珪建千佛閣成，逢為之記。

宋・李綱

高宗南渡，建炎元年，召為尚書右僕射，擢居相位。纔七十五日，朝綱、軍政肅然振飭。為黃潛善、汪伯彥所讒，遂罷，提舉洞霄宮。孝宗乾道元年，召上竺若訥法師入對稱旨，發幣金建十六觀堂，綱譔碑文以表章之。

宋・洪邁

煥章閣學士也。慶元四年九月，詔住持妙珪立寺碑，邁為撰文并書。

宋・陸游

字務觀，寶謨閣待制也。開禧元年，詔上竺前住持兼左街僧錄妙珪，再住上竺，前後共二十二年。上嘉其行解，御書「復菴」之額以旌之，殆與若訥接武揚休者也。游為記并書。

宋・樓鑰

四明人，吏部尚書內翰也。開禧二年七月廿二，賜錢建十六觀堂成，鑰為之說。

宋・文禮

天目禪師也。嘉定元年，述十六觀堂舊記，并為手書。

宋・程公許

刑部尚書兼侍讀學士也。嘉定十六年，撰〈上竺右街監義思義塔銘〉。朝奉大夫、起居舍人兼直院牟子才書。

宋・林希逸

官中大夫、直寶文閣學士。為撰〈上竺住山允憲法師塔銘〉。

宋・尤焴

修史內翰也。淳祐十一年，理宗御筆特書「法照」，賜號「佛光法師」，焴為恭跋。

宋・文及翁

累官朝議大夫、禮部尚書、兼直學士院、兼修國史、實錄院同修撰、兼侍讀。為撰〈上竺佛光法師慈應塔銘〉。

元・黃溍

義烏人。博極羣書，發為文章，如澄湖不波，一碧萬頃。累官侍讀學士。與上竺東溟竺隱諸公有方外交，嘗撰殿記。

元・盛熙明

龜茲人。乃祖、乃父生居西域，世與佛鄰，善誦佛書，深達梵語。嘗禮普陀山、上天竺大士，親承瑞應，乃纂四品，曰自在功德，曰洞宇封域，曰感應祥異，曰興建沿革。

國朝・宋濂

金華人，為國初佐命功臣，官翰林學士。嘗得法千巖和尚，世傳為永明後身。凡法門文字多出其手，嘗為〈上竺日法師塔銘〉。

姚廣孝

吳郡人，初為沙門，嘗僑大明山居。選侍成祖文皇帝，起靖難兵，官至資善大夫、太子少師、兼修國史。嘗為〈生隱道法師塔銘〉。

楊復

吳興人，累官中順大夫、大理寺少卿。正統己未，為〈上竺都綱止堂山法師塔銘〉，禮部中兼翰林院侍書，錢塘蔣暉書。

商輅

淳安人，蓋資德大夫、正治上卿、太子少保、吏部尚書、兼文淵閣學士、制誥、經筵官也。成化丙申，為上竺撰〈鐘樓記〉。

趙寬

吳江人，賜進士出身、中順大夫、奉敕總理學政、浙江按察司副使。於弘治癸亥為撰〈上竺靈感觀音寺記〉。又述〈觀世音感應頌〉。

夏時正

仁和人，以南京大理寺卿致仕。成化癸卯，為譔〈上天竺修造記〉。

江瀾

仁和人，以賜進士出身、翰林院編修、文林、經筵講官。弘治庚戌，為撰〈上天竺觀音後殿記〉。

魏驥

蕭山人，以資善大夫、南京吏部尚書致仕，奉詔進階一級，九十六翁。成化丙戌，為上竺都綱性菴顧法師，撰生塔銘。又〈湖山佳處記〉。

徐江山

號六橋，官至奉訓大夫、尚寶司少卿。嘉靖壬寅夏五月，為郡伯陳希齋公禱雨天竺，甚響答，作〈靈應頌〉。

諸大綬

山陰人，進士及第，翰林院修撰、承務。嘉靖壬戌，為譔〈雷侯柏山公遺愛堂記〉。

旌舉

宋・呂溱

皇祐三年，以起居舍人守杭州。謂天竺住持甲乙相承為不稱，特奏以聞。仁宗乃詔南屏法師梵臻，弘天台教觀。

宋・孫沔

皇祐五年，以直閣學士、給事中知杭州。延禪師幻旻住持上天竺，繼以禪師智月開堂，提唱宗風，凡十年。

宋・沈遘

字文通。皇祐七年八月，以起居舍人知制誥、禮部侍，出為杭守。遘，浙人也。從父老請：「大士以音聲為佛事，宜教不宜禪。」亦為具奏，賜名「靈感觀音院」，詔辯才法師弘天台教觀。

宋・張詵

元豐四年，以龍圖閣學士知杭州。以上竺首座法炤法師用文陞為住持，文乃南屏慈辯法師弟也。

宋・翁彥國

宣和六年，以徽猷閣學士知杭州，奏以慧覺法師齊玉為上竺住持。玉卒，石林葉丞相夢鼎為銘，吳說書。

宋・康允之

建炎三年，以徽猷閣待制守杭，奏以普明大師如靖住持上天竺。

宋・孫覿

紹興元年，以朝奉龍圖閣待制知府事，奏以佛炤大師智堅為住持。時丁兵火，賜以祠牒，建後殿及僧堂。

宋・梁汝嘉

紹興三年，以龍圖閣待制知府事，奏上以圓通大師應如為住持。

宋・鄭清之

丞相也。端平三年，奏上竺梵奎為住持，詔補左街僧錄。

宋・吳潛

寧國人，嘉熙五年，以中大夫試工部尚書、兼吏部尚書、兼侍講，知府事，奏上，詔允憲住山。

宋・趙與[竺-二+((己@((巨-匚)/匚))/心)]

淳祐七年，以資政殿學士兼觀文殿學士，知臨安府事，奏詔上竺以法炤住山。

宋・史彌遠

四明人，當國日，奏列五山十剎，比仕官之九棘三槐；仍分禪教，如文武班。僧必出小院，聲華彰著者拾級而陞。當時列上竺為教院五山第一山；下竺為第二山。中竺為禪院十剎第一剎。

元・高納麟

河西人，太傅寧國公之子。用名臣子入備宿衛。起家中書舍人，天歷元年除杭州總管。至正元年，靈山天竺寺災，麟敦請東溟日法師恢復之。四年，仍請主上天竺寺。護法殷殷，蓋宿植然也。

斷禁

宋，趙清獻公，熙寧三年及十年，以資政殿大學士兩知杭州，故民稱大資相公。於靈竺極用情，清察上竺、下竺、靈隱三寺坐山照山；為興聖法，安南院、光福院。及居民沈明梅承遇張僧壽產地山園，奏請判還本寺，永禁樵採燒畬。以為三寺係東南古蹟，全藉四向形勝，掩比之五岳四瀆。並禁樵採，影射聖旨，依准施行，至今賴之。

宋咸淳四年秋八月，詔臨安府并上竺講寺，以愚岡後培植禁伐，加後澗構橋，用接山勢。

元，高納麟，守杭有政績。及為行宣政院使，時上竺有僧犯法，麟坐以重罪。又奏設崇教所，以治僧獄訟，俾僧知罪。

國朝，雷鳴陽，雲南人。嘉靖間，公倅青州，海寇亂，公領青州兵至杭，駐靈竺，與僧善而知其病。先是，靈竺寺皆有先朝賜山萬畝，時兵興，皆以負郭山加餉，而重役隨之；利歸佃，害則歸僧，諸寺皆逃散。次年公陞本府二守，始令僧當官告佃承買納餉當役，僧得僅存。寺有遺愛碑。

孫孟，郡太守也。嘉靖三十年，眾舉珊一峯主修多福寺、擅伐路松二株。孫置之法，并其徒正普俱還俗。

嘉靖間，海寇亂，督府宗憲胡公嚴造海舟，凡故家墳墓大木皆不能免。公特下令曰：「九里松，唐時古蹟，不許擅伐。」故獨保全。

孫沖，萬歷初年為錢塘令。寺僧德明補種九里松，沖與禁樵採，曰：「吾與種樹，得養人術焉。」

陳善，郡紳方伯也，載《府志》，論云：「李氏謂天下治亂，於雒陽名園盛衰驗之。然則壯都邑之觀，增山川之色，匪特建置大

者，即一纖微草木之間，亦可以觀。欲存全盛之蹟者，能無惜護乎哉？」北山自集慶而入，夾道古松，乃唐名守袁公所植。翠蓋亭亭，鬱蔥彌望；遊者侈觀，行者藉蔭，亦美政一端在焉。比者豪右或恣為翦伐，黠僧因而販鬻；料今所存屬各寺界者，上竺祇六十一本，中竺祇十六本，下竺祇十一本。疏稠靡均，蓊藹非故。自今不嚴其防戢，昔賢遺愛駸蕩然矣。嗟夫！喬木不足以重，故國甘棠非惠政所存，而永懷者思保其蔽芾。蒞治君子，其毋以小物疏厲禁乎！

萬歷年間，杭嚴何公寓所，憤天竺之弊習，劇加整飭，因致書雲棲蓮大師，兼行誘導，挽其頹風。

蓮大師復以書曰：蒙諭上天竺事，謹陳白如左。唯我公祖，乘夙願力，現宰官身。以大慈心，憫念末法僧徒少持戒行，摘其尤者而寘之法，俾有罪者自新，無罪者加勉。是所以安僧，非所以病僧也。今茲發奸摘伏，萬口稱快，威畏德懷矣。而繼承尊諭，將申明佛制，以開導而漸摩之。是則雪霜之後，煦以陽和；殺伐既張，綏以文德也。義之盡，仁之至，護法之功，莫斯為甚。但宏衰病伶仃，偷生巖穴；兼之跛躄，步履須人，其何能勵精效勞、以副委任責成之至意乎？況今處士，以橫議被逮，時僧以傲世取尤。以勢揆之，亦所當避，因別思所以稱台旨者。昔唐文皇以《遺教經》普施天下州郡，今此經本山重梓，加以鄙見補註。愚意不若流通此經。概南北兩山、城內外寺院、菴堂，大者與十，中者與五，小者與一；人各受持，不得違犯，或能有俾於萬一也。道尊，如書所勸行之，并諸山各申厲禁，而天竺三木之刑乃釋。

錢塘龔邑侯審「天竺與鄉紳爭山」，斷案曰：「本山，寺山也，二十三房。於萬歷五年賣之於陳太僕，則道柯為政。萬歷四十一年賣之於李水部，則祖玉為政。眾僧明知寺山之不可賣，而朦朧兩架之於兩先生。意以不發則暫時雙獲其利，發則必竟獨取其償。不憂共鬥之更爭，而竊幸可坐收其價。縱官司責以擅賣公田，彼將脫卸於鄉先生之意，以免罪耳，謀大狡矣！雖然，僧不足責也。至若本山，則僧不可賣，鄉先生亦不必有也。太僕之不必有，無論矣。李水部塋域切近，或者以為孝子仁人為至親一抔，作千年之計，非得本山，恐寺僧以後砍伐樹木，傷損龍脈；抑或盜賣他人，混葬風水，為害種種。但必令我子孫守之，不如萬世山門為我守也。今官為厲禁，杜其種種。上以妥龍天之靈，而旁以利縉紳之域，斷亦足矣。此意流傳，三令五申，於後來者，勝於華胄之自為矣。爰昔山門之意，想土著之縉紳不後於傳舍之邑宰，無寧使鄉先生自出此意，而令眾僧懷德畏威，賢於官斷遠矣。惟水部裁之，古之名卿尚舍宅為寺，而塋域於寺者，意或優長？若太僕，即遠在京

師，若愛之以德，只有還山于寺之為德也。」此案既發，鄉紳莫敢誰何！

崇禎年間，按臺劉公（諱士楨）禁約曰：照得三天竺者，地擅飛來，奉西方之大士，名傳鷲嶺，作彼岸之慈航。祇以逼近西湖，遂致聲譁南國。時逢節序，瞻仰如蟻。近訪有等無知惡少，蔑佛法而逞恣睢；至於有眼狂儒，亦棄《楞嚴》而墮惡道。或假薦紳之聲勢，或肆罟煞之兇殘，魚肉緇流。見在有刀山劍樹，謗凌聖教，又何逃戴角披毛？陰網不疏，王章丕著，如有前項棍徒橫行嚇詐者，許寺僧扭赴官司，從公審究，枷號寺門。庶幾三尺長存，五空不染。大千世界，輝佛日而鞏王圖；清淨慈門，集旃檀而驅羅剎。特行給示，普告羣生。

妝點

唐袁仁敬，開元十三年刺史杭州，極愛靈竺，政事之暇，為種松九里，號九里松。後人思之，建袁公亭；其下又建門跨路，曰袁公松門。其後不無死者。舊時靈竺僧好事（失其名），曾補種，賦詩曰：

不為栽松待茯苓　只圖山色四時青
老僧終不將歸去　留與錢塘作畫屏

後有僧幻隱者，亦曾補種。萬歷初年，僧德明又補種百株。錢塘令孫公沖與禁樵採，十不活一。又令聶公心湯，諭寺僧補種，所活如之。

古山人論其不活之故有三：居民既稠，寸土可貴，無論三行、并一行之，路皆侵其半。或為牆籬廂廁，久占不還。一旦清查，則種種不悅，必加陰損，一也。各方香客既多，城中樵採不少；或游手戲攀，或覬視為利，未免生事。貴木賤人，仁者不為，二也。當道者縱斷而行矣，叢怨不顧矣！松必小者可種，十年而後成；官不久任，繼者未必踵事，三也。然則松終不可復耶？今亦有三道，點其見在者：不許民居其下，罪寺僧，一也。既有伐松之能，寧無種松之力？宜令自一門至寺，為茶坊五，令僧居守。官又以輕贖者植，嚴諭者約，是兩利也。僧既住，所管每枯一松，例補植活小松五株。許補不許伐，此三道也。五年而後木成矣，如此不又稱某公攸植耶？

宋孝宗皇帝淳熙元年，賜盤雲檜二本，蓋唐相牛僧孺園中物也。植之上竺殿階下，以為佛供。其枝幹盤迴，團雲綰霧，儼如寶

幢翠蓋相對峙耳。

辨才法師手植千葉山茶二本，在白雲堂下，雲液池上。自宋歷元，柯葉暢茂，若有呵護。冬之時，嫩蕊含緋，繁英簇錦，照映巖谷，以代衣裓之散也。

宋吳說書「九里松」扁，乃祕閣吳師禮子，世工翰墨，人評其「端穩秀潤」。高宗欲易以己書，屢書不能踰，遂命以金飾之。

宋范仲淹，皇祐元年，自知鄧州移知杭州。吳中大饑，日出宴湖上，又諭諸寺主曰：「歲饑工價至賤，可大興土木之役。」於是諸寺鼎興工作，使貧力、技役皆得仰食於此，杭民不至流徙。

宋曹澄，知臨安府事，隆興二年九月，奉詔督建上竺法堂，并五百阿羅漢閣。

宋理宗御書「上竺天台教寺」額。

宋蔡學士襄書「靈感觀音之殿」。

丞相京鏜，紹熙五年書「兩峯堂」扁。

國朝曹國公李文忠書「上天竺」三字山門額。

潞王淨寧書曰「大慈悲父」。

翰林蔣暉書曰「圓通妙境」。

工部吳涵書曰「慈悲感應」。

知府李文奎書曰「淨聖」。

按臺劉士楨書曰「自在慈航」。

按臺王範書曰「慈航濟世」。

經筵姜逢元書曰「普照大千」。

撫臺尹應元書曰「塵海慈航」。

古虞徐觀復書曰「一音圓照」。

吳興潘湛書曰「良哉淨聖」。

雲間楊萬里書曰「靈巖慧照」。

工部朱廷煥書曰「慈航廣渡」。

杭兵道吳伯與書曰「觀察法界」。

撫臺熊奮渭書曰「望洋彼岸」。

鹽臺馮垣登書曰「不可思議」。

祭悼

宋，蘇端明軾〈祭辨才法師文〉曰：

孔老異同　儒釋分宮
又於其間　禪律相攻
我見大海　有南北東

江河雖殊　其至則同
維大法師　自戒定通
律無持破　垢淨皆空
講無辨訥　事理皆融
如不動山　如常撞鐘
如一月水　如萬竅風
八十一年　生雖有終
遇物而應　施則無窮
我初適吳　尚見五公
講有辨臻　禪有璉嵩
後二十年　獨餘此翁
翁又去矣　後生誰宗
道俗欷歔　山澤改容
誰持一杯　往弔井龍
我知杭時　白叟黃童
要我復來　已許於中
山無此老　去將安從
噫參寥子　往奠必躬
豈無他人　莫寫我胷

佛光照〈祭禮禪師文〉曰：

維淳祐六年，歲在庚戌十月癸巳朔十四日丙午，天竺山人法照，謹以湯茗果饌之奠，致祭滅翁禪師之靈曰：

魂兮歸來兮梁之渚　風蕭蕭兮木葉下
瞻太白兮芒寒　蹇獨立兮誰語
麋何食兮中洲　蛟何為乎元浦
夕惕兮余懷　奠蘊藻兮筐筥
尚饗

竺庵冏〈祭上天竺覺幻師長和尚文〉曰：

維師教毓　儒經釋典　策我勤讀
攝之以慈　誨之必穀
日漸月漬　殘膏賸馥
不念至愚　期成欲速
鳥漸高飛　牛顧後逐
師之恩深　如雨霑木

匪寒不衣　匪昏不燭
師之深恩　罔報慙恧
將期有侍　遽嬰疾篤
奄爾真歸　露晞電矚
於戲哀哉　音不在耳　容不在目
悲風滿屋　雖欲不哭　焉得不哭
尚享

國朝忠肅公于謙〈弔祭古春蘭法師詩〉，有序曰：

古春法師，先君方外交也。昔予彌月時，師赴湯餅之會，嘗摩予之頂曰：「此兒他日救時宰相也。」已而齠齔知學，先君數以師言警予。及登第拜官日，恐負師言，以貽瘝曠之羞。茲嬰內艱家居，改葬先柩於三台山下，而師與先君不可復作矣。感時追舊，祇具蔬盤茗盌，展拜塔下，爰賦詩一律，以志予之耿耿云。

維那正法眼　冰鑑獨先知
摩頂昔憐我　銘心更憶師
救時慚宰相　被謗懼磷緇
拜奠香臺下　臨風雪涕洟

鍾我靈撰〈祭春山師文〉曰：

浮玉巃嵸　苕水瀜瀜
山峙水流　蜿蜒如龍
川嶽英秀　瑞氣所鍾
篤生喆人　繄惟我翁
菰城世胤　錢氏巨族
族多文學　如金如玉
翁於沖齒　遂脫塵緣
雪霜礪志　艱苦備全
少壯拮据　手足胝胼
肯厥堂構　訓育後賢
森挺馥郁　桂蘭盈前
坦夷應物　衷無黨偏
詩頌温温　易著謙謙
洎乎垂暮　梵網精嚴
六時禮誦　人天起虔
壽齊宣聖　飄然上仙

哲人其萎　梁木斯傾
高山失抑　爰喪典型
林嵐減色　猿鳥哀鳴
曷能不悲　頓足拊膺
弔盈陶鶴　春輟秦聲
臨風設俎　黍稷芯芬
薦以芳芷　雜以香蘅
惟翁之靈　來格來歆

上天竺講寺志卷十二終

杭州上天竺講寺志卷之十三

天目山三學學人廣賓纂

風範隆汙品

側聞世間風氣，或由地氣使然；方外道情，多為俗情夾入，流而不反，習以為常。故尊者發水乳不如之歎，感眾生寢薄於福緣；而如來遺獅蟲自食之言，痛後世殆傾於慧命。熱心千丈，苦口萬端；賴有旁觀不憤，夙願未弘，再來為道德泰山，間出作人天北斗。冰清教海，粉碎魔宮；更游戲於不思之場，乃攝伏其彊陽之類。是所謂有開必先，無往不復者也。上天竺當辨老住山，罹權臣之虐。及胡元入主，費宣政之懲，頃於萬歷大挫三門。借有司齊之以三尺，不能遇知識勸之以一緘。此蓋羣居無紀，坐弛有秋。好修者密自好修，眾非其伍；不肖者甘為不肖，職莫之繩。遂爾因果好旋，卧九里松間者何物？賢愚品騭，載三天竺下者斯人。故曰「董狐，古之良史也。」志隆汙。

神異

辨才淨法師之住天竺也，善持咒水飲病者，輒愈，杭人尊事之。熙寧九年，嘉興縣令陶彖，有子得疾，甚異，形色語笑，非復平人。令患之，乃大出錢財，聘謁巫祝，厭勝百方，終莫能治。辨才適以事至秀州，令素聞其名，即馳詣，告曰：「兒始得疾時，見一女子自外來，相調笑。久之，遺詩曰：

生為木卯人　死作幽獨鬼
泉門長夜開　衾幃待君至

「自是屢來，且言曰：『仲冬之月，二七之間，月盈之夕，車馬來迎。』今去妖期逼矣，願賜哀憐。」師許諾，因至其家，除地為壇，中設觀音像，楊枝霑灑而咒之，三遶壇而去。明日復來，結跏趺坐，引兒問曰：「汝居何地而來此？」答曰：「會稽之東，卞山之陽，是我之宅，古木蒼蒼。」師又問：「汝誰氏？」答曰：「吳王山上無人處，幾度臨風學舞腰。」師曰：「柳姓乎？」乃囅然而笑。師良久，呵曰：「汝無始以來，迷己逐物，為物所轉，溺於邪淫，流浪千刼，不自解脫；入魔趣中，橫生災害，延及無辜。汝今當知，魔即非魔，非魔即法界。我今為汝宣說〈首楞嚴神

咒〉，汝當諦聽，訟既往過愆，返本來清淨覺性。」於是號泣，不復有云。是夜女子謂兒曰：「辨才之功，汝父之虔，吾今將去，願舉一觴為別。」因相對飲，作詩曰：

仲冬二七是良時　江下無緣與子期
今日臨歧一杯酒　與君千里遠相離

遂去，不復見。秦少游曰：「予聞其事久矣。元豐二年見辨才於龍井山，問之，信然。」見《七識》。

東坡有子，四歲不能走。辨才見之，為摩頂，即能奔走。坡贈詩，見〈題詠〉。

吳僧文捷，戒律精苦，奇迹甚多。能知宿命，然罕與人言。予羣從遘為知制誥、知杭州，禮為上客。遘學誦〈揭諦咒〉，都未有人知。捷一日相見曰：「舍人誦咒，何故闕一句？」既而思其所誦咒，果闕一句。浙人多言文通不壽，一日齋心往問捷，捷曰：「公更三年為翰林學士，壽四十歲。後當為地下職任，事權不減生時，與楊樂道待制聯曹。然公此時當衣衰絰治事。」文通聞之大駭曰：「數十日前曾夢樂道相過云：『受命與公同職事，所居甚樂，勿辭也。』」後數年果為學士，而丁母喪，年三十九矣。明年秋，捷忽使人與文通訣別。時文通在姑蘇，急往錢塘見之。捷驚曰：「公大期在，此月何用更來？宜即速還。」屈指計之，曰：「急行尚可到家。」文通如其言馳還，徧別骨肉，是夜無疾而終。捷常持〈如意輪咒〉，靈變尤多。瓶中水，咒之則湧出。蓄一舍利，晝夜常轉於琉璃中，捷行遶之。行速則舍利亦速，行緩則舍利亦緩。士人忠厚事之甚謹，就捷乞舍利。遂與之，封護甚嚴。一日忽失所在，但空瓶耳。忠厚戒齋，延捷加持。少頃見觀音像衣上一物蠢蠢而動，疑其蟲也，試取，乃亡舍利。如此者非一。忠厚以予愛之，持以見歸。予家至今嚴奉，蓋神物也。見宋沈括著《夢溪筆談》。

孫莘老知湖州日，問文捷曰：「呂吉甫如何？」捷曰：「只三年便在官家左右，更有一人白皙而肥，一人美髯而長。」後三年，甫果參大政，同列韓子華、馮當世，皆如其言。

上竺首座德賢。有一室女為祟所撓，求師治。賢至女卧室，設榻而卧，祟便已。見本傳。

賢法師臨終謂左右曰：「吾生前以道力免難，死恐莫逃。」門人造像，以鐵固其頸。及金虜真珠王子兵至，祖師殿眾像皆倒，惟德賢像不動。虜怒，令斬之，不能入。乃積薪縱火，薪盡而屋如故。虜驚，讚禮而去。

齊玉法師，諱改玉為璧。宣和六年住上竺，值歲大旱，井竭。玉運心密禱，忽夢泉出西坡。旦掘之，清流湧注，因名夢泉。

初，慈雲懺主常製疏勸人修期，疏有曰：「求三寶之真福，感諸天之護持。」世傳為墨寶。後兵，失去既久。迨竺隱法師為住持，重修懺期。俄有人持疏跪於前曰：「從餘燼中拾此疏，聞再舉懺筵，敬以致獻。」全室宗泐公等交贊，謂懺法弘通之兆也。

盛事

辯才法師悟法華三昧，有至行。弘天台教觀，號稱第一，東吳講者宗向之。時秀州有狂人號回頭，左道以鼓流俗。宣言當建浮圖，為吳人福田，施者雲委。然憚入杭，以辯才不可欺故也。不得已既來，先已錢十萬詣上天竺飯僧。且遣使通問曰：「今以修造錢若干，願供僧一堂。」師答其書曰：「道風遠來，山川增勝；誨言先至，喜慰可量。承以營建淨檀為飯僧之用，竊聞教有明文，不許互用。聖者既遺明誨，不知白佛當以何辭？佇聞報章！」即令撰疏文也。狂人驚慚。見其徒，弟子勸且禮之以化俗，師厲聲曰：「出家兒須具眼始得。彼誠聖者，吾敢不恭？如其誕妄，知而同之，是失正念。吾聞聖者具他心通，今夕當與爾曹虔請，於明日就此山，與十方諸佛同齋。」即如法嚴敬，跪讀疏文焚之。明日率眾出迎，狂人竟不敢至。眾皆服。見德洪著《林間錄》。

蘇子瞻，元豐中為郡帥，杖策訪辯才於方圓庵。及送至風篁嶺，左右曰：「遠公過虎溪矣。」辯才笑曰：「杜子有云，與子成二老，來往亦風流。」遂作亭嶺上，曰過溪，亦曰二老。亭成，辯才作詩呈府帥。蘇公與參寥子、錢勰屬和之。

高宗自紹興二年臨幸上天竺寺，詣大士前禮拜進香，設素饌於白雲堂。先期三日，命鑾儀司除道警蹕，設鹵簿；丞相以下百僚俱扈從，九里松行道為之擁塞。自是以後，每朔望，遣中使賚香獻供，勒為定規。

宋時二月十九日，上天竺建觀音會，傾城士女皆往燒香。其時馬塍園丁競以名花荷擔叫鬻，其音中律呂。黃子常因作〈賣花聲辭〉，時多和之。

寺僧永顧，刺血寫經多種獨和墨寫《華嚴經》八十一卷，今存塔院房。

自勉

山中亦有美俗，僧相戒不說不美事，此頗有隱惡揚善之風。天竺山民採樵，逢虎，驚而作聲，山下居民皆應喊，此頗有疾痛一體之意。又僧輪流當家，能者數十年，不能者一二年，使房業不致消廢。又一支傳流，不收師弟，此免分析爭競，亦是良法。

僧杲兩峯者，少時豪宕，房業漸廢。一旦以家事付其徒，日齋誦不輟。積十年餘，微疾，飲水數日，作偈，怛然而化。

天巖有白頭僧，生無過。死三年，夢其徒曰：「余今尚未得解脫，因傾潑常住待客殘茶，陰司積數缸，限我食盡，真水厄也。汝等當惜福，斷不可暴殄天物。」

寺有一僧，初甚貧，後頗温飽。人問致此之術，曰：「余少年無一錢，取溪中礪石往城換木魚，持以西溪化茶，以茶易米豆延客，遂致此耳。」

寺僧春谷，機智多謀，與僧月空知交。空素諳少林，有膂力。嘉靖中，海寇猖獗，范參戎署空為頭目。谷初以李府勢凌人，不滿於寺；至是挺身欲往，希蓋前愆。行軍時，谷設謀，教空以鐵為棍，示賊有力。令眾各含靛一粒，戰酣時皆吐靛抹面。寇疑為神兵，遂敗遁。後復奮臂率鬥，陣亡柘林。今列湖上宗將軍廟。

衰鄙

宋呂惠卿與吳精進寺僧善，時辯才主上竺，頗有人緣。惠卿入相，使文捷主上竺，逐辯才歸於潛。辯恬不為意。逾年，呂勢敗，朝廷命辯才復還。東坡贈詩曰：

師去天竺　山空鬼哭
天竺師歸　道場光輝
大士大悲　實師焉依

邵古菴山人曰：「文捷乃一奇僧，故呂敬而主之。然辯才又正而奇者，捷不得掩之也。辯才復天竺未幾，不欲與人相形，退避龍井，則去捷遠矣。」見《七識》，下並同。

或者謂：「今天竺僧中，有一二不習上者，清規掃地，弊德唾人。大士殊不加譴，其靈安在哉？」邵山人答曰：「大士，天地也。汙穢之事，不得罪於天地，而得罪於王法。佛法所不計，而暗於冥加，所謂神目如電、疏而不漏者。如曰有司存耳，大士何譴哉？特諸佛子往昔曾經供養、恭敬大士，故今受其福庇。今不尊奉，狼籍古德，云袈裟下失人身為最苦也。」又曰：「天竺路旁有五官不備、四體暴露、膿蠅血蚋、獸匐鬼呻；痛楚不刀山而獄，臭

穢不冰炭而慘。如是種種，各隨其業以招報，所謂人而餓鬼，人而禽獸，人而地獄也。諸佛子勉之哉。」

靈竺既無沃壤，山淺附郭，不容故家。居民止以香客為活，謂之鍋頭。種田、交易，三春為一年之計，謂之櫃上田。往年僧俗相約，俗不宿客，僧不香紙；今則惟利各兼之，而俗尤甚，揖轎牽裾，殊可笑矣。近有豪民劫奪行李，要截鄉愚，深可切齒。在賢護法痛懲之，庶俾大士得妥靈耳。

僧官舊止本等服色，猶存清高微意。至屠府尊，始命服九品服色。上竺僧官製紅綠縐紗圓領，大節日自城回，諸僧披禪衣盛迎。然以官拜，不膜拜，殊不雅觀。其後新住者於布政司換文書，特加數金，添「冠帶」二字；城外起轎，如赴任狀，觀者塞塗。

吳參政墓，在乳竇峯下。名玭，為廣西布政。先以強買，人云「道場非塋墓所宜」。今絕。

慧珊，本圖周氏子，為都事，攝差徭，世途機猾僧也。以擅伐路松，為僧俊者訟於府，擠之，且乞鎮守麥公為言。珊罹刑，追度，遂落僧籍。寺有諺云：「珊老虎撞著俊獵，屈喇喇刺到三計鼓。」

天竺僧多致舉債，或難之，對曰：「世間豈有不欠債之人？惟狗子乃不欠耳。」世以為笑。五十年前已有諺云：「淵一千，逕八百，秀鍾山，真沒髮。」五十年後，又豈特淵逕而已？外飾虛名，內無實蓄，此之謂金玉其相而敗絮其中。

寺有陳光明者，拜經精勤，今其房地磚有拜立之跡，蓋不泯一時。善信云：「向以油供者多，初開山，因地瘠，人曰油甚肥，因用以糞地，遂致雙目失明。悔懼禮經，終身不輟。」

廢弛(紀長民之蠹，師子之蟲也)

宋，薛師魯，左藏官。淳祐十年冬十一月，規占上竺廨院為廳，時住持天台法照不許，即渡江東歸。是日適理宗臨幸祈雪，中使鄧惟聰奏聞之，上即命內轄令快行禁渡，趣照回之。

宋，張閣，大觀四年知杭州，兼領花石綱。先是，政和初，朱勔領花石綱使，流毒山水。凡民家有一花一石可玩者，即以黃封之，其家隨破。當時僧眾皆以玩物為蛇蝎。天竺石面靈桃，并石舁去。古門鷄巖、伏虎棧、卧龍石、無根藤，與辯才手植山茶，非自毀，則勔與閣取，故皆不存。

王臣者，襄陽人，幼為公侯府家人。善幻術，攝人物為其主。惡刑傷脛，號王瘸子。成化十七年，夤緣充錦衣衞千，與大瑞王敬奉敕採藥，收書江南。其實橫索寶物，凡上竺累朝所賜，及富貴之

家所獻寶物，有玉觀音、日月珠、鬼谷珠、貓睛、寶冠、玉鐘、玻璃盞、珊瑚樹等物，竊取一空。

僧寶珠者，創新庵於白雲巖，頗弘敞幽寂。後納二徒，兄弟不睦，互相訐告。次徒先以山庵投馬通政以求勝，長徒又求勢之最者獻茅狀元，因而兄勝，遂執左券來業焉。內數老僧以茅演教寺，故欲甘心於此。茅知之，陽慰曰：「余庇廬，非剝廬也。」乃施米二石。明年計逐之，令僕居守。後僕晝出，為虎所食。

辯才法師骨塔，在老龍井山中。萬歷間，村鄰老父競傳為郡城李鄉紳平夷之。學人曰：「宋僧道德光明之盛，莫辯才若也。有趙清獻、蘇文忠之外護，生不能芘文捷以勢劫其住持；有天竺、龍井之法嗣，死不能庇李宦以勢伐其委蛻。三吳百粵奉之如神明，而獨於下竺無緣，是皆果有定業在耶？噫嘻！省之哉。」以上俱見《內七誌》。

舊樓鐘，南宋故物，聲聞數十里。成化間，鎮海燬，鎮守麥秀取入城。嘉靖三十七年，樓復燬，鐘鎔坐地。人言宋鑄時，所施簪珥不計，以有金銀，故聲宏遠清亮。謂其中銀可居半，官命取煎，一金不得。又嘉靖三十四年七月，島夷猖獗，軍門命取廢寺敗鐘，鑄佛機，麾下乘勢脅取。及上竺僧眾訴於雲間潘伯恩，白而止之。

乳竇峯下有多福寺，與上竺一澗之隔耳。廢於嘉靖末年，至隆萬間柱礎猶存。蔭聽泉弔以詩曰：

水弄潺湲遶梵宮　玉音飛去已成空
門前翠輦無人問　屋上青山舊日同
芳草有情還自碧　野花無恙為誰紅
不堪消歇悲前事　萬壑寒濤獨夜風

遺臭

僧采、新、方者三人，號為「石灰布袋」，言其著處有迹也。古菴山人曰：「以石之確，從火之潔，既清且白矣，而受此口玷，冤哉！」

僧亦號古春者，北人。牛都督供於墳菴穢行，且待其徒甚薄。夜約青州兵劫之，以末香焚其臍而死。

寺僧圓週，狼心返俗，廢其祖墳穴路，逕使穢踐。書為梟逆，窮餓而死，此為華報。

蕭山李金庭，名東瀛。杭有數鄉紳皆其故人，藉其勢流寓上天竺，凡事必至為處分。壽文、號軸、輓詩，皆出其手。當修《上竺

志》，則以時文之學，勦竊禪文。詩才庸腐，以學究本色造家譜手段，偽撰皮日休、李綱碑文，及岳武穆、宋元諸賢之作。至太祖撰〈竺隱〉之文，因本寺失之，而亦撰一篇。蓋事不考古，筆不秉直，狥情逐意，造幻誣靈。欺人而至欺心，欺天而至欺君，遂使所載真贋混淆，玉石難別，不疑而疑。按佛書，大妄語成，墮無間獄。又今律，傳聖旨，當置何地？可歎哉！以上並載邵古菴《七識》。

寺僧戴範，嘉善人，有勇力，善拳法。目無三尺，燬破五戒，婬暴酗賭，致累房業，回祿一光。敗壞法門，毆辱長上，合寺不容。崇禎間，伊祖及合寺公舉告，憲批府郡侯法究，驅逐下山。種種惡款，具載伊祖稟揭附卷。今蓄髮歸俗。

上天竺講寺志卷十三終

杭州上天竺講寺志卷之十四

天目山三學學人廣賓纂

詩文紀述品

側聞白傅之詩，宛是題茲天竺；坡仙有跋，獨云書彼虔州。但既傳神，何妨借重？況其太白之豪游時，有山無寺；參寥之富詠者，是宋非唐(唐道士葛參寥與龍泓丁飛善)。考降靈神木之初，乏志瑞詞華之選。惜無好事，孤此窮蒐。僅壓卷於二蘇，庶張軍於殘李者也。然而對景抽吟，半落徐凝之洗惡；登高撰賦，卒難謝朓之驚人。蠢爾東瀛，贋為下里。冒元人於宋首，目不識丁；溷麥氣於檀林，刑當坐劓，可勝歎哉！且夫選例辭專，史科雜贅。名公鉅札，擬一字於千金；諸祖緒言，揲全身於半偈。縱曰壽諸金石，奈何殃及兵烽。或鬼祕於燼餘，或神摻於蠹末。摭茲屑玉，類彼晨星。殘編斷簡，使名山之文獻可徵；埜史稗官，即委巷之叢談有據。讀其遺製，湖山之景常新；攬夫鴻篇，禪宗之規可溯。故曰：「志者，記也，所以備遺亡之事也。」志紀述。

題詠

唐

李太白：送崔十二遊天竺山

還聞天竺寺　夢想懷東越
每年海樹霜　桂子落秋月
送君此地遊　已屬流芳歇
待我來歲行　相隨浮溟渤

又：與從姪杭州刺史良遊天竺山

挂席凌蓬丘　觀覽憩鐘樓
三山動逸興　五馬同遨遊
天竺森在眼　松風颯驚秋

覽雲測變化　弄水窮清幽
疊嶂隔遙嚮　當軒寫歸流
轉成傲雲月　佳趣滿吳州

白居易：遊天竺山

一山門作兩山門　兩寺原從一寺分
東澗水流西澗水　南峯雲接北峯雲
前臺花發後臺見　上界鐘聲下界聞
遙想吾師行道處　天香桂子落紛紛

宋

蘇東坡：贈辯才法師

南北一山門　上下兩天竺
中有老法師　瘦長如鸛鶴
不知修何行　碧眼照山谷
見之自清涼　洗盡煩惱毒
坐令一都會　男女禮白足
我有長頭兒　角頰峙犀玉
四歲不知行　抱負煩背腹
師來為摩頂　起來趁奔鹿
乃知戒律中　妙用謝拘束
何必言法華　佯狂啖魚肉

又：聞辯才復歸上天竺，以詩問信

道人出山去　山色如死灰
白雲不解笑　青松有餘哀
忽聞道人歸　鳥語山容開
神光出寶髻　法雨洗浮埃

想見南北山　花發前後臺
寄聲問道人　借禪以為詼
何所聞而來　何所見而回
道人笑不答　此意安在哉
昔年本不住　今日亦無來
此語竟非是　且食白楊梅

又：訪辯才不值，留題

不辭清曉叩松扉　欲值支公久不歸
山鳥不鳴天欲雪　捲簾惟見白雲飛

又：雨中遊天竺靈感觀音院

蠶欲老兮麥欲黃　前山後山雨浪浪
農夫輟耒女停筐　白衣仙人坐高堂

又：立秋日禱雨上天竺，宿靈隱，同周徐二令

百重堆案掣身閑　一葉秋聲對榻眠
牀下雪霜侵月　枕中琴筑落階泉
崎嶇世味嘗應徧　寂寞山棲老漸便
惟有憫農心尚在　起占雲漢更茫然

釋道潛：謁上竺觀音大士

十年江海去飄然　魂夢長依鷲嶺邊
月地雲堦重到處　殷勤稽首白衣仙

又：陪司馬才仲節推諸君游天竺（得青字）

西郊久不雨　草木無餘青
薄雲弄秋暉　山色時晦冥
超然五詞客　文采披華星
聯翩過吾廬　車蓋紛滿庭
相攜訪靈鷲　細路通巖扃
攀翻幽桂叢　衣襟襲芳馨
絕竟異人世　吾詩豈能名
諸豪追鄴下　妙語逾瓊英
願言一揮寫　樂事良難并
高空墮海日　歸驂尚能停

又：懷辯才法師

法師安遠徒　我見常磬折
綱製像運　基構甚宏達
煌煌四十載　說法傾吳越
人天會方丈　萬趾常雜遝
藹然如丘山　四座羞蟻垤
投老倦揮麈　毅然辭且決
饑鷹得秋風　轉盼俄一掣
結茆南山陲　雲蘿古幽絕
昔我海上還　相尋訪林樾
夜闌叩微要　猨鳥寂不聒
慧風洒幽襟　法雨濯枯枿
別來今四載　寒暑驚屢闋
相望如晨星　杳杳各天末
何當從杖藜　一笑龍泓月

又：辯才生日

像末真風恐不傳　故生豪傑為人天

慈航橫截三千界　法雨均沾四十年
獨鶴精神秋始健　長松根節老彌堅
莫將有物觀無象　唾露冰輪處處圓

又：聽天竺慧照師琴

太古淳音久已虧　多君妙指善醫治
高山流水意雖在　白雪陽春和者誰
不放驚飚侵磵　只容明月侍簾帷
滿堂賓客俱傾耳　共失芙蓉漏轉時

朱熹：春日過上竺

竺國古招提　飛甍碧瓦齊
林深忘日午　山迥覺天低
琪樹殊方色　珍禽別樣啼
沙門有文暢　啜茗漫留題

呂祖謙：遊上天竺

淨域何虛寂　居然隔市喧
僧來渾不語　吾亦欲忘言
至樂存簞食　浮名類觸藩
行行返初服　賁趾老丘樊

真德秀：遊上天竺

世事不可了　還須入是山
遙尋黃葉路　迴出白雲間
瀹茗止煩渴　談空得笑閒

飄飄有餘興　歸去掩柴關

魏了翁：遊上天竺

風波滿平地　世路繞羊腸
急欲逃塵網　遙登選佛場
雲深猶午暝　竹密夏生涼
興逸忘歸去　高眠借石牀

郭祥正：遊天竺

誰從天竺國　分得一峯來
占盡湖山秀　最宜煙雨開

楊誠齋：雨中遊上天竺

被雨遊山也莫嫌　卻綠山色雨中添
人家屋裏生松樹　穿出茅簷卻覆簷

又

禪房寂寂水潺潺　澗草巖花數點間
忽有仙禽發奇響　頻伽來自補陀山

李綱：由上竺赴洞霄宮

山谷投閒日　乾坤板蕩時
秦庭徒痛哭　漆室竟誰知

欲仗空王力　潛開聖主疑
奸雄俱掃盡　談笑定華夷

岳飛：歸赴行在，過上竺寺偶題

强胡犯京闕　駐蹕大江南
二帝雙魂杳　孤臣百戰酣
兵威空朔漠　法力仗瞿曇
恢復山河日　捐軀分亦甘

張栻：過上竺

上竺諸天近　中林萬木低
迴超塵世外　恍入雪山西
忽漫參龍象　行將混鹿麑
何年釋簪紱　於此獨幽棲

戴復古：遊上天竺

好山看不了　遂借上方眠
酒渴傾花露　詩清瀉澗泉
生無適俗韻　老欲結僧緣
睡覺鐘聲曉　窗騰柏子煙

仇山村：游天竺

行遍山巔到水涯　尚無紅葉與黃花
長松夾道六七里　小墅通村十數家
竺國雲深僧寂寞　草堂洞古石嵯牙
野翁共醉官爐酒　扶醉歸來已暮鴉

又

登覽欣逢勝日閑　蒼松九里費躋攀
行過綠水盡頭路　步入白雲生處山
猿鳥尚能知異境　仙凡原不隔重關
幾時拂袖逃塵網　野衲村樵共往還

白廷玉：宿上天竺

名山倦遊歷　掛起手中藤
佛國三生石　天巖百歲僧
定回松院磬　吟苦雪龕燈
愧我心猶雜　何因問二乘

吳大有：遊上天竺

編茅為屋住　結葉作衣裳
不試燒金訣　惟尋煮石方
洗瓢溪月冷　採藥野雲香
常有仙家鶴　飛來遶石傍

張仲舉：宿上竺寺

山僧留客意殷勤　把酒山亭對夕曛
披徑亂藤盤石樹　摩厓蒼蘚翅秋雲
月中桂子隨風落　洞口猿聲靜夜聞
老去野心偏向逸　竹窗禪榻漫平分

又

石梁濺水濕蒼苔　陰洞傍穿澗底回
殿閣金銀從地湧　山林圖畫自天開
龍隨僧到分雲處　猿認人呼下樹來
遊興未闌斜日盡　馬頭呼酒尚徘徊

趙子昂：遊上竺寺

九松曾入畫　三竺久頻登
忽遇餐芝叟　遙尋辟穀僧
風泉喧梵唄　霜月烱禪心
聞見皆真諦　慚余悟未曾

楊廉夫：遊上天竺

陸海翻鯨浪　香林敞鹿園
冥心超湛寂　彈指隔囂煩
東渡漫多事　西來無一言
吾將逃火宅　難閉六窗猿

又：獅子峯觀潮二首

海國梅青瘴雨收　胡牀高踞碧獅頭
三韓水接天無盡　百越山窮地欲浮
樓閣剛風吹碧蜃　旌旗落日照紅鰍
行人莫問驅潮事　湖落山西淺作洲

又

獅子拿雲湧翠巒　我來親拂頂花看
隨潮月上樓閣濕　度海雲生鐘磬寒
蓬島未應三萬隔　桑田今有幾回乾
大千不究恆沙界　細問彌天釋道安

張光弼：訪舊，次渤法師雜興二首

但教懷抱能傾倒　莫向尊罍計有無
不為訪僧三竺寺　肯乘烟艇過西湖

又

酒館湖船盡有名　玉杯時得肆閑情
至今人說張員外　不是看花不入城

倪瓚：宿上竺寺

禪月湛高秋　金天夜色幽
珠林星彩動　碧殿露華浮
蓮漏忙催酒　松濤怒撼樓
清涼徹毛骨　吾欲換貂裘

劉基：遊上竺寺

憶昔西湖覩慶雲　玉毫貫頂動星文
燭微早已徵休瑞　革命方知位聖君
香火重參龍象窟　煙霞久負鹿麋羣
赤松黃石今安在　徙倚蓮臺悵夕曛

宋濂：訪天竺竺隱法師

存翁古禪伯　爾我久忘形
一笑空前夢　千秋悟獨惺
樓虛雲自入　月白露先零
擾擾炎途客　誰能為解酲

王偉：遊上竺寺

五峯有宿好　此日始來過
覺樹花增笑　珠林鳥共歌
浮雲空幻質　古鏡喜重磨
爾我證何相　山僧曾會麼

釋弘道：天竺雜詠四首

西湖蜃氣作樓臺　又見一番風雨來
後夜月明秋似水　杪羅花向鏡中開

南澗飛淙雜雨鳴　顛風老樹作秋聲
庭前攪碎芭蕉葉　添得書窗兩眼明

坐對晚花紅照水　夢回青草綠生池
道人居此忘榮辱　不羨長安富貴兒

晴雪生香晝不寒　光浮四壁白團團
夜深月照斜橫影　只作梅花紙帳看

釋宗泐：訪道竺隱

空齋高掛錫　世路讓人忙

月伴溪頭影　雲分竹裏牀
丹苓朝入饌　玉乳煖凝香
如此作生理　何須更糧

釋守仁：上竺與古春話舊

看雲入深谷　眺月傍香臺
幻相風前泡　塵根鏡上埃
浮生本無住　濁世轉堪哀
象教今衰落　談元憶辯才

釋來復：同黃晉卿、楊同僉遊上天竺

湧金門外小瀛洲　暇日同陪節使遊
五竺山高雲樹曉　三江風急雪濤秋
說經曾記僧名辯　題碣還聞寺姓劉
祇合泛湖依釣艇　六橋烟水看閑鷗

方豪：題觀堂

已登天竺上　更入觀堂深
竹密寒猶在　山高日易沈
騷狂無酒分　寂寞對僧吟
倚杖春風外　遙聞鐘磬音

又：贈智明上人

白雲西院白雲寒　客散燈昏獨倚闌
乳竇峯前雙鶴下　老僧拍手白雲端

又：贈暉、明二上人

大明山房勝觀堂　松間犬吠雲蒼蒼
天竺於斯稱最上　題詩巖石添輝光
忽聞鐘磬聲倒發　知是遊人去倉卒
棠陵狂客太奢華　獨向山中弄明月

又：題天巖房

萬山深處一溪橫　客到柴扉犬自迎
急掃塵埃題白壁　海曦遙射墨花明

王守仁：題白雲堂

白雲僧舍野橋東　別院迴廊小徑通
歲古簷松存獨幹　春還庭竹發新叢
晴窗暗映羣峯雪　清梵長飄高閣風
遷客從來甘寂寞　青鞋時過月明中

又：泛湖上天竺

靈鷲高林暑氣清　竺天石壁雨痕晴
客來湖上逢雲起　僧住峯頭話月明
世路久知難直道　此身那得尚虛名
移家早定孤山計　種果誅茅卻易成

又：夜宿白雲堂

春園花竹始菲菲　又是高秋落木時

天迴樓臺舍氣象　月明星斗避光輝
閒來心地如空水　靜後天機見隱微
深院寂寥羣動息　獨憐鳥鵲遶枝飛

夏言：九里松道中次邃翁元老韻

百盤雲磴入千峯　飛蓋行穿夾道松
長晝風雷驚虎豹　半空鱗甲舞虯龍
江濤夜合秋聲壯　湖雨春添黛色濃
欲待丹青圖直幹　恨無韋偃得相從

又：遊上天竺次韻

捫蘿屈曲歷崔巍　玉削芙蓉面面開
白日老僧初出定　清春有客到山來
林深祇樹雲霞遶　地迥諸天日月迴
世上宰官元是佛　洞門猿鶴莫驚猜

胡瀅：贈本源顧都綱

曾向都門識道林　泊舟慰我索斯吟
談玄天竺星霜久　拜命楓宸雨露深
九邑緇流齊拭目　三吳士庶盡傾心
老余致政歸來晚　何日相逢聽梵音

王蒙：遊上天竺

選勝謁蓮臺　松行結駟來
臘醅移宿釀　春服試新裁
膏雨朝初歇　香雲午未開

催詩頻擊鉢　麗藻愧鄒枚

楊一清：九里松道中

出林遙見兩高峯　又歷周行九里松
午夜煙雲來野鶴　四時風雨撼游龍
孤根拔地疏仍竦　秀色參天老更濃
若遣移栽向吾土　賓車無日不過從

又：宿上天竺寺

望窮窈窕更崔巍　勝概元從混沌開
天際芙蓉誰削出　海中靈鷲自飛來
古壇陰洞雲千疊　澗草巖花路幾廻
三十舊游今七十　偶然行樂莫相猜

蕭一中：題上天竺

古竺深秋益可憐　藤蘿裊裊隔諸天
不妨暇日頻登眺　莫惜清樽浪歲年
曲澗寒泉縈細石　疏林夕照帶鳴蟬
端居聽法依雙樹　猶說當年支遁篇

釋如蘭：次徐退翁夜宿觀堂韻

來往山林鬢欲霜　雁池秋夜獨徬徨
浩歌雪壁留題句　滿地月明人影長

李茂之：詣洞霄宮，道出天竺山

九里松行路　三天竺國山
日蒸巖霧紫　花點石苔斑
溪盡寺方到　雲深僧獨閒
吟行隨杖履　蹤跡出人間

釋德祥：同張方伯遊上竺

不因遊覽入松門　猿鶴何由識使君
黃葉路從流水上　青蘿牀與白雲分
逢僧且說裁新句　見寺先尋舊刻文
冰雪寒巖春到後　樹如膏沐草如薰

又

蘿壁非常翫　高僧獨愛之
青松同壽色　老石借春姿
引蔓斜連閣　開花直下池
茶筵賓客散　坐到月來時

釋景隆：題白雲堂

竺峯孤絕勢參天　華構嵯峩景物妍
花映六橋紅似錦　雲封四壁白於綿
戀巢鶴在青松上　抱子猿歸碧嶂前
日暮鐘聲何太速　猊牀驚起老僧禪

又：清華軒

幽軒高敞拂雲開　軒外諸峯自繞迴

禪老談玄揮玉麈　神龍聽法到巖臺
松濤洶湧當窗起　花雨繽紛入座來
高廟當年曾勝覽　翠華於此久徘徊

又：兩峯堂

乘輿遙指白雲鄉　曲徑迤邐到上方
玉柱擎天分左右　梵宮居地列中央
水聲落澗雙溪合　樹色排空兩寺長
滿目幽情吟不盡　何妨行樂到斜陽

又：雲液池

靈地山川畜有施　白雲流潤漸凝脂
涵空漾碧年華遠　浸月揚輝夜漏遲
甘味可侔仙掌露　清光堪擬鳳凰池
飲來最解詩腸渴　卻憶相如昔未知

又：秋香閣

灝氣涵秋日已涼　虬枝偃蹇獨芬芳
風翻玉葉層層綠　露滴金英點點黃
一種異香來月窟　幾多清影照禪房
因思寒馥張云句　吟倚闌干興愈長

又：雲漢閣

宸翰當時欲佇留　白雲深處起層樓
萬年睿歷呼嵩岳　五夜神光接斗牛
蓬島路通堪駕鶴　天河槎近可乘流

嘗聞在昔林蘇輩　輿騎頻來作勝遊

又：夢泉亭

泠泠寒碧出山椒　知是冥祈有感昭
泉汲煮茶清夢寐　餘分沃壤作豐饒
幽亭風月四時足　古鼎沈檀盡日燒
吟玩不知回步晚　又看歸鶴下岩嶢

又：靜處齋

一室幽棲萬頃雲　晏然長日絕紛紜
苔封石徑人難到　鳥隔松蘿晝不聞
隱隱鐘聲天外落　沈沈燈影坐中分
曉來入定初回定　不覺西巖又夕曛

又：水月池

夜窗幽矚意徘徊　月印方池絕點埃
玉鑑遠從天上掛　龍淵近向檻前開
遊鱗每為翻萍出　嶺兔長因搗藥來
卻憶庾公吟思好　南樓空已地生苔

又：雙檜軒

瀟灑軒前兩樹榮　幾回清賞動吟清
未誇白鶴雙棲穩　卻訝蒼龍並化成
覆地婆娑分日影　凌空天矯挾秋聲
於今廊廟搜才急　會見徵輸上玉京

又：三竺鐘聲

山從佛國忽飛來　三竺樓臺罨畫開
塔影雨晴居谷口　鐘聲朝暮答巖隈
迢迢碧漢星初轉　役役勞生夢乍回
靜坐蒲團閑聽罷　花間香露滴蒼苔

江玭：寄性菴法師

夢迷佛國白雲深　步入招提一徑陰
四壁松濤驚鶴夢　半空飛雨吼鯨音
盤迴樓閣供吟興　掩映峯巒稱賞心
彷彿高僧留我宿　薜蘿籠月夜沈沈

黃隆：稿寄性菴法師

匹馬過蕭寺　隨緣訪道林
草迷莎徑淺　雲護竹房深
倚樹知僧臘　因濤識梵音
頓令塵慮息　何用問安心

又

問道啟禪扃　禪癯似鶴形
煙蘿春翦衲　貝葉夜翻經
出定苔生石　交談水瀉瓶
何緣分半席　坐對數峯青

魏驥：贈性菴上人

長憶清才軼皎然　睽離不覺又經年
孤高別用參心法　冷淡殊忘炙手緣
閱徧三乘空白馬　吟成四句秀青蓮
湖山佳處占新構　我欲相過試問禪

鄭雍言：贈性菴上人

新承華翰興偏濃　飛錫遙登乳竇峯
綠樹青山藏碧殿　斷雲流水度疏鐘
斜陽送別人千里　後夜相思意萬重
我欲投簪結蓮社　聯牀翦燭話從容

凌煜：送性菴歸上竺方丈

天竺雲堂入夢頻　辭官歸去白頭新
詩筒問訊曾煩犬　法印承擔已得人
香梵暗驚江外晚　乳筵新試雨前春
自憐衰老忘名爵　願作香山社裏民

劉泰：送性菴上人歸上竺方丈

遙指花關一笑歸　覺今纔是昨猶非
長齋豈為銀魚鱠　清夢多應戀翠微
詩有秋霜先白髮　閑無塵土上緇衣
夕陽林下松邊石　閒看孤雲獨自飛

張震：贈性菴上人

飄然謝事遠京塵　曾是雲林舊主人

老去不教靈徹笑　歸來聊學仰山貧
詩成瓦竈茶煙午　定起庭莎草色春
我愛杪欏林下屋　願開白社著遺民

鄧林：游上天竺，回道與陳士寧、夏誠、畢昌、鄭厚、朱勤、祝彥廣、馬叔良聯句

夜宿招提境　晨辭佛國山
(陳)馬回知路熟　客去喜僧閑
(夏)梵剎鐘初歇　人家門尚關
(畢)幽禽鳴上下　曲澗響潺湲
(朱)露拂衣珠濕　苔侵屐齒斑
(馬)白雲橫洞口　紅日射林間
(祝)湖水玻璃瑩　風霜瑪瑙殷
(夏)物華憐景好　詩思愧余慳
(鄧)欲盡登臨興　寧辭步履難
(鄭)扶持嫌劣僕　寶石更躋攀

王世貞：過九里松

未叩三天竺　先過九里松
菁蔥表河潤　夭矯失秦封
雲結諸天座　風和萬壑鐘
翔空舞鸞鳳　折地起蛟龍
花滿餘杭釀　脂充石室供
惟輸道傍客　行止一藜筇

張文明：遊上天竺

九里青松行盡時　亂山迴護古招提
叢林點景臨溪口　好鳥思春語寺西
花遶路香紅袖笑　風吹衣暖紫騮嘶

尋芳訪古無窮興　更把新詩入舊題

沈周：登上天竺

佛國最深處　令人不倦游
鳥題千樹杪　鹿下五峯頭
地僻鐘聲遠　山明寶氣浮
老僧禪觀熟　詩亦似湯休

張寰：遊上竺寺

老卜 行窩湖上山　愛營安樂嬾談官
重修白社延高屐　欲跨青牛度遠關
世路多歧那復往　性天無礙本來寬
坐忘有訣傳天隱　一枕羲皇夢亦安

施峻：暮秋到上竺寺

風巖霞壁迥青霄　松路迢迢轉石橋
陰濕恍疑龍窟宅　孤高直與鶴飄颻
天開玉洞漏紅日　地坼寒泉應海潮
知有仙人自來去　白雲紅葉靜吹簫

董漙：遊上竺，和白樂天韻

松行行盡見松門　花事三分過二分
高樹鳥呼低樹鳥　入山雲笑出山雲
峯前瀑布僧前落　竹裏流泉寺裏聞
忙處不知閒處好　紅塵白浪正紛紛

釋法聚：宿上竺，次樂天韻

兩峯原是五峯門　三竺猶傳五竺分
直到水窮方到寺　未逢僧處已逢雲
東巖樹色西巖見　屋外泉聲屋裏聞
碧殿石幢春更好　午風花雨落繽紛

金璐：入天竺山

遐眺三天迥　遨遊感昔年
驚崖疑墜石　陡澗欲噴泉
短酌隨芳草　高吟動遠天
醉歸城郭近　煙樹晚鐘懸

又

石腳開靈竇　雲根出祕泉
竹深團夕照　花煖駐春煙
別澗捫蘿上　清尊帶月還
疏慵謝高調　消洒任孤騫

又

十里長松入　溪迴轉路賒
小雲春閣雨　石樹晚交花
寶殿垂煙合　珠林倒影斜
諸公漫高興　醉裏說三車

楊撫：遊天竺

自憐疏懶性　學道苦難成
猿鶴能無怨　煙霞故有情
長裾還舊服　清世亦虛名
若個春山畔　如聞伐木聲

沈如松：禮上竺寺大士

齋沐奔趨禮覺王　焚香稽首祝時康
爐煙掩映諸天近　寶炬森羅列宿光
九里松行流濕翠　五峯臺殿拂穹蒼
獨慚葑菲叨微祿　生長清朝荷吉祥

釋良縉：佛誕日

如來蔗誕現金身　海甸瞻依動萬人
楮燄燭天光四部　爐煙騰霧薄三辰
丹霄快覩白鸚鵡　紫禁祈生青玉麟
何幸清朝觀盛美　島夷從此息風塵

釋懷璁：登天竺，次樂天韻

萬山迴遊竺天門　路逐羣峯曲曲分
臺殿先迎出海月　松杉時扼入溪雲
淨瓶柳色春長駐　絕壑泉聲夜更聞
孤磬月明僧未定　半空華雨正紛紛

又：中秋白雲房聽雨

長空不見玉輪升　山雨翻聞雜水聲

勝賞已違今夕燕　晴光還憶去年明
淙淙飛瀑峯前下　冉冉陰堂座下生
朗嘯山堂忘達旦　峭寒輕沁骨毛清

徐公遴：過上天竺天巖房

天巖足幽勝　嘉景豁吟眸
曲澗清堪挹　深山翠欲流
灘聲晴度雨　竹映早驚秋
殘照催歸急　沉酣强再留

徐和：題上竺竹山

五峯秀出五臺遙　悟道孫枝小結寮
萬玉青青團燕坐　千巖颯颯起寒潮
山廚泉歷孤根冷　木榻清同瘦影搖
我欲同師乞收足　煩襟併向此中銷

陳公綸：題白雲堂

山夾長溪路欲迷　松林盡處見招提
香巖翠合諸天近　乳竇流霞眾壑低
竹院秋深人獨到　雲堂日午鳥初啼
長公往事真如夢　幾向殘碑憶舊題

馬三才：題上竺寺

白馬當年西極來　至今宮殿信雄哉
松間鶴鸛翻風起　天際煙霞拂檻回
貝葉肯隨朝露盡　蓮花常帶夕陽開

五峯不過簷前雨　誰遣雙龍落澗隈

許承周：雨中遊西湖入天竺

畫圖初入望　風雨故須還
烟闊漁迷棹　雲深僧閉關
橫空疑有水　到岸始知山
已訂重來約　幽期次第攀

又

最是西湖景色饒　來攀高閣躡層霄
羣山深處藏三竺　一水中間界六橋
落日經簷翻小品　臨風杯酒話長朝
凭欄不辨來時路　萬頃平煙入望遙

范禹臣：入天竺

涉澗沿隄上五峯　泉聲滴滴翠重重
前緣話憶三生石　舊政人傳五馬松
井口淨明秋水觀　峯頭冷澹白雲宗
年來世路多青草　谷口猶疑駐六龍

蔡守毅：遊上竺寺

地迥紅塵斷　林深白日低
抱關雙鶴在　面壁一僧棲
響應泉鳴壑　雲空月滿溪
定餘閒點筆　蕉葉試薪題

施經：憩天竺方丈

朱龕圍綠竹　丹徑駐青霞
野客情初洽　孤僧髮已華
循方惟錫杖　閱世幾袈裟
暫契清幽境　言歸日欲斜

孫一元：遊上天竺

虛閣排空送目勞　肩輿到寺步還遙
古雷破碣無全面　老樹拿崖露半腰
盛世不須收放逸　青山正爾助詩豪
歸來湖上東風晚　帶得芳鮮氣未消

張可儒：過九里松

唐朝刺史袁仁敬　九里青松手自栽
春煖不隨龍化去　月明時引鶴飛來
波濤聲震千山響　幡蓋叢分兩岸開
今古遊人行樂地　謾將勝境說天台

陳洪濛：夏日過白雲堂舊話

五十年前已識荊　而今白首結山盟
雲巖石洞依然古　翠竹蒼松幾度更
世態漸如沙逐浪　老懷寧似雨還晴
攜樽未盡平生話　秋杪仍期宿化成

李一經：宿白雲堂

僧梵寂無聲　雲堂欲二更
枕迴山月小　門掩佛燈明
虎嘯林風冽　禽翻竹露清
悠然見真性　幻影覺空情

董傅策：白雲堂夜酌

白雲深處一徘徊　瑤磴星梯接上台
瞑樹俯從千澗合　寒樽遙對萬山開
半空鐘梵聞天籟　下界風濤鼓地雷
漫把禪心分去住　詩成還為遠公裁

呂音：題嘯雲樓

岑樓傑出五峯巔　眺遠憑高此最偏
簾捲翠微山似畫　窗含晴旭海如煙
半空梵吹流雲遏　上界鐘聲百谷傳
個裏名緇有幽意　朗然長嘯泬寥天

葉向高：秋宿天竺，贈雲堂上人

萬峯行盡出孤龕　高卧平分麈尾談
夢冷霜風歸海上　秋隨衡雁到江南
曇花香散僧初定　草逕苔生鹿自諳
正是東林逢慧遠　不禁明發動征驂

徐江山：題上竺長生堂

十里翠寒松雨晴　曉行山徑馬蹄輕

禪關說法消塵慮　僧舍觀詩憶故情
小澗泉浮高樹影　隔林風送遠鐘聲
捲簾虛閣延清賞　坐看前山海日生

朱國祚：秋宿上竺寺

丹楓落葉思悠悠　古剎名山不厭遊
高卧何妨雲入　長吟惟與鶴為儔
竹搖燈影千巒夕　松作濤聲萬壑秋
竟日徜徉忘去住　此身端為白雲留

申時行：謁大士

三竺雲深一徑斜　攝衣重到梵王家
皈真自禮青獅座　演法仍聽白鹿車
谷底生風聞靜籟　簷前飛雨散空花
病中猶有維摩在　且向名山閱歲華

王穉登：禱大士

稽首皈依萬國同　琉璃翡翠梵王宮
當階水散千家澗　合殿香飄十里風
豔質如花祈早嫁　衰顏半槁願年豐
欲將仁遍河沙界　盡在慈悲一念中

釋洪恩：贈文巖師

形如槁木念如灰　霜滿頭顱雪滿顋
不是老來偏厭世　眼中無處著塵埃

董其昌：送企菴上人歸天竺

三竺溪流獨木橋　逋仙猶自發空謠
若為卻入千峯去　黃鵠摩空不可招

章台鼎：送企菴上人歸天竺

一條竹杖數函經　歸去秋煙泠翠屏
他日好尋山上路　萬株松下水泠泠

周延儒：宿上竺寺

丈六空傳一草莖　蓮臺肅肅古先生
夜深虛閣聽龍語　世遠枯松讚佛名
蒲榻禁來知夏淺　稻田栽就覺身輕
等閒法法都如夢　眼底何勞覓化城

吳伯與：上竺禮佛

天梯如御空　幽鑿迢烟上
古樹識人多　橫枝交揖讓
溪流趁雲膚　清界彌天相
碧蘚日生寒　漸覺光明放
合掌拜觀音　變化千百狀
百千總一身　身身非幻妄
空堂振木魚　萬象齊回向
至道固默昏　虛空難等量
凡聖孰云存　我心反廓曠

秦舜友：贈潮音師

炎日入深雲　逢僧絕垢氛
袈裟住水閣　經卷閱金文
花片雨中落　鐘聲竹裏聞
況多猿鶴侶　何日此同羣

方文烈：贈潮音上人

蒼雲迴合鎖松龕　杯茗爐香竟夕談
幾度梵音天竺杪　一聲鐘響鷲峯南
蓮臺說法龍俱聽　竹嶼吟詩鳥素諳
已許襟期盟白社　不堪雨色促歸驂

蔣德璟：宿平遠樓贈印中上人

眠煙嘯雨醉香曇　中印峯前結石龕
中國三當佛國五　何須飛錫去西參(末二句乃夢中語也)

宋奎光：贈印中上人住持上竺

曾問風雅得師傳　道重還推主法筵
印度化身分十剎　中原直指貫三天
已知象教窺拈草　端的獅林出勝蓮
有日隔溪尋往事　相逢一笑識因緣

王卿：訪竺如上人不遇

竹裏尋蘭若　雲深半扃
鳥窺臺施食　風亂葉開經
支遁衣非白　王喬眼自青

無生吾願學　塵夢幾時醒

吳載鼇：自鶴巢之上竺，贈道微師

吐哺接山川　峨眉半入煙
柳晴無剩絮　荷爛有殘蓮
錦帶魚新倦　西泠鷺罷眠
登臨來二妙　杖履指三天
性相相依佛　庚申更話仙
拂車石逕淨　試馬曲隄闐
細草承鞋軟　芳枝壓帽偏
千鐘評酒聖　一字倩詩禪
文懺尚隨沈　揮毫且學顛
安排靈利眼　長使景光圓

唱酬

辯才法師元淨新亭初成，詩呈府帥蘇翰林曰：

暇政去旌旆　杖策訪林丘
人惟尚求舊　況悲蒲柳秋
雲谷一臨照　聲光千載留
軒眉獅子峯　洗眼蒼龍湫
路穿亂石腳　亭蔽重岡頭
湖山一日盡　萬象掌中浮
煮茗款道論　奠爵致龍優
過溪雖犯戒　茲意亦風流
自惟日老病　常期安養游
願君歸廟堂　用慰天下憂

蘇翰林軾和云：

日月轉雙轂　古今同一丘
惟此鶴骨老　凜然不知秋
去住兩無礙　人士爭挽留

去如龍出水　雷雨捲潭湫
來如珠還浦　魚鼈競駢頭
此生暫寄寓　常恐名實浮
我比陶公愧　師為遠公優
送我過虎溪　溪水當逆流
聊使此山人　永記二老游
大千在掌握　實有別離憂

參寥子道潛和云：

遠公吾家傑　道妙非壺丘
德傾龍象侶　貌蓋江湖秋
平生經綸學　不為名相留
滔滔若懸瀑　下注萬丈湫
昔年謝講事　眾挽不轉頭
刳心老巖穴　百念本不浮
東南多望士　唯見此老優
翰林天下公　方外實輩流
旌旗虎溪路　竟日泉石游
眾生病未已　師意可忘憂

錢勰和云：

幻泡昧空色　真夢游黃丘
宦學類狂走　爾來三十秋
齒髮非他時　歲月不我留
古剎插亂石　蟄龍蟠霞湫
天人大導師　住錫今白頭
安住差護念　晚節非沈浮
昔嘗謂出處　不用相劣優
權實分二智　股肱均九流
今知擾擾者　詎得逍遙游
從茲許禮足　尚可治幽憂

辯才次韻參寥子，寄秦少游三絕，時少游舉進士不得。

秦文字固超然　漢武憑虛意欲仙
底事秋來不得解　定中試為問諸天

一尾退風抹萬蹄　崑崙玄圃謂朝隮
回看世上無伯樂　卻道鹽車勝月題

得失秋毫久已明　不須聞此氣崢嶸
何妨卻伴參寥子　無數新詩咳唾成

秦少游次韻和云：

武陵漁子入花源　但見秦人不得仙
會有黃鸝鳴翠柳　何妨白眼望青天

長安仕路與雲齊　倦僕羸驂不可躋
但得玄暉曾折簡　何須平子更安題

且折花枝醉後醒　人間時節易崢嶸
屠龍肯自羞無用　畫虎從人笑不成

辯才四照閣夜坐，懷少游學士詩云：

巖棲木石已皤然　交舊何人慰眼前
素與晝公心印合　每思秦子意珠圓
當年步月來幽谷　拄杖穿雲冒夕煙
臺閣山水本無異　故應文字不離禪

參寥和云：

猿鳥投林已寂然　芭蕉過雨小樓前
雲依絕壁中間破　月自遙峯缺處圓
照坐不須紅蠟具　可人惟有蕙爐煙
校讐御府圖書客　疇昔曾聞此夜禪

少游和云：

遙聞隻履去翛然　書翰猶收數月前
滄海盡頭人滅度　亂山深處塔孤圓
憶登夜閣天連雁　同看秋垄月破煙
尚有眾生未成佛　肯超數界入諸禪

元趙子昂訪天竺恭行己上人不遇，留詩云：

輕輕踏破碧雲堆　半為尋僧半探梅
僧不遇兮梅未放　野猿笑我只空回

恭行己和詩云：

犬不曾嗥鶴不飛　看山今日偶歸遲
點燈吹雪照石壁　恐有玉川留贈詩

國朝釋宗泐：雜興詩

處士梅花千樹盡　蘇公楊柳一枝無
向來畫舫今何處　落日西風野水湖

張光弼次泐公韻云：

但教懷抱能傾倒　莫向樽壘計有無
不為訪僧三竺寺　肯乘烟艇過西湖

杭先輩方十洲九敘、高穎湖應冕、童南衡漢臣、庠士劉望子伯結社，後有祝九山時泰亦與焉。徽山人王十岳寅有詩名，諸公延登天竺白雲堂賦詩。

王云：

山深多白雲　入寺淡氤
證法尋僧問　忘機與鳥聞
茶煙竹下起　乳水竇中分
花落疑花雨　隨風映夕曛

祝云：

三竺參龍樹　千峯隱雁堂
白雲禪榻淨　甘露茗杯香
不染知真性　無心證法王

悠然塵鞅外　歸路急難忘

方云：

雙樹白雲裏　遙知釋氏園
方忻禪室靜　況與幽人言
一酌清冷水　聊祛塵世煩
沖然罷文墨　時把貝書翻

高云：

白雲山寺隱　靈境法堂深
偶入天香會　俱生清淨心
竟日陪清梵　終慚異道林
安禪僧自寂　聽法鳥無音

童云：

出谷遣塵紛　中堂話白雲
孤林清磬發　雙澗落霞分
超然憩靈石　斜日對爐熏
神理參茶悟　微言彈指聞

劉云：

塵寰聊可晤　有約過瞿曇
茶鼎殊齎鼎　玄談妙客談
雲光墮竹榻　日氣抱花龕
愛此懷堪遣　穠華且莫甘

夏一叟謝性菴惠茗詩云：

一封珍惠有餘清　粒粒鎗鎗故舊情
閒向竹窗聽夜雨　自燒金鼎汲寒泓
雲濤乍起燈教翦　松籟時聞句喜成
為問趙州禪作麼　好將真味證無生

性菴和云：

陽羨翹英味最清　獻芹惟效野人情
青山煖摘春千片　碧澗寒分月一泓
莫笑茶經收未遍　卻慚郢曲和難成
飲來不獨消塵慮　頓使清風兩腋生

釋良縉：秋日同釋道顒、良玉、本旃集大明山房

泉流堂影澗縈迴　巖際柴扉竹裏開
萬徑喜逢秋雨歇　五峯笑踏夕陽來
空林不睹鶴前錫　覺海還乘鷗外杯
定起閒心無罣礙　西湖又看棹歌回

道顒次韻：

白雲重疊路迂迴　日轉層崖門半開
山鳥巡檐窺供下　野泉通竹入廚來
夜深愛客分禪榻　月白談詩弄酒杯
喜爾久甘蔬筍味　清齋留我未能回

良玉次韻：

小徑斜斜樹幾回　捲簾殘照晚晴開
半窗寒影雲初度　萬竹秋聲雨後來
麈尾天花平講席　案頭明月滿茶杯
問禪不畏丹梯滑　乳竇峯前禮萬回

本栴次韻：

普門西上路盤迴　雙樹巖扉倚洞開
不問高寒雲杪住　獨憐幽勝竹深來
化城有供應持鉢　談道無聲自洗杯
滿地夕陽孤磬裏　五峯松暝鶴飛回

王淮：過上竺湖山佳處韻

西湖天下湖　西山天下山
湖山境界妙天下　有誰有力居其間

性菴上人抱大智　占得湖山佳勝地
湖為心鏡山為身　山不動搖湖不沸

湖中萬狀不可名　春秋旦暮陰還晴
山中百態不可說　輕煙淡月描其形

上人燕坐寂無語　湖山為賓己為主
白猿來問白鷗參　搖落半窗花上雨

四明狂客本凡流　來回湖山佳處游
浩歌半日不歸去　難舍湖山一片秋

徹其源：次上竺韻

碧壑丹崖萬飛鳴泉　白雲滿屋吞吐山峯巔
石徑草煙滾滾上簾綠　竹窗花雨灑灑含清漣
一袖好風掃開千嶂霧　數聲橫篴吹出青空天
是誰脫卻塵緣早歸此　我來敲鉢相對一談禪

邵重生：同上竺覺海、邃清、潮音師坐月達旦

道人真趣坐清宵　況復名山月可邀
志合偶期天邂逅　身遊非夢夜逍遙
何方鏡水澄空色　幾處鐘魚破寂寥
靜極欲求言語斷　不知風木故蕭蕭

又：蔬筍社集竹雲樓，暑甚，分韻

六和成社肯悠游　勇犯秋陽課不休
小草至心求大乘　北風無暑到南樓
冰肌觸苎衣堪襲　雪藕吹絲分正投
不信大家同熱惱　慈雲私向竹間流

又：社集竹雲樓，分得山字

逼歲誰偷此日閒　況逢雪竇與寒山
朔雲獨愛梅邊意　活火同看竹裏顏
剛喜團圞勤問答　也懷澹泊數躋攀
扶笻又是明年事　佛日春風恣往還

徐如翰：由西湖至上竺靈隱午齋，次和蘇長公韻

滿湖荷氣遞風香　夾路松陰帶雨涼
音入耳根清溜轉　光開眼界白毫長
苦吟欲借降魔杵　久病惟尋出世方
擬向禪林最深處　飽為粗糲菜羹嘗

上天竺山志卷十四終

杭州上天竺講寺志卷之十五

天目山三學學人廣賓纂

詩文紀述品

書

宋蘇軾〈與辯才法師書〉曰：

某向與兒子竺僧（名迨），於觀音前剃落，權寄緇褐。去歲明堂恩，已奏授承務，謹與買得度牒一道，以贖此子。今附趙君齎納，取老師意，剃度一人。仍告於觀音前，略祝願過。悚息，悚息。

又書：

某有少微願，須至仰煩，切料慈照必不見罪。某與舍弟某，捨絹一百疋，奉為先君（覇州文安縣主簿，累贈中大夫）、某先妣（武昌郡太君程氏），造地藏菩薩一尊，及座及侍者二人。菩薩身之大小，如中人形，所費盡以此絹而已。若錢少，即省鏤刻之工可也。乞為指揮選匠便造，造成示及，專求便舡迎取，欲京師寺中供養也。煩勞神用，愧悚不已。

又書：

別來思仰日深，比日道體何如？某幸於鬧中抽頭，得此閑郡。雖未能超然遠引，亦退老之漸也。思企吳越諸道友及江山之勝，不去心。或更送老請會稽一次，老師必能為此一郡道俗少留山中，勿便歸安養；不肖更得少接清游，何幸如之。千萬保愛。

錢塘釋永頤，號雲泉，杭之耆宿也。淳祐十年冬十一月，聞上竺佛光法師，以左藏薛師普占廨院欲作廳，佛光勿許，輒渡江東歸。頤甚高之，遺書慰曰：「公幡然高舉佛祖，所謂毋自辱也。顧戀乎何有？昌黎公所譏『語剌剌不能休』者，當愧死矣。」

皇明蜀王〈奉僧錄司存翁致仕還天竺書〉曰：

近日天禧方丈與大藍長老書，一觀，知和尚謝事居閑，予乃甚喜。和尚進退出處之際，亦無愧於前修也，後生奔競之風可少戢矣。若非肉身大士乘悲輪來整宗綱，其孰能與於此？《觀經》一卷并祖師語錄之類，則於法施豈淺淺哉？見日軒詩，同諸老作；序則濬公作；賦則和尚作也。

潭王梓〈致存翁禪師書〉曰：

奉問存翁和尚法几。不奉殊勝之談，三載於茲，嚮注之誠，與日俱積。疇昔龍河之上獲親几杖，深沐開誨；得以蕩滌瑕垢，銷融

塵滓，迨今不忘。不穀居湘中，為況頗適；但風壤遐僻，禪林蕭索，遠近無與語，令人憒憒。惟師學問宏深，筆力滂沛，片文隻字，足以驚風泣鬼；劉牆屈壘，殆不敢當，敬羡，敬羡！近搆四暢亭，以娛閒適性。欲煩師作一賦，以張大之。即為下筆，慰此懸想之情，至幸，至幸！春暄加愛，不具。

又書曰：

梓端肅奉書。存翁本師和尚法席：使京人回，承翰墨，法體康健。且辱品題四暢，文彩豐縟，三復敬羡。再欲干作〈沖漠齋記〉，幸勿我靳。曹國公想時接談，笑望一詩，為沖漠之光，仍自祕用圖書為圭。全室同菴昨罹回祿之恐，比想安佳，俱求題詠。同菴自別來，未嘗有片文隻字見及，其棄我耶？一初講經，必能同賦天台聖像。望借真一觀，即當返璧。前託揮掃卷軸，付回是幸。進首座來，隨菴惠詩文并清貺，足紓遠情。區區僻處遐壤，思欲與諸禪伯如曩時清談擬接，邈不可得，良增慨歎。不及一一奉書，例望道意，伏暑保愛，不具。

梓端肅書

存翁大師〈與雲峯禪師書〉曰：

西丘一拜顏色，飫我以清供，賮我以善言，如寢而醒，如病而藥，使人身輕欲飛，如在四禪。內苑不知有徒旅之艱，劻勷之變也，歆羡，歆羡！厥後從者回霅，賤迹亦繼踵僻居，日修念佛三昧，結淨土緣，作清泰歸計耳，餘無足為長者道也。持誦之隙，忽我清容老人下顧，首詢和尚動靜均適，甚慰。洊出教命展誦，如對眉宇。且論及為教門一行，不覺愧浮於面。蓋以和尚才學之優，德望之重，況今當道多其故舊，必能與吾清容出隻手，以扶斯宗欲墜之緒。則像季之士皆承公等之賜，而區區山澤槁朽得沾餘潤，幸莫大焉。至叩至禱，惟慈諒，不備。

虞稽勳淳熙〈與堅、遜、泉等續成殿事書〉曰：

不佞扶疾入山，屈十四上人同集雲中，五體投地，為大士請汔殿功。此膝不屈於人久矣。敬十四上人發心蓋愆，凡佛菩薩而機公悔心，自蓋其愆，亦佛菩薩之流也。承金諾，一一書紳，一一必求若金口中出。直至冬月，特書貞珉而後滿此願耳。峪口聞村民喧喧，競趣天龍，則天竺香煙淡，幸及時竭力勸募，速踐前盟，至望至懇。倘有一人先私後公，暗打退鼓，欺護伽藍神而不靈者，必借寶杵於當道。彼能給示，豈不能用法乎？況冥冥中更有陰譴在耶！謹於家所供佛菩薩前，復五體投地以請。

撫臺思恂喻公〈與住持初道微書〉曰：

前嘉興署中，已煩師遠顧，並承惠小兒衲衣。因恐禪師尚欲浮杯相送，故積忱猶未展耳。今不意起行倏迫，上月廿八午刻登舟解

纜，隨於廿九交代，即鼓櫂而南；此別宗風，知是何年晤敘？小兒將已三月，漸知嬉笑。惟禪師保重，有便寄我一字，以慰山林老懷是望。外覺溥年又幼穉，並囑時時看撫為幸。其前所需對聯，容方中軍送役京口。回時封寄，此不既。

又與住持道微書曰：

別近四年，企慕甚切。遙想老師禪定之餘，或亦相念。第不識佛印、東坡，何日再得促膝談無上諦也。去歲特發兩价，詣大士前進香，迄今年餘，竟未旋里。茲二月十九，又遇菩薩誕辰，敬拜家力，虔賚一瓣，代賤父子恭叩寶蓮之下，伏祈老師焚宣鄙悃為囑。至小兒歲已七週，神氣壯健，知識大開，四五月間將入家塾學讀父書矣。知老師所欲亟聞，敬此附報。高徒近日經學大進否？及時參禪念佛，光陰不可虛度，惟老師留神教之。若不佞歸田三載，眠食尚健，恐終老樵漁於峩山錦水間耳。老師審時度勢，亦有心懸廊廟之身者乎？呵呵。餘不盡。外具薄儀，奉賢師徒引意。蓋因寇氛未靖，道涂多梗，不能携禮物也。

仲春十二日，恂載頓首

劄

宋僧錄若訥法師〈請試經度僧劄子〉曰：

洪惟聖朝，遵用唐制，立試經度僧之科。竊詳大宋《高僧傳》、洪覺範《僧寶傳》所載，自建隆開國至於南渡，名德高行，皆先策試《法華》，然後得度。以由此經是如來出世一化之妙唱，羣生之宗趣。帙惟七卷，繁簡適中，故學者誦習無過與不及之患。自唐至今五百年來，昭垂令典，雖下及萬世，可舉而行，唐世之式遠矣。及我朝而甚詳，如文瑩《湘山錄》載，國初潭州僧童試經，此州郡比試也。歐陽《歸田錄》載，執政宋綬、夏竦同試童行，此朝廷開試也。若《僧史略》載，朱梁時不許私度，願出家者入京比試。竊詳三書之意，當是天下童行先就州郡，試中然後入京。執政開場親監覆試，第名奏上，乃下祠部給牒。若特詔疏恩，如建隆八千僧，太平普度十七萬，則又不在試經之限。或謂有虧國用者，則將對之曰：「但於每歲以千牒為試經之擬，即以千牒之資均於餘牒，俾不能誦經而裕於財者亦得求度，厥全天下僧冗矣。」試經以行古道，貴牒以限常人，誠足以復祖宗之成法，救末流之冗弊也。

疏

宋丁晉公〈上竺飯僧疏〉曰：

佛隨徧智，道育羣生，凡欲救於顛危，必預祈於景貺。某白衣干祿，叨冢宰之重權；丹陛宣恩，忝先皇之優渥。補仲山之衮，曲盡巧心；和傅說之羹，難調眾口。嘗於安寢，忽夢清容。妙訓泠泠，俾塵心之早悟；真機隱隱，恨凡劣以何知。蓋眾怒羣猜，時乖運舛；害至禍臨而莫測，黨成災及以非常。黜向西京，感聖慈而寬宥；竄於南裔，當忠憲以甘心。咎實自貽，業非他作。念一家之散失，望萬里以何歸？既為負國之臣，永絕經邦之術。程由湘漢，道假靈山。正當煩惱之身，忽接清涼之眾，方知富貴難保始終。特思皈命，恭發精虔；寅施白金，爭羞青飯。延芯蒻之高德，答庇佑之深慈。冀保此微行，乞無他患。伏願天回睿眷，澤賜下流。免置邊陲，白日便同於鬼趣；賜歸中夏，黃泉再感於天恩。敢罄丹忱，永緊法力。

宋靈隱書記道濟〈化天竺大路疏〉曰：

一條滑路，堂堂直透長安；九里松關，蕩蕩平超佛國。腳跟有礙，未免遲疑；眼底無私，方為平穩。斷羊腸曲折之崖，履龜背坦夷之路。江山聚勝，人行翡翠途中；車馬交馳，身在畫圖影裏。請題椽筆，為注芳銜。

明九皋聲法師撰〈日彰儞法師住持上竺江湖疏〉曰：

負天下之重名，才可託寄；交一國之善士，尚論古人。傳佛心印，豈細事哉？修我友盟，所深望也。某海月辯才之流亞，慧光圓悟之重來。未嘗對御以談玄，彈指喧殿；及殆敷文而載道，肆筆成書。萬流仰海而會同，片玉在山而皆潤。以雷鳴夏，若歲有秋。尚期乘白雲而遊帝鄉，毋忘見明月而思故國。允矣東南之師表，再造圓宗；隱然教法之長城，一匡象運。願弘法施，副我深期。

又〈雲谷臻法師住持上竺江湖疏〉曰：

黃河決崑崙而東注，水會其源；天台兼定慧而雙弘，道臻於極。自非得一代人才之選，何以居中朝師法之尊？彼方對己以自私，賴此達人而大觀。允符物論，簡在帝心。某道重王臣，化行吳越。文如圓岳，詞如休己，可追配於古人；教有辨臻，文有璉崇，將復見於今日。蓋剡源之五世，疑南屏之再來。攜香煙自天上來歸，操玄印據白雲深處。蓋十方通為化境，會九流同入圓宗。梧桐生而鳳凰鳴，世其昌矣；日月出而爝火息，人皆仰之。欽動三宗，力扶末運。

國朝宗泐撰〈日彰儞法師住持上竺諸山山門疏〉曰：

宗師負大法之重，遁跡非高；人才為當世之賢，超遷不次。雖用舍無關於我，而出處故有其時。某物外通才，法中偉器。入慧光室而味甘露，洞開真源；承五色照以館鴻臚，發明奧義。與其化行中吳之久，孰若位冠五山之雄？妙演一乘，非藏非通非別；互明三

觀，即空即假即中。況竹屋有先人敝廬，而白雲乃昔年分座。載脂載舝，早駕指南之車；將將翔，願接垂雲之翼。共扶末運，敢不同心？

又曰：

翊祖高行絕塵，始現普門境界；辨才碩德邁眾，肇開教海淵源。從茲冠冕諸宗，仰止風規百世。代多作者，今見其人。某器宇恢弘，才學優贍。明宗辯旨，孰能相抗？立幡赴詔講經，何異忘言揮尺？況教府委宗極之重，而吾徒得北道之賢。由梁甫登泰山，諸岸在下；駕大車歸寶所，家業斯存。觀四象之機宜，闡一代之時教。桂子月中落，分來鷲嶺清香；鳥語山容開，坐見白雲深處。一音普被，萬壽無期。

釋行鎡：刻存翁文集募疏

伏以四象二儀，乾稱父，坤稱母；三綱九法，車同軌，書同文。攻諸聖賢之言，始於經綸之義。紀述必錄，語言可無。有如存翁之賢，是乃教門之傑。五十年碩德，以無素餐；數百篇文章，幸有青眼。況宋學士為之賞歎，而徐大章重以服膺。由學博而識明，致理長而辭贍。空韓柳歐蘇四家之糟粕，泝晉唐秦漢千載之淵源。挫古今於筆端，籠天地於形內。與其匱藴山中，曷若版行天下？大書深刻，見本他如讀家書；造境即中，想師儀猶觀掌果。凡膺顏模之重望，盍念手澤之難聞？拔一毛而弗為，徒有噬臍之歎：揮千金而不吝，便成鼓掌之資。謹疏。

萬歷初，上天竺募修補藏經疏曰：

摩詰之不二法門，示疾必因人有問；達摩之不立文字，安心非緘口無言。故經律論，三藏之別名；為戒定慧，諸根之異等。即規矩以為方圓，大匠有教人之定法；舍筌罝而求魚兔，學人昧入道之先機。欲登諸佛之道場，思續正宗之慧命，貴因文而悟道，必得意而忘言也。顧茲天竺名山，業奉朝廷寶藏。牙籤犀軸，王言絢玉簡以昭回；鳳彩龍章，聖教燦瑤編而煥發。奈何歲月既久，不免蠹魚交侵。碎金不止二三，完璧僅存六七。念國璽之全書既毀，矢山門之缺典重新。先須有餘之財，庶補不足之數。遍叩高賢，共成勝事。一卷兩卷，請隨緣而繕寫；三函四函，更量力以助裝。片言逾九鼎，頓令再轉法輪；一字千金，定見同栽福果。謹疏。

贊

宋・蘇子瞻：辯才大師贊有序

余頃年嘗聞妙法於辯才老師，今見其畫像，乃以所聞者贊之。

即之浮雲無窮　去之明月皆同
欲知明月所在　在汝吐霧之中

明・曹國公景隆：贊存翁大師像

充然之容　粹然之質
學富而豐　材大而碩
親承綸綍之音　屢賜天廚之食
其靜也孰窺其源　其動也莫辯其迹
所以領昭代之教宗　為叢林之柱石者也

明・少師道衍：小像自贊

富貴舌探刀上蜜　功名手摸水中天
山林鍾鼎元無二　萬事從寬且坐禪

銘

宋，辯才法師〈心師銘〉曰：

咄哉此身　爾生何為
資之以食　覆之以衣
處之以室　病之以醫
百事將養　一時不虧
殊不知恩　反生怨違
四大互惱　五臟相推
此身無常　一息別離
此身不淨　九孔常垂
百千癰疽　一片薄皮
此身可惡　無貪惜之
當使此身　依法修持

三種淨觀　十六思惟
一行不退　安養西歸
成無上智　是為心師

元，笑隱訢禪師為清公〈那伽室銘〉曰：

定以制動　不動何定
如太虛空　如大圓鏡
風動塵起　鳥飛魚泳
種種塵勞　頭頭佛性
非出非入　非假非證
別求玄悟　白日深穽
當知此室　寂而常應
天魔膽落　佛祖乞命
棒喝交馳　春行秋令

又作〈天巖銘〉曰：

維爾之祖　曰東西巖
爾維似之　字以弗慚
巖不絕續　而應無窮
靜而能通　杳而有容
嗟巖之人　千古一息
不起於座　周乎八極
天花何來　若將我凾
譬如虛空　繪之五彩
是故智者　讚毀不動
五岳可輕　一芥可重
我銘於巖　傳之無已
識真者誰　惟寒山子

明，妙聲法師〈敬修字銘〉曰：

敬修之要　存乎厥心
戒謹恐懼　何往勿欽
相在爾室　雖極幽深
勿二勿欺　上帝汝臨
坐不愧席　寢不慚衾

日慎一日　式昭德音
於穆西聖　誕揚玄風
一哉心乎　曰此是任
客卿子墨　敢告於司箴

序

宋，齊玉法師〈四十八願後序〉略文曰：

或曰：「淨土乃聖人之權方，所以接鈍根、化凡器也。苟能一超直入如來地，何藉於他力乎？」對曰：「佛世文殊、普賢，滅後馬鳴、龍樹，此土智者、智覺，皆願生淨土，應盡是鈍根乎？釋迦勸父王淨飯并六萬釋種，亦願生淨土，應盡是凡器乎？此等聖賢，應皆不逮今人之利根勝器乎？況若以此為權，指何為實？權實之判，非止一途，自非教眼瞭焉，何以甄別？咨爾有識，當信佛言；招報非輕，切勿容易。」昔孫莘老學士，始以此疑之，因會楊次公主客、王敏仲侍，論道契合，遂釋其疑。故莘老云：「四方言禪者，唯黃檗、慧林為最盛。臨濟之後有慈明，慈明傳江西黃檗之道，次公實傳之。雲門之後唯雪竇，雪竇傳懷，懷傳本。本公居慧林時，敏仲早得其法。次公、敏仲皆儒者學禪，得師如此，方且汲汲以淨土為依歸，則知淨土非聖人之權設，真禪侶之棲止也。苟能即心淨土，本性彌陀，生則隨念往生，去則實無所去，則亦焉有彼此之異，而橫相是非於其間也哉？觀夫莘老之言，則信真善知識不違佛訓，不欺自心，事理俱圓，實可宗仰。願諸仁者，當以死生大事為心，無以人情取捨自礙。賴如是願力，念阿彌陀佛，發決定信，誠起娑婆險惡之程，作淨土水雲之客；濯足於八種功德池水，掛錫於七重行樹叢林；入清淨海眾中，參彌陀善知識。覽勝境而得不退轉，聞妙法而易悟無生。七寶樓邊，四花池畔，優游泮渙，樂莫大焉。庶以此願為憑，前程定無間阻；苟或謂之不然，則吾末如之何也已。」

慧光訥法師〈教誡新學比丘行護律儀後序〉曰：

吾佛詳開道學，深達物機，首令收攝於威儀，畢遂圓成於德業。莫現乎隱，內先戢於狂心；莫顯乎微，外必柔於細行。皆是四儀之素踐，可為百行之先知。非甚高而難行，蓋至明而易見。毫釐致謹，杜橫流於濫觴之初；纖悉加鉶，翦滋蔓於發萌之始。蕪穢都盡，真實獨存。視先代之古賢，意不多讓；俾後生之來彥，思欲相齊。是則代代有承，化化無絕。非止紹終南之芳躅，抑將聯寂默之華輝。坐解脫牀，播真風於百億；注甘露雨，霈慧澤於三千。普令

粗暴之庸，同肅安庠之雅。來爾明哲，慎爾攸為。願諸有志，依而行之。俾儀止超倫，生人天之敬仰；佛法住世，為道俗之瞻依。普與同舟，深崇斯道。

我菴法師〈佛祖通載後序〉曰：

士也窮日，力事著述，設無裨益於宗教，雖勤何為哉？其有才贍思雅、置辭不苟，縱可傳世，使不涉於道，雖工何取哉？覽觀祥符上《通載》之書，一是銳於輔教者，志亦專矣。然自唐李、五代之倏更，十國之割裂，宋室、遼夏之未混，金源之王北，光嶽既分，域地有限，間有作者，又何從而周歷天下以盡奇觀？故是書之成於萬國同文之日，宜其集全功也。於戲，韙哉！

竺隱道法師〈送如一菴序〉曰：

有聰明之姿而無師友之教，非學也；有師友之教而無聰明之姿，亦非學也。噫！學豈易哉？譬夫梓匠輪輿之工，利其斧鋸，正其準繩，善其規矩，不得良材而用之，則巧無所施焉。亦由楩楠杞梓之材，其大合抱，其高拂雲，其直如矢，不遇良工而斲之，則器無所成焉。故弟子之於師也，將求碩德而依歸之，雖數百年中，不一二遇焉；師之於弟子也，欲得英才而教育之，雖數百人中，僅三五得焉。具菴法師以天台性具之學，講授東西兩浙之間，逾三十年矣。其登門受業者，蓋不為無人；而於一菴如上人，尤器重之。蓋天姿聰明，勤學問，强記覽；大小教部之文，一目成誦，若宿習然。法師凡有注述，未嘗不與之討論也。間嘗語人曰：「吾家之顏子，其在如乎！」余與具菴同錄僧事於龍河之上，雲間掌教者以一菴補楊林崇壽之虛席。余與其試，文擢為上第。茲將往泖寺事，眾皆曰：「具菴之道東矣！」能言之士咸賦詩以餞。余謂一菴以聰明之姿，得師友之教，學之不已，其所成就，奚止於是哉？昔神照悟經王之旨，傳四明之道，以至於今，山家學者皆宗仰之。今一菴即其名，求其實，焉有不為神照者乎？余特以是期望之，遂為序，弁眾作之篇首云。

又，〈送吉祥海序〉曰：

杭之諸剎，星列棋布。若山林城郭，緣江被湖，處處有之。考其年代之久近，自東晉而下，至唐五季、錢氏王吳越時，塔廟林立若植筍。宋南渡，駐蹕為行在所，佛事尤為稱盛焉。興元寺在鳳山之陽，經始為最近。蓋以宋季主嘗夢僧告之曰：「吾有五百徒眾未知攸止，塔以昇元閣處之。」卒為蒙古氏得國之讖。先是，其地有招提，悉歸之內苑。國除改建，復其舊焉。興元，五之一也。前臨大江，後踞重城，吳越江山之勝在几席，為東南之偉觀也。闡揚天台氏性具之道，四方之學者接踵而至，往往來游輒忘返。廢興相尋，曾未幾，向時之所有鞠為黃壤矣。主之者如過客，視傳舍然，

不久乃去。業之成壞，漫不為意，況大法弘荷之足憑哉？幸際聖明盛治之世，黼黻像教，都府州邑皆置官以僧，曰錄，曰綱，曰正，曰會。凡其所在寺院虛主席者，慎選老成戒德、為時所重者，以次而補之。時祥海吉公居上竺之板首，真誠有識，眾舉而來京師考試。中第將行，所知者咸贈之以言，而屬予為之序。予惟廢興之數固懸於天，道之隆汙未嘗不在其人也。祥海往矣，當以大法流通為己任，庶不負朝廷護教之心。起先業於已隳，依宏綱於將墜，焉知不在是行也耶？

又，〈送徹自明序〉曰：

吾佛氏之教，與王化並行於世，所以使人去惡而就善，薄口體之嗜，絕聲色之娛。非欲以矯異於人，蓋法之所宜然也。故凡游學大叢林者，必先擇師而師之，擇友而友之，然後可覬其成功焉。苟非大叢林，則不能以容眾；非良師善友，則無有講貫之益、薰陶之功。師之視弟子也，猶父之愛其子；弟子之事師也，猶子之孝於父。不以死生遠近二其心，非勉强然，理勢然也。自明徹上人，早從日章法師遊歷，清職於上天竺，山眾多材之。又嘗司懺悔事於雨花尊者之室，聲譽日著。吳郡之柄教者，選補昭慶之虛席，而為法師出世之高弟，人益重其誼焉。彼或以勢驅利誘，雖游從日久，一旦幡然而叛去，略無愧色，其視自明為何如哉？余固知自明可謂不失其所者矣。茲將捧檄往蒞寺事，京都之交遊，能以文言者，咸賦詩以餞，遂特舉其大義而為之序云。

釋妙聲〈送斯道成遊學上天竺序〉曰：

上人居東海之濱，通內外學，喜從賢者游。與予遇於具區之上，徵言以為贈。予語之曰：「子亦嘗觀夫水乎？予嘗自具區遵湖而南放，於東溘登垂虹，俯洞庭以臨三江。見汪[瀁-止+山]停蓄，震蕩噴薄，彌望數萬頃，包絡三州，浩然巨浸。乃慨然太息，以為天下之水莫此若也。及北浮大江，泝天險，極吳越之交。其潮汐迅悍，猋馳霆擊，神造鬼設，瞬息數千里，莫測源委。於是目眩心掉，赧焉自愧其見之晚也。後觀東海，見江漢百谷之會，日月星辰之所出入，浩浩湯湯與天地混，徒望佯而歎，敞罔自失曰：『嗟夫！水有至於是者乎！向之所見若蹄涔耳，何足以語天下之壯觀哉？』夫吾聖人之道猶大海也，諸子百氏猶江若湖也。人有學聖人之道，遺其大者遠者，而安於小成，是猶習江湖之流，而不知海之大全。其敖然自足也宜哉？孟子曰：『觀於海者難為水，游於聖人之門者難為言。』信夫！今吾子富於春秋，有志於聖人之道，譬諸水焉，固已絕江湖之流，而侵尋乎海矣。果能力學篤行而弗措，吾見其入聖賢之域不難也。東海淨信之堂，有日章法師弘台衡之學。

彼上人者，善觀水者也，善言聖人者也。子以吾言訊之，為何如也？」

明楊守陳〈西湖歸隱序〉曰：

杭僧綱司都綱性菴大師，今年壽六十又七。一日忽自歎曰：「世氛何溷溷若是也！」遂移文所司致仕。不俟其報，竟超然引去。一時重師之名而年未耄也，相與留之，不聽；四眾走謁而堅留之，又不聽。其有為詠詩、相與歌詠其去，既裝潢成卷。師之上足得度，曰廣嗣，曰琥，曰霑。三上人因得中書舍人王公尹實「西湖歸隱」四篆字，因以名卷，來徵余言序之。余曰：「大師學佛者也，佛之徒以出家名，是以一瓶一錫，到處為家，何有於歸？空虛寂滅，既無所顯，何有於隱？而況西湖煙月水雲之間，不禁朝歌暮宴之樂；世氛固猶溷溷若也，師也歸也隱也何居？」三上人曰：「大師至性圓明，善根夙植。提孩而坐即跏趺，能言而解稱佛號，甫童而懇求出家，其於隱也固其所矣。」是故昔也江湖京闕，杖錫雲遊，遍禮名師，再居名剎。勤心苦行，刺血書經，廣敷奧典，啟覺羣迷，興舉墜墮，俾生敬信。師也若云顯矣，迹之云爾，心固隱也。夫何珠淵光媚，蘭谷香披，文辭交來，眾心皈仰。挈法門之領袖，提一郡之宗綱；障波於既放，泯妙化以無功。如是廿年，始終一日。師也若云隱矣，身之云爾，心何嘗不隱也？今也蟬蛻汙泥，風生履舄；託明月以為儔，挾孤雲而遄往；循北山之南叢，睇南山之北陲；遡西湖之游，探天竺之舊業。招呼猿鳥，檢點煙蘿；白石不移，青松如故。錫乃卓而長植，蓋因置而不舉。於是霞嵐喜笑，巖壑回姿；山靈呵禁，龍天護持。師也蓮花刻漏，靜禮六時；金獸吐香，單傳一指。空虛實際，寂感而通。自然心境俱空，出處兩忘，何有於湖山乎哉？

明陶望齡〈普門品序略〉曰：

菩薩慈憫羣生，若醫師急病，有瘴鄉焉，則荷囊而馳之；若父慈眾子，有尪劣貪瘁、弱喪久逝者，則亟拊而來之。故世界穢濁，菩薩必入；水火厄難險賊，菩薩必赴；三毒方煽，五慾方湎，菩薩必援。臨安為東南都會，三吳百粵所湊，其物力謠尚，易以從嗜導淫，增長鬬諍。是故上天竺觀世音菩薩，深願弘慈，赫有靈蹟，緇白崇仰；旛蓋香燈，唄贊稱頌，殷山谷，奔走百郡。寺為天台講院，慈雲、辨才高賢輩興，比丘月旦祝釐誦〈普門品〉，非以誘教聾俗，振以圓音哉？

黃汝亨〈普門品序略〉曰：

今夫浪遊子行盡九州而不思家，還家而不見母，見母而不見母之音容語言、温涼歡慘之意，世必唾為背逆之子。沙門幸生長佛世，稱佛弟子，入靈山而不見天竺大士，見大士而不能誦〈普門

品〉，誦〈普門品〉而不能解其慈悲普度、圓通妙應之義，則亦浪名浮搭之僧而已。予少不識佛事，第見先慈嚴，晨朝神拜慈悲觀世音，則必焚香合掌稱觀世音《普門品經》。余從耳入，以至從口而出，頗能成誦，無異誦習吾師孔孟齊魯之篇。已而讀書靈鷲山，與天竺密鄰，則見十方萬眾，山谷、蹈湖海而禮拜稱念觀世音者無算。乃知佛子之皈依大士，猶遊子之必還見母，其情孔亟，何者？子母一體，而眾生一切與慈悲觀世音無二體故也。

〈蔬筍社題辭〉曰：

社，淨業也。社以蔬筍名者何？道人氣味不能外蔬筍，蓋世人所嫌，而至人所急也。何也？欲君子之知：蔬筍為至澹，而至味攸存也；至微，而至足攸寓也；至薄，而至養攸關也。至味則美，至足則富，至養則尊。至美則不歆慕乎外，富則隨取於吾生，尊則可率尚乎貪味也。然則曰蔬足矣，而又筍之云者何？蔬以筍為重，筍以蔬為常；蔬以筍為甘，筍以蔬為樂；蔬以筍為賓，筍以蔬為我；蔬以筍為新，筍以蔬為淨。君子如此，則口無毛血之穢，蔬筍之元也；身無肺腸之災，蔬筍之亨也；心無非分之取，蔬筍之利也；食無躭嗜之情而終身不渝，蔬筍之貞也。蓋四德具而四端舉，儒釋之道無餘蘊矣。以是振天竺之風也，易末法之俗，進之於德則澹泊，修之於業則清淨，見之行品則安樂，措之文辭則簡易，莫此為急者也。山子居猿洞久，天竺上人愛山子甚，屬覺海性師寓焉，因結是社，而為名以此。

萬歷癸卯仲冬長至一日，古菴乞士邵重生頓首書

〈蔬筍社刪勸敘〉曰：

予自甲辰、乙巳客湖干，耳天竺古先主偕諸勝侶，薰蔬筍之社，藻瑤華之篇，徒令挹清芬、翹逸響，一窺外之屨迹無從也。亡何，老成彫謝，風範穆如。己卯秋，會印中師傾鉢，屬以寺乘之役。因摭名山故實、先正遺編，見蠹餘一，題為社之稿耳。惜其零落，手為綴之汰之，銓次而帙之。噫！予讀是集，有深感焉。錢塘盛事，著於史策者，莫尚乎唐宋。迨乎國朝，則僅見靈竺之纘公、需公與姚方伯輩之湖山社，勝果秀公與孫太初輩之石門社。然彼乃一觴一詠，所嚮生春，不過點染太平而已。近則貞父居士開壑公之香巖社，伯霖居士開靈公之澹泊社；然又舉而不永，過而不存，烏能及此蔬筍之人齊龍象、歲耐冰霜，勵白業、講求為急務，好緇衣、[廖-(彰-章)+貝]唱為雅風？其為學也，即俗即真；其為教也，可羣可激。有不觀感而興起者，其禿居士也耶？敬刪之，奉為南北山之勸書何如？

潛州三學學人谿子賓槃談書於雲東之平遠樓

引

明會元曹勳〈題上天竺重修前後殿引〉曰：

佛以七十二圓通接引世眾，悲愍沉迷，超其苦趣；惟虛能圓，惟靈能通，以化善男子女人，從五濁中稍有覺念，莫不皈依三寶，盪滌慳貪，陡作布施想。始見菩提，隨地下種，隨人含性；乍逢慧雨甘露，感即承受，上即發生。住相布施與不住相布施，俱從妙明一點圓通也。余薄遊上竺山，守僧本印中誠慤清湛，身不私一錢。有即莊嚴聖貌，或捐助經需，或修道路，或鑄鼎鐘，作現前勝果。本山僧眾鱗遝，如上人真誠孚缶，賓禮名賢，經緯重務，無有能出其右者。年已六袠餘，始終如一，上人可謂苦行修矣。茲來挾募本以請，余笑謂侍僮曰：「印中必有未了信緣、欲求竟究者。」及至前，和南而告曰：「本山圓通大士殿，創於石晉，拓於錢王，修於我皇明成化年。蒙皇上發帑，敕使營繕，興廢舉墜，煥乎聿新，茲已多歷年所。墁堊傾，金碧無色，此貧衲所白首而泫然者。欲丐宰官長者、善士信人，各捐歡喜金，以完此果。使金界紺園種種如初，則自來禱之輒應。靈山名重，藉大人以逾重矣。」我聞大士作三十二應，百億化身，以一手眼現眾手眼，以眾手眼通一手眼。或現宰官身，或現婆羅門，種種說法。正般若無門，從心變現；金錢珠玉，俱屬浮沉。人或戀浮沉而昧變現，願從喜捨一法，破慳去昧，惺自己本來身，助上人誠信果，豈不今古一大奇緣乎！合掌而勸諸檀那，勿作文字觀。

題跋

蘇東坡題壁曰：

錢勰、江公著、柳雍，同謁天竺辯才。

元祐六年正月七日

又曰：

元祐庚午，辯才老師年始八十，道俗相慶，施千袈裟，飯千僧，七日而罷。眉山蘇軾子瞻、洛陽王瑜中玉、安陸張璹金翁、九江周燾次元，來餽香茗。

二月晦日書

又跋辯才和詩云：

辯才作此詩，時年八十二矣。平生初不學作詩，如風吹水，自成文理。而參寥與吾輩詩，乃如巧人織繡耳。

又書天竺懷楚上人示若逵所寫經後曰：

懷楚比丘示我若逵所書二經。經為幾品，品為幾偈，偈為幾句，句為幾字，字為幾畫，其數無量。而此字畫，平等若一，無有高下、輕重、大小。云何能一？以忘我故。若不忘我，一畫之中，已現二相，而況多畫。如海上沙，是誰磋磨？自然勻平，無有粗細。如空中雨，是誰揮灑？自然蕭散，無有疏密。咨爾楚、逵，若能一念了是法門，於剎那頃轉八十藏，無有忘失一句一偈。東坡居士說是法已，復還其經。

趙清獻公詩序

元豐己未仲春甲寅，以守杭州，得請歸田，出遊南山，宿天竺。今歲甲子六月朔旦復來，六年於茲矣。老僧辯才，烹茗迓予，因作四詩云。

蘇潁濱倡和詩序

轍自績溪蒙恩召還，將自宣城沿大江以歸。家兄子瞻以書告曰：「不如道歙溪，由錢塘，一觀老兄遺跡。」轍用其言。至吳中，迫於水涸，不能久留。十月八日遊上天竺，子瞻昔與辯才相好，今隔南山不見，乃作三小詩寄之。

秦少游跋云：

辯才法師謝天竺講事，退休於龍井山壽聖院。凡堂室齋閣，山峯水泉，皆名以新意。復作詩繼之，號「龍井十題」。其言清警，發人之妙思，信非世間音也。

元豐二年八月，高郵秦觀為寫，遺其徒懷楚刻於石

紀談

唐天寶中，天竺山秋夕，雨月桂子，一子成樹。今月桂峯在焉。至宋慈雲則有〈種桂子記〉，東坡有〈分桂花詩〉。而上竺寺有樹大數圍，面樹開延桂、秋香、秋芳等閣，以章其勝。蓋嵩禪師所稱「桂叢發奇香」，因憶《洞冥記》曰：「有遠飛鷄，朝往夕還，嘗銜桂子歸於南土。」固其異也。

唐牛奇章僧孺，性愛石，以甲乙丙丁列石品。太湖為甲，羅浮、天竺為乙。公未嘗宦浙，未曾取於山，以厚價購，故為癖愛石者焉。

宋寇萊公有妾名倩桃，能詩書歌，即「一曲笙歌一匹綾」妓也。公貶嶺南，道杭，倩疾甚，謂公曰：「妾必不起，幸葬天竺山

中，無憾矣。」既卒，公從之。

東坡一日禮大士，見座前〈普門品〉，袖手展讀云：「咒詛諸毒藥，所欲害身者，念彼觀音力，還著於本人。」東坡喟然歎曰：「佛自仁心，豈有免人之一難，而害人之一命乎？是亦去彼及此，與夫不愛人者何異也？我體佛之意而改正之曰：『咒詛諸毒藥，所欲害身者，念彼觀音力，兩家都沒事。』」問辯才曰：「何如？」辯才笑而不答。

東坡過上天竺謁辯才，款話間，因言窗前兩松，昨為風折其一，悵恨成一聯，竟未得其續，因舉以示公云：「龍枝已逐風雷變，減卻虛窗半日涼。」坡續云：「天愛禪心圓且潔，故添明月作清光。」

東坡乞辯才塔碑於黃門，與書曰：「兄自覺談佛不如弟。」及黃門作海塔碑，以兄與之游，故云：「我不識師面，知師心中事。」惜乎火失其書翰也。後東坡在黃州夢至西湖，夢中亦知其為夢也。湖上有大殿三重，其東一殿題其額曰「彌勒下生」，夢中云「是僕昔年所書」。眾僧往來行道，大半相識。辯才、海月皆在，相見驚異。僕散衫策杖謝諸人曰：「夢中來游，不及冠帶。」既覺亡之。

大士之靈，凡郡中旱澇，必請入城，大士無不憫然者。特當道者不務修德彌災，而反恃佛為重，則末矣。甚至有不秉寸誠，虛應故事，輕褻淨聖者，則風又斯弊焉。宋淳熙辛丑夏秋之旱，迎大士就城明慶寺禱雨，時有詩曰：

走殺東頭供奉班　傳宣聖旨到人間
太平宰相堂中坐　天竺觀音卻下山

時趙温叟當道，其為民之意未至，而大士之念已勤，故人譏之。

〈雨中〉，若東坡詩曰：

蠶欲老兮麥欲黃　前山後山雨浪浪
農夫輟耒女停筐　白衣仙人坐高堂

東坡之念已勤，而大士之憫未發，故若有憾焉。然則後之禱者，寧為蘇公之怨，毋致温叟之譏可耳。

宋永嘉甄龍友，善滑稽，大書上竺壁間曰：

巧笑倩兮　美目盼兮

彼美人兮　西方之人兮

孝宗臨幸，稱賞，命物色其人。白玉蟾〈大士贊〉曰：

柳葉雙眉翠　桃花好面皮
夫是之謂誰　東海比丘尼

山子曰：「按此二贊，既無象教尊嚴之旨，又非宗門掃空之見，不過隨俗趁口，以文為戲，不幾於侮聖人之言、狎大人乎？甄不足怪，玉蟾惜哉！」

宋儀王。嘗游上天竺寺，有「山禽忽驚起，衝落半巖花」之句，盛為時人傳誦。王生有紫光照室，視之則肉卵，以剖而得嬰兒。靖康時，大軍欲擁王立之，王仗劍固卻之。後扈南渡，卒葬天竺山中。

葉少蘊云：

錢塘西湖靈竺，蓋士大夫願游而不獲者。仕宦適至，未有不厭足所欲。余在錢塘十月，虜犯京師，信息未通，日望北涕泣，何暇顧其他？僅以祈晴，一至上竺而已。晚往來浙東七里瀨、金華三洞諸勝處，輒留數日，非興盡不歸。乃知山林丘壑亦各有分，非軒冕者所可常得，天固付之山人野老也。

宋孝宗乾道間，司業林兼之、正字彭仲舉，遊天竺小嶺，論詩，談杜工部妙處。彭醉亟，呼曰：「杜少陵可殺！」鄰壁聞之，告人：「林、彭在天竺謀殺人矣！」問所謀之人，則曰：「杜少陵。」喧傳縉紳間，聞者絕倒。

李金庭之流寓上天竺也，與諸房齋款，後五雲山僧亦競友之。有嘲之曰：「嚼盡三天竺，喫過五雲峯。」

弘治五年六月廿四日大風，西山水發，山崩地裂，西湖汛溢，壞天竺、靈隱諸剎及民廬數百家，死者數百人。城牆坍圮，街市乘舟而行。是歲大饑。崇禎八年六月二十四日，西山風雨，大水發，崩壞僧俗廬舍及道路。惟天竺、靈隱、雲棲、虎跑為甚，慈雲、瑞光塔亦為衝損。是秋民儉且疫，嗣後歲累洊饑。

嘉靖中，海寇倡亂，來杭，抵行春橋、九里松而上，欲至天竺山。忽見一婦人，身長丈餘，黑如漆，手執巨棍立於當路。四圍山頂，一望皆樹旗幟。晴空杲日，倏而掣電轟雷。寇知是神兵，遁去。遂建黑觀音堂。至今山中老宿，能盛談其事。乃知菩薩三十二應現，隨類化身；或黑或白，或為黃金，初無定色，皆可有祈響答，凡禱捷臻。如執一色以求，此庸愚之見耳。

上天竺講寺志卷十五終

聯絡我們

財團法人
佛教電子佛典基金會（CBETA 基金會）
CBETA Comprehensive Buddhist Electronic Text Archive Foundation

service@cbeta.org
(02)2383-2182 轉分機 12
官網 https://cbeta.org/
CBETA Online https://cbetaonline.dila.edu.tw/
立即贊助 https://cbeta.org/quick-donate/

贊助資訊

CBETA 長年來陸續將歷代重要佛典數位化為「CBETA 電子佛典集成」，不僅收錄了大量的珍貴文獻，更致力於校勘考證用字及增添新式標點，提升佛典的文獻品質及易讀性。「CBETA 電子佛典集成」是大眾廣為運用的公共資源，此成果也獲得國際學界的重視及肯定。

對於一個從事佛法志業的非營利團隊來說，能夠長期埋首理想、踏實耕耘，實屬不易。為了提供更優質的服務，CBETA 基金會擬增聘專業人力，擴大組織規模，懇請大家慷慨解囊、熱情贊助，讓未來有更多更好的電子佛典。

贊助捐款

「水滴雖微，漸盈大器，凡福充滿，從纖纖積。」
—— CBETA 2024.R2, T04, no. 210, p. 565a5-6